TAMA ART UNIVER-SITY 2017

Entrance Examination Guidebook

多摩美術大学
入試ガイド
2017

2016年度
「専門試験」参考作品

〈美術学部〉

一般入学試験

推薦入学試験

本書に掲載した作品は、
入学試験時に制作された作品の中から、
選定したものです。

掲載作品は、
その一部を参考例として選んだものであり、
これらの造形処理等を受験生に薦めるものではありませんので、
十分注意してください。

より自由で、
個人としての意思を持った新鮮な作品を期待しています。

美術学部
絵画学科 日本画専攻

2016年度入学試験　掲載作品は入学者より選定

募集人員

35名（一般方式25名／センターⅠ方式10名）

入学試験科目・配点・日程

●専門試験

鉛筆デッサン

・日程=2月3日(水)

水彩

・日程=2月4日(木)

※配点=鉛筆デッサン・水彩の合計

一般方式300点／センターⅠ方式300点

●学科試験

一般方式

・配点=国語100点／英語100点

センターⅠ方式

6教科28科目から2教科2科目を選択 各100点

※学科試験の詳細はp118を参照。

●実技問題出題のねらい・意図

鉛筆デッサンは人物を出題し、描写力、観察力、構成力、質量感の把握と表現力を求めた。

水彩は与えられたモチーフから、テーマ「生きる」の表現についての発想力、構成力、色感、独創性を求めた。

●実技問題採点のポイント

鉛筆デッサン・水彩の両作品を総合的に判断。

鉛筆デッサン

1. 観察力
2. 形体の把握
3. 質感の表現
4. 構成力
5. 独創性

水彩

1. 発想力
2. 構成力
3. 質感の表現
4. 色彩の調和
6. 内面性
6. 独創性

それぞれ上記の要件を主に評価しました。

※鉛筆デッサン、水彩は同一作者の作品を掲載しています。

●実技問題

鉛筆デッサン（6時間）

与えられたモデルを描きなさい。

【条件】

用紙の縦、横は自由とする。

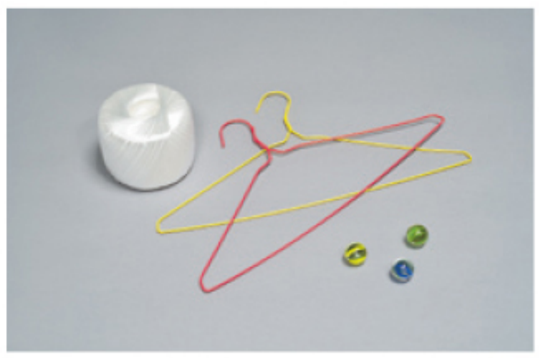
【注意】

出題の内容に関する質問にはお答えできません。

※使用紙：画用紙（TMK ポスター／木炭紙大）

水彩（6時間）

与えられたモチーフを自由に扱い、「生きる」を表現しなさい。



【条件】

・用紙の縦、横は自由とする。

【注意】

出題の内容に関する質問にはお答えできません。

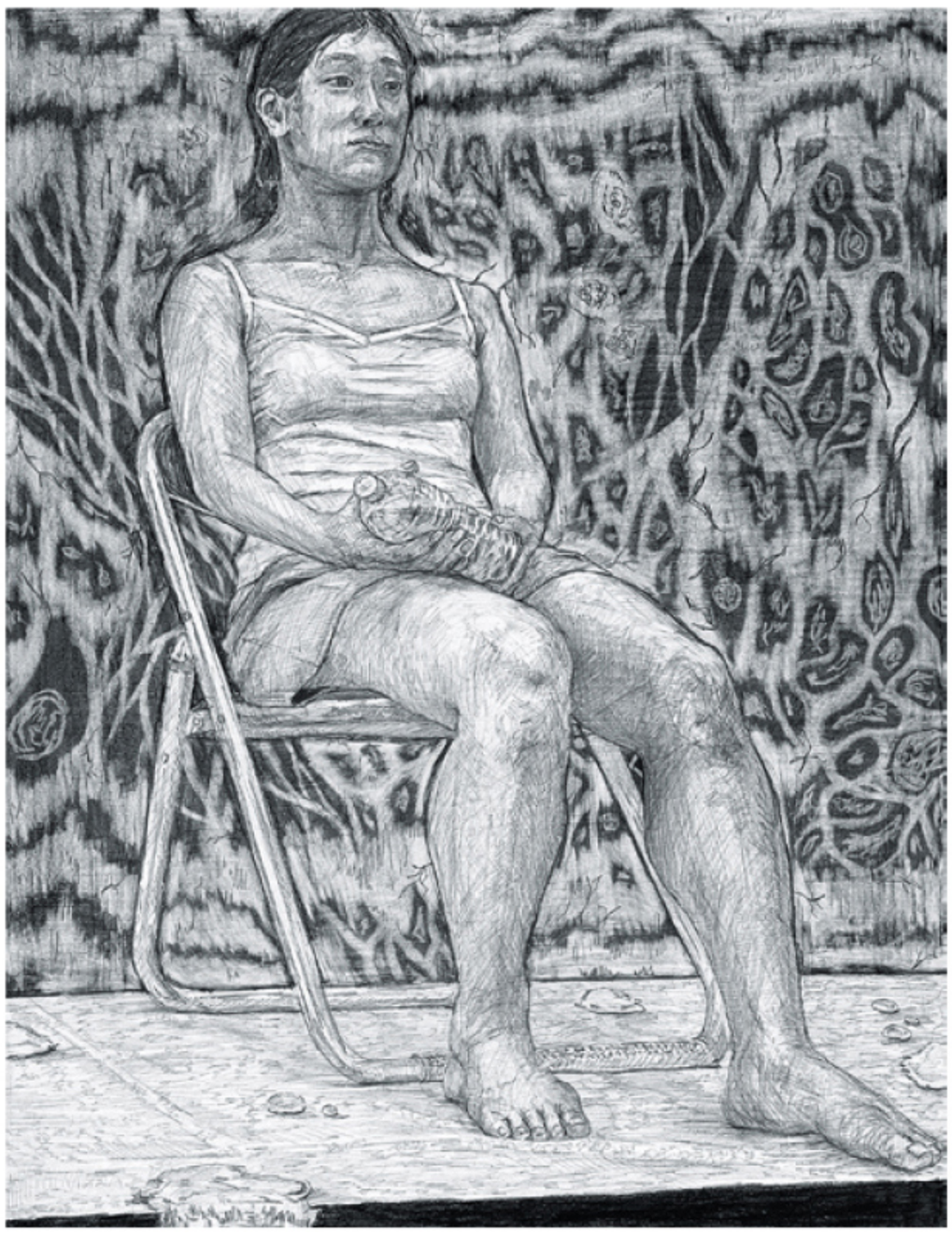
※使用紙：水彩ボード（ワーグマン細目／545 × 424mm）



鉛筆デッサン



水彩



鉛筆デッサン



水彩



水彩



鉛筆デッサン



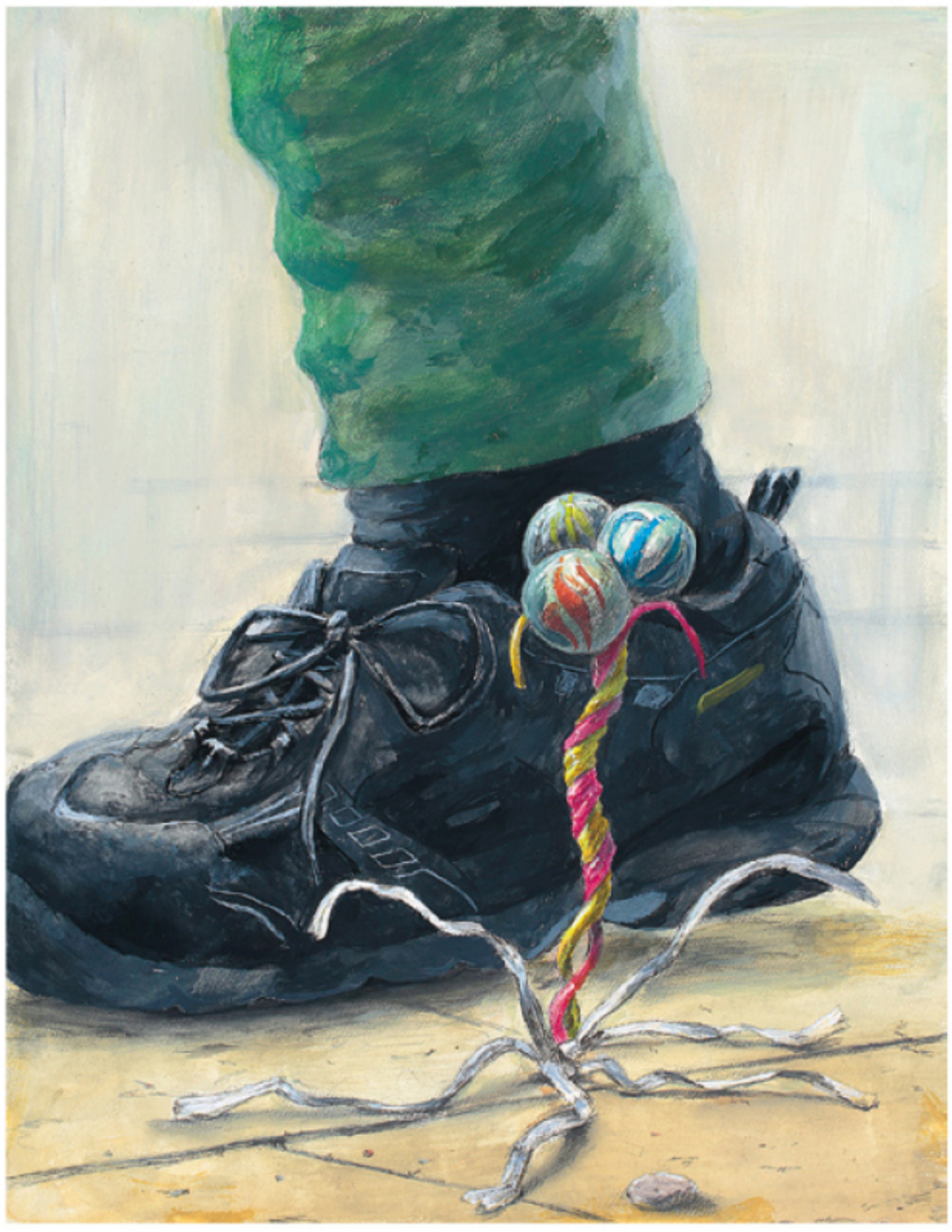
鉛筆デッサン



鉛筆デッサン



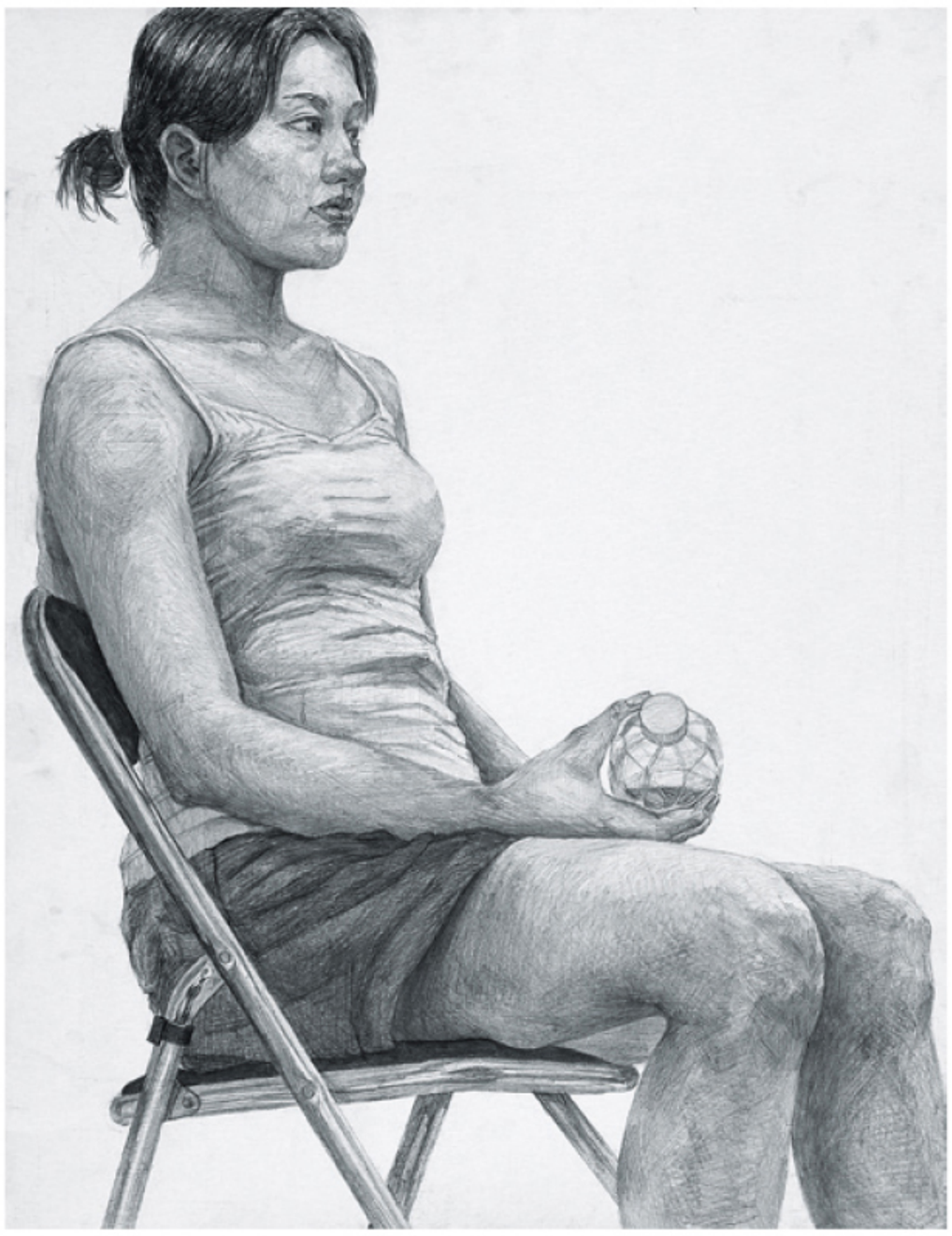
水彩



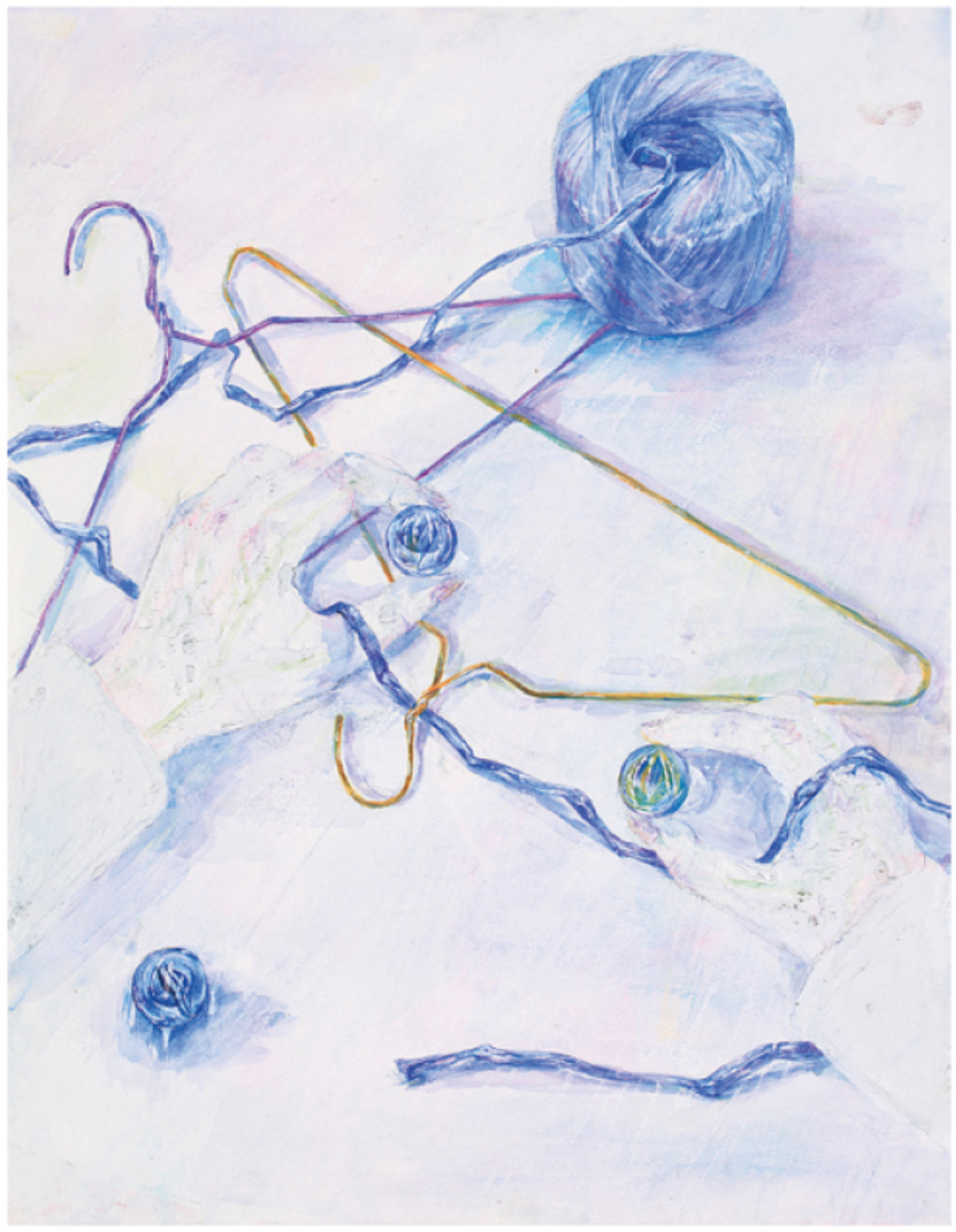
水彩



水彩



鉛筆デッサン



水彩



水彩



鉛筆デッサン



鉛筆デッサン

美術学部
絵画学科 油画専攻

2016年度入学試験　掲載作品は入学者より選定

募集人員

130名（一般方式80名／センターⅠ方式50名）

入学試験科目・配点・日程

●専門試験

デッサン

・日程=2月10日(水)

油彩

・日程=2月11日(木)

※配点=デッサン・油彩の合計

一般方式300点／センターⅠ方式300点

●学科試験

一般方式

・配点=国語100点／英語100点

センターⅠ方式

6教科28科目から2教科2科目を選択 各100点

※学科試験の詳細はp118を参照。

●実技問題

デッサン（6時間）

対象を描きなさい。



【条件】

画用紙または木炭紙は、大学で用意したものを使用すること。

【注意】

1. 火気、水、溶剤の使用は認めません。
2. 参考資料にあたる用具類やスケッチブック等の使用は認めません。
3. 上記に反した場合、失格になることがあります。
4. 出題の内容に関する質問にはお答えできません。

※モチーフ：人物

※使用紙：サンフラワーペーパー（M画／650 × 500mm）
または MBM 木炭紙（650 × 500mm）

油彩（6時間）

置かれているモチーフと「時」という言葉を手がかりに描きなさい。



【条件】

・キャンバスは大学で用意したものを使用すること。

【注意】

1. 火気の使用は認めません。
2. 参考資料にあたる用具類やスケッチブック等の使用は認めません。
3. 上記に反した場合、失格になることがあります。
4. 出題の内容に関する質問にはお答えできません。

※使用キャンバス：F15 号

●実技問題について

受験生は、デッサン・油彩共に６時間という限定された時間の中で、実技試験を受けなければなりません。受験生にとって６時間で作品を完成させるのは難度の高いことであり、そのため事前に傾向と対策を立てることが必要になってくることは理解できます。しかし、その範囲の中で過度に技術だけを磨こうとすると、完成度はあっても作品がパターン化してしまったり、出題にうまく対応できなかったりする場合があります。デッサンにおいては対象をしっかり観察して真摯に描き出そうとする態度を、油彩においては出題の意図を把握して、それを絵画として膨らませる構想力を発揮してほしいと思います。

●出題の意図と採点のポイント

デッサン

デッサン試験では基本的な描写力と表現力を総合的に見ます。複雑な人体をしっかり描くことができるかを見極めるために人物のデッサンを出題しました。対象をよく観察して描こうとする姿勢と力量を見ることを目的としていますので、奇をてらわずに対象に肉薄しようとしているかが採点のポイントです。今回の試験ではアウトドア用の椅子にモデルが座っています。柔らかい椅子にゆったりとした姿勢で座っている人体の構造をよく観察し表現できているかにも注目しました。

油彩

今回の試験ではモデル台の上にモチーフを置き、さらに出題文で言葉を与え、モチーフと言葉を手がかりにして描くことを求めました。モチーフは、前日のデッサン試験でモデルが座っていたアウトドア用の椅子をモデル台に置いたままにし、そこにパラソルを付けたものです。単なる椅子ではなく前日の試験でモデルが座っていた椅子であるということや、そこにパラソルが付け加わっているという状態から、受験生が想像を広げ、自由な発想をすることを期待してこのようなモチーフにしました。与えた言葉は「時」です。様々な解釈やイメージを展開できるような広い受け取り方のできる言葉を与えました。
採点のポイントは、出題文をよく読み考えをめぐらせて表現した様子が作品から伝わってくるかです。私たち教員は受験生の作品を見て、描かれているものの意味や発想の動機をいろいろ想像します。「時」という言葉と置かれたモチーフから、独自の興味や着目点で考えをめぐらせた結果として、作者の美意識や世界観が豊かに表れている作品を評価しました。

※デッサン、油彩は同一作者の作品を掲載しています。

●教員コメントについて

実技試験の採点は、油画専攻専任教員が全員で行いました。したがって、判定結果は全員の総意によるものですが、個々の作品についての評価は、当然のことながら全員が同じというわけではありません。教員それぞれが、出題の意図をふまえながら、各自の視点で評価しました。教員が、どんな作品をどのように評価していくのか。その実例として、合格者（入学者）の中から 13 名の作品を選んで、教員のコメントを附しました。なお、ここに選んだ作品は、必ずしも高得点作品というわけではなく、多彩な表現の参考として選んでいます。



デッサン



油彩

《教員コメント》

油彩作品で描かれているのは、モチーフの椅子とパラソル、穴あきボードの壁、そして「時」という言葉から連想される前日のモデルさんの手と足だろうか、これらがとにかく執拗に描かれ、ただならぬ拮抗関係が画面のあちこちに生まれている。もはやそれぞれの位置関係は現実を越え、絵画でしか表現出来得ない距離感となり、何とも魅惑的であった。デッサンの方も油彩同様、執拗に対象に迫っていく姿勢が画面から伝わり、緊張感あるデッサンであった。あと一歩、人体の骨格、特に腕や脚への興味が加わると一層良かった。

（文責＝日高理恵子教授）



デッサン



油彩

《教員コメント》

油彩は椅子の扱いが特徴的である。デッサンの時と同じ椅子にモデルの面影を重ねて見たのだろうか、アウトドア仕様のゆったりした椅子にモデルを溶け込むように一体化させている。受験生にとって入試実技の二日間は、今後を決定する濃厚な「時」であったはずだ。背景のシンプルな構成は画面に安定感を生み、マティエールの工夫も退屈を排除するのに役立っている。デッサンは木炭と鉛筆の併用が巧みであり、構図も問題ない。今回の入試の中でトップクラスのデッサンであった。

（文責＝室越健美教授）

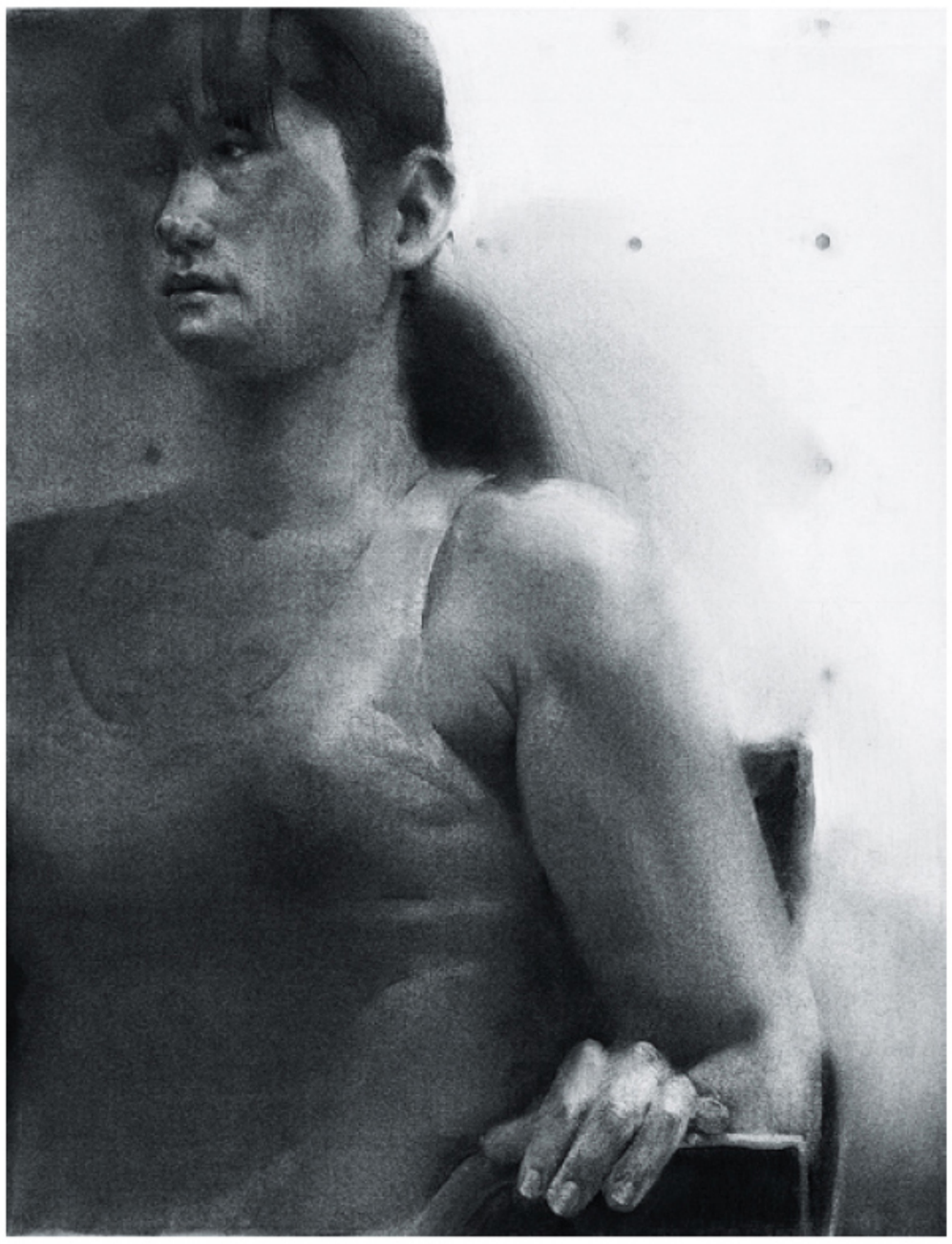


油彩

《教員コメント》

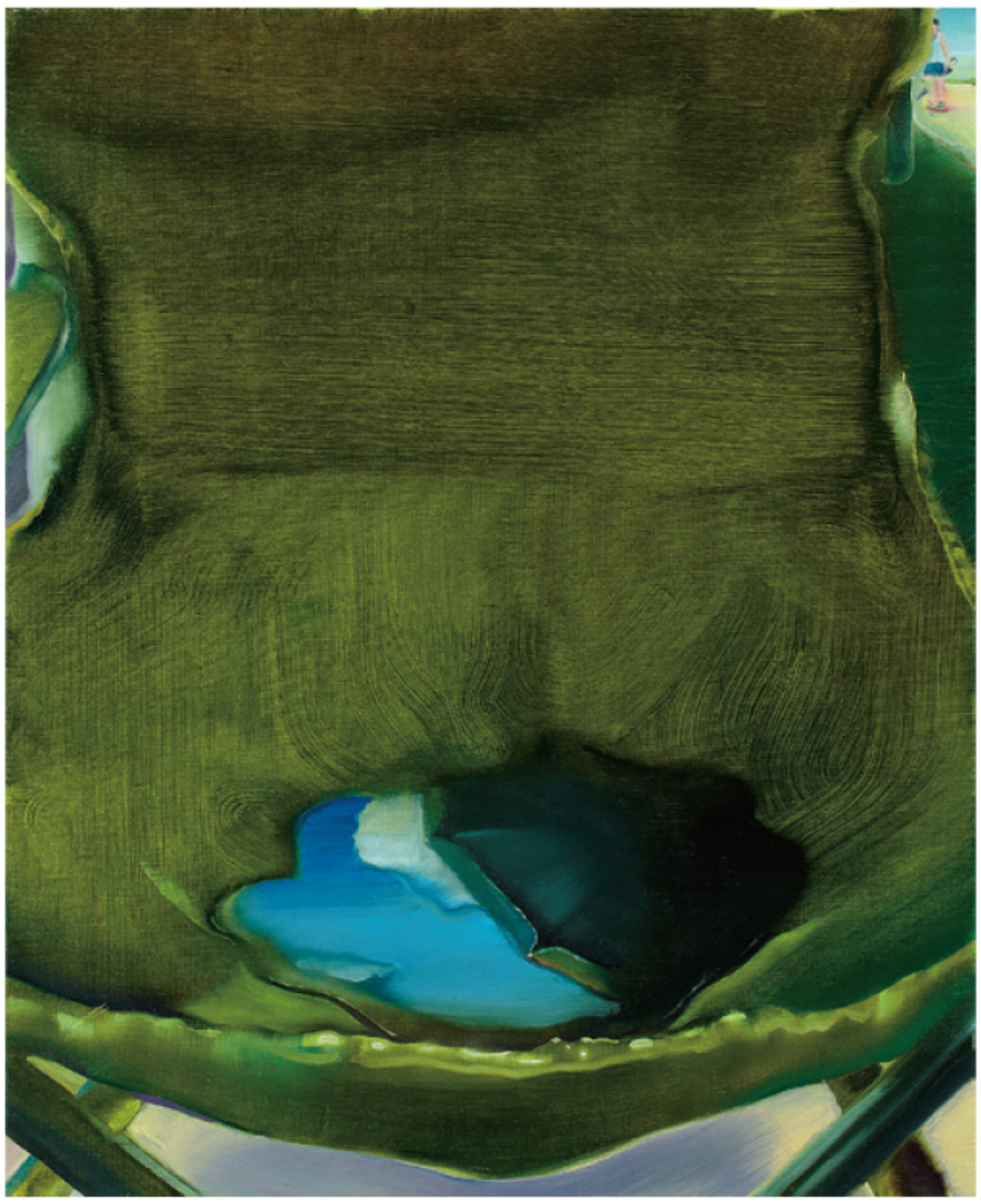
デッサンは良く観察して描いているので、アウトドアの椅子に深く座って体が沈み込んだ状態とリラックスした表情が良く表れている。油彩は「時」という言葉から連想した物語の一場面を描いたのだと思う。何かの儀式がおこなわれている様子を、群衆の重なりの奥に垣間見せる構成は複雑で高度だと思う。一方で登場人物（動物）の設定は型にはまっているので、もっと自分なりの空想の世界を想像する必要があると思った。

（文責＝日野之彦講師）



デッサン

《教員コメント》
油彩はとても魅力的である。座面の水たまりに映るパラソルと空、また画面右上には遠景と人物が配置され、空間のダイナミックな構成の中に「時」の物語がしっかりと組み込まれている。筆致や絵の具の質感も心地よい。くらべてデッサンはドラマチックさが強調されすぎて、不自然な空間構造も感じられてしまう。特に画面左側の暗部の表現がこれで終わってよいのだろうか。さらに執拗に形態を掘り起こしていくような観察の姿勢が欲しい。
（文責＝小泉俊己教授）

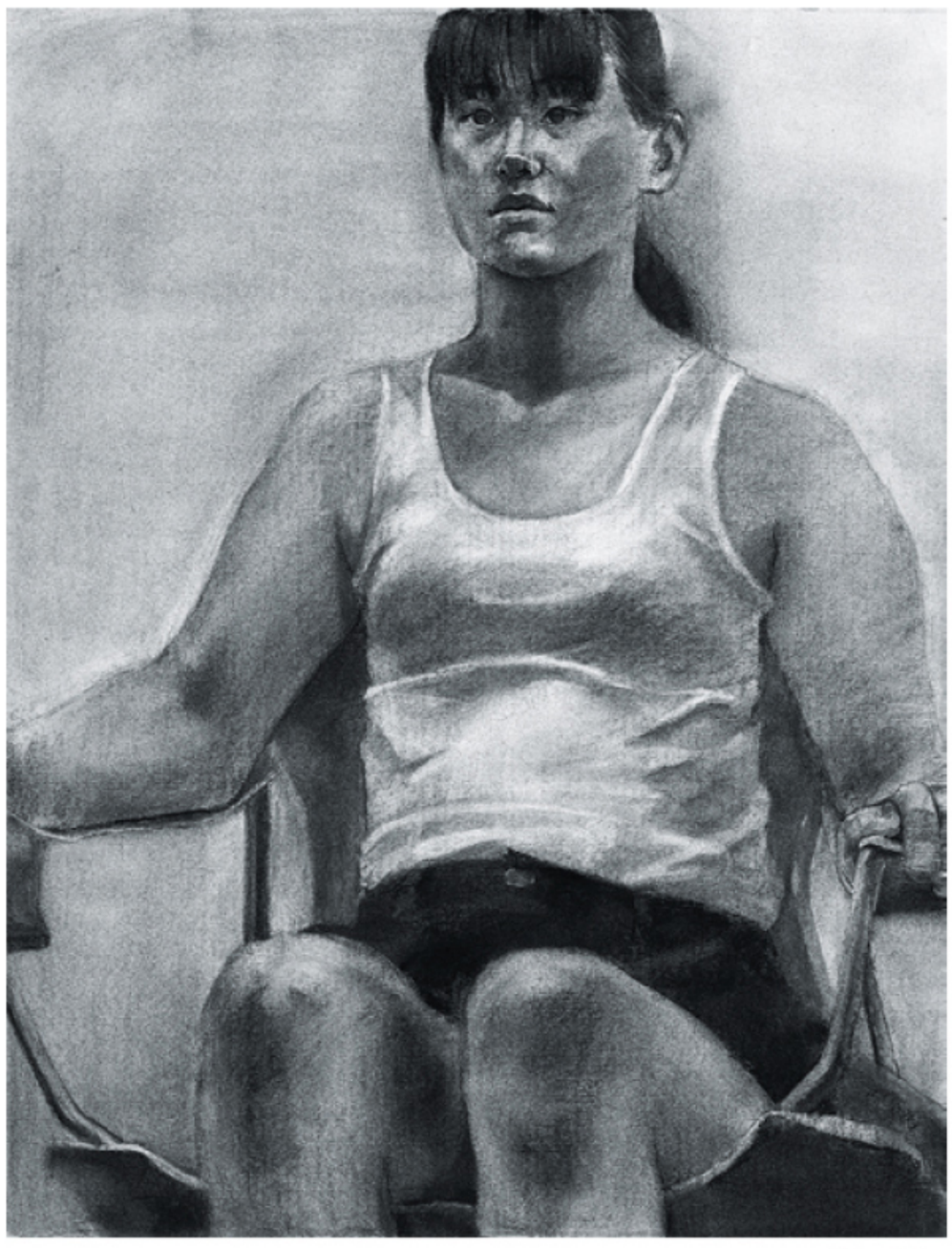


油彩



デッサン

デッサン・油彩



デッサン

《教員コメント》

油彩は、大きなパラソルの背景に青空と街並みが描かれ南国情緒を醸し出している。色面の明るさや黒く太い実線と破線に平面性への強い意識がみられ、個性的で色彩豊かな作品となっている。また、パラソルに虫食いの穴のような破れや滲みを描くことで「時」の経過を暗示させ試験問題に応えている。デッサンは、木炭でおおらかさとどっしりとした存在感を見せ力強い表現となっている。大胆さの中に繊細さもあり明快な作品となっていて、豊かな感性と真摯な姿勢が伺える。

（文責＝木嶋正吾教授）



油彩

《教員コメント》

油彩は、レジャーチェアのパイプ構造に焦点を絞った極めて印象的な作品である。幾何学的な色面と若干見えるモデルの下肢のバランスを考慮しつつ、モデル台の反射の揺らぎの表現に「時」を感じさせユニークである。素描は、身体のリアルな存在の解釈に不満が残るが、あえてぼかし的ボリューム表現（身体）と線描（顔・手）の対比で、浮遊した不思議さを強調しているともいえる。

（文責＝中村一美教授）



油彩



デッサン



油彩

《教員コメント》

油彩のモチーフは前日のデッサンでモデルが座っていた椅子である。油彩ではモデルは座っていなかったのに、作者はモデルを描いた。これは問題文に「時」というキーワードが示されていたからであろう。その画面は映像のようにぶれて存在感がなく、前日のモデルのいる状況を光に還元したかのような印象だ。一方デッサンは存在感のある的確な描写で油彩と好対照をなしている。ふたつ合わせて見ると、存在と不在の妙が感じられて秀逸だ。

（文責＝菊地武彦教授）



デッサン

美術学部　絵画学科　油画専攻

デッサン・油彩



デッサン

《教員コメント》

デッサンは、木炭の付きが荒く技巧には欠けるが、実直に対象に向き合う姿勢が感じられ、象のように静かで堂々とした趣きがある。

うって変わって油彩は、恐竜、原始人、武将、桃太郎、サル、などのわけのわからないものが所狭しと登場し、モチーフ台でイスの争奪戦を繰り広げ、アッと驚く受験生というカオス。「時」というキーワードから得た単純な発想をこれでもかというくらいコテコテに盛り込み、それを描ききる力量と度胸が素晴らしい。（文責＝吉澤美香教授）



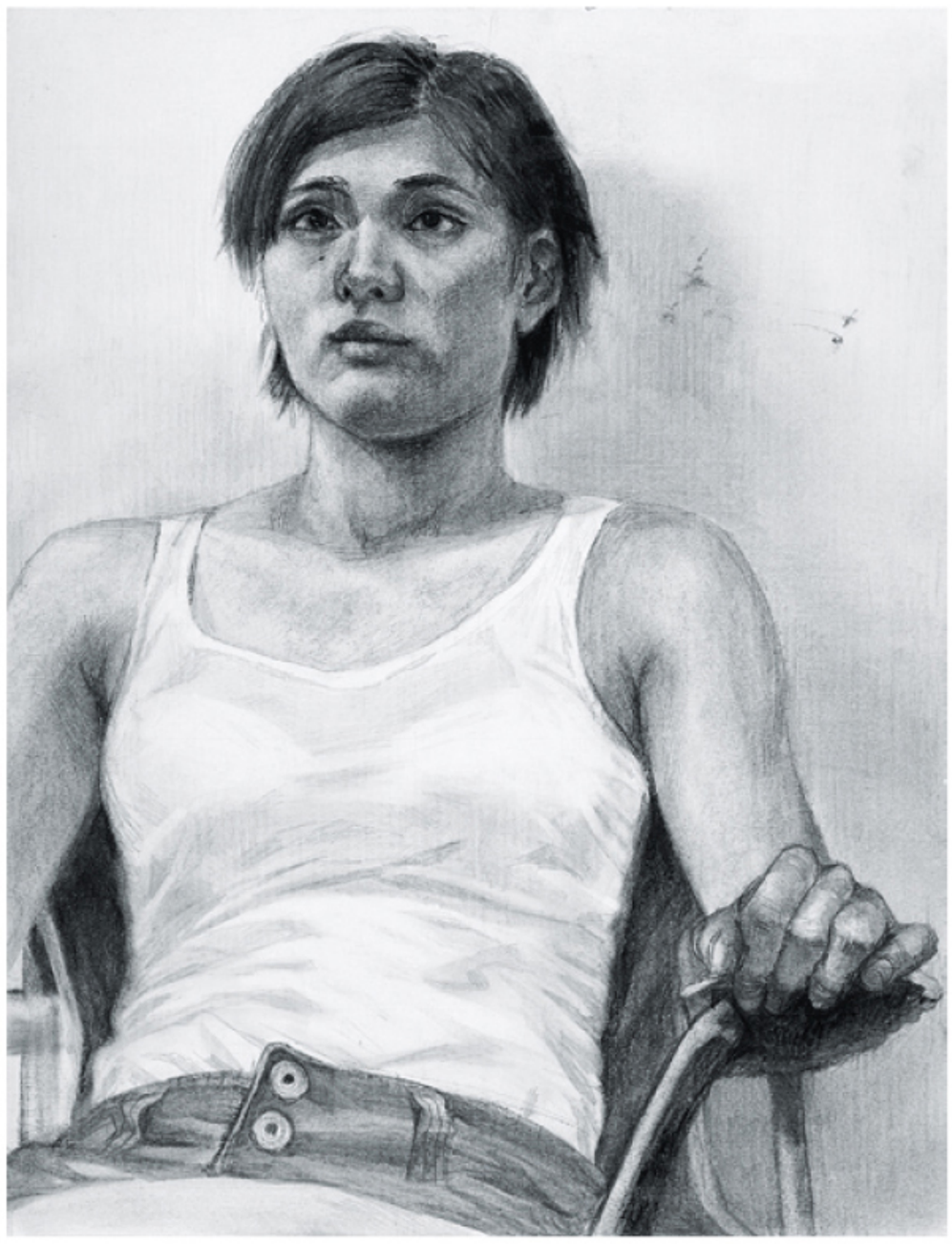
油彩

《教員コメント》

油彩は、画面の半分以上が余白で、その大胆さに驚かされた。余白によって余韻を残し時間の経過を暗示させ、まさに「時」を感じさせてくれる。的確な描写で浮遊感や表層的な不在感を投影し、説明的な要素を極力抑えながらも表現に結びつけている所に卓越した力を感じる。

デッサンは、人物の上半身を大きく描き、ここでも余白を生かした構成がみられる。木炭と鉛筆を併用し細部まで繊細に描写し、対象に真摯に向き合い観察することで生き生きとした表現を獲得している。

（文責＝木嶋正吾教授）



デッサン

《教員コメント》

油彩に関しては、点描のような描き方がかたち・色調・画面空間に柔らかさと透明感をもたらしている。また、「時」という言葉に対してモチーフを波状に歪ませていて、発想的にはよくあるパターンだが、画面上の柔らかさと透明感がこの発想を表現として類を見ないものにしている。デッサンでは、幅のある美しいモノクロトーンの中でしっかりと人物のかたちが描かれ、油彩と同様に柔らかさと透明感を生み出した秀逸なデッサンとなっている。

（文責＝栗原一成准教授）



デッサン



油彩



油彩



デッサン



油彩

《教員コメント》

広い空間に人物と椅子を小さめながら堅実に描写し、画面の上下に最小限の描き込みをすることで全体の緊張感を保っている。作者のねらいがはっきり見て取れる良いデッサンである。油彩も同様にモチーフを小さく扱い、それぞれの色と形の対比を前面に押し出し、シンプルかつバランスの良い構図に仕上げている。うっすらと描き込まれたモチーフの影が時間の変化を暗示しつつ、床のピンクのドットと共に、画面に動きと奥行きを与えている。その構成の妙に感心させられた。

（文責＝野田裕示教授）

《教員コメント》

油彩＝絵に向けられた視線が一定することなく上下左右手前奥とあちらこちらに誘導されていく。それは多次元的に一枚の絵の中に複数の異なった時間が存在しているように感じられ、見る者の眼を飽きさせない魅力へとつながっている。デッサン＝画面全体に対してねばっこく気を抜いたところがひとつもない緊張感のあるデッサンである。また、人物や背景がモノクロでありながら色味を感じさせるところに好感がもてる。

（文責＝栗原一成准教授）



デッサン

《教員コメント》

真正面からモデルをとらえた人物像は、迫力に満ちている。モデルは凛とした姿勢で、眼は鋭くこちらを見つめている。木炭ののりも良く、細部も疎かにせず描き込まれたこのデッサンは、淡く柔らかな表現が多い昨今、特に目を引いた。油彩は、作者自身がショルダーバッグ、スニーカー、ペットボトルを画面に持ち込み、アウトドアに遊ぶ時をイメージした。三角形の安定した構図、グラデーションを用いた色使い、筆のタッチで埋めた背景の処理などから、作者の力量が窺えた。

（文責＝野田裕示教授）



デッサン



油彩



油彩

美術学部
絵画学科 版画専攻

2016年度入学試験　掲載作品は入学者より選定

募集人員

25名（一般方式18名／センターⅠ方式7名）

入学試験科目・配点・日程

●専門試験

デッサン

・配点=一般方式300点／センターⅠ方式300点

・日程=2月9日(火)

●学科試験

一般方式

・配点=国語100点／英語100点

センターⅠ方式

6教科28科目から2教科2科目を選択 各100点

※学科試験の詳細はp118を参照。

●実技問題

デッサン（5時間）

「箱の中」

上記について自由に表現しなさい。

【条件】

・用紙の縦、横は自由とする。

・画用紙か木炭紙のどちらかを選択すること。

【注意】

1. 火気の使用はできません。
2. 記名票に受験番号、氏名を必ず記入してください。
3. 画面に受験番号、氏名等を書くと失格となります。
4. 出題の内容に関する質問にはお答えできません。

※使用紙：いずみ（B3）

MBM（B3）

●実技問題出題のねらい・意図

デッサン

私達は、誰でも自由に絵を描くことが出来ます。しかし美術の専門家を目指す者に求められるものは一体何でしょうか？

自分が表現したいと思うものや、求める世界を繰り返し描くことにより、構成力、描写力、質感の表現力、画面空間に対する感覚を身につける事で、自分のイメージを見る人に伝えられるようになります。そのためには、常に手を動かし描画しながら好奇心を持って考えることが必要です。絵画学科版画専攻では、そのように自分自身と表現に真摯に向き合いながら、制作に没頭できる学生を求めています。

今年度の実技試験では、より自分の表現を高められるよう、素材を選択できるようにしました。そして出題「箱の中」は、土台として箱の描画力を根底に据え、その上で外界から隔離された箱の中の空間をイメージし構想を巡らせる想像力、そしてそれを具現化する構成力、造形力を求めます。そして、この出題の意味を出発点として豊かなイメージをみせて欲しいと思います。

●実技問題採点のポイント

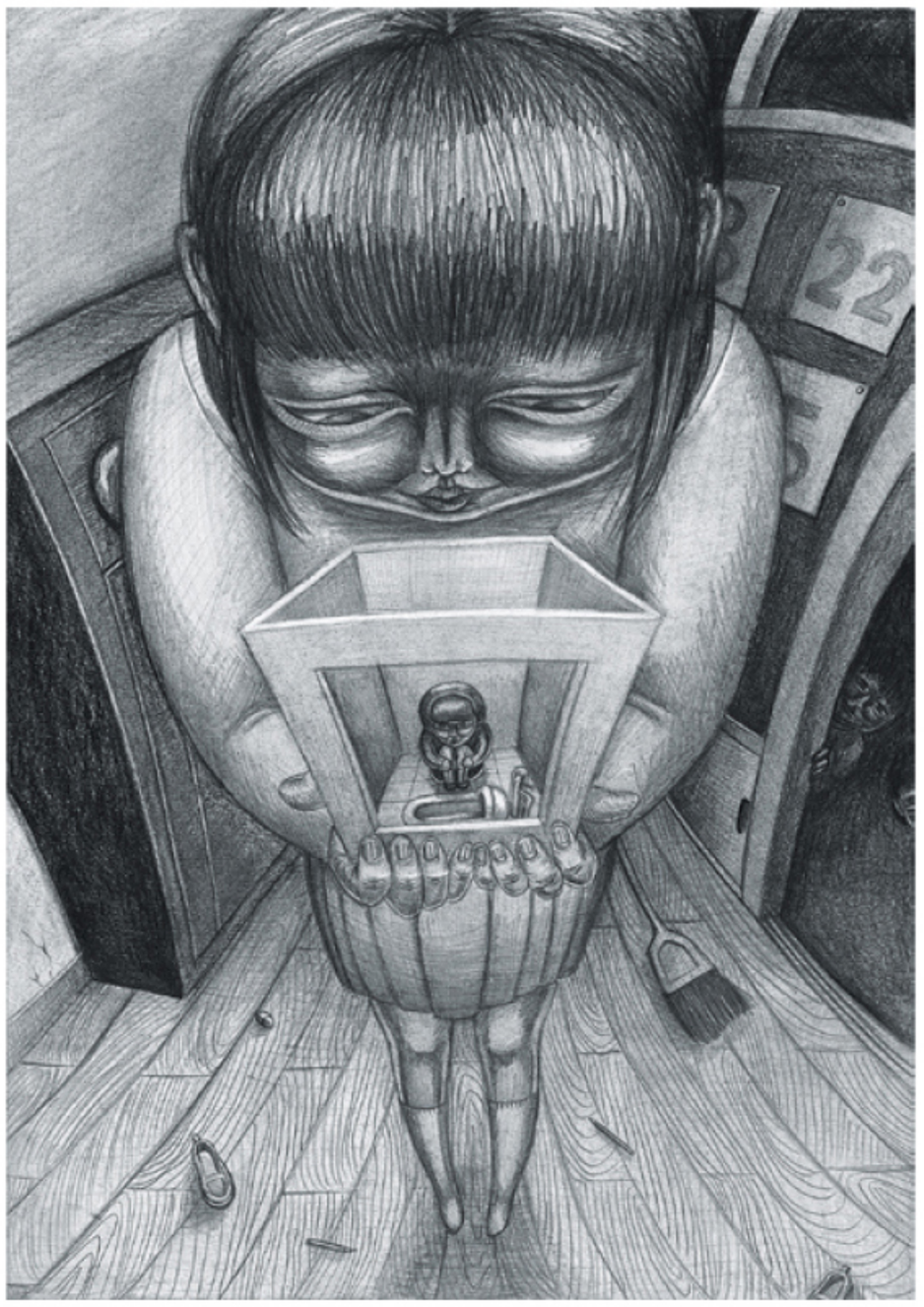
デッサン

まず「箱」という概念に従った形態を確実に捉えているかというところに注目し、その上で柔軟で豊かな発想力や構成力を展開できているかを重視しました。次に、短い時間であっても物を作り上げる完成度を求めました。そして、たとえどこか未熟なところがあっても、物を作り上げる迫力、想像力が大事だという観点から、伸びしろが大きいと判断した作品は高く評価しました。



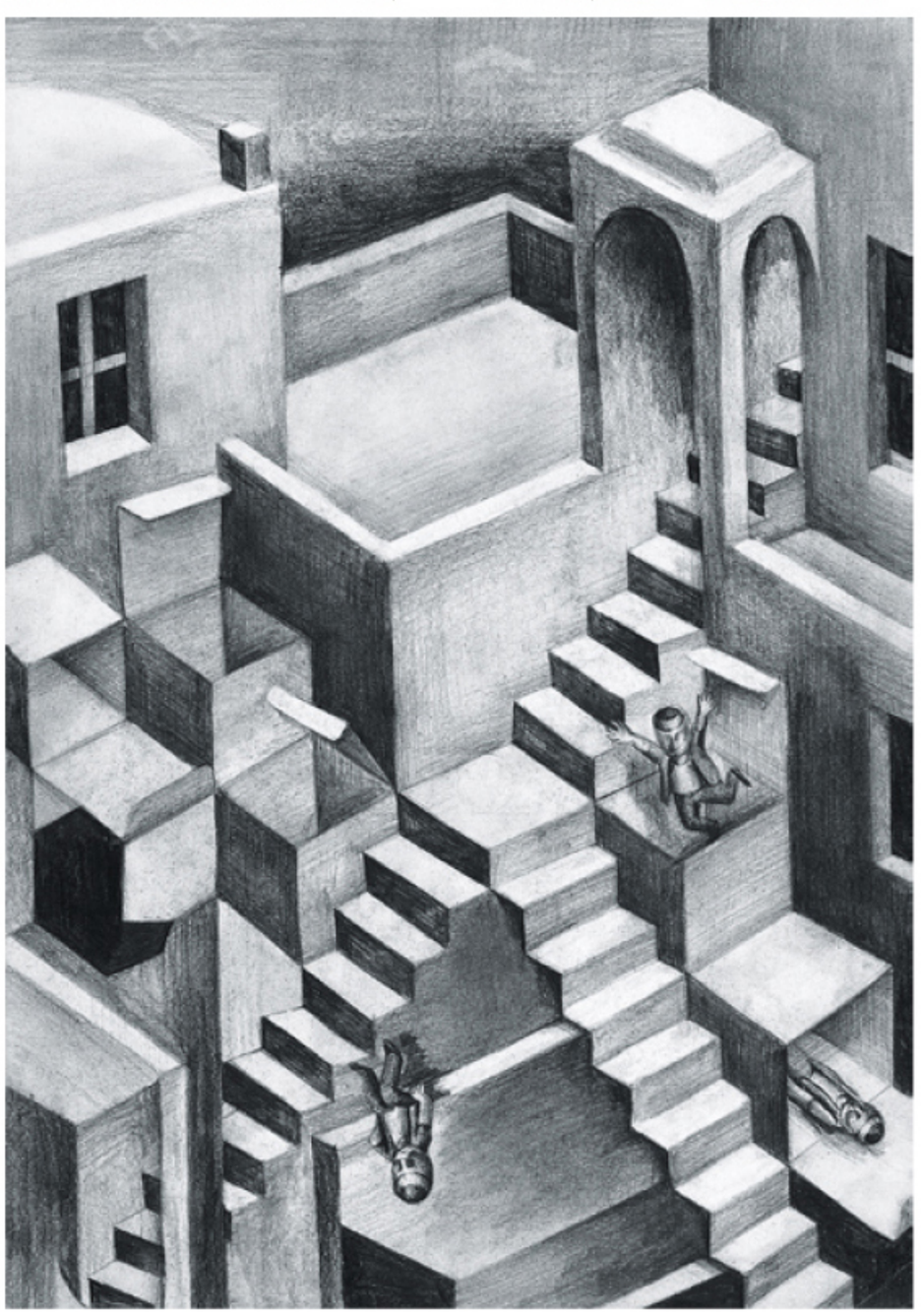
《評価ポイント》

この作品には美しさを感じました。ともすれば装飾的で工芸的な作品になってしまいそうですが、横たわる顔の表情が知的な印象に全体をまとめており、装飾的な描画も、それに調和し豊かなものに仕上げています。「箱の中」をテーマに、この作品は縦構図ではありますが、横にしても手と顔の関係がよりユニークになり面白いなと感じます。



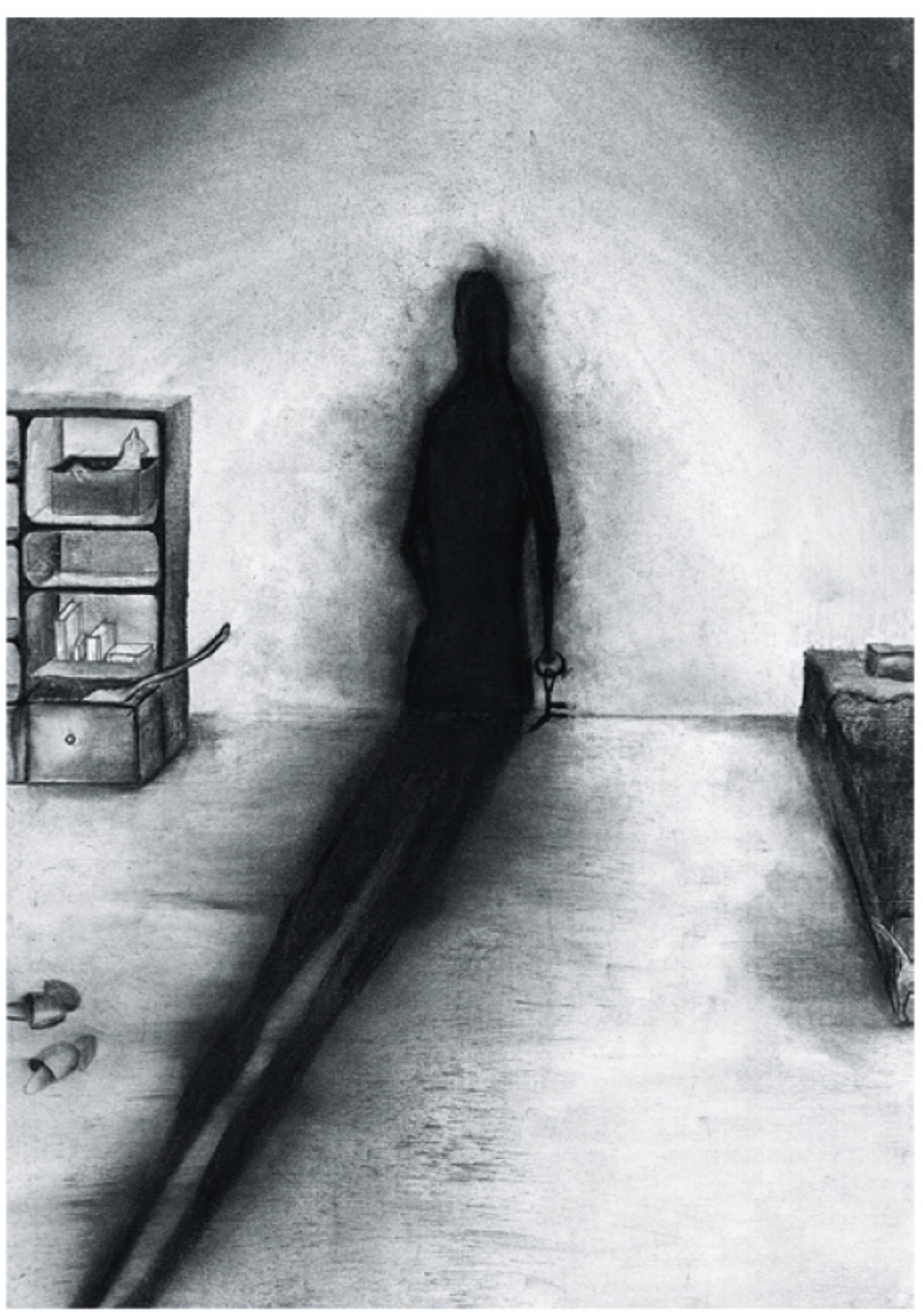
《評価ポイント》

箱を持った少女 その箱の中に少女が座っています。そこはトイレの様です。箱を持つ手と指 よく描画されています。



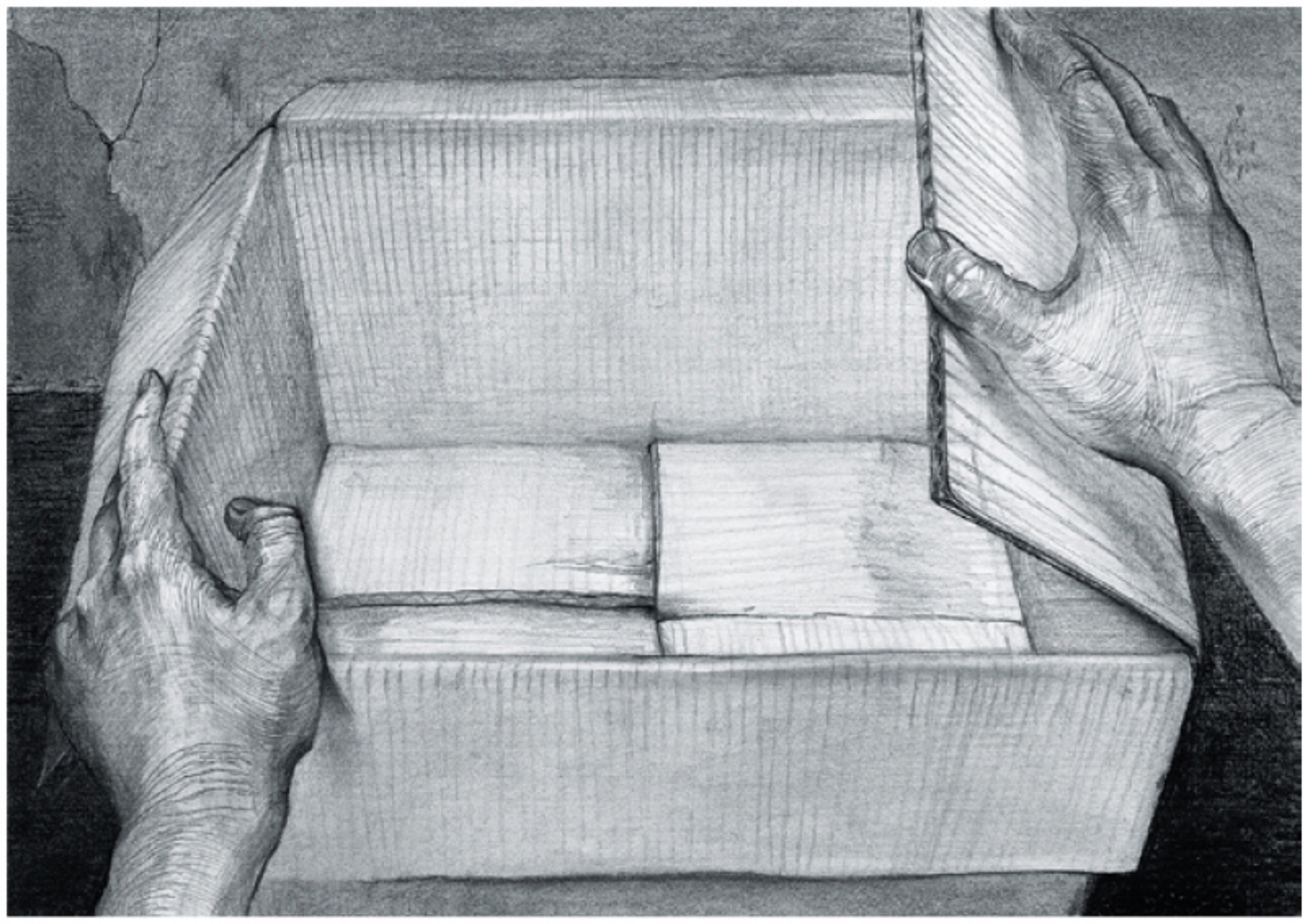
《評価ポイント》

エッシャーの世界に箱と人を入れたところは良いと思います。建物の質感が少したりない様です。



《評価ポイント》

長く伸びる人の影。部屋の中でじっと佇んでいるこの人は何を考えているのだろう…何処からかやって来たのだろうか…と観る側のイメージを膨らませる作品で、作者の創造力の奥深さに可能性を感じます。



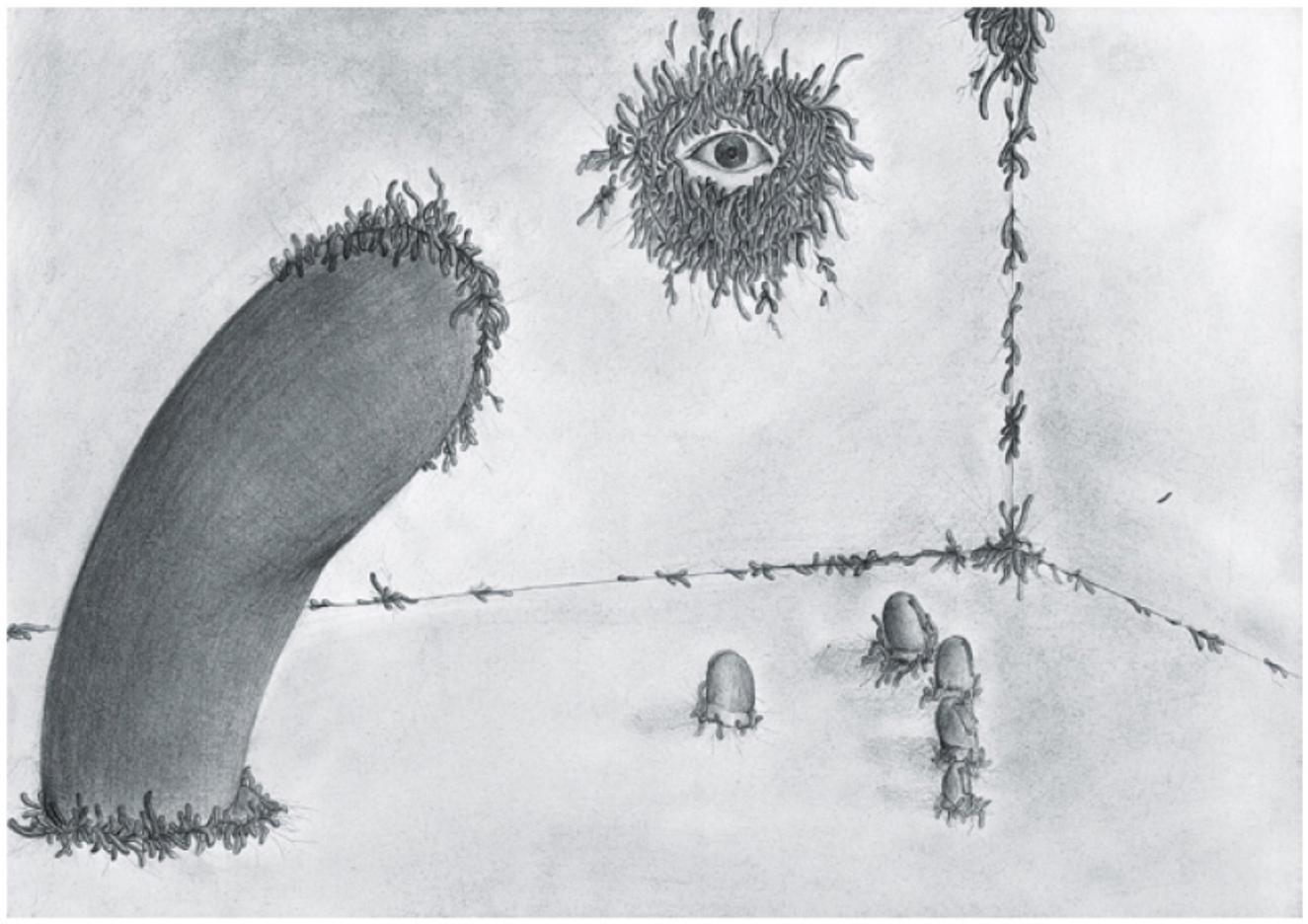
《評価ポイント》
出題された「箱の中」というテーマと、素直に向き合う姿勢がいいですね。好感がもてるデッサンとなっております。より真摯に対象を見つめる力に磨きをかけて形を追求して欲しいと思います。



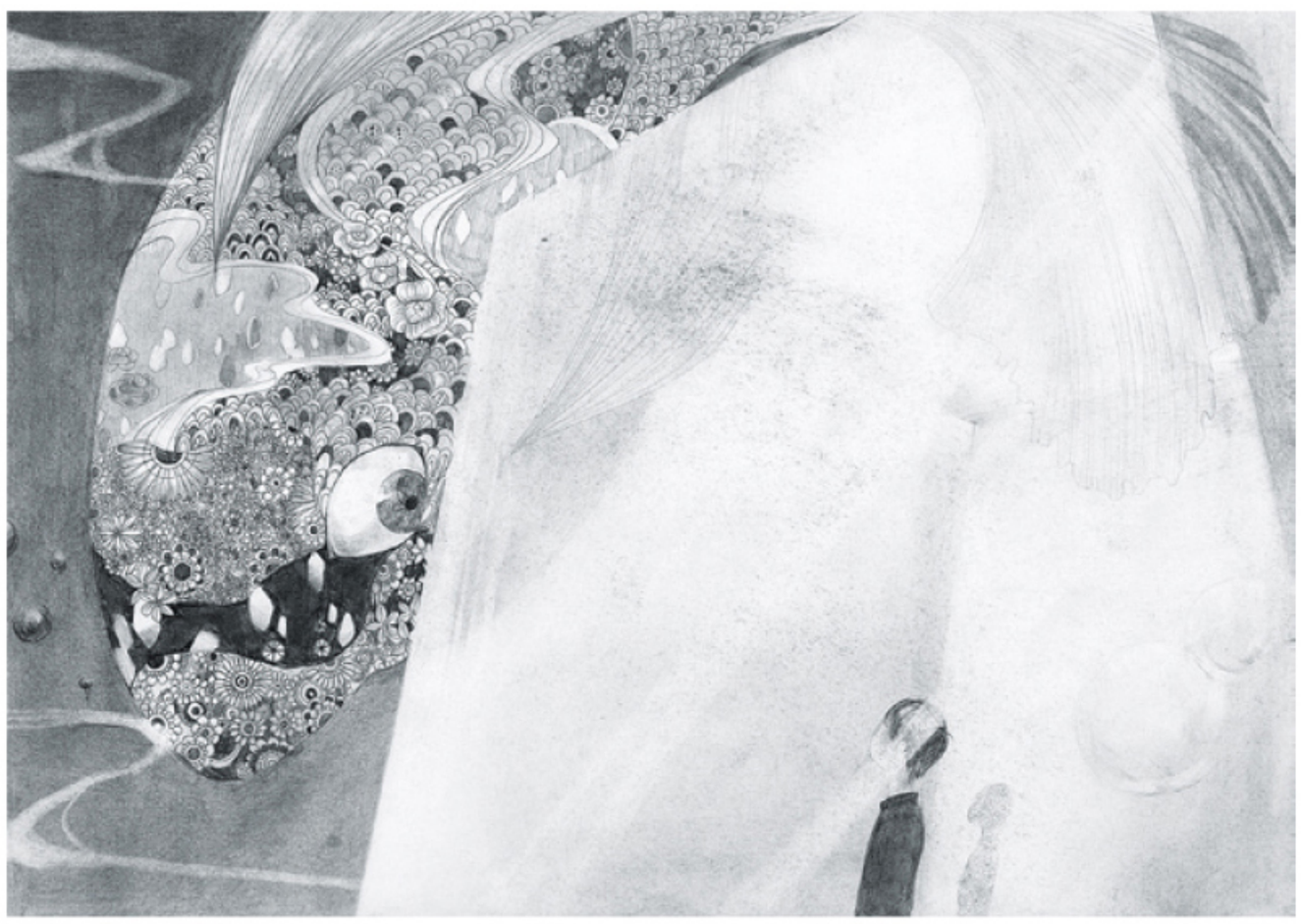
《評価ポイント》
子供の手が、箱の中のジャングルを探索しているようです。構図はとてもシンプルではありますが、箱の植物、子供の手、そして箱、これらの質感や素材を作り手なりに苦労しながらも描こうとする、素直な姿勢が見えてきます。



《評価ポイント》
モニターに映る情報を箱の中に見立てているのかもしれません。平面的な画像を箱の中と捉える感覚は、とても現代的なものに感じます。手前の宇宙人？とモニターとの関係も、的確な距離感を表現できており、モノトーンの濃淡の扱いも効果的に描かれています。



《評価ポイント》
「これは一体なんだろう？」というのが正直な印象です。ニョロニョロ生えてくる生物で画面の区切りを線引きすることで、外界と箱の中の境界を設定し表現しようとしていますが、箱の中という空間認識に少々曖昧さが見受けられます。外界のものが中に入り込もうとすると、それを排除しようとニョロニョロが修復を始め出すかのような、独特の世界観に面白さを感じました。



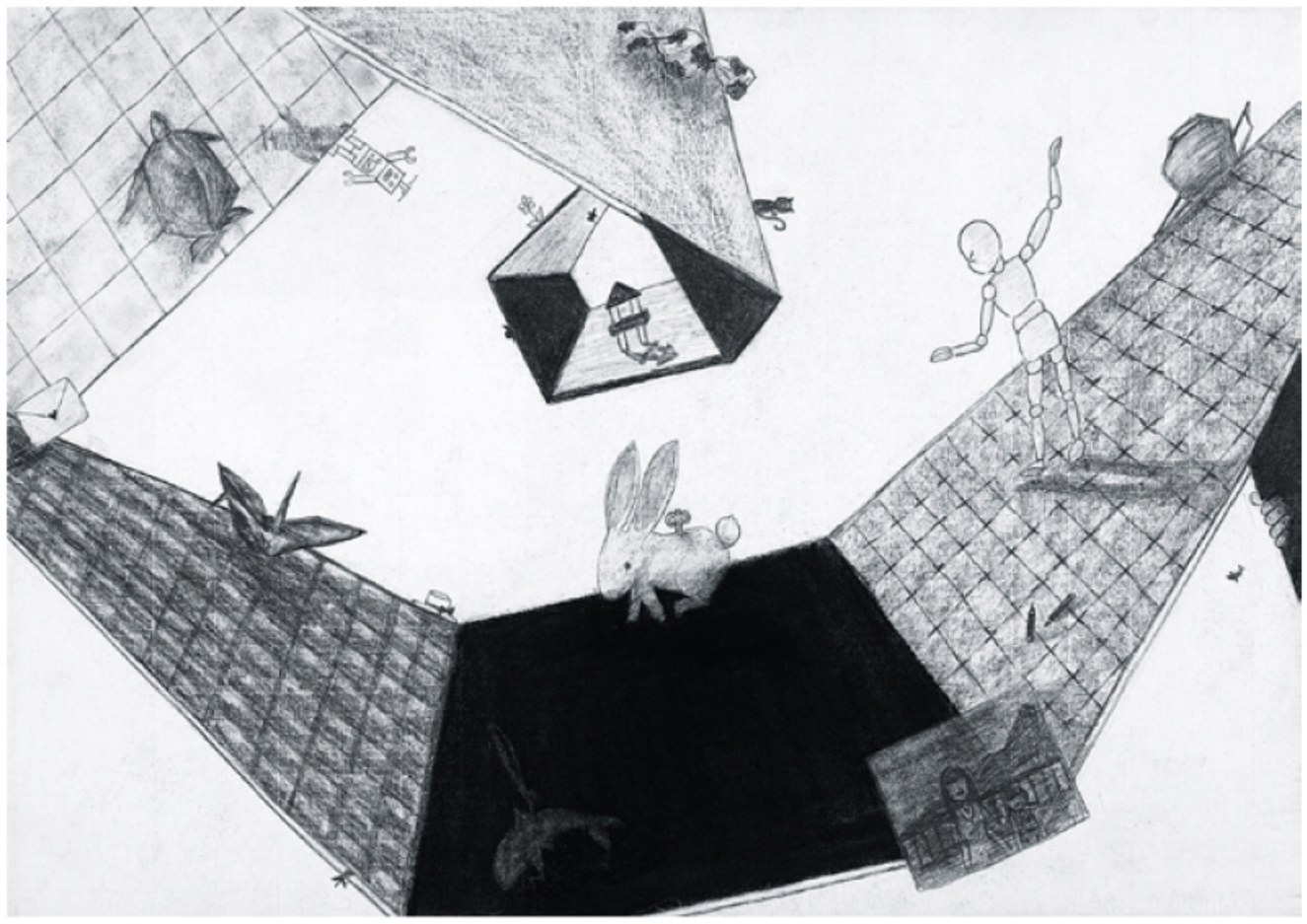
《評価ポイント》
グレーの大きな面と装飾文様魚との対比がおもしろい。



《評価ポイント》
伸びやかな構成力を持っており、鉛筆の効果も上手く表現できていると思います。そして、本人の描く楽しさが十分伝わってきます。描かれた数字は時計を表しているのでしょうか。タイムカプセルを設定に描いた作品なのかもしれません。



《評価ポイント》
黒と白、グレーのバランスがよいと思います。
グレーが全体の調子をまとめています。



《評価ポイント》
拙いながらも、画面構成も他のものと比べて自由にとらえようとしています。描画材にはもう少し慣れて扱えると良いなとは思いますが、それぞれ出てくるキャラクターに、何か心地の良さを感じます。自分の好きなものを描きたいという作者の根本的な姿勢が感じられますので、今後、これらが作品に効果的に取り込まれ、作者のオリジナリティーになることを期待します。



《評価ポイント》
絵は決して上手いとは言えませんが、何か惹きつけられる独特のユニークさとトーンを持っている作品です。一見、雑然とした描画材使いの中で、画面に手を入れようとする作者の直向きさも感じられました。版画制作の中で、様々な素材に携わり、自分の表現を追求してもらいたいと思います。

美術学部
絵画学科 版画専攻
（自己推薦入学試験）

2016年度入学試験

募集人員

5名※選考の結果によって募集人員に満たない場合があります。

入学試験科目・配点・日程

●専門試験

鉛筆または木炭によるデッサン3点（面接時の資料として使用します）

小論文

・配点=100点

・日程=12月18日（金）

鉛筆デッサン「静物」

・配点=100点

・日程=12月18日（金）

面接

・配点=100点

・日程=12月19日（土）

●専門試験

小論文（90分）

「版画の力」という題で、800字程度の文章を書きなさい。

鉛筆デッサン「静物」（3時間）

与えられたモチーフを自由に表現しなさい。

※使用紙：いずみ（B3）



●出題のねらい・意図

自己推薦入試では、一般入試では評価しきれない「能動性」「広い視野と個性」をもった意欲的な人材を求めています。

鉛筆デッサン「静物」

一般入試では、創設以来、一貫して文字によるテーマを提示し「自由に表現」する事を続けていますが、自己推薦入試では、対象を見つめる力をより重視し、「静物」と限定します。基礎的な描写力や造形力を備えているか。また、制作に対する集中力と持久力を蓄えていることを望みます。

提出資料

資料では、受験生がこれまでに鉛筆、または木炭によるデッサンにおいて、どのような制作をしてきたかをみます。

●採点ポイント

小論文

1）題：「版画の力」という題で、800 字程度の文章を書きなさい。

2）現代社会のハイテク化の中で、今なぜ版画なのか。版画の魅力と可能性について述べてほしい。

3）文章が具体的な事例をあげながら論理的に書かれているか。また目的意識の明確さを見たい。

鉛筆デッサン「静物」

・描写力　構図、立体認識、物質感

・観察力　空間把握、物と物の関係性を的確にとらえているか

・創造性への可能性を感じられるか

・新鮮な感覚、感性を持っているか

面接

・志望動機が明確であるか

・持参した資料を元に、自分の意思を明確に述べられているか

・学業や制作に意欲はあるか

・質問についての理解と回答の正確さ

美術学部
彫刻学科（一般入学試験）

2016年度入学試験　掲載作品は入学者より選定

募集人員

26名（一般方式13名／センターⅠ方式13名）

入学試験科目・配点・日程

●専門試験

デッサン

・配点=一般方式150点／センターⅠ方式150点

・日程=2月7日(日)

立体造形

・配点=一般方式150点／センターⅠ方式150点

・日程=2月8日(月)

●学科試験

一般方式

・配点=国語100点／英語100点

センターⅠ方式

6教科28科目から2教科2科目を選択 各100点

※学科試験の詳細はp118を参照。

●実技問題

デッサン（5時間）

「記憶」をテーマに自由に構成し自画像を描きなさい。

【条件】

・用紙は縦位置で使用すること。

・鉛筆デッサンか木炭デッサンのどちらかを選択すること。

【注意】

出題の内容に関する質問にはお答えできません。

※補助用具として鏡を支給

※使用紙：サンフラワーペーパー（M画／木炭紙大）、またはMBM（木炭紙大）

立体造形（5時間）

自由にイメージした「音」を造形しなさい。

【条件】

与えられた材料は全てを使用しなくてもよい。

【注意】

出題の内容に関する質問にはお答えできません。



※使用素材：粘土（水粘土／10kg）

※配布用具：ウェス2枚／ビニール袋1枚／制作板／カッターナイフ1本／つげべら1本／かきべら1本／プラスドライバー1本／麻ひも（20m）1巻／角棒（30cm）2本／角棒（15cm）2本／タル木（30cm）1本／木ネジ18個／L字型金具（小）2本／L字型金具（大）2本／なましばんせん（50cm）5本／下書き用紙1枚

●実技問題出題のねらい・意図

「写実」とは、現実をありのままに描写する意で、その主張は美術に限らず様々なジャンルに於いても現実世界に対する態度として見ることが出来ます。とりわけ美術においては１９世紀、写真が普及するようになると、それまでの芸術家の主な仕事であった記録や再現的な描写から解放されて、「美」そのものの「本質」へと意識が向かうようになりました。やがて絵画では印象派が、彫刻ではロダンの出現により表現は個人の「内面」へと向かいます。時は流れ、映像表現に溢れた現代社会に於いてはどうでしょう。かつての芸術家の目指した「個のイメージの拡張」とは反対に、その多くは価値の集約、集中に向かうよう仕組まれています。芸術を志す者にとって何よりも大切な事は、個人の目で真摯に現実世界を見つめる事です。そして、それをかたちにする強い意志と「思考する技術」が必要です。「思考する技術」とは、彫刻は私たちの身の回りにある様々な物質を素材として「美」の本質を追求する世界だからです。ここでは、ステレオタイプなイメージの再現性よりも、個性的で新鮮な造形描写を期待します。

●実技問題採点のポイント

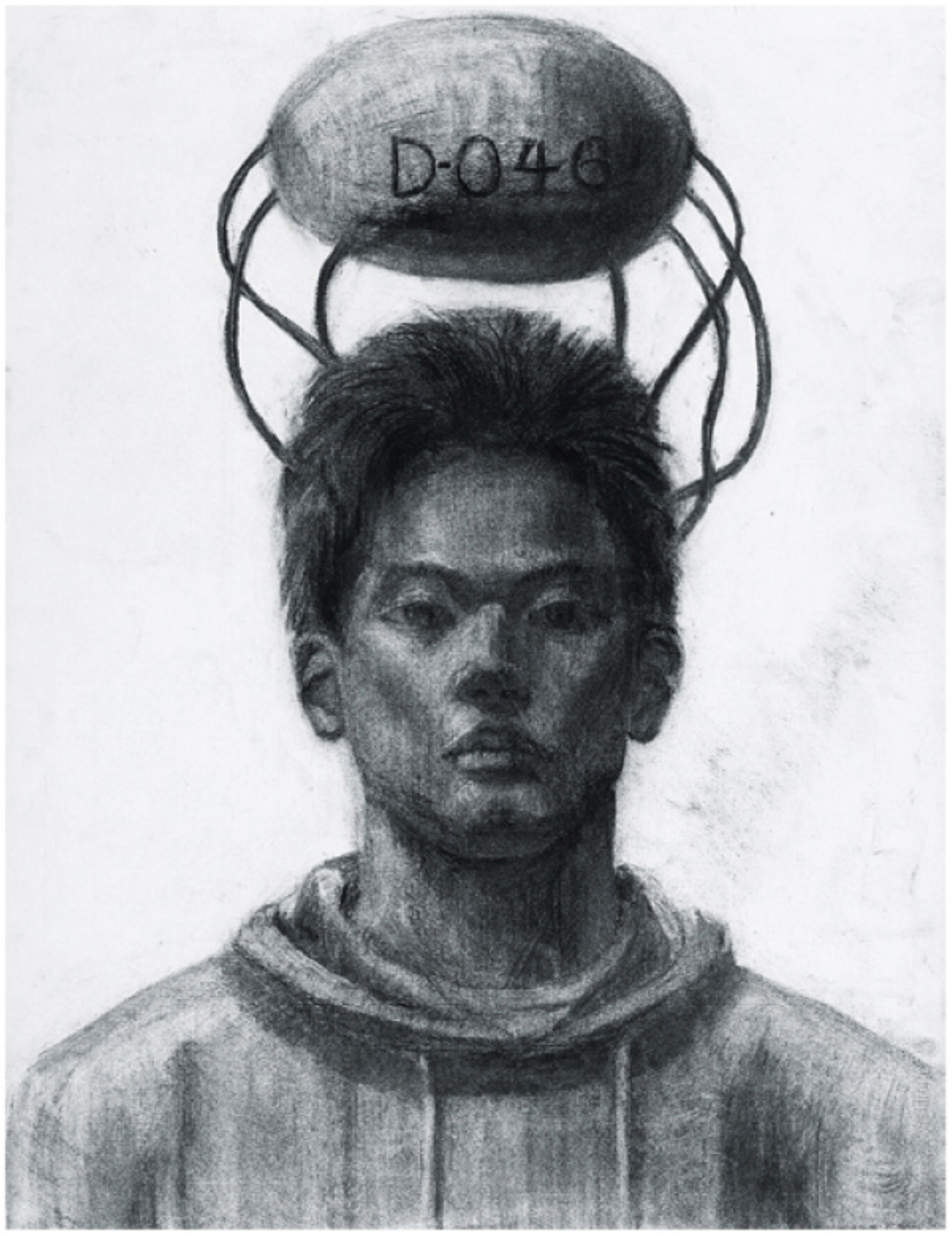
デッサン

私たちが日常何かを見たとき、その図像が脳内で感覚されると、人それぞれの「記憶」をもとに再構築され、意味を持つ物体として視覚化されます。人によって、ものの見え方や、感じ方が違うのも経験や記憶が大きく作用しているからです。石膏像や静物モチーフの好みなどが大きく異なるのも、ものに対する潜在的な感覚や経験値によるものなのです。しかし、一般的な入試デッサンとは、人によって異なる多様な見え方や感じ方は矯正され、まずは写真的で正確な再現性が重要視されます。しかし、ここでは人によって異なる相対的な「記憶」を通して、どのように自己を描写出来るのか、規範に囚われない自由で新鮮な画面構成や、情景描写も評価しました。

立体造形

「音」に形が無いのは自明の事ですが、たとえば「滝」の現象である水瀑と、その音は一体のものです。しかし、目を閉じて瀑音に耳を傾けたり、耳を塞いで落下する水流を見てみると、同じ滝であっても趣が異なります。ある現象を解体し一つずつ取り出して観察する事で、また新たな全体像が感得できます。抽象的で感覚的な音を形にするとは、視覚的な情景を描写する事だけではなかなか得られません。日頃から何気ない現象を静かに見つめ、自己の内的なイメージを膨らませるトレーニングが必要です。ここでは規範は一切ありません。説明的な造形を避け、柔軟な造形感覚とかたちにしようとする積極性を評価しました。

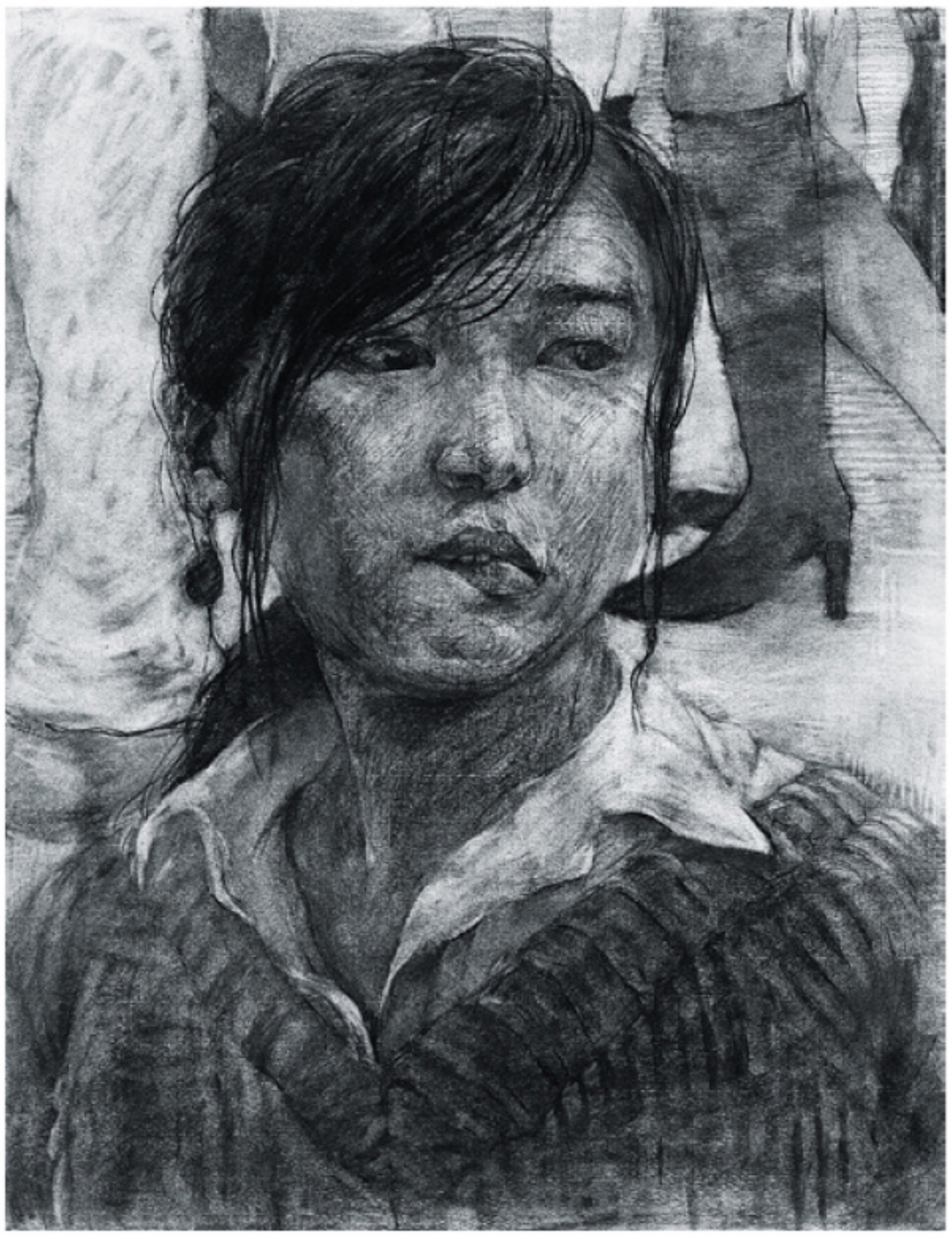
※デッサン、立体造形は同一作者の作品を掲載しています。



デッサン



立体造形



デッサン



立体造形

美術学部　彫刻学科（一般入学試験）

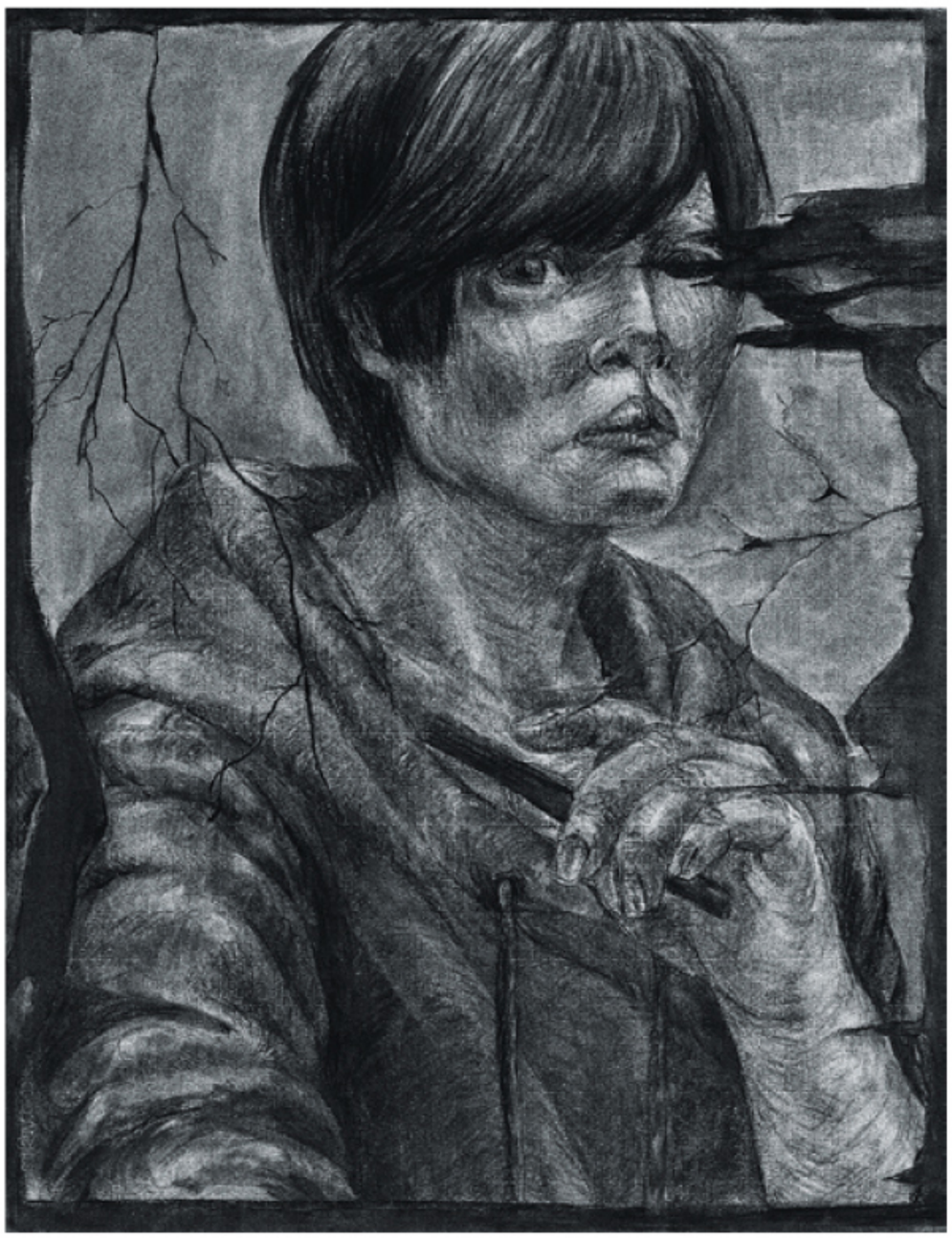
デッサン・立体造形



デッサン



立体造形



デッサン



立体造形



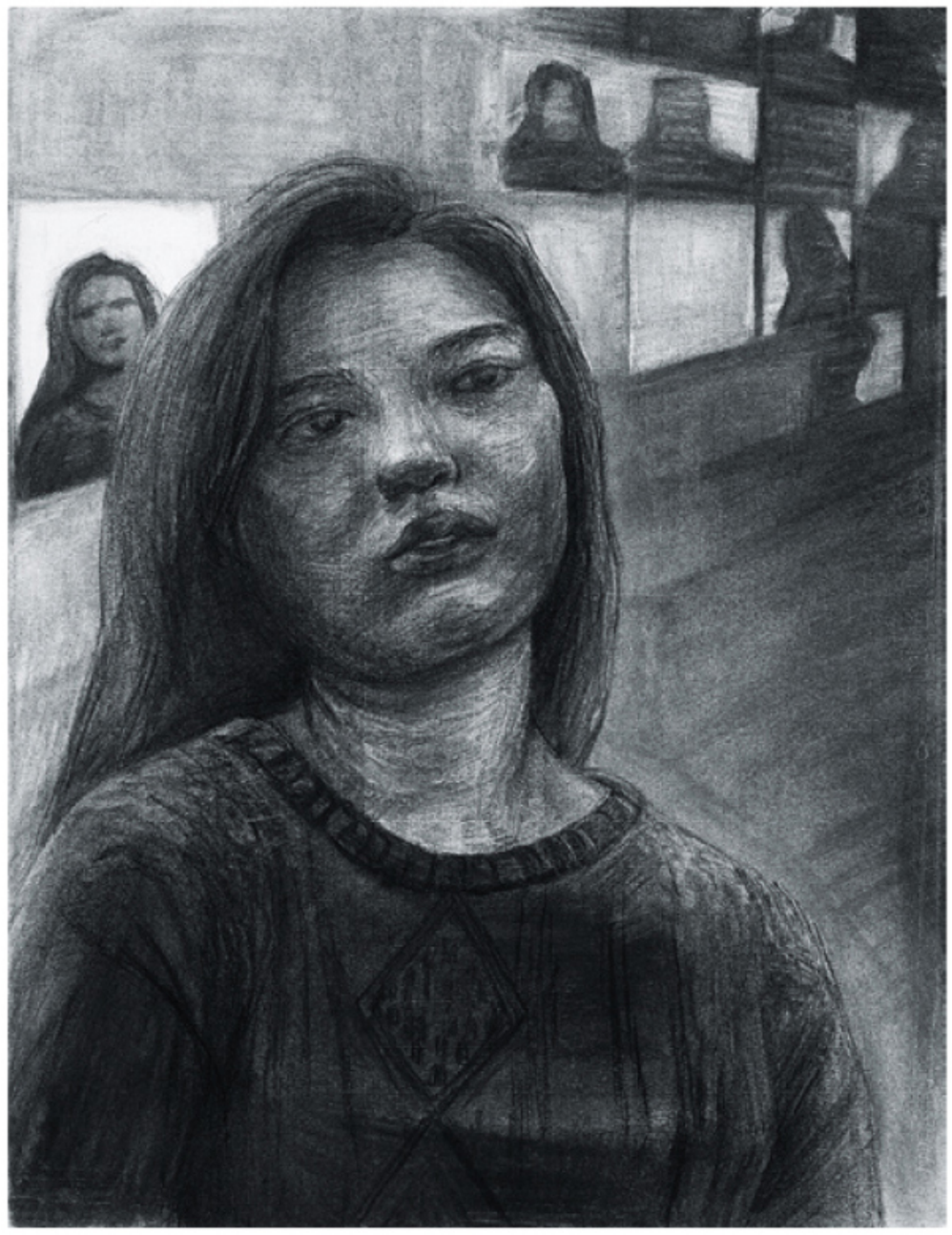
立体造形



デッサン



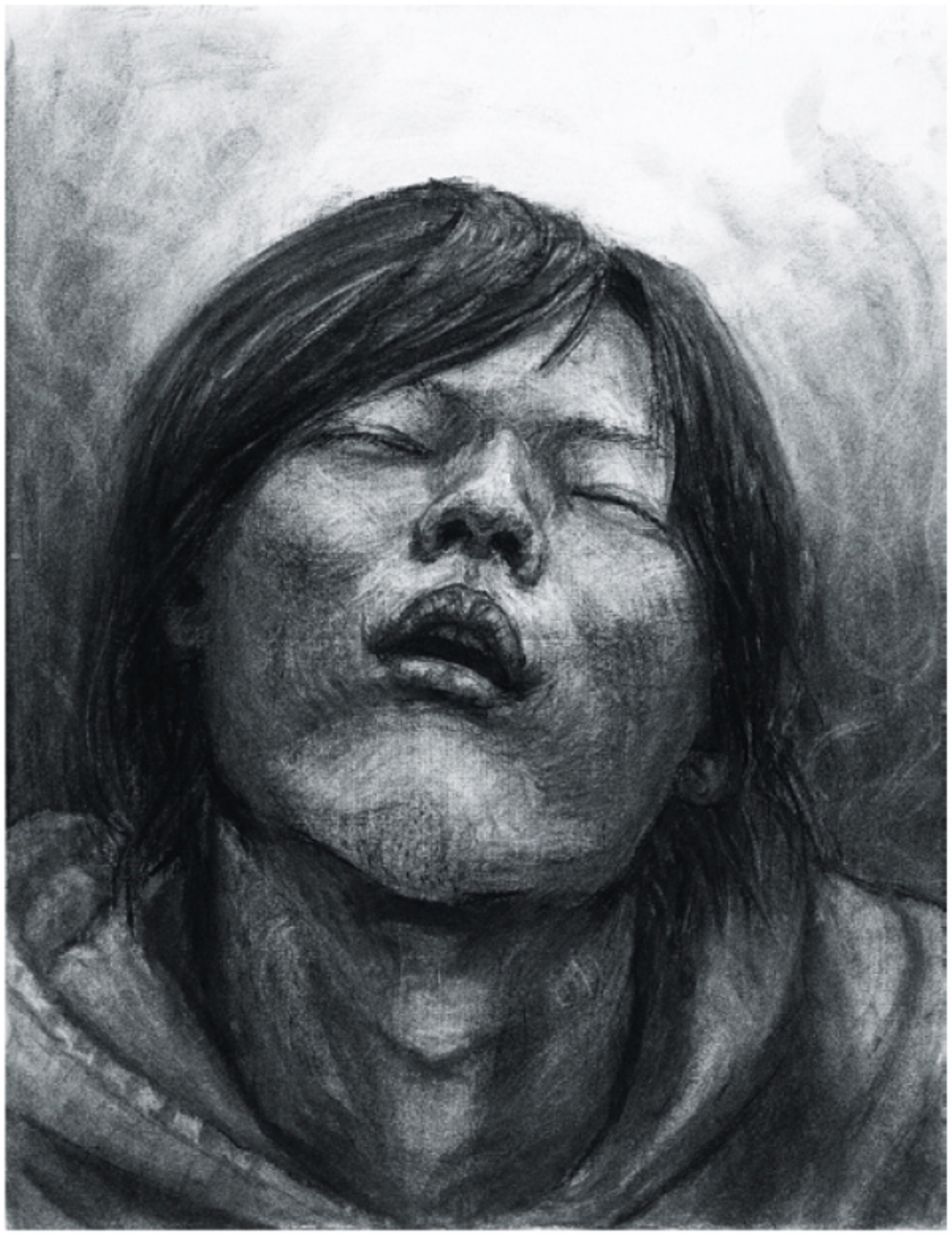
立体造形



デッサン

美術学部　彫刻学科（一般入学試験）

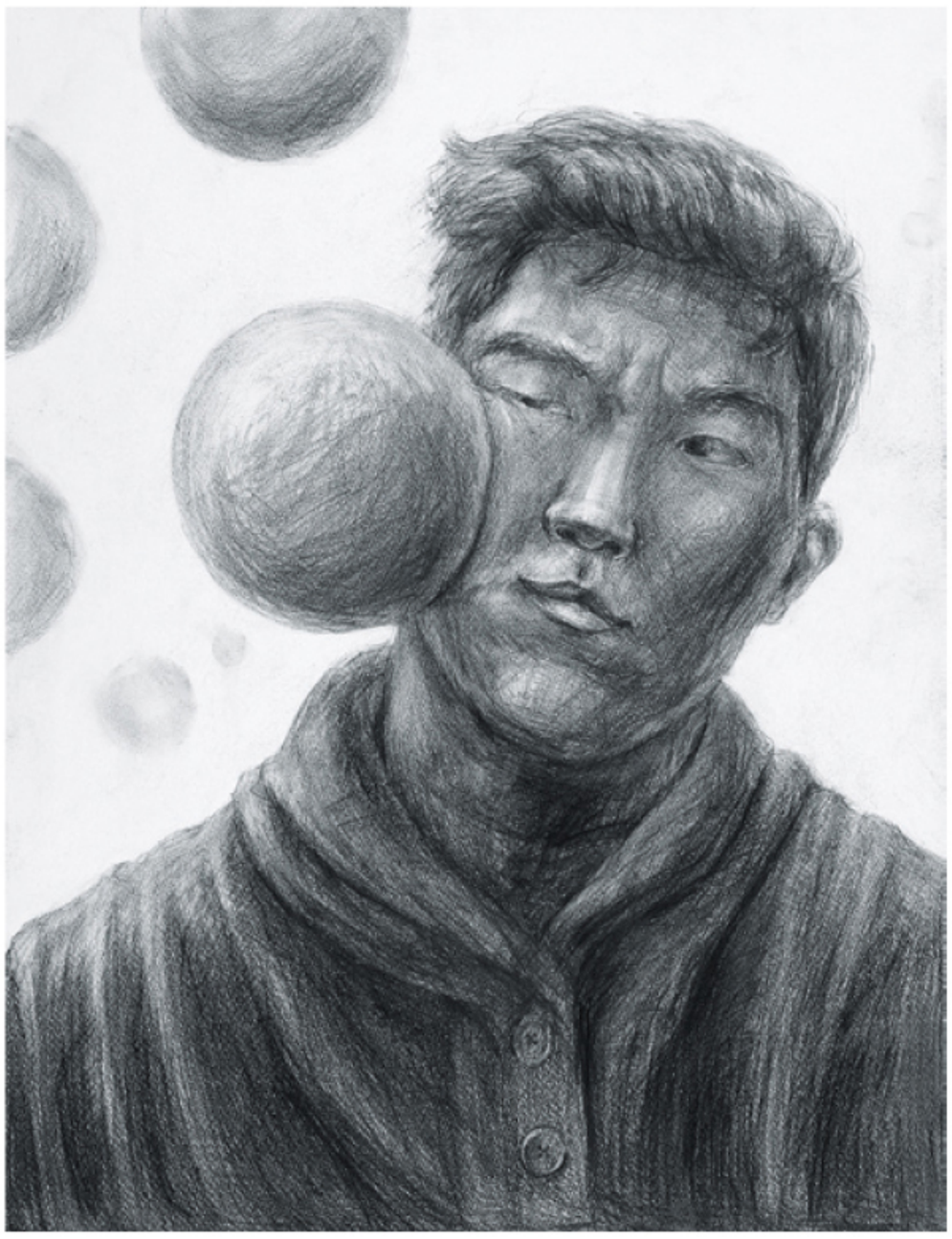
デッサン・立体造形



デッサン



立体造形



デッサン



立体造形

美術学部
彫刻学科（自己推薦入学試験）

2016年度入学試験

募集人員

4名　※選考の結果によって募集人員に満たない場合があります。

入学試験科目・配点・日程

●専門試験

作品資料（面接時の資料として使用します）

小論文

・配点=100点

・日程=12月18日（金）

立体造形・デッサン

・配点=100点

・日程=12月18日（金）

面接

・配点=100点

・日程=12月19日（土）

●専門試験

小論文（90分）

「作品展示の空間」という題で、あなたの専攻領域をふまえて800字程度の文章を書きなさい。

立体造形・デッサン（4時間30分）

自分の「夢」をテーマに自由に立体造形しなさい。また、同じテーマでデッサンしなさい。

◎立体造形とデッサンの制作内容は、関連づけなくてもよい。

【注意】

1. 試験時間内で立体造形とデッサンをおこなうこと。
2. 用紙の縦、横位置は自由とする。
3. 与えられた用具、材料はすべて使用しなくてもよい。

※使用紙：画用紙（M 画／ A3）

※配布材料：粘土（テラコッタ粘土／ 5kg）

※配布用具：制作板 1 枚／つげべら 1 本／かきべら 1 本／ウエス 2 枚／霧吹き 1 個／カルトン 1 枚／目玉クリップ 2 個



●出題のねらい・意図・採点のポイント

小論文

1）題：「作品展示の空間」という題で、あなたの専攻領域をふまえて800 字程度の文章を書きなさい。

2）作品制作の際、どこにどのように展示するか(あるいは展示されるか)を意識しているのだろうか。自己体験をふまえた内容で、彫刻に対する意識が読み取れることが望ましい。

3）文章が具体的な事例をあげながら論理的に書かれているか。また目的意識の明確さを見たい。

立体造形・デッサン

「夢」とは一般的に就寝中に見るものとは別に、将来の希望や願望を指しますが、何れも実態がありません。実体のない物を形にしたり、デッサンすることはとても困難なことかも知れません。しかし子供の頃を考えてみるとどうでしょうか。誰しもが空想を巡らせながら自由奔放に線を描き、土いじりをしていたはずです。自己推薦入試では基礎的なデッサン力だけを重視するものではありません。それは自由なイメージを臆せずに形にしたり、描くことが出来る思考の柔軟性や、個性的な発想が美術にとって重要な「基礎」であると考えるからです。

面接

本学への受験意図が明確であるとともに、彫刻領域に対する関心や研究意欲があるかどうか。また、将来的な展望を持ち、自己の可能性を試す意欲が感じられるかどうか。さらに、一般入試の学生との基本的なコミュニケーションが図れるかどうかを見る。

美術学部
工芸学科（一般入学試験）

2016年度入学試験　掲載作品は合格者より選定

募集人員

40名（一般方式20名／センターⅠ方式20名）

入学試験科目・配点・日程

●専門試験

鉛筆デッサン「静物」

・配点=一般方式300点／センターⅠ方式200点

・日程=2月3日(水)

●学科試験

一般方式

・配点=国語100点／英語100点

センターⅠ方式

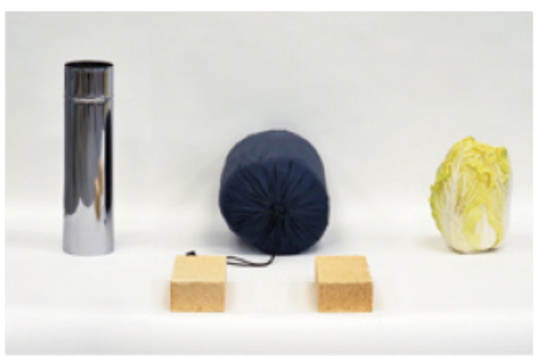
6教科28科目から2教科2科目を選択 各100点

※学科試験の詳細はp118を参照。

●実技問題

鉛筆デッサン「静物」（5時間）

モチーフすべてが台の上に置かれた状態を想定して、鉛筆で描写しなさい。



【条件】

用紙の縦、横は自由とする。

【注意】

出題の内容に関する質問にはお答えできません。

※使用紙：BB ケントイラストレーションボード（荒目／B3）

●実技問題出題のねらい・意図

鉛筆デッサンでは、対象を観察しそれを画面で表現する基本的な描写力を問います。

基本的な描写力とは、まず、対象の形態を正確に把握し、さらに見る人に伝えることです。観察するとはモチーフの輪郭や見えている表面をなぞることだけではありません。モチーフがどんなふうにできているのかその成り立ちや構造を読み取ることも含まれます。そして見えている部分と見えていない部分との関係を理解することです。作り手にはそんな「ものを分析して見る視線と意識」が求められます。

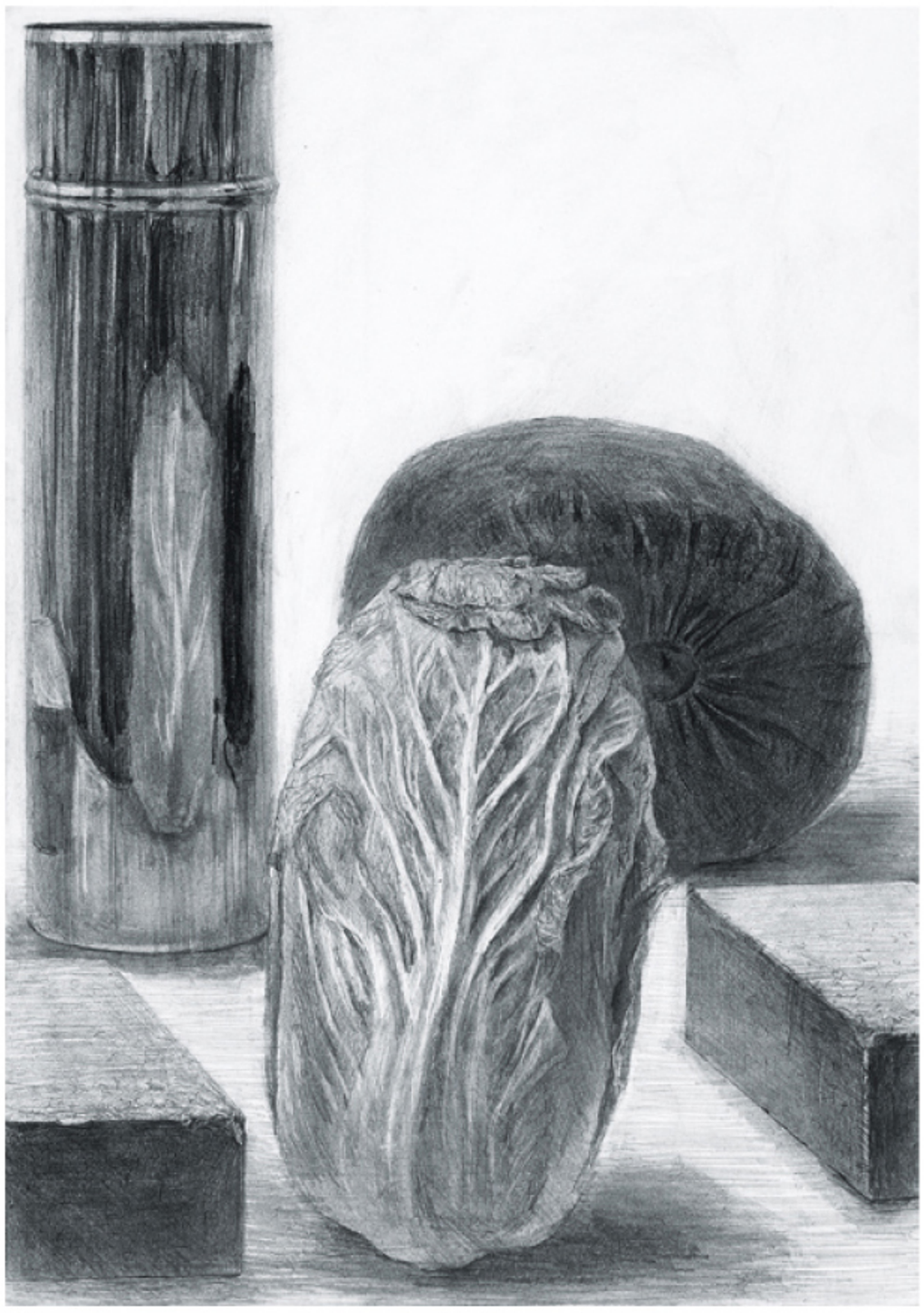
　次に、モチーフの材質感の表現です。デッサンを見る者にモチーフの手触りの記憶を豊かに呼び起こしたいものです。また、モチーフ同士の質感の違いを描き分けることで、モチーフの存在感が際立ちます。ありふれたものの材質感も感受性を働かせて受け止めることで、瑞々しく見えてきます。また、モチーフが何でできているかという材質は、形態の成り立ちにも影響を与えていることが見えてきます。集中して見る訓練は、デッサンだけでなく、手を動かしてものを作ることにも現れます。鉛筆デッサンはモノトーンの表現ではありますが、鉛筆の濃度の選択やその使い方、手の動かし方を効果的に用いることで、モチーフの材質感のみならず、モチーフのもつ色やモチーフ同士の色彩の関係をも表現できます。手と鉛筆と紙。その使い方を工夫することで鉛筆だけでも様々な効果が出せるものですし、そういうデッサンは見ていて飽きません。限られた材料であっても、作り手が手をかけ工夫することで魅力のあるものができあがるのは、工芸の世界の面白みに通じます。

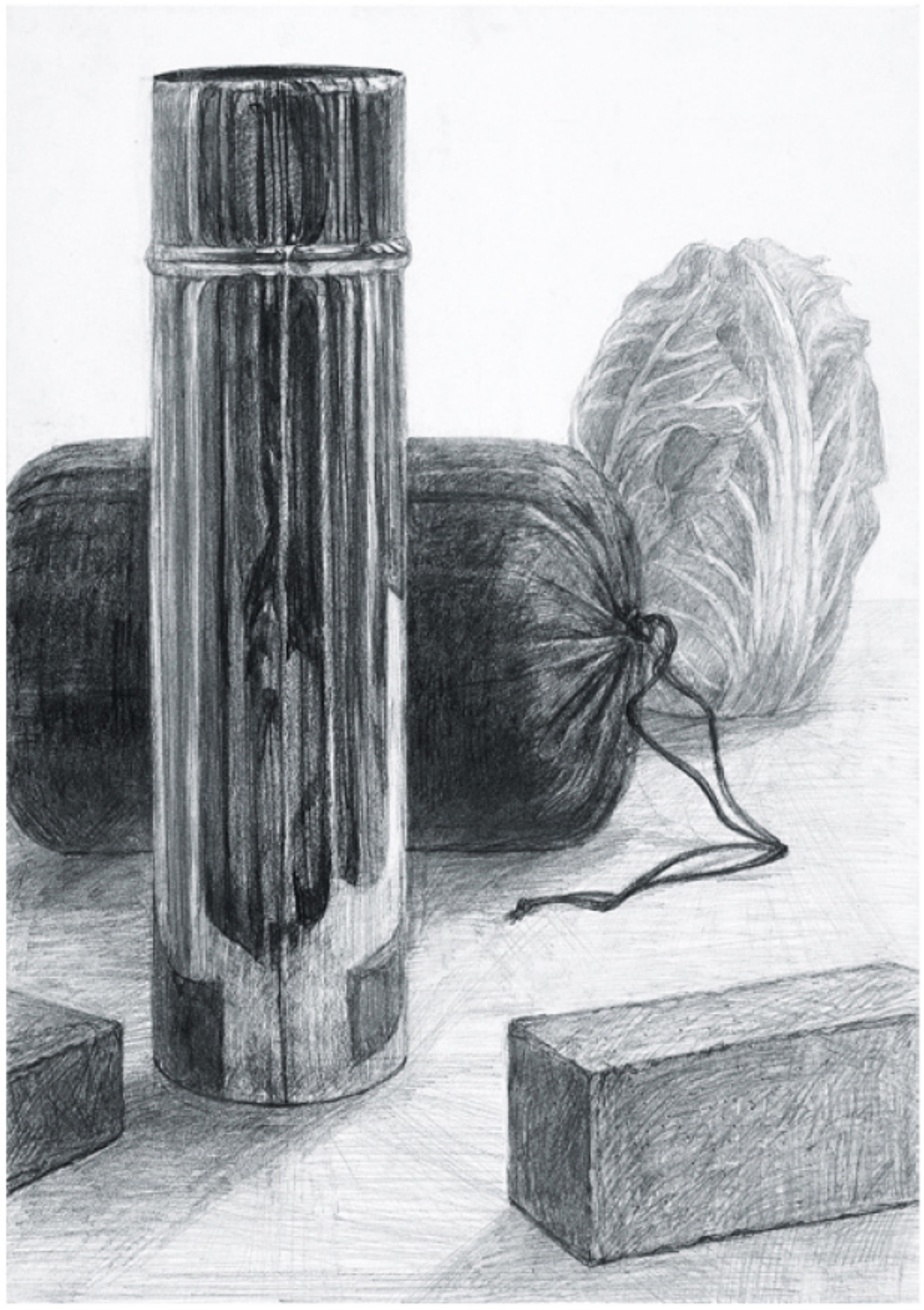
●実技問題採点のポイント

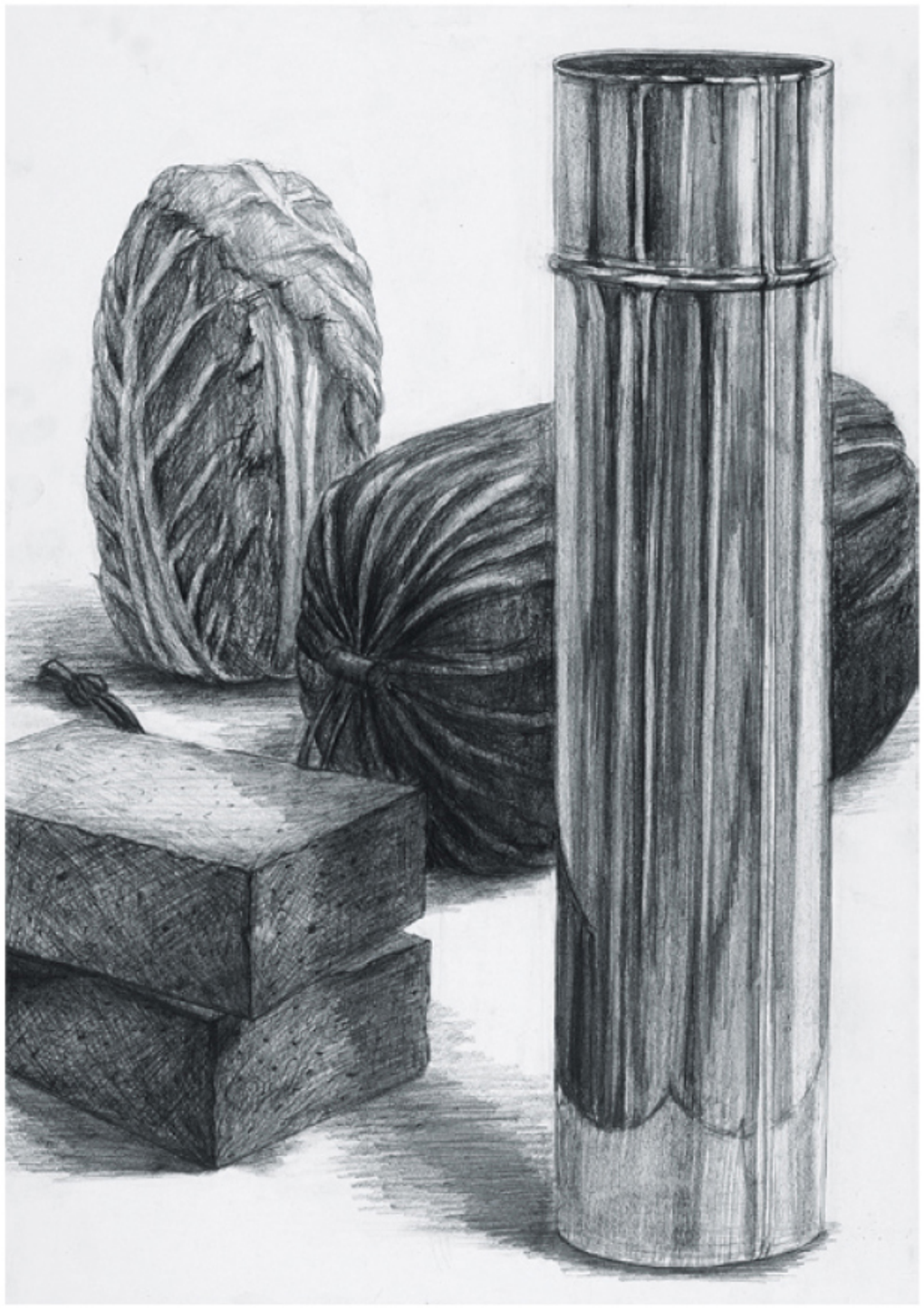
鉛筆デッサン「静物」

まずは形が正確にとれているか。構造の読み取りと理解に基づいて、正しい比率にみえるよう画面に描いているか。そして、質感と色彩。ガラスならガラス、鉄なら鉄というように、その材質感がそれらしく、さらに瑞々しく描けることが好ましい。また、モチーフが同じ台に載っていること、前後左右の位置関係や空間の描写と、画面の構成。さらに画面全体の空間の奥行きや雰囲気といった表現力とを採点します。しかし、この全ての要素を満たしているデッサンはそうたくさんあるわけではありません。受験生は自分の得意な力を発揮したデッサンになるよう、それぞれの描写力を込めて「鉛筆デッサンを作る」に５時間の試験時間をいっぱい使って、取り組んでください。モチーフの位置関係を想定し、画面を構成するには、描き手の自由な解釈力や発想力、そしてバランス感覚が求められます。同じモチーフを描いても描き手が違えば、違った雰囲気をもつ画面になるのは当然です。デッサンといえども一点の作品であり、そこには作り手がモチーフから受け止めた印象や感動が画面全体から見えてきます。基本的な描写力を問いはしますが、型通りであることにしばられず、のびのびと自分らしく描くことを期待します。既にそれが「ものを作る」姿勢であり多摩美の工芸学科はそんな自由な力を大切にします。



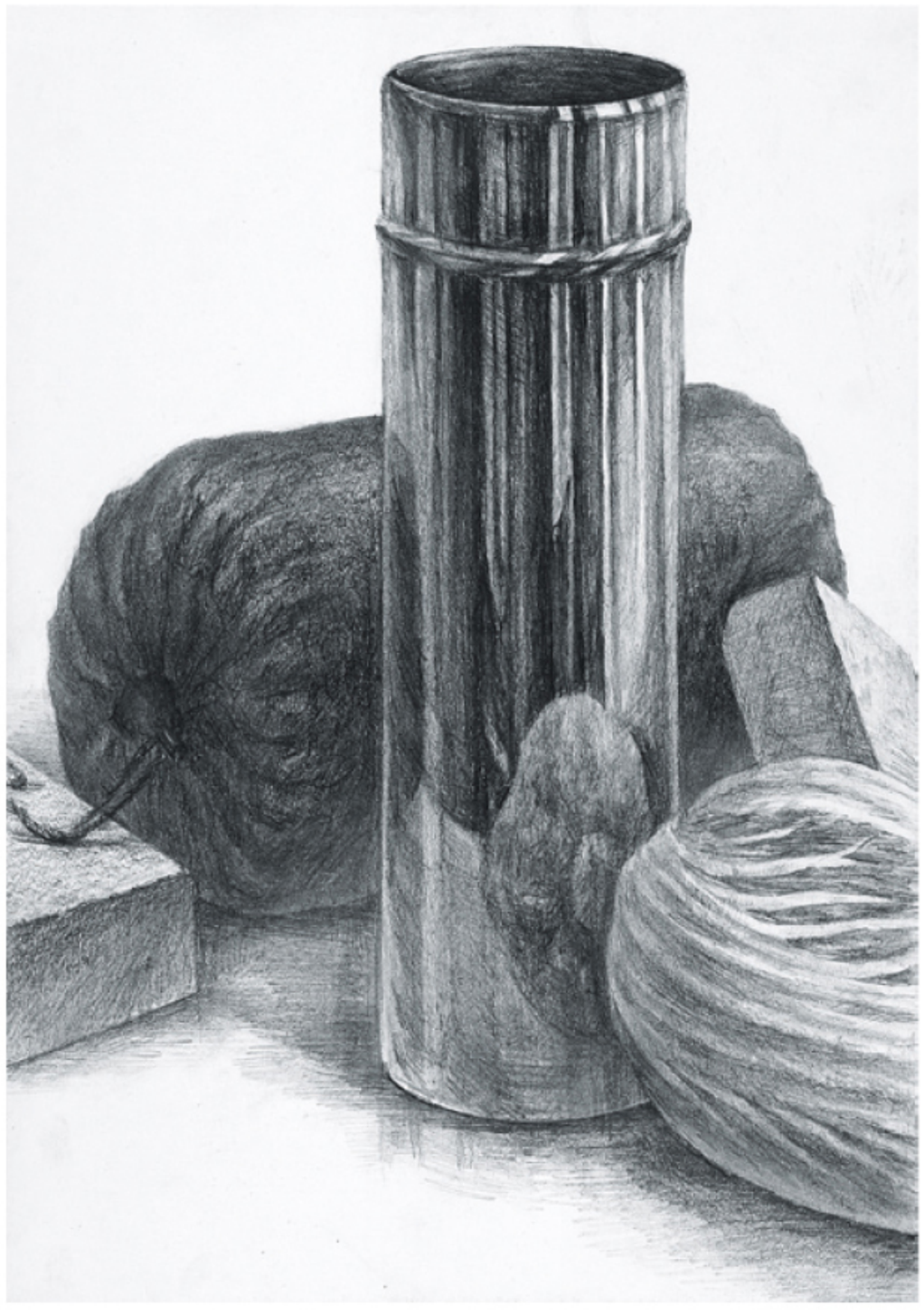


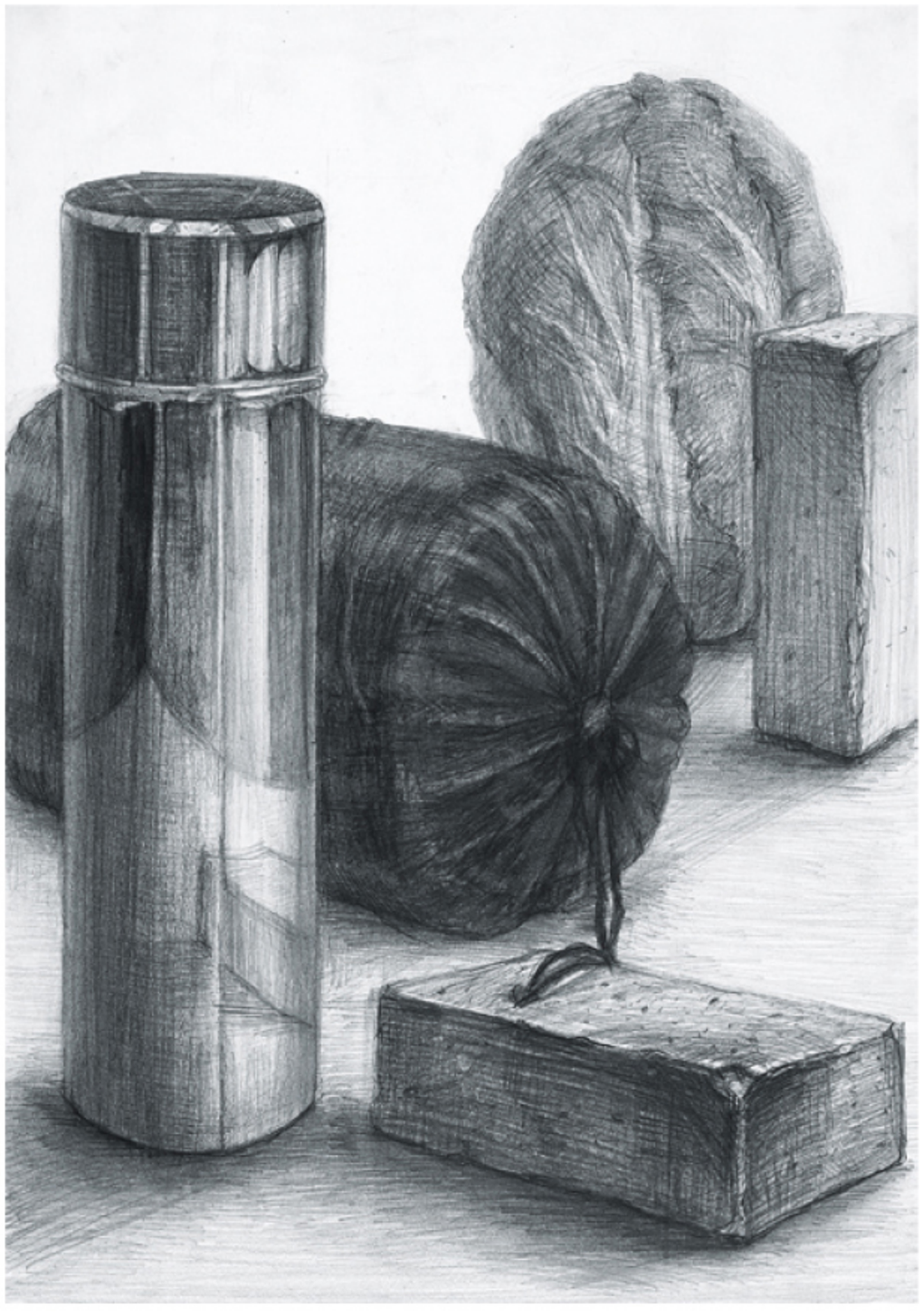


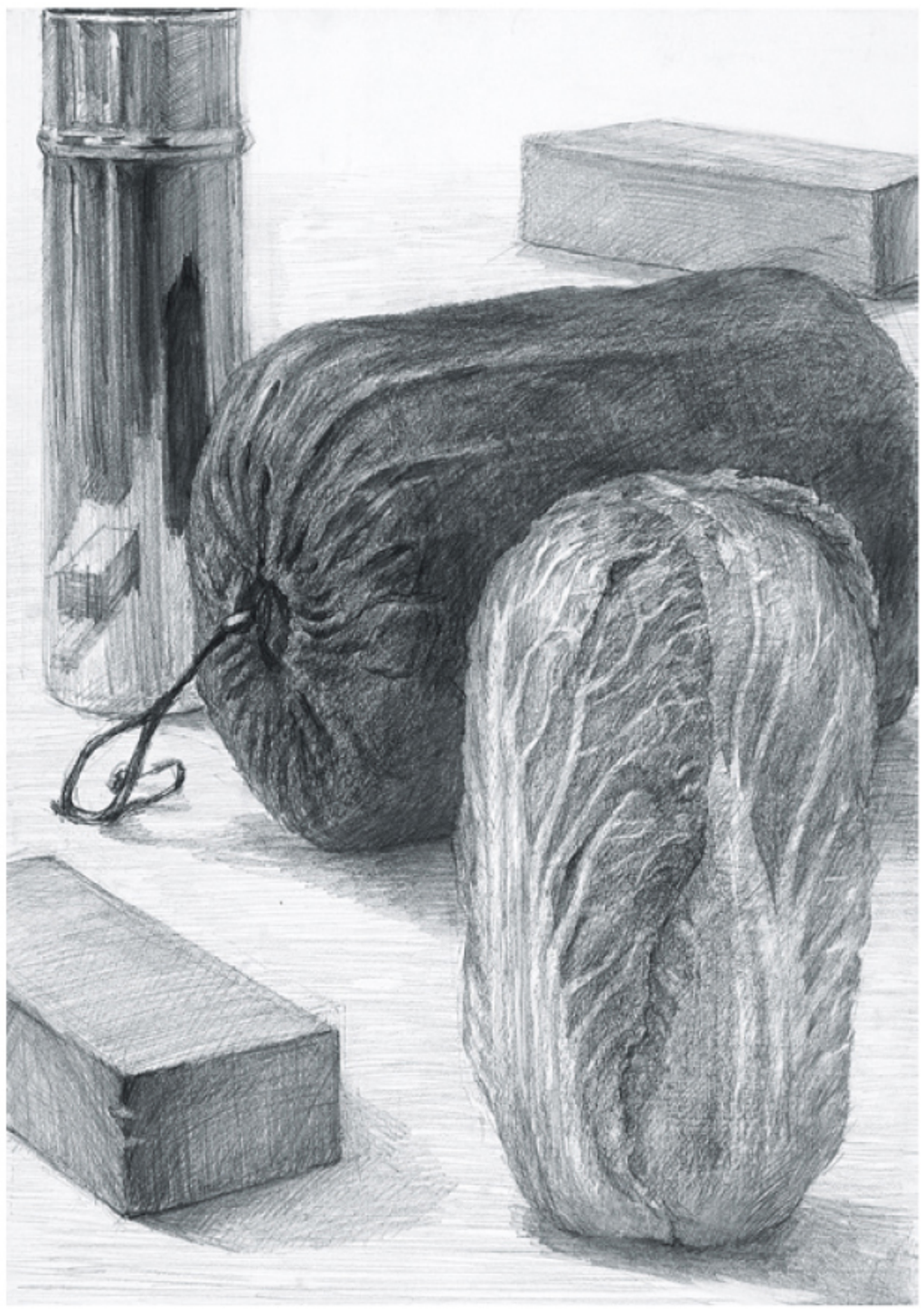


美術学部　工芸学科（一般入学試験）

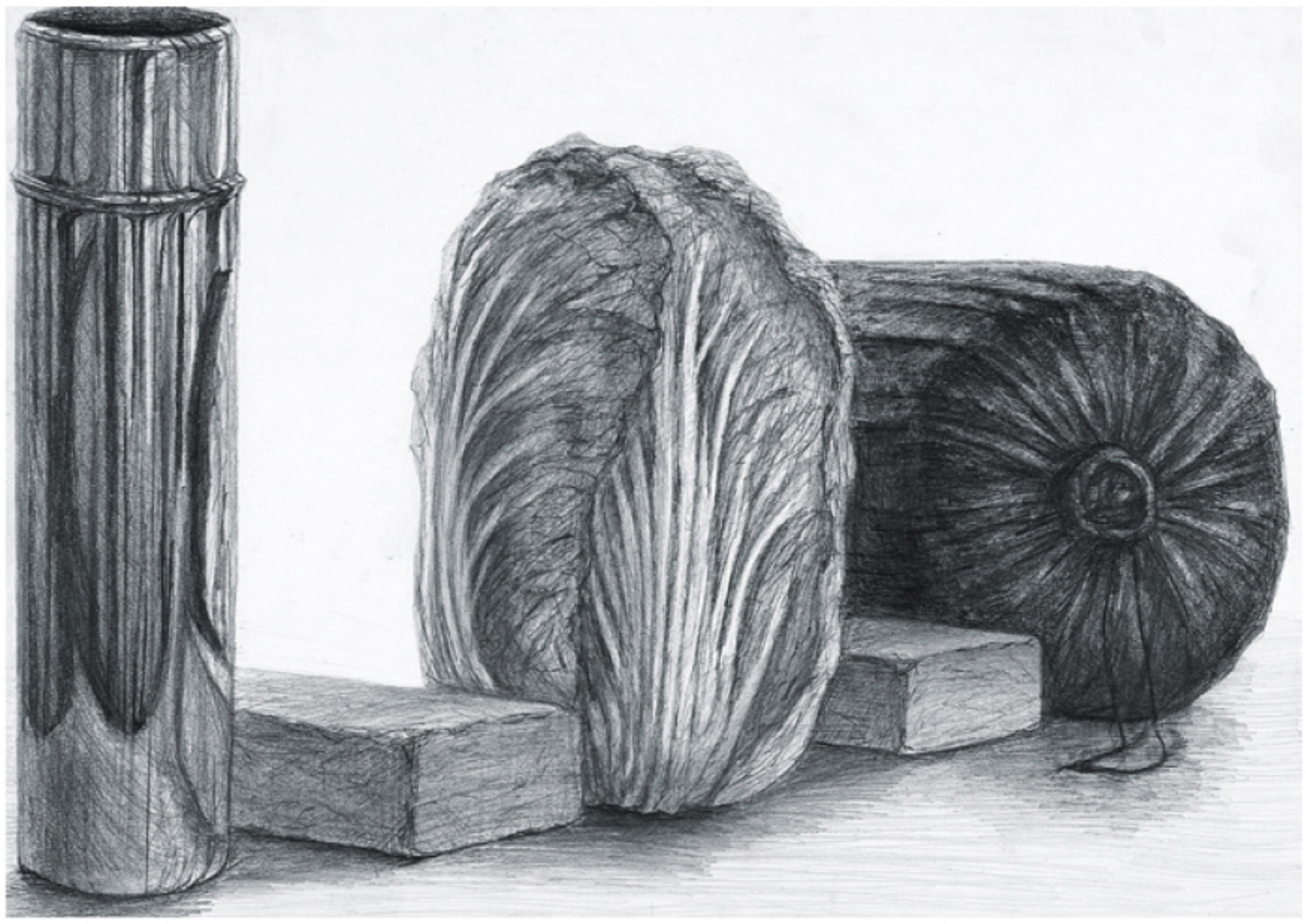
鉛筆デッサン「静物」



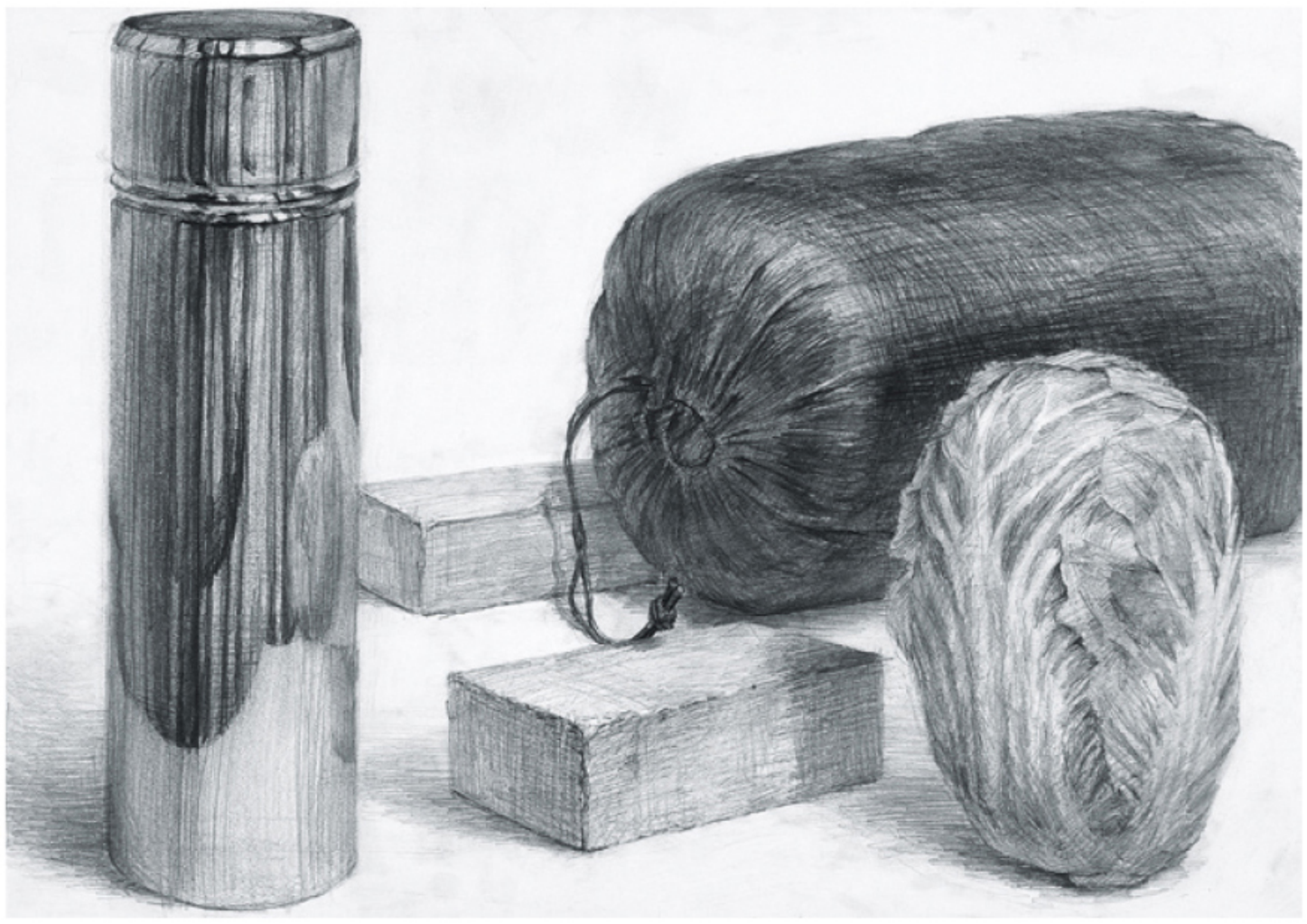












美術学部
工芸学科（自己推薦入学試験）

2016年度入学試験　掲載作品は入学者より選定

募集人員

20名（陶／ガラス／金属 各6〜7名）
※選考の結果によって募集人員に満たない場合があります。

入学試験科目・配点・日程

●専門試験

資料
・配点=100点

小論文
・配点=100点
・日程=12月18日（金）

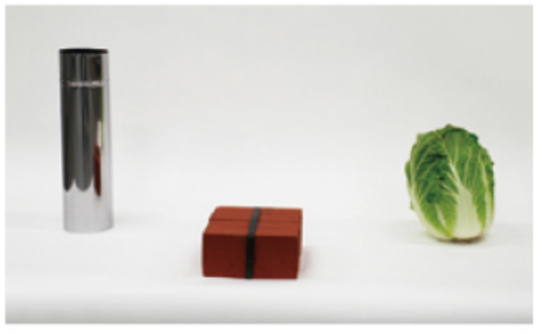
鉛筆デッサン「静物」
・配点=100点
・日程=12月18日（金）

面接
・配点=100点
・日程=12月19日（土）

●専門試験

小論文（90分）
「素材と向き合う」という題で、あなたの専攻領域をふまえて800字程度の文章を書きなさい。

鉛筆デッサン「静物」（4時間）
モチーフすべてが台の上に置かれた状態を想定して、鉛筆で描写しなさい。



【条件】
用紙の縦、横は自由とします。
※使用紙：BB ケントイラストレーションボード（荒目／B3）
【注意】
問題の内容に関する質問には一切お答えできません。

●実技問題出題のねらい・意図

自己推薦入試は、一般入試では見えてこない受験生の多様な資質をみることで、多摩美での勉学に適う「作る力」を判断しようというものです。一般入試で行われる鉛筆デッサンと学科試験のウェイトを減らし、その代わりに作品資料と面接を加えて実施します。提出資料には受験生が入試験準備や美術の時間につくった作品だけでなく、部活や学外で作ったもの他にも、自主的につくったものやそれ以外の様々な活動を納めることで、受験生ごとの様々なタイプの「作る資質」を、じっくりと時間をかけて見ることができます。また、面接試験は受験生の「学ぶ意思」が充分に示せる機会です。両方ともにじっくりと時間をかけて丁寧に判断します。

●実技問題採点のポイント

提出資料には何を入れるのか、また、どういう形式で提出するのかという質問を多く受けます。
内容や形式を指定することは、提出側と受け入れ側の双方に便利ではありますが、往々にして提出資料が画一化したり、受験生にとって無難な傾向が出来たりして、冒頭の自己推薦入試の本来のねらいから外れことになります。また、出来の良い作品がほんの少しだけ入れられた資料では、受験生のことは見えづらいものです。
目的に適った資料をまとめることもまた「作る力」のひとつです。
受験生がこれまでに作ったいろいろなものや活動が、見やすくわかり易くまとめられた資料、創意とやる気あふれる資料、そして自分らしくまとめた資料を期待します。
面接では、なぜ本学の工芸学科を、その素材を選ぶのか。どんなことを学びたいのか、そして将来の展望などを話してもらいますが、答えが正しいかどうかを気にする必要はありません。受験生の学ぶ意欲や、作りたいもの・作ることについての考えを自分の言葉で話してください。

資料
資料では、受験生がこれまでにどんなものをどんなふうに作ってきたか、あるいはこれから作ることに対してどれほどの潜在的な力があるかをみる。資料の内容としては、学校の授業、課外活動あるいは受験対策などでつくった作品以外にも、趣味的な制作物や活動にいたるまで、受験生が自己を推薦するための材料として、柔軟に資料化してもらいたい。
また、資料内容に沿った自由なまとめ方を受験生が選び易いように、提出資料の大きさや形式はあえて設けない。わかり易く、豊富な内容を期待する。

小論文
1）題：「素材と向き合う」という題で、あなたの専攻領域をふまえて800 字程度の文章を書きなさい。
2）工芸学科は素材によって、ガラス・金属・陶の 3 コースがある。それぞれの素材の魅力、その温かさやぬくもりをどう感じとっているのだろうか。そのすばらしさを述べてもらいたい。
3）文章が論理的にまとめられているか否か。作品と素材とが意識されているか、具体例が盛り込まれ述べられているか、などを見たい。

鉛筆デッサン「静物」
形態、素材感、色彩感、立体感、空間的な配置、画面構成などの基礎的な描写を確認する。また、鉛筆デッサンといえども、対象に向き合う際の作者の感動が伝わってくるような画面の雰囲気や表現力も期待する。

面接
なぜ本学の工芸学科を選んだのか。そして何を学びたいのか。そして将来の展望など。また実技試験を経た感想や、本人の制作についての考え方や取り組み方を確認したい。これまでに勉強したことの内容がよく伝わるように、いろいろな資料やファイルの充実を望む。また、受験生の積極的な学ぶ意欲を期待する。



《評価ポイント》

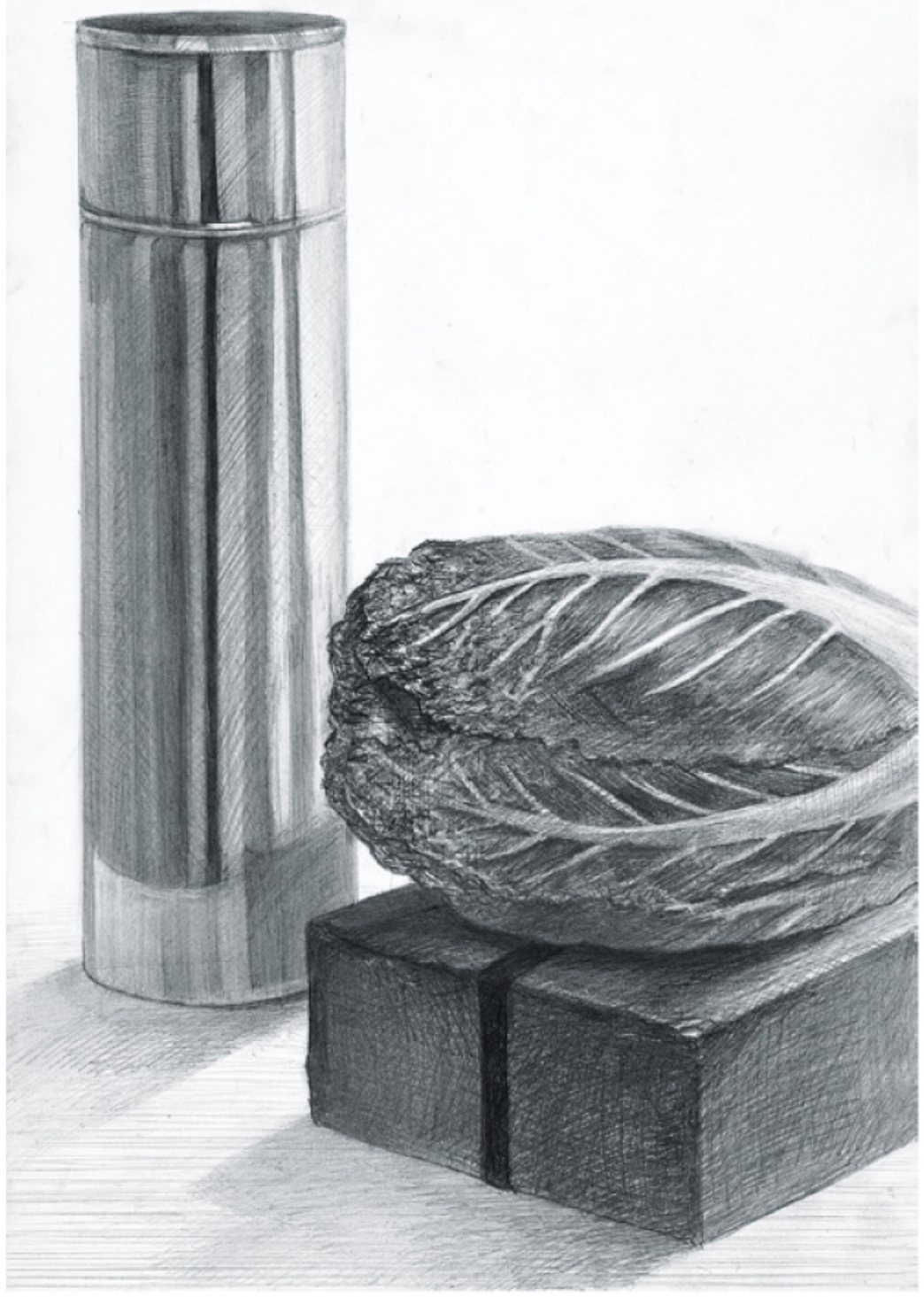
それぞれのモチーフの形態と質感が注意深く描きこまれています。





《教員による資料紹介》

自分の興味とそれへの取り組みが丁寧に提示されており共感が持てます。



《評価ポイント》

自分なりのモチーフ構成がされていて、それぞれを注意深く表現しています。





《教員による資料紹介》

自分の興味がある事物を形と画像で的確に表現しています。

美術学部
グラフィックデザイン学科

2016年度入学試験　掲載作品は入学者より選定

募集人員

184名（一般方式102名／センターⅠ方式82名）

入学試験科目・配点・日程

●専門試験

鉛筆デッサン

・配点=一般方式150点／センターⅠ方式100点

・日程=2月7日(日)

色彩構成

・配点=一般方式150点／センターⅠ方式100点

・日程=2月8日(月)

●学科試験

一般方式

・配点=国語100点／英語100点

センターⅠ方式

6教科28科目から2教科2科目を選択 各100点

※学科試験の詳細はp118を参照。

●実技問題

鉛筆デッサン（5時間）

「料理をする両手」を想定してデッサンをしなさい。

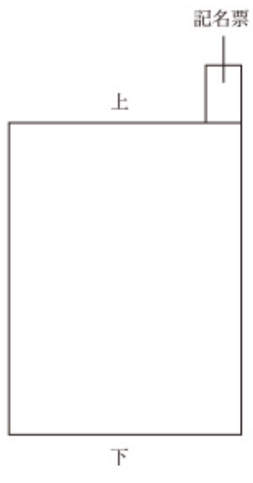
【条件】

・設定は自由とする。

・B3ボード全面を画面とし、縦位置で使用する。

・右の図のように記名票が右上になるようにする。

※補助用具として鏡を支給



【注意】

1. 支給した鏡は補助用具です。
2. B4の紙は下書き用紙です。
3. 出題の内容に関する質問にはお答えできません。

※使用紙：クレセントボード310（B3）

色彩構成（5時間）

目と口をモチーフとし、「FACE」の文字を配して表情を色彩構成しなさい。

FACE

【条件】

・目と口の数と表現方法は自由。

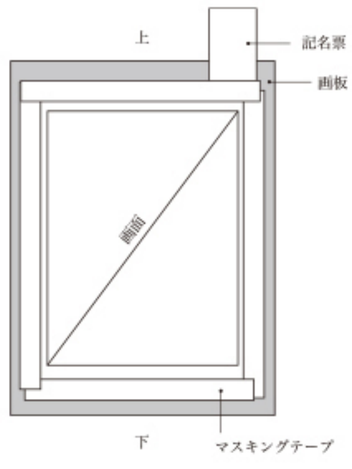
・「FACE」の4文字は切り離さず、与えられた書体見本を忠実に拡大して1回だけ使用する。等倍は不可とする。また、文字の表現方法は平塗りとする。

・白く見せたい部分は白で塗り、未完成ではないことを示す。

・用紙の中央、縦450×横350（mm）を画面とし、記名票が右上になるように縦位置で使用する。

【注意】

1. 作品が波打たないように、右の図のとおりマスキングテープで用紙の4辺を画板に貼って制作してください（テープは試験場内にも用意してあります）。制作終了後はテープをはがしてください。
2. B4の紙2枚は下書き用紙です。
3. 出題の内容に関する質問にはお答えできません。



※使用紙：BBケント（荒目／B3）

●実技問題出題のねらい・意図

鉛筆デッサン

出題のねらいは、デザイナーとしてヴィジュアルコミュニケーションするのに必要なデッサン力を求めています。それには、創作の原点ともなる日常の観察、そこから生まれる発見、考え、ひらめきなどが引き出せるよう想定デッサン問題にしています。過去に出題された1「あやとりをする手」2「ピンポン玉を2個持つ自画像」3「美しいポーズの両手」4「人体」5「両手で鳥を持っているポーズ」6「両手と白い一枚の紙との美しい関係」7「二人の両手」8「手と植物」9「両手と一冊の本で読書を表現」10「鏡の立方体を両手で持つ状態」11「両手と3個の石とでできる美しい状態」12「両手で水の入っているコップを持つ状態」13「指で『ん』という文字をなぞる手と、もう一方の手を想定」14「両手と野菜を想定」15「積木を積む両手」16「ロープを結ぶ両手」17「魚をつかんでいる両手」18「ふろしきで、ものを包む両手」19「紙を折る両手」20「紙（白）の建造物模型を持つ両手」21「写真を持つ両手」22「手をにぎる両手」23「料理をする両手」とわかるように、特別なものではなく日常の生活の観察からうかがえる想定デッサンとして意図しています。

色彩構成

色彩構成では、テーマの本質をどこまで的確に定着出来たかを見ます。それに答えるには、問題文を客観的に理解する常識と、造形を大胆に切り詰める勇気が必要となります。造形を切り詰めると、イメージの強度が増し、見る人の心に明快に伝わります。そして、自分の考えもはっきりと自覚出来るのです。また、レタリングを課しているのにも理由があります。人や社会に何かを伝えるグラフィックデザインという行為には、言葉を意味あるカタチに置き換えた文字はとても重要な存在です。しかも文字の美しさはその国の文化のバロメーターであり、先人達からの大切なバトンでもあるのです。出来るだけ丁寧に書くことを心がけてください。

今回の主題テーマは「顔」です。日常生活の中で“目と口”に接しない日はほとんどないでしょう。極あたりまえなモチーフです。だからこそ常識を手玉に取った魅力的なアプローチや定着方法に、のびのびとした独自性を期待しました。さらに問題文には“表情”という言葉を使っています。構成だけに留まらない、感情表現にも積極的に挑戦してほしいという願いが意図されています。ものごとの本質を見極め、それをシンプルで魅力的な色とカタチに置き換えられる力は、美術大学でデザインを学ぶ人にとって凄く重要な能力なのです。

※ 色彩構成は、縦450×横350（mm）の画面を掲載しています。

●実技問題採点のポイント

鉛筆デッサン

・理解力＝問題の把握・理解が正しいか。
・伝達力＝問題の目的や状況を正確に表現しているか。
・発想力＝課題を造形化するアイデアが優れているか。
・描写力＝構図・形・動き・光・量感などを描写することに必要な技術が優れているか。
・個　性＝デッサンからうかがえる品格・感性に優れているか。

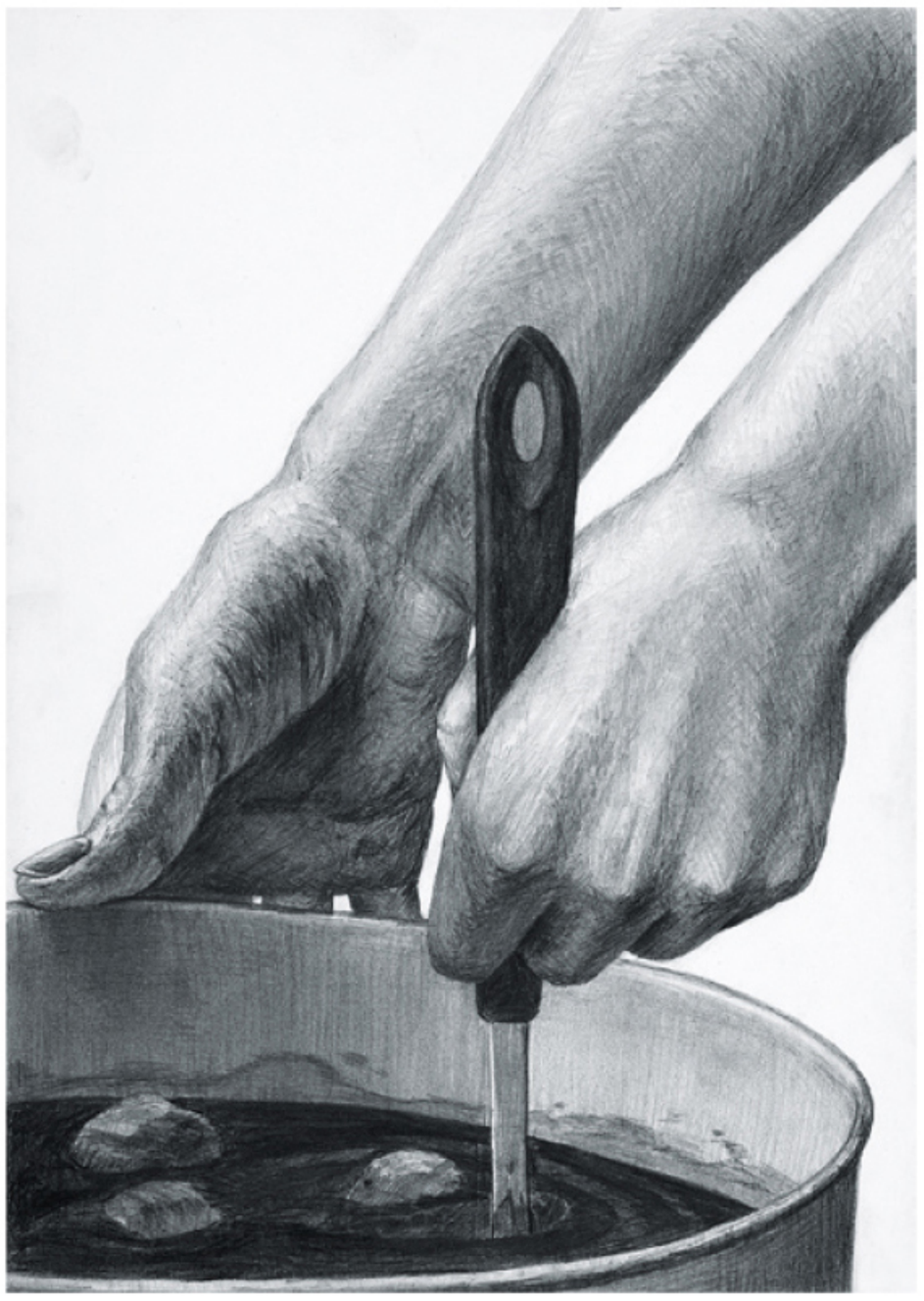
色彩構成

・理解力＝問題の把握・理解が正しいか。
・発想力＝課題を造形化するアイデアが優れているか。
・描写力＝アイデアを明快でムダのない平面表現に美しく整理できているか。
・完成度＝手仕事としての仕上げが優れているか。
・個　性＝色感・品格・感性などが優れているか。



《評価ポイント》

発想＝鍋を左手で持ち、右手にお玉でかき混ぜているシーンを選んだ。
描写＝金属の質感と手の質感の違いを意識し、描いている。左手の甲と指先の緊張感が表現されている。



《評価ポイント》

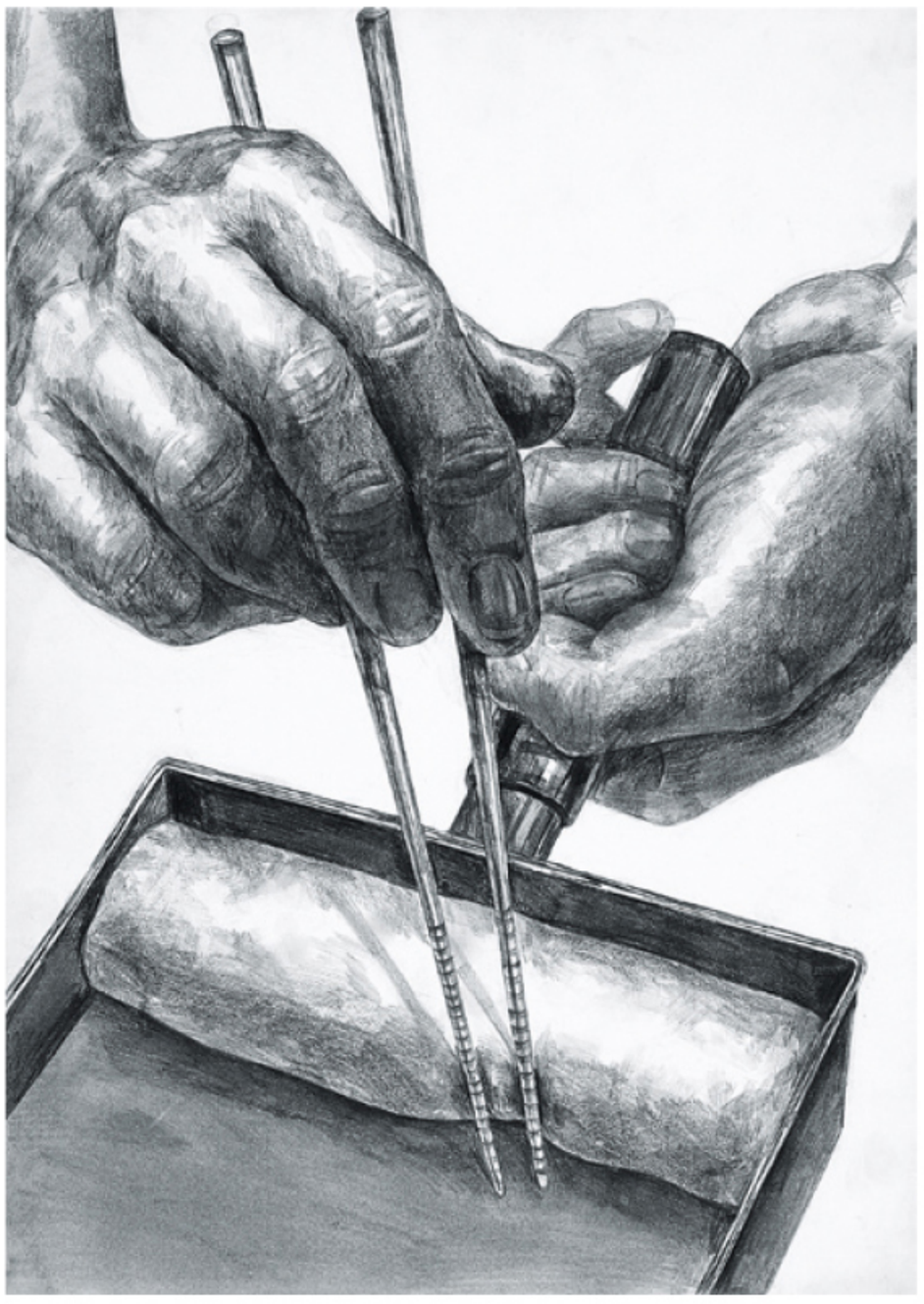
発想＝カレーを静かにかき混ぜている姿を描こうとしている。
描写＝大胆にカットされた鍋の縁を丁寧に描いている。さらに、両手を斜めにおろした左右の手に緊張感がある。



《評価ポイント》

発想＝大きな鍋にお玉を両手で持ち、力強いシーンを描こうとしている。

描写＝前向きで大胆な力強さがある。具の重量感もそこにある。



《評価ポイント》

発想＝卵焼きを作る場面を描いている。

描写＝卵焼き用のフライパンを大胆にカットしてある。そして箸を持つ指先を強調し、緻密に描いている。



《評価ポイント》

発想＝味噌汁の味噌を鍋の中で溶く状態を描こうとしている。

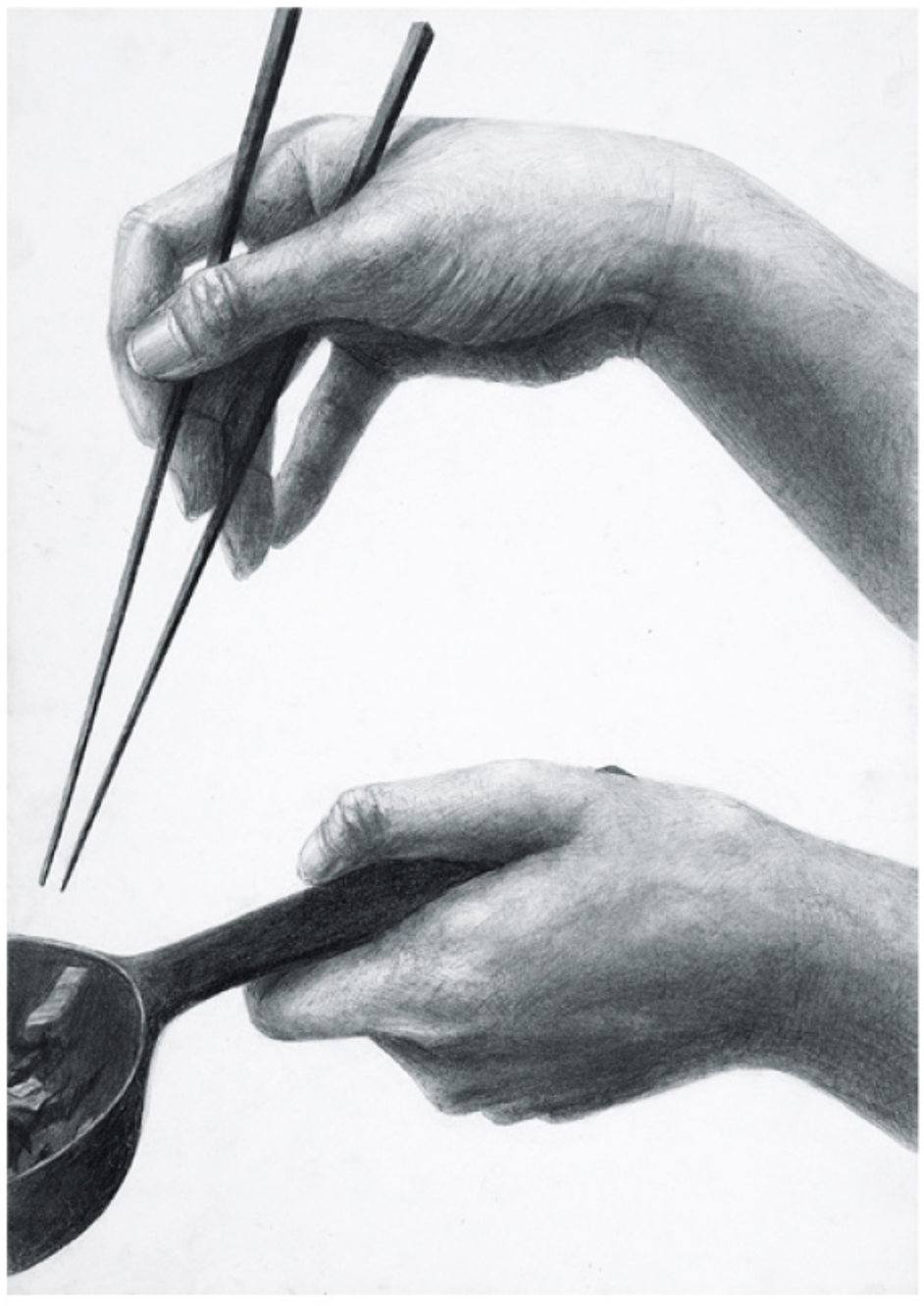
描写＝日常に見られる母親の姿の観察、それが味噌汁を作るところに現れている。味噌の香りが理解できる。



《評価ポイント》

発想＝左手にフライパンの取っ手と、右手に卵だけを持ち、その状況を強調している。

描写＝上部の手から下部へと視覚が移動するよう仕掛けられている。



《評価ポイント》

発想＝女性の手が料理する姿を描こうとしている。

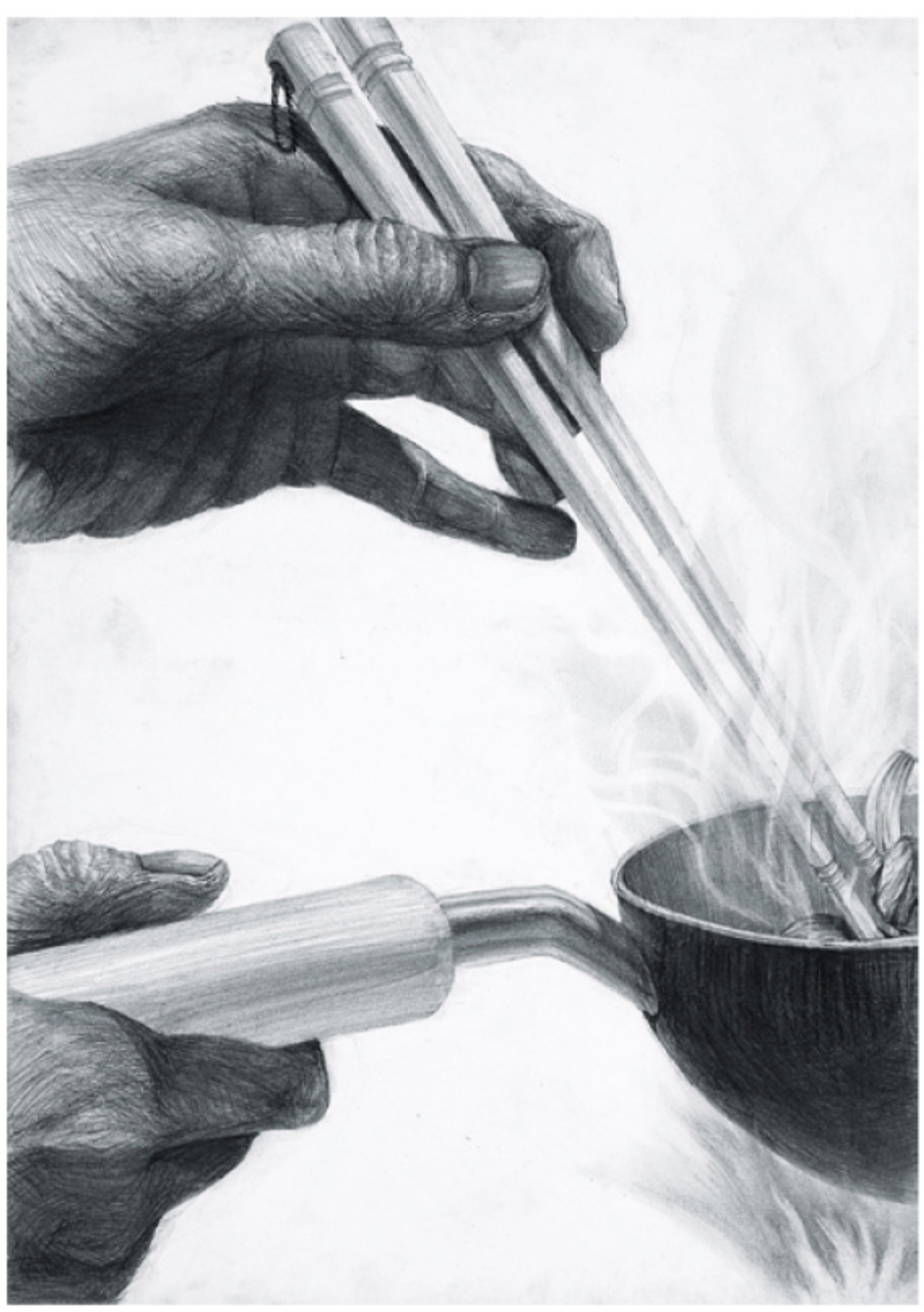
描写＝女性の優しさが伝わってきて、箸の先に目が運ばれる。



《評価ポイント》

発想＝リンゴの皮をむく状態をデフォルメして描いている。

描写＝包丁でカットされている面を強調し、リズム感のある状態を描いている。そこが魅力だ。



《評価ポイント》

発想＝湯気と炎から、火力が強いというのがわかる。

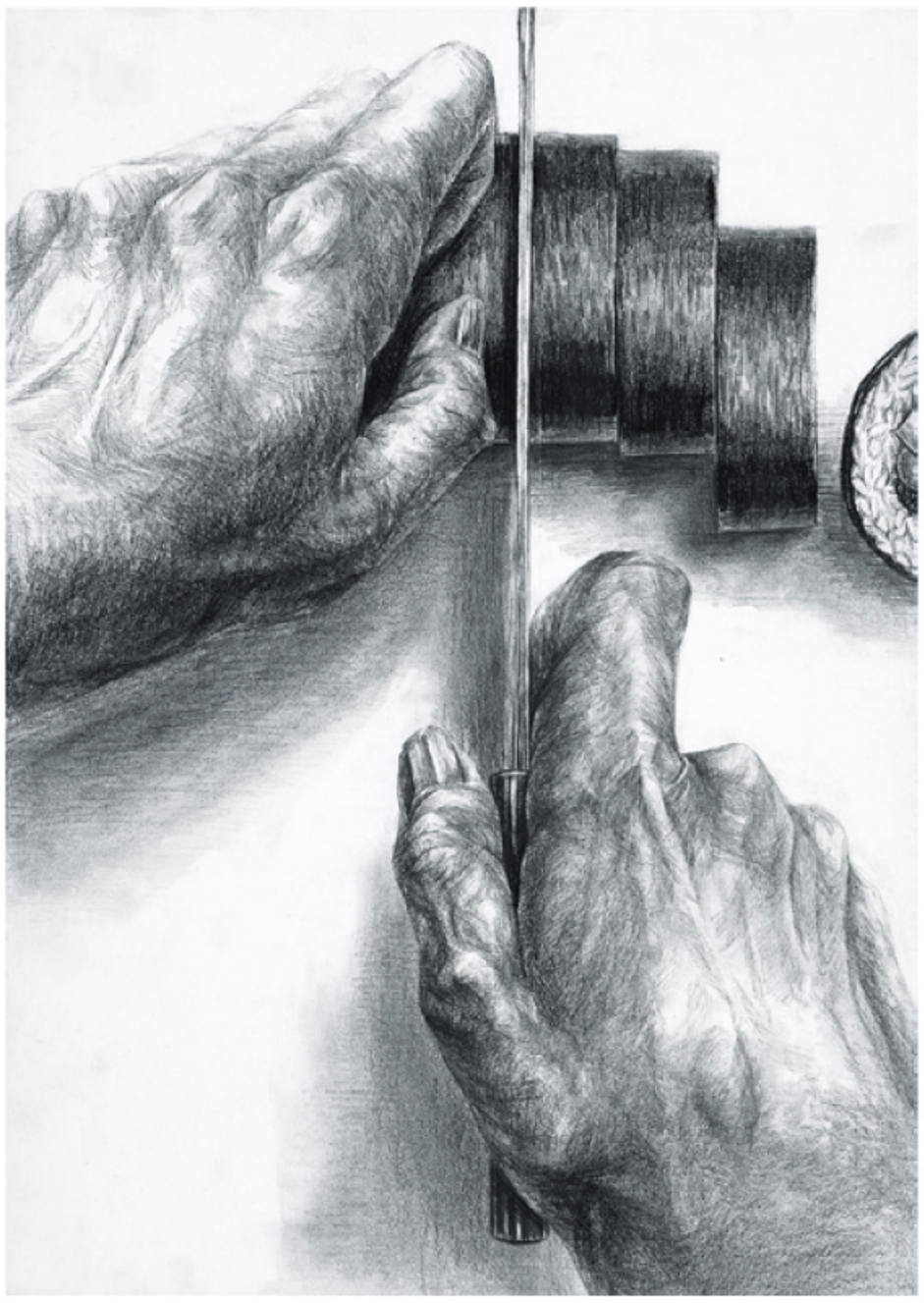
描写＝料理をする臨場感をうまく捉えた。そして料理の音も聞こえてきそうだ。



《評価ポイント》

発想＝正面を意図的に選び、太巻きをカットする姿を描いた。

描写＝大胆な構図を選ぶことによって、明快な描写が生まれてきた。



《評価ポイント》

発想＝料理する人の目線で描かれている。

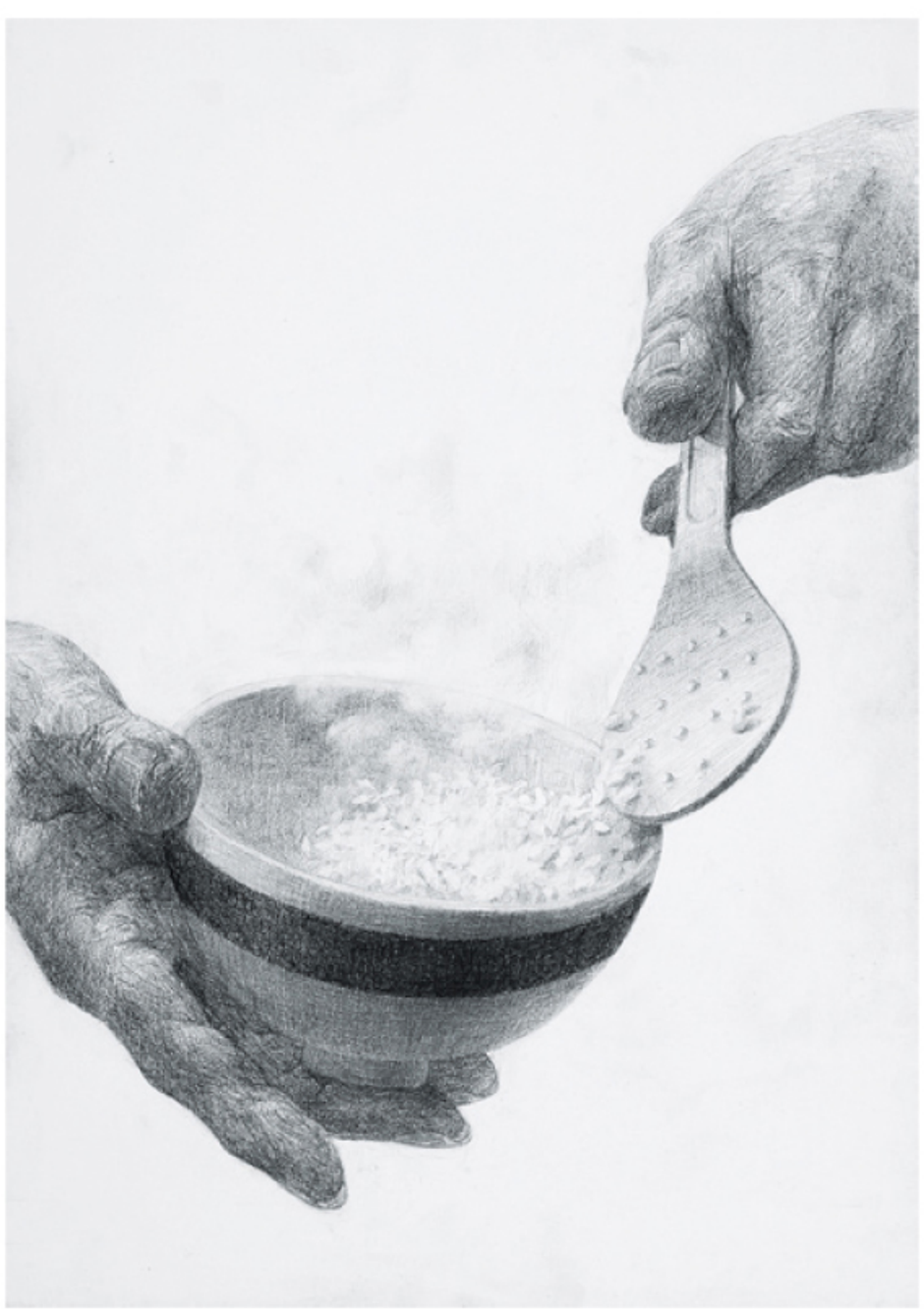
描写＝包丁を垂直にすることによって、画面が二つに分かれている。その描写の面白さを見つけている。



《評価ポイント》

発想＝豪快な指先で三角おにぎりを握る姿を描いた。

描写＝両手をデフォルメして魅力を出そうとしている。その結果、パワフルなイメージが出てきた。



《評価ポイント》

発想＝ご飯のあたたかさが伝わってくるよう描いている。

描写＝描写による強いコントラストを使わず、ハーフトーンをうまく活用し、雰囲気を作り上げている。



《評価ポイント》

発想＝おにぎりが出来上がった瞬間を描こうとした。

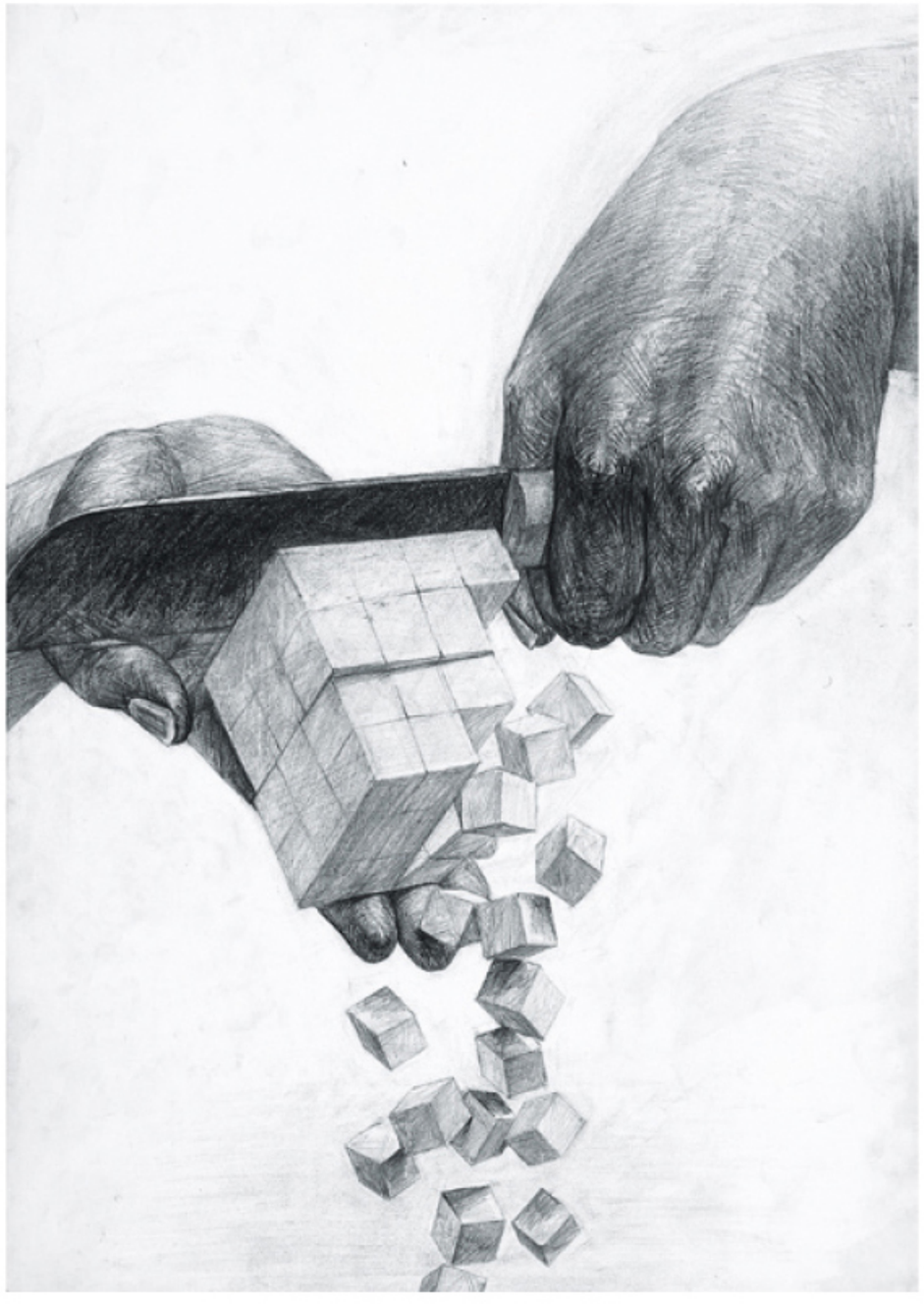
描写＝上部の手に動き、下部の手に静止を描いている。



《評価ポイント》

発想＝ハンバーグらしきものを手で作り上げている。

描写＝あまりデッサン力を感じないが、女性の手としてのイメージは描いている。



《評価ポイント》

発想＝豆腐を賽の目に切る状態を描いた。

描写＝構図を逆ピラミッドにし、豆腐の落下する動きの瞬間を捉えた。



《評価ポイント》

発想＝卵を両手で割った瞬間を描こうとしている。

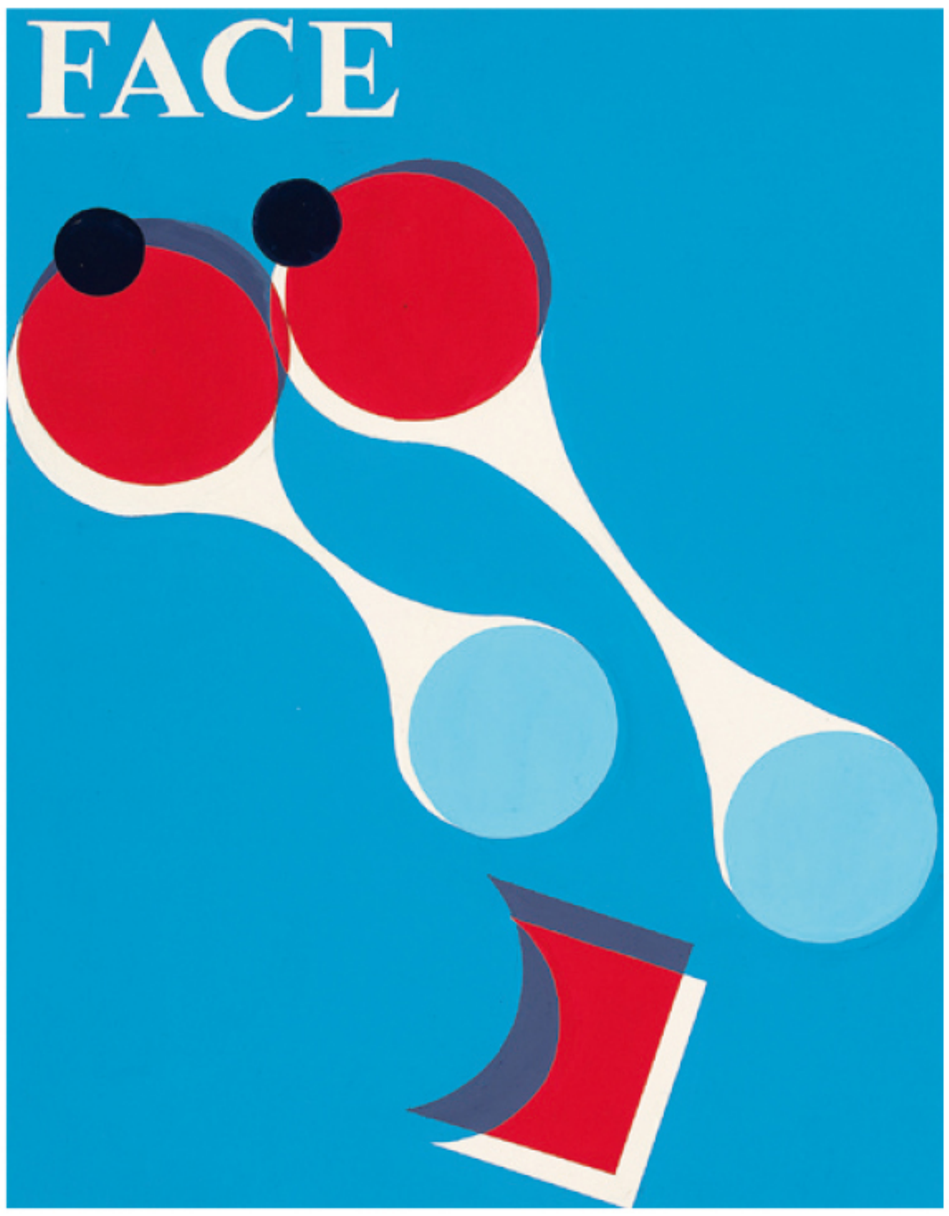
描写＝女性の両手の指先に集中し、丁寧に描いている。



《評価ポイント》

発想＝焼く前のパイ生地を両手で持つ姿を描いた。

描写＝両手を描き、パイ生地とそのプレートの重さを描いた。そして、その後の料理の動きまで理解させてくれる。



《評価ポイント》

“表情”というテーマに実直に取り組んだ傑作。正円を中心とした単純な幾何形態の集積だけで、目、涙、視線、そして口元まで全てを感知させるセンスは抜群だ。全体の色使いも洒落ていて、その軽快さがコミカルなイメージを後押ししている。



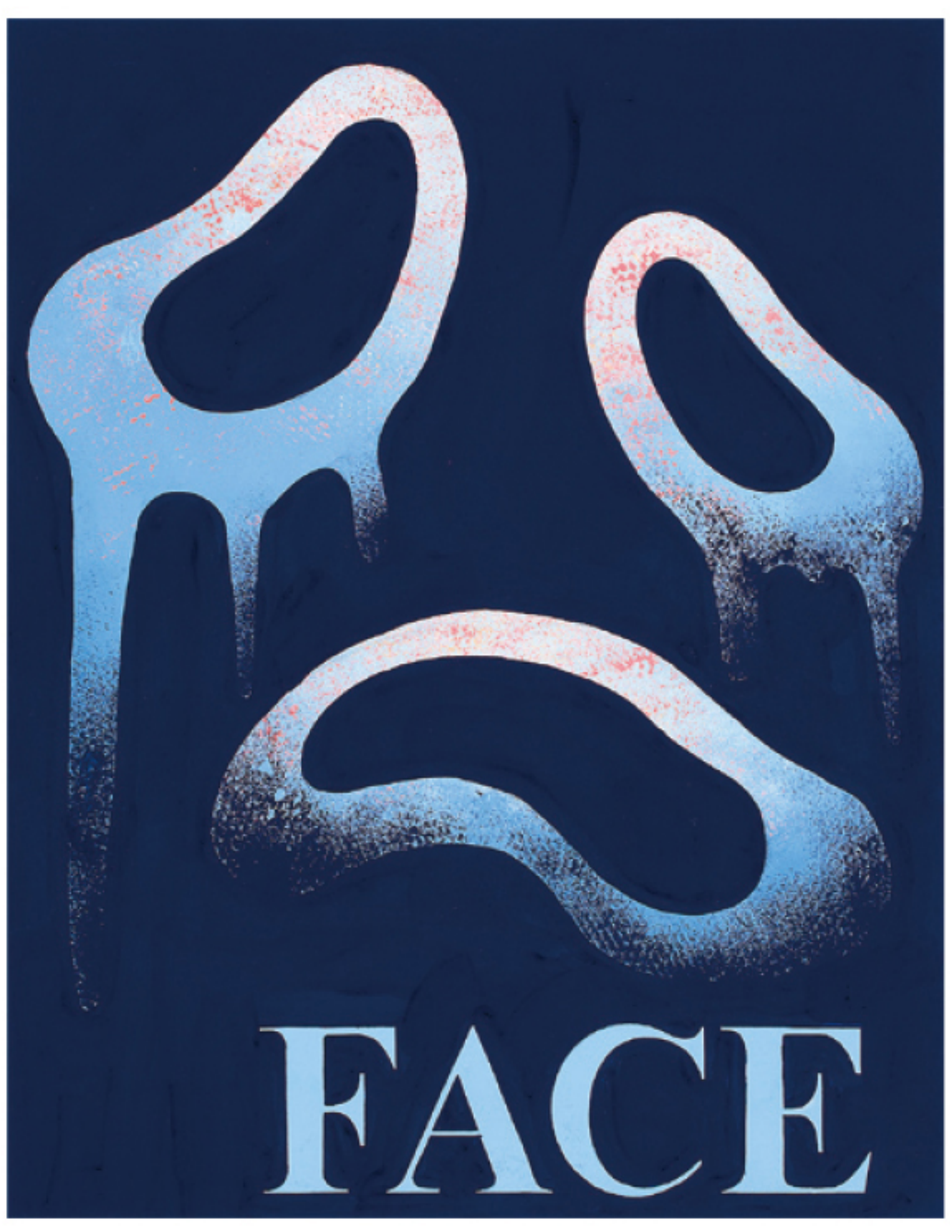
《評価ポイント》

問題文の解釈を拡げてカエルを主人公にした勇気ある作品。真正面から表情を捉えようとしたアイデアは堂々としていて気持ちいい。画面構成がしっかりしている。リアルな両目等、細部までこだわった執拗な表現力も素晴らしい。力量を感じる。



《評価ポイント》

シンプルな組み立てで“驚愕する横顔”を強烈にアピールしている。大胆な赤い背景が人物を際立たせている効果や、思い切ったトリミングによって画面を大きく見せている点に注目したい。幾重もの円弧で表現された左目も凄くいかしている。



《評価ポイント》

素朴な力作。フリーハンドで描かれた三つの形態だけで悲しみの表情をしっかりと伝えている。かすれたテクスチャーとグラデーション表現もあふれる涙の臨場感を見事に演出。色数を絞り込むことによって作品の象徴性がより明快になった。



《評価ポイント》

迫力ある笑顔の奥に、怒り、そして哀しみの表情が描かれている。三つの違う感情を重ね合わせるように登場させたアイデアが良い。また、暖色と寒色との絶妙な配色計画が存在することで画面全体のバランスが保たれていることも見逃してはならない。



《評価ポイント》

花嫁の姿を用いた異端の作品。白を全面に使用した静寂の演出、視線を落とす目元、紅を差した唇等、繊細な表現の巧みさはもちろんだが、文字と赤の背景を左上部に描き、見せ場（顔）との関係を画面の対角線上とした大胆な構図も面白い。



《評価ポイント》

大きな目とこぼれそうな涙。微笑みをうかべる口元。見る側が様々な物語を想像してしまう妖艶な表情が描かれている。画面全体をベタ面で開放し、生じた浮遊感が効果的な演出となっている。手仕事の丁寧さもいい。魅力的なトライアルだ。



《評価ポイント》

明と暗、喜と哀、善と悪。違う感情を持つ二人のやり取りが今にも聞こえてきそうだ。リズミカルで躍動感あふれる作品に仕上がっている。“目と口”を“瞳と舌”のカタチに置き換え、それらを映える赤色として際立たる手法も意図的で上手い。



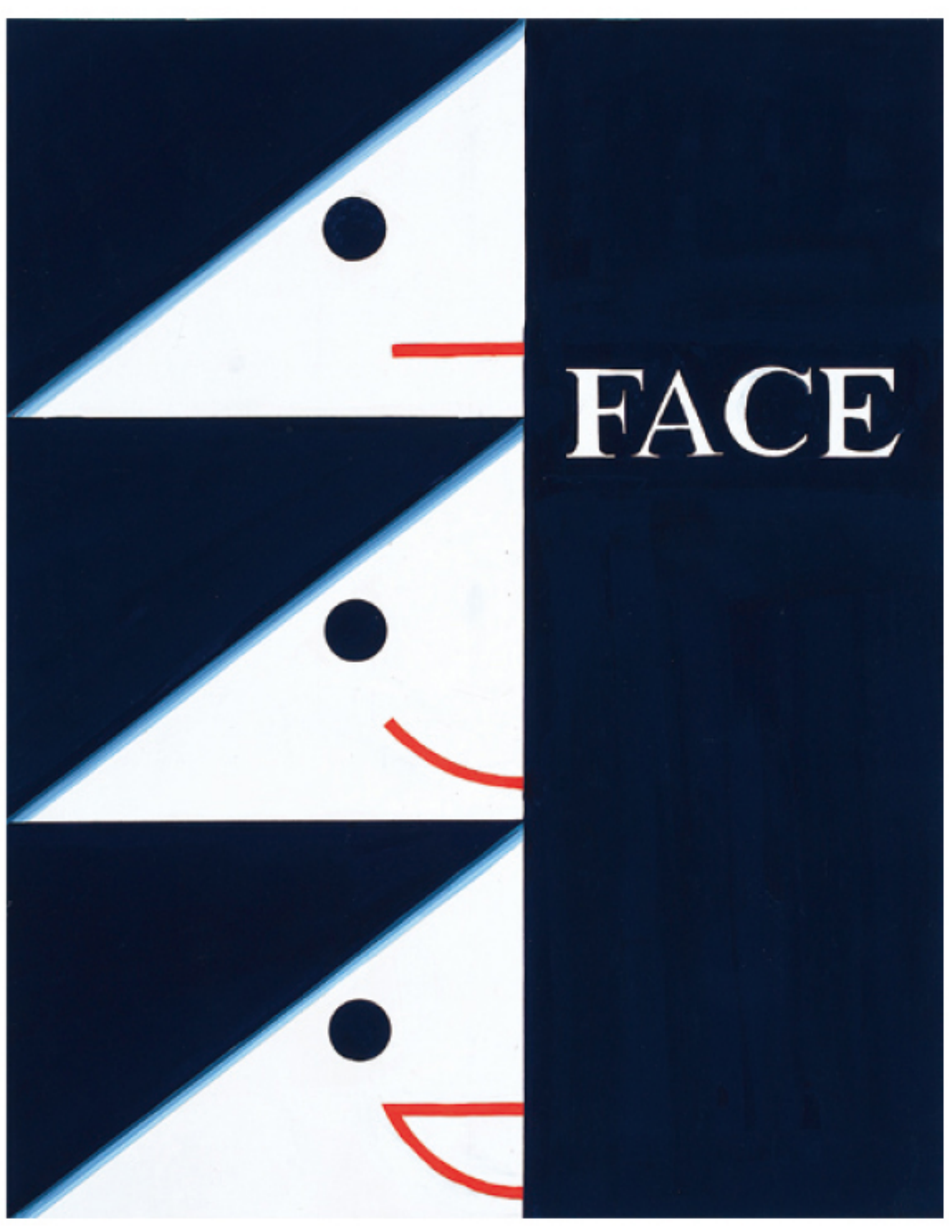
《評価ポイント》

作者の力量を感じる強い仕事だ。表現要素である目や口元のフォルムが美しい。厳選した色彩計画、画面に対するトリミングも絶妙。文字も見せ場を心得た配置となっている。歌声が聞こえて来そうなリアリティが見事に表現された作品である。



《評価ポイント》

フォルムも色もこれ以上削ぎ落とせない仕事だからこそ引き付けられる魅力が生まれる。画面を斜めに貫くスペースに正円の眼球と波打つ舌が澄んだ赤で表現されている。すると黄土色は金に変化し、見る側は“日本らしさ”を意識する術にはまる。



《評価ポイント》

クールなセンスを感じる。そして、「ホッ。」と出来る作品である。描かれた三角形の表情が徐々に笑顔に変化していくアイデアは秀逸だ。色数を絞ったことも成功している。各三角形の長辺に配した薄い青のグラデーションは画的に凄く効いている。



《評価ポイント》

どんな生き物を描いたのだろうか？“C”に重ね合わせた鋭い目。主役たる激しく牙をむき出す口。色、カタチ、テクスチャー全ての表現レベルが高い。更に“FACE”という大切な文字情報を画面上部にしっかりと配したことも大いに評価したい。



《評価ポイント》
おとなしく見えるが、目、口、涙、という要素を単純な記号に置き換え、表情のビジュアル化に挑戦した意欲作だと思う。さらに色数も絞り込み、技法もベタ塗りに徹している。シンプルが故に作者の制作意図がストレートに伝わってくる。



《評価ポイント》
福笑いの遊び心を利用しながら、新しいだるまの表情を生み出そうとした作品。見開いた目、強く結ばれた口、迫力の髭等を使用。再構成された表現はとてもダイナミックだ。日常の“モノの観察力”が露になるかもしれない設定に勇気を感じる。



《評価ポイント》
紙を破ったような荒々しい手法とチェックやドットという規則的な文様を組み合わせた表現対比は独創的。見開いた瞳が破壊的で迫力ある表情に仕上がっている。しかし、作品の意図には無駄を感じない。知的、且つシンプルな仕事とも言えよう。



《評価ポイント》
青の微妙な色調の変化で画面全体を覆う感性が面白い。独特な点描技法で表現されたキャラクターはとても物静かだ。こぼれ落ちる一筋の涙もろとも、見る側に様々な心理的ストーリーを連想させるドラマチックな作品に仕上がっている。

美術学部

生産デザイン学科
プロダクトデザイン専攻

2016年度入学試験　掲載作品は入学者より選定

募集人員

62名（一般方式36名／センターⅠ方式26名）

入学試験科目・配点・日程

●専門試験

鉛筆デッサン

・配点=一般方式150点／センターⅠ方式100点

・日程=2月4日(木)

色彩構成

・配点=一般方式150点／センターⅠ方式100点

・日程=2月6日(土)

●学科試験

一般方式

・配点=国語100点／英語100点

センターⅠ方式

6教科28科目から2教科2科目を選択 各100点

※学科試験の詳細はp118を参照。

●実技問題

鉛筆デッサン（5時間）

手と「スプーン」を想定してデッサンしなさい。

【条件】

・用紙の位置は縦横自由とする。

・「スプーン」の大きさは自由とし、素材は金属とする。

【注意】

出題の内容に関する質問にはお答えできません。

※補助用具として鏡を支給

※使用紙：クレセントボード310（B3）

色彩構成（5時間）

「時」を主たるイメージモチーフとして、美しい色彩構成をしなさい。

【条件】

用紙の位置は縦横自由とする。

【注意】

出題の内容に関する質問にはお答えできません。

※使用紙：KMKケント（両面）ミューズイラストレーションボード SS（B3）

●実技問題出題のねらい・意図

鉛筆デッサン

鉛筆デッサンでは、デザインを学ぶ上で必要な最低限の観察力と描写力を見るのがねらいである。普段から身の回りにあるプロダクツをよく見ているか確かめるため、モチーフ（2016年は「手と『スプーン』」）は配布しない。プロダクトデザインでは、モノと人の関係を考えてデザインすることが大切なため、手とモチーフの関係を描く課題となっている。モチーフのデザインに際立った独創性は必要ないが、手とモチーフの形が正確に描けるだけでなく、手とモチーフのサイズバランスや、皮膚の柔らかさとモチーフの素材の違いを描写できることが大切だ。

色彩構成

色彩構成では発想力とそれを人に伝えられる表現力を見るのがねらいである。従来のプロダクツに加え、食品から動植物まで人工的に生産されるようになり、プロダクトデザインの領域は拡大し続けている。テーマ（2016年は「時」）を自由に捉え、独創的で豊かなイメージを引き出してくれることを期待したい。イメージを伝えるためには色や形を美しく構成する力が不可欠である。効果的な表現を考え計画することが大切だ。また、丁寧で美しい作業をすることにも留意してもらいたい。

●実技問題採点のポイント

鉛筆デッサン

まず手とモチーフの関係に矛盾のない描写が出来ているかが重要な採点ポイントとなっている。次に皮膚の柔らかい質感と想定したモチーフの材質感が表現できているかどうかを見る。想定したモチーフがどんな材質で出来ていてどんな形のものなのかも描写できていなければならない。モチーフのデザインに際立った独創性を求めているのではない。人間の手の骨格を矛盾なく描けていても、想定したモチーフの形に矛盾があるようではいけない。手とモチーフ両方の形が描けていることが重要だ。

色彩構成

まず、テーマからいかに独創的で豊かな発想でイメージをふくらませているかどうか。次にイメージを的確に伝えるために、色や形を美しく構成できているかどうかが重要な採点のポイントとなっている。色彩構成ではさまざまな表現を認めているが、自分が意図したイメージを一番的確に伝えるには、どんな画面構成で、どんな色で、どんな表現が良いのかよく考えることが大切だ。独創的で美しい表現を目指してほしい。



《評価ポイント》

構造や作り方も考えながら描かれたスプーンが存在感を感じさせる画面構成です。手のやわらかさに対して金属の質感や滴り落ちる水の透明感を繊細に描き分け表現しています。



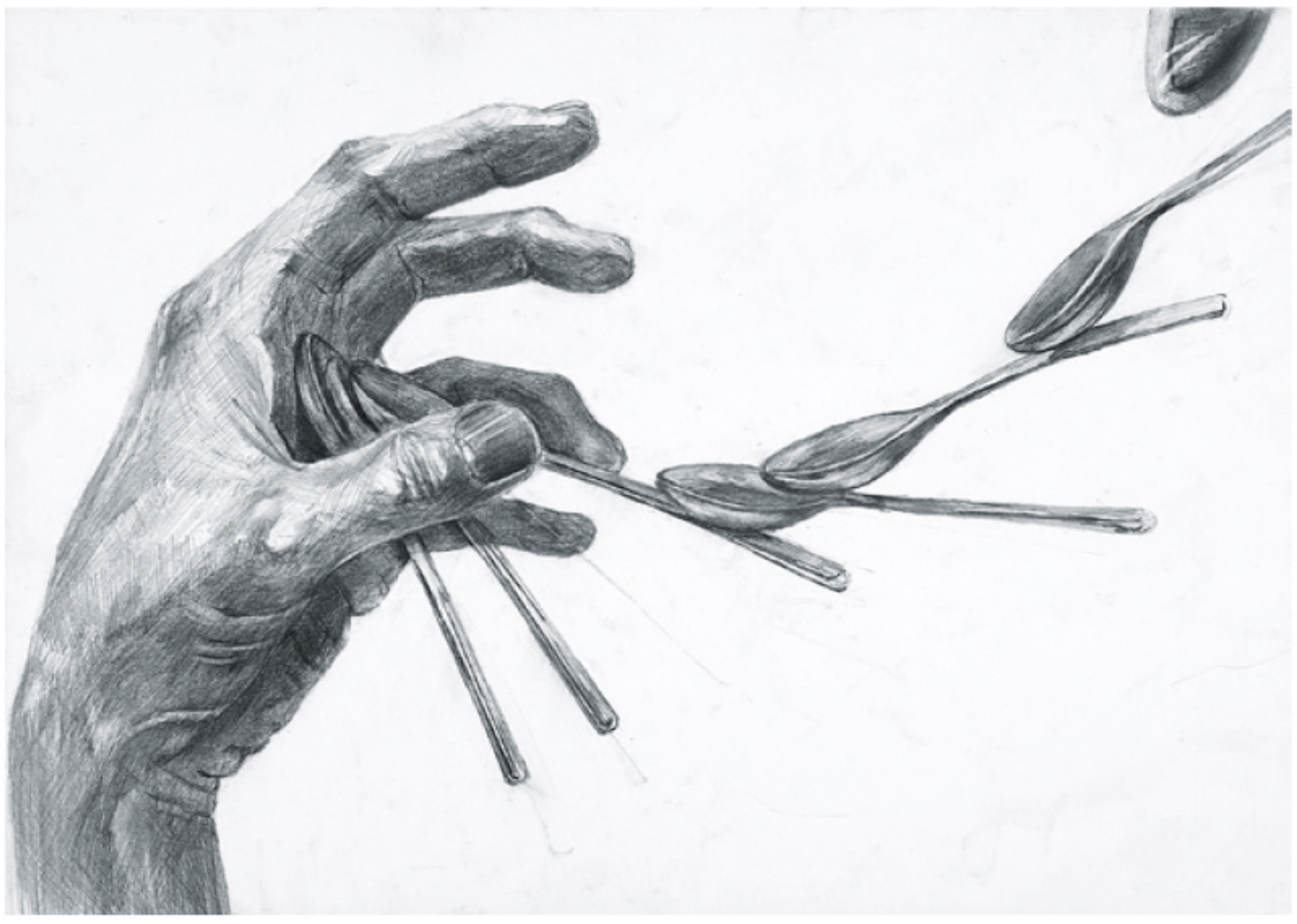
《評価ポイント》

左手の指のつき方が少し不自然ですが、手やケーキ、チョコレートの柔らかさ、スプーンやプレートの硬質感が丁寧なタッチで描かれており、落ち着いた雰囲気の作品に仕上がっています。



《評価ポイント》

スプーンですくっている液体に不思議な印象を持ちますが、構図や形の正確さに加えて、カップやスプーン、手の質感の違いも描きわけており、高い描写力を感じます。



《評価ポイント》

一連のスプーンの動きを描写した、コマ撮り写真のような魅力があります。大胆な構図と手の質感表現や画面から湧き出る不思議な空間が評価されました。



《評価ポイント》
手の甲に浮き出た筋や血管の陰影までも繊細に描かれた作品です。表情豊かな指先の表現と対照的な真横から見た重なるスプーンの配置が画面に緊張感をもたらしています。



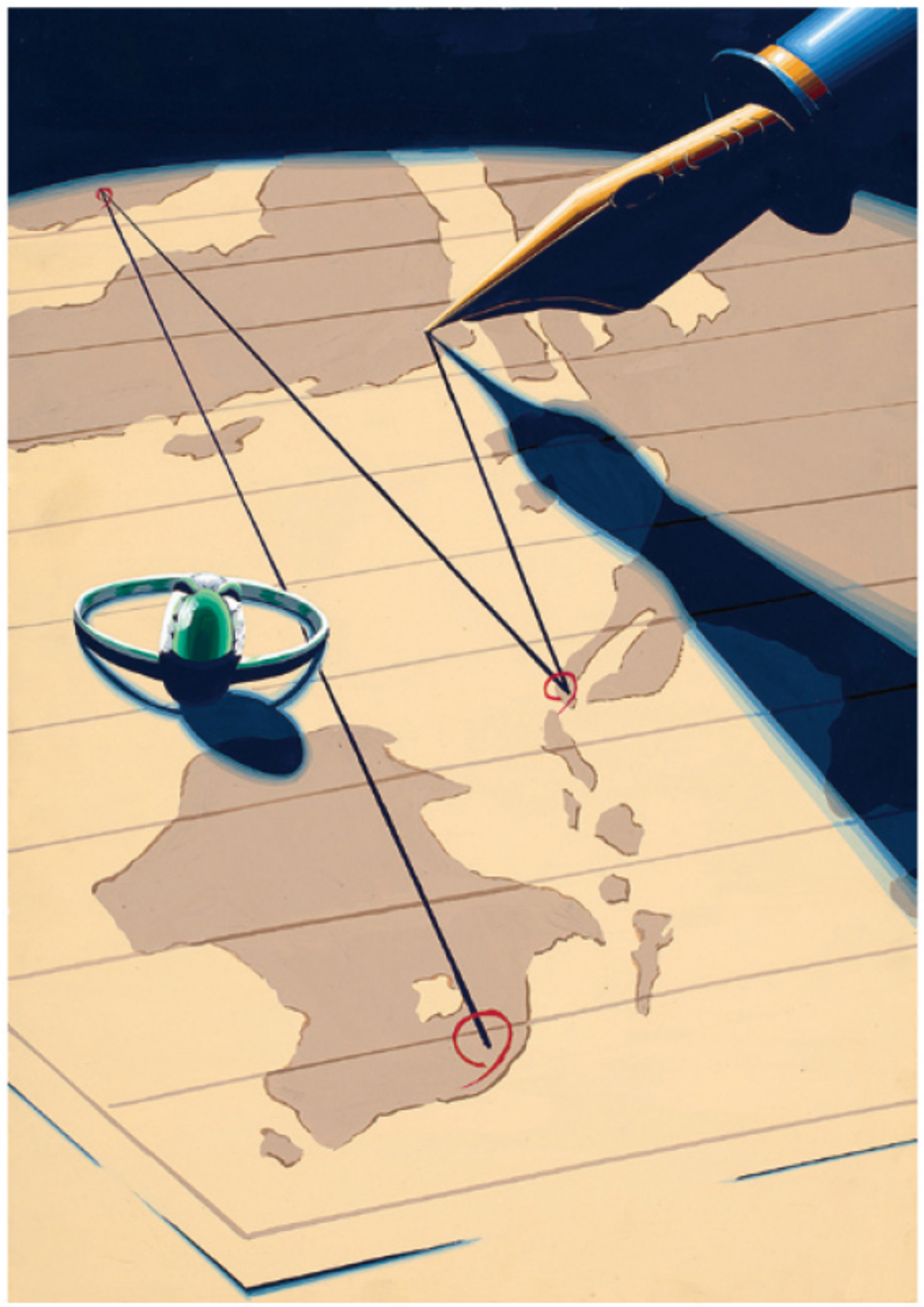
《評価ポイント》
スプーンや野菜など、少々質感表現に未熟さが残るものの、画面の構図と動きのある描写が評価されました。もう少し光を意識した陰影処理をすると、さらに良くなる作品です。



《評価ポイント》
左手の形や構図に少し問題はありますが、スプーンやガラス瓶はとても丁寧に描かれています。作者の真面目な姿勢が伝わり、今後の成長が期待できる作品です。



《評価ポイント》
鍋を持つ手とスプーンを持つ手を正面から捉えた大胆な構図によって、作品を見る人の視点をスプーンに誘導しています。描写力の高さに加え、計画的な絵作りができていると思います。



《評価ポイント》

地図らしきものの上にペンで記されているのは、訪れた地、或いはこれから訪れる旅先でしょうか。時の経過がより感じられる色合いや構図になっています。



《評価ポイント》

崩れかかるレンガ塀の一部分をイメージしたのでしょう。脆くなった質感が上手く表現されていて時の流れを感じさせます。レンガにあえて明るい色を選んだことも成功しています。



《評価ポイント》

時の流れを素直に“季節の経過”と捉え、一葉の状態変化を巧みに描写した作品です。上から下への光を意識した陰影処理と瑞々しさから枯れるまでの微細な表現力が評価されました。



《評価ポイント》

「時」というテーマに対し、砂時計をあえて線画として扱い、それを描いている２本のペンをリアルに表現することで、モノへの興味とデザインへのテーマを見事に表現しています。

美術学部　生産デザイン学科 プロダクトデザイン専攻

色彩構成



《評価ポイント》

時の経過を表現すべく、デニムの色落ち、傷による劣化が利用されています。３本のデニムでの表現とすることで、画面レイアウトにリズムも生まれ、比較で布の表情も伝わってきます。



《評価ポイント》

作者は蚊取り線香が燃えてゆくことに「時」を感じてそれを表現しています。その印象を大きく扱って、大胆な作品にしています。蚊取り線香の色と灰の質感に日頃からの観察眼の豊かさを見て取れます。



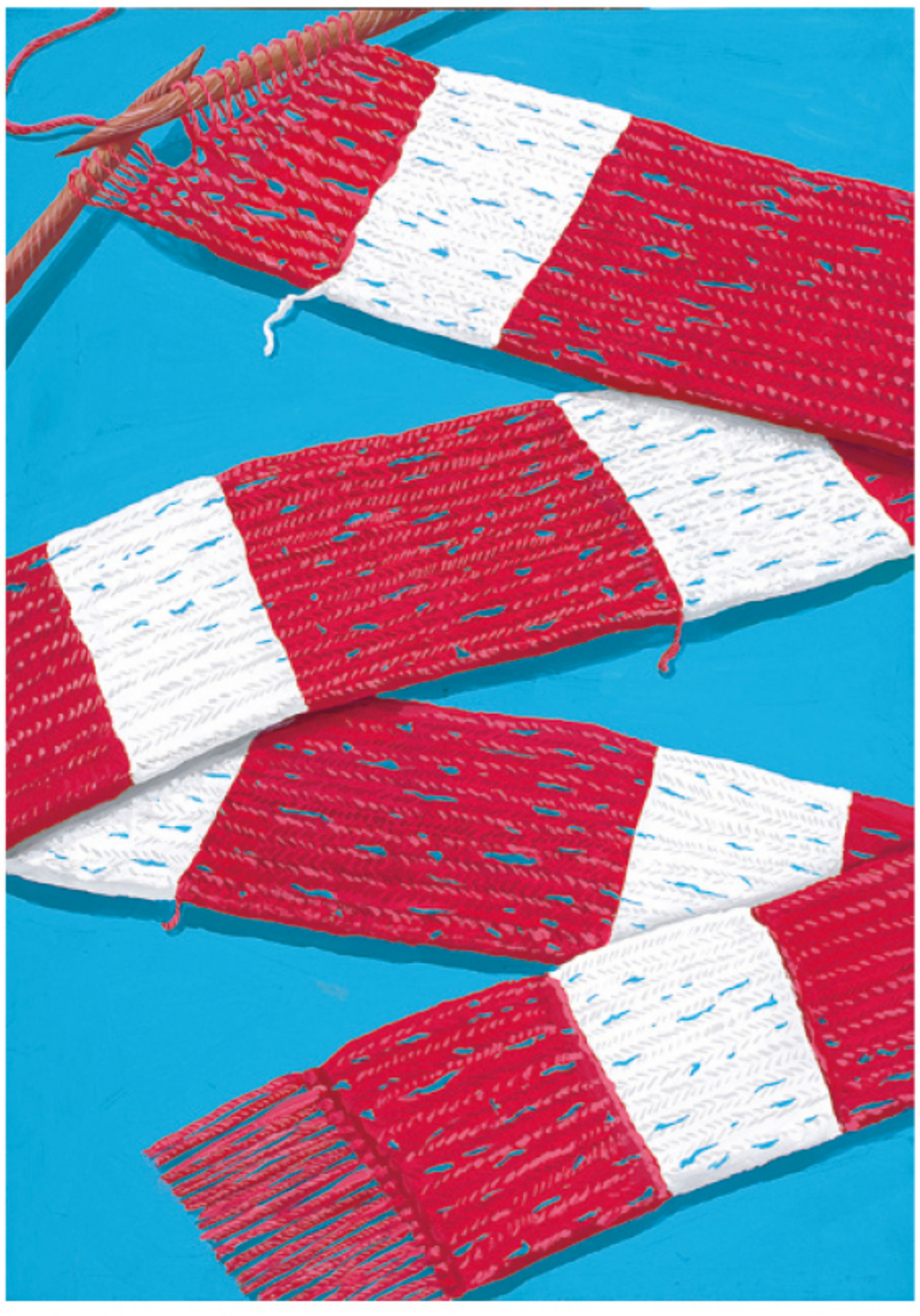
《評価ポイント》

過ぎた時の“もの悲しさ”と、揺らめく時の“美しさ”の双方が感じとれる物語性の高い作品です。明度差を駆使し光からの距離を巧みに表現したことで、その場の空気が感じられます。



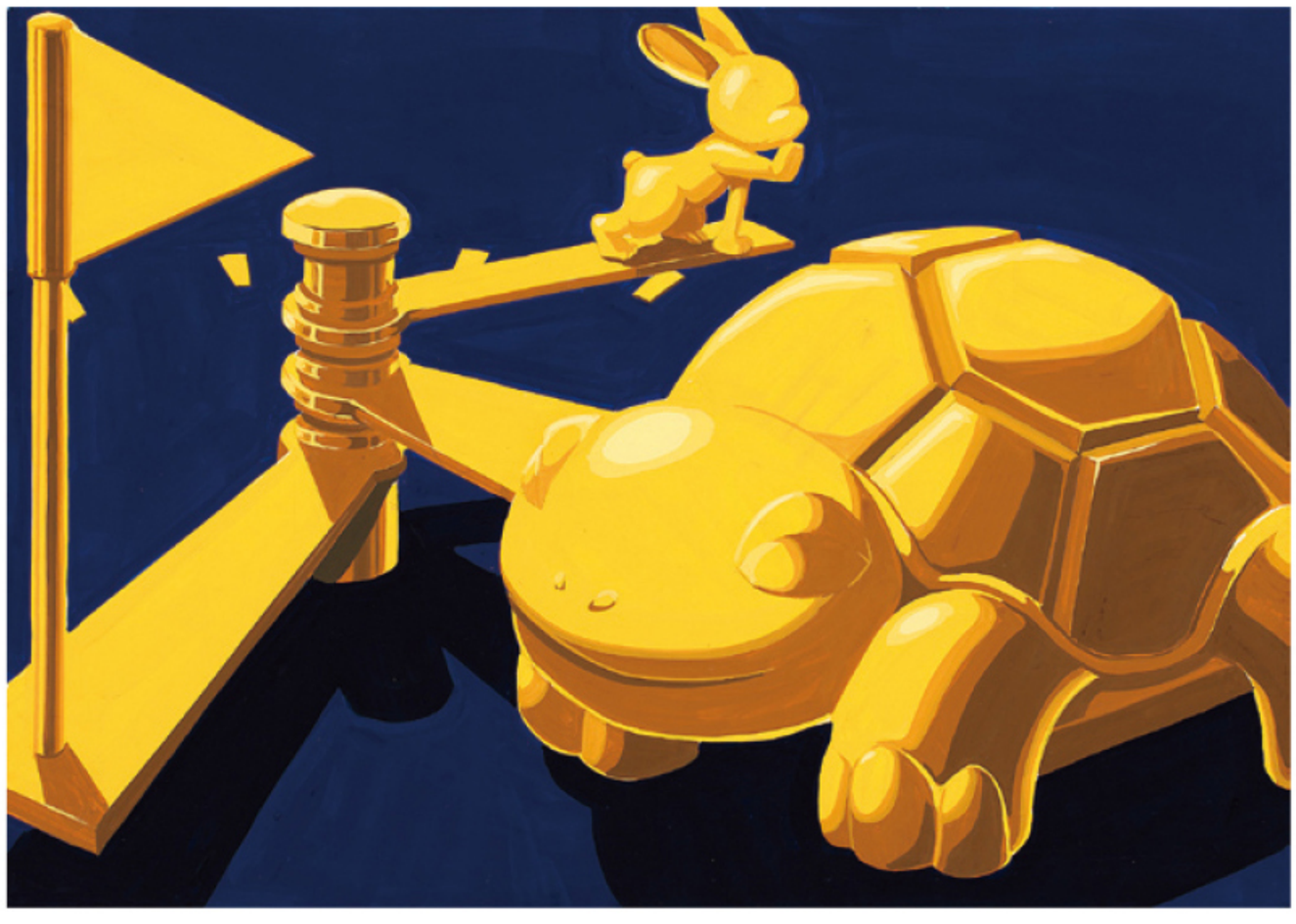
《評価ポイント》

バナナが画面内にバランス良く配置され、熟れていく表情を強調するために、バナナを大胆に配置している事が好感が持てます。



《評価ポイント》

画面の構成材料にマフラーを用いることで、編むために要した時間の長さが印象づけられる作品です。編み棒の配置や毛糸の質感についても丁寧に表現していることが感じられます。



《評価ポイント》

時計の針を間近で見たような迫力ある画面構成です。色数の制限によって主題となる物語が明確に浮かび上がり、文字盤上のウサギとカメの競争が独創的に描かれています。



《評価ポイント》

ワインボトルとワイングラスをシルエットで用いることで、時の流れの情緒的な部分を上手く表現しています。全体の深い色合いやタンポポのタネのレイアウトも巧みなバランスです。



《評価ポイント》

等間隔に配置されたコップと徐々に見えてくるストローがリズミカルな作品です。時の経過による氷の溶け具合やジュースの色の変化まで表され、観察力の高さが感じられます。

美術学部

生産デザイン学科
テキスタイルデザイン専攻

2016年度入学試験　掲載作品は入学者より選定

募集人員

42名（一般方式26名／センターⅠ方式16名）

入学試験科目・配点・日程

●専門試験

鉛筆デッサン

・配点=一般方式150点／センターⅠ方式100点

・日程=2月4日(木)

色彩構成

・配点=一般方式150点／センターⅠ方式100点

・日程=2月6日(土)

●学科試験

一般方式

・配点=国語100点／英語100点

センターⅠ方式

6教科28科目から2教科2科目を選択 各100点

※学科試験の詳細はp118を参照。

●実技問題

鉛筆デッサン（5時間）

与えられたモチーフ（バラ､水の入ったプラスチック容器）を手で持ち、鉛筆デッサンしなさい。



【条件】

・用紙は縦位置とし記名票は右上とする。

・バラは水の入ったプラスチック容器に入れること。

・モチーフを持った手も描くこと。

【注意】

1. モチーフの持ち帰りはできません。
2. 出題の内容に関する質問にはお答えできません。

※使用紙：サンフラワーペーパー（M画）MMボード（B3）

色彩構成（5時間）

縦30cm、横40cmの画面を描き、その中に与えられたモチーフ（なす、オクラ）の特徴と色彩の美しさを活かして自由に色彩構成しなさい。



【条件】

・用紙は横位置とし記名票は右上とする。

・色数は5色以上とし、白と黒は使用しない（但し、他の色出しの混色に使用することはできる)。

・画面の内側は全て塗ること。

・モチーフは切ってもよい。

【注意】

1. モチーフの持ち帰りはできません。
2. 出題の内容に関する質問にはお答えできません。

※使用紙:KMKケント(両面)ミューズイラストレーションボードSS(B3)

●実技問題出題のねらい・意図

鉛筆デッサン

白い画面と鉛筆を用い限られた条件の中で受験者が持つ考察力と表現力を見るための試験をおこないました。これらの基礎能力を備えているかを判断するため、①生花②PET製透明ボトル③手をモチーフとして実技問題に課しました。美しさを見出す観察力、白黒に置き換わるときの色合いや質感などを描き出す描写力、そしてバランスがとれた画面構成力が求められます。受験生は、このようなことをふまえて美しく描くことが大切です。

色彩構成

テキスタイルデザインにおいて色彩はとても重要な要素です。受験生が独創的で優れた色彩感覚を備えているかを判断するため、色彩や形に特徴のある野菜２種類をモチーフとしました。モチーフの色彩だけでなくフォルムや細部までよく観察してその美しさを感じ取り、そこから想像した独自の色彩表現が求められます。また、限られた時間内に作品を完成させる事、丁寧で美しい作業を心がける事も大切です。

●実技問題採点のポイント

鉛筆デッサン

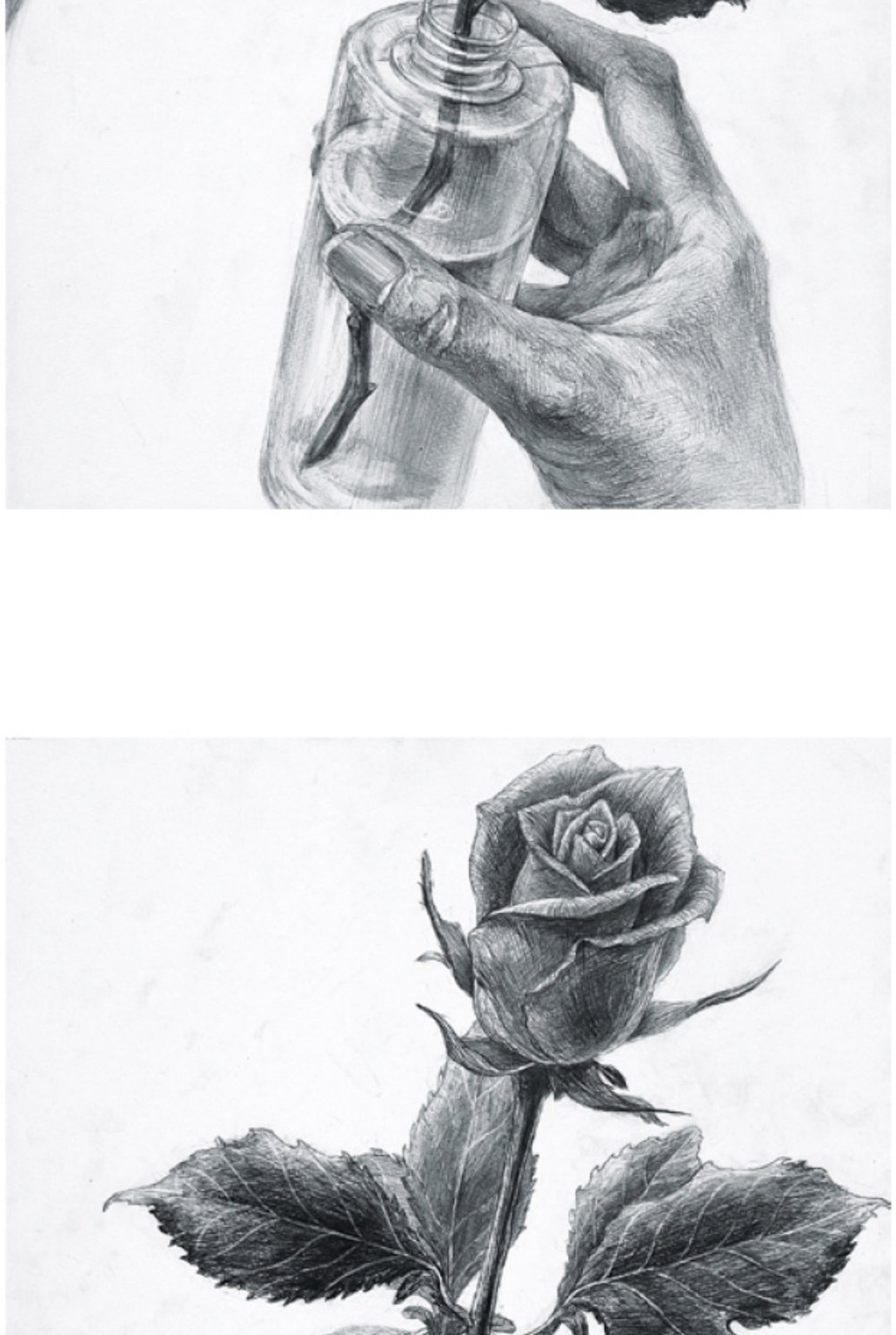
受験生の表現力と考察力はモチーフを画面空間に描き出すことで顕れることから、空間にある光の捉え方は大切な評価要素としています。３つあるモチーフで、①生花は時間と温度などの条件により変化しやすいため自然物に対する洞察力を、②ペットボトルは硬質で透明感があり水を入れた時の表情が見えやすい人工物であることを認識しているかを、そして③手との関係を考察し、いきいきと表現できているかを採点のポイントとしました。モチーフがすべて描かれていない、出題条件が理解されていない、明らかに未完成な場合などは減点の対象としました。

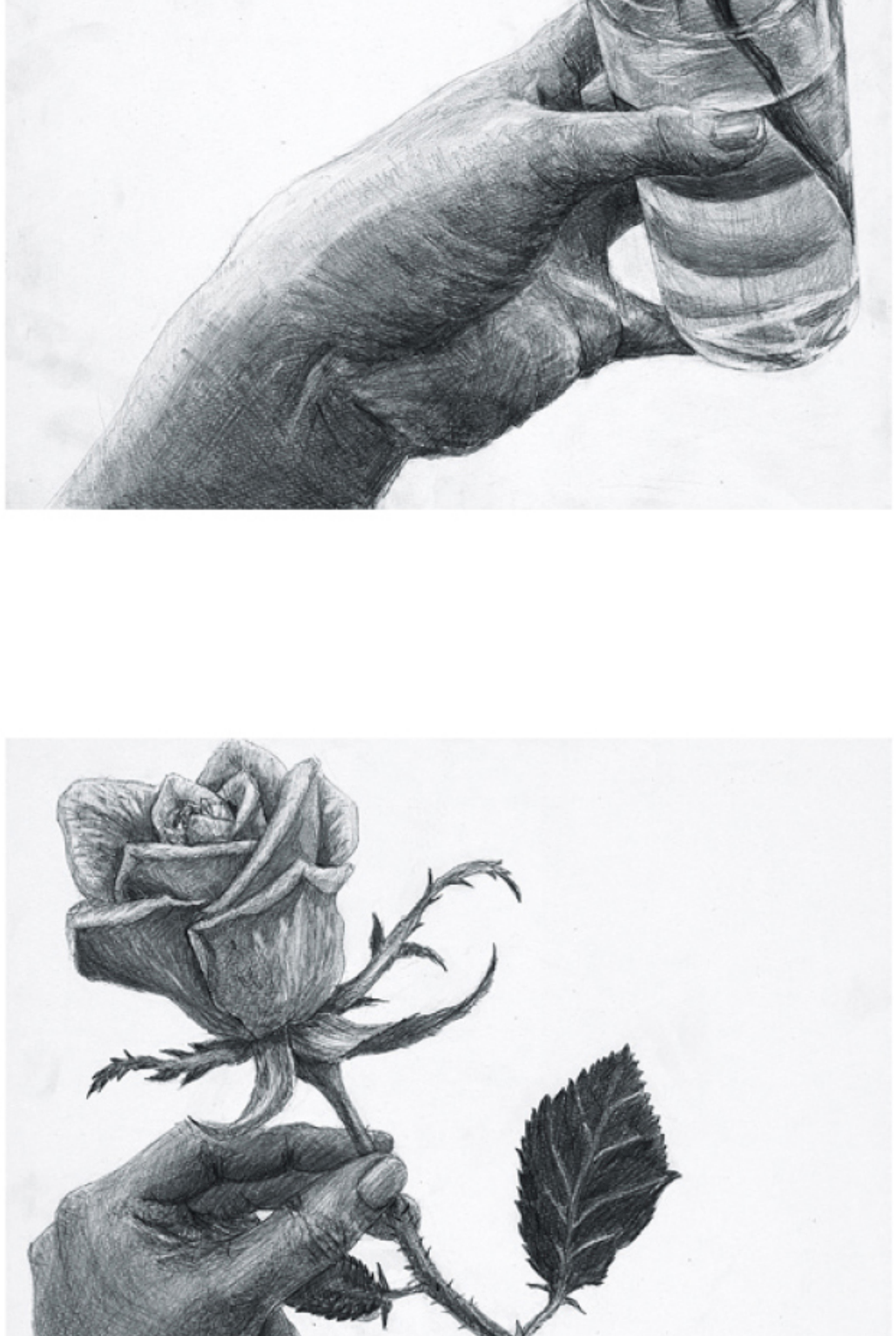
色彩構成

独創的な色彩構成ができているか、モチーフの特徴や美しさをよく観察し画面に活かされているか、独自のアイデアをもって表現しているか、などを採点のポイントとしました。モチーフを手に取って、切ったり、様々な角度から観察する事によって、そのモチーフの持つ特徴や意外な色彩を発見する事ができます。前もって用意してきた構成ではなく、モチーフ実物から美しさや面白さを自分の感性で感じ取り描いているかを大切な評価要素としています。画面に著しい塗りムラや汚れがある場合、塗り残しなど明らかに未完成な場合などは減点の対象としました。









美術学部　生産デザイン学科 テキスタイルデザイン専攻

鉛筆デッサン















美術学部　生産デザイン学科　テキスタイルデザイン専攻

色彩構成









美術学部
環境デザイン学科

2016年度入学試験　掲載作品は入学者より選定

募集人員

80名（一般方式45名／センターⅠ方式20名／センターⅡ方式15名）

入学試験科目・配点・日程

●専門試験

鉛筆デッサン

・配点=一般方式300点／センターⅠ方式200点
　　センターⅡ方式　本学での専門試験は課しません

・日程=2月3日(水)

●学科試験

一般方式

・配点=国語100点／英語100点

センターⅠ方式

6教科28科目から2教科2科目を選択 各100点

※学科試験の詳細はp118を参照。

センターⅡ方式

・配点=数学「数学Ⅰ・数学A」200点／6教科26科目から2教科2科目(「数学Ⅰ」、「数学Ⅰ・A」を除く)を選択　各100点

※センターⅡ方式は大学入試センター試験のみで合否判定します。

●実技問題

鉛筆デッサン（5時間）

床に18リットル缶（一辺約24cm高さ約35cm）が2つと、板（幅21cm、厚さ3cm、長さ90cm）1枚が置かれている。
この缶5個以上と、板2枚以上を使って立体構成した状態を想定し、鉛筆でデッサンしなさい。
置かれている缶と板の向きと位置は、変えても積み重ねてもよい。
板と缶は切ったり加工したりしないこと。



【条件】
・背景はこの教室を描くものとし、人物、イーゼルは描かない。
・記名票は縦位置の場合は右上、横位置の場合は右下にして置くこと。
【注意】
出題の内容に関する質問にはお答えできません。
※使用紙：イラストレーションボードBBケント荒目ナチュラル（B3）

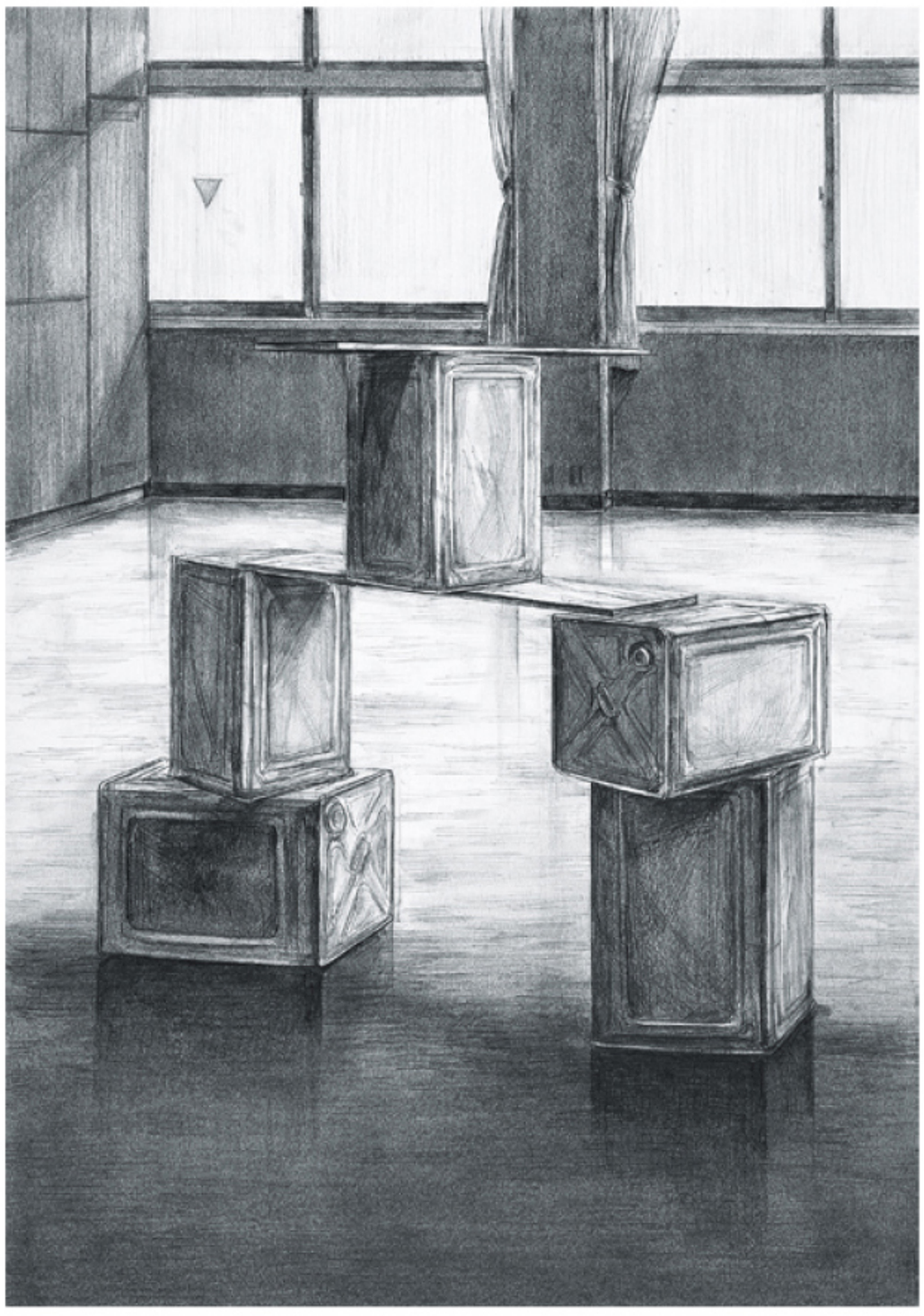
●実技問題出題のねらい・意図

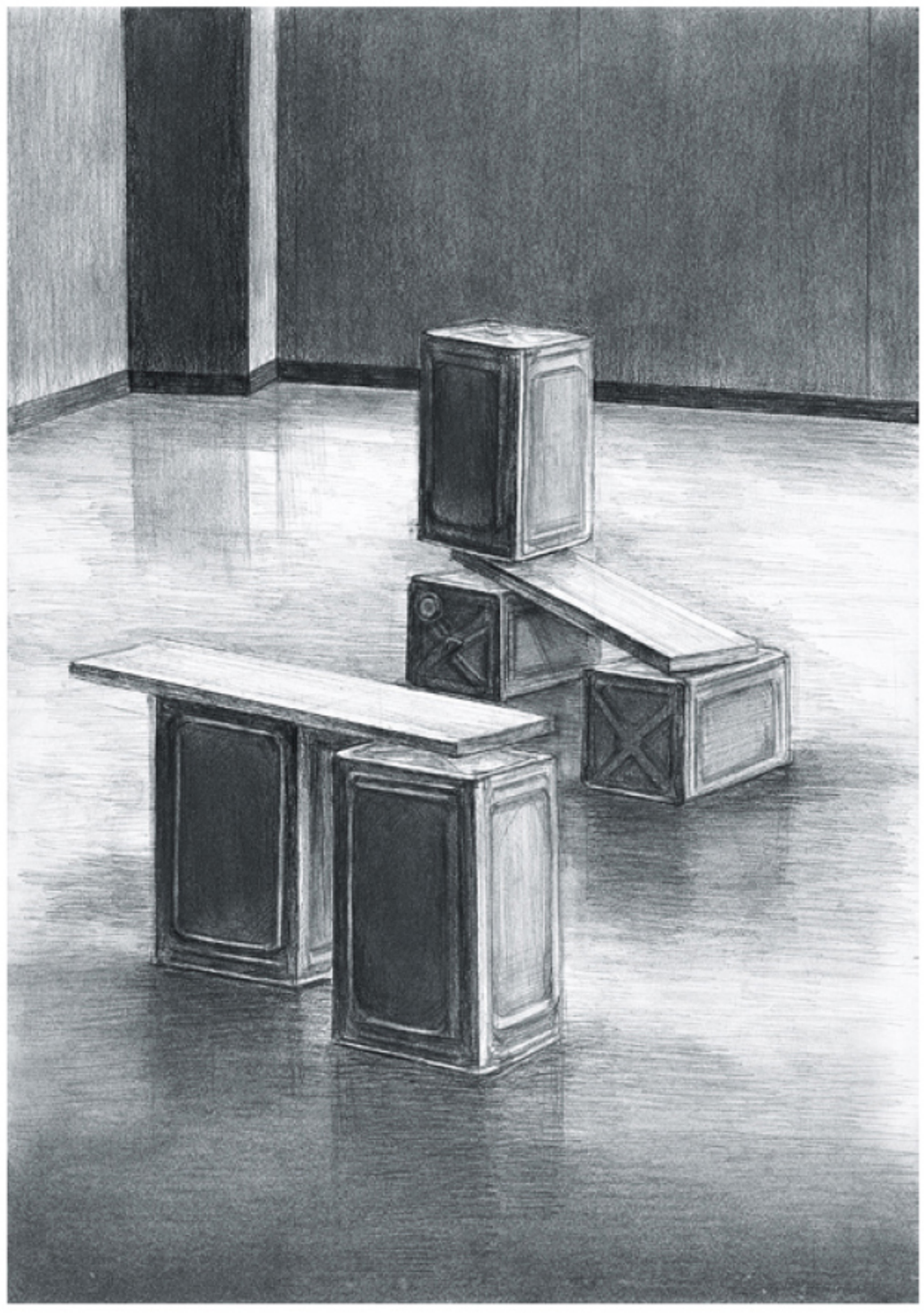
環境デザインの対象となる世界は、自分の身体の周りの小さなところから、都市的な規模までそのスケールはさまざまです。環境デザイン学科の実技試験はそのすべての基礎になる能力を見る試験です。
環境デザインとは「もの」だけでなく、「もの」を造ることによって生まれる「空間」を造る作業です。空間を意識した造形ができるかどうかが重要です。また環境デザインは実物ができる前に、そのかたちを、その空間を正確に頭の中に描けなければなりません。そして他人にその姿を見せられなくてはなりません。
鉛筆デッサンの試験では空間を把握し、空間を創造し、その空間を表現する能力を見ることによって適性を判断します。空間を把握するとは、平面上に描かれた図や寸法からどんな空間であるかを想像できるということです。この能力は本学科で学ぶために、また仕事をしていく上で絶対必要なものです。実技試験は環境デザインの仕事へ続く第一歩でもあります。これから環境デザインを学んでいく素質があるかどうかを見る試験です。

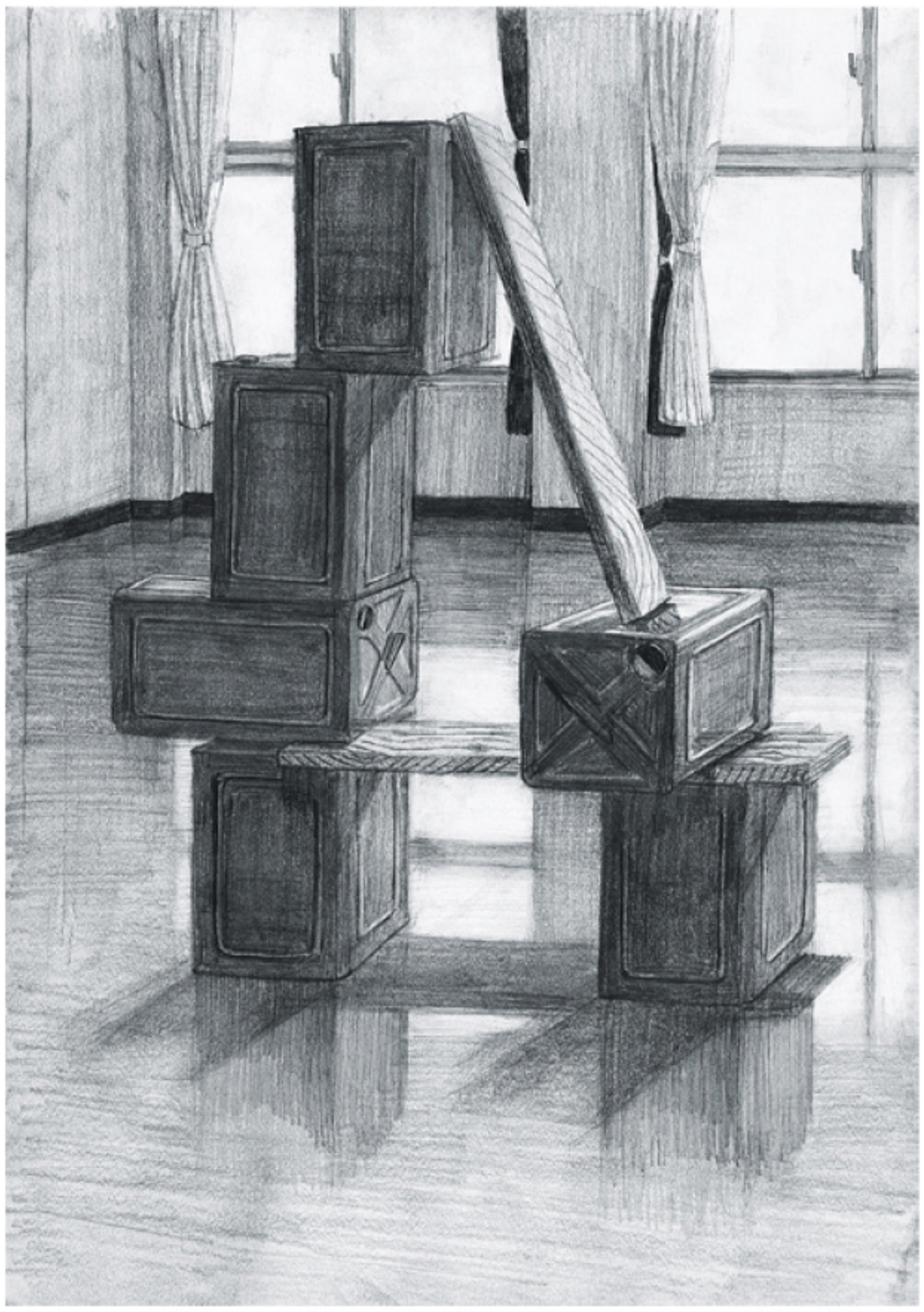
●実技問題採点のポイント

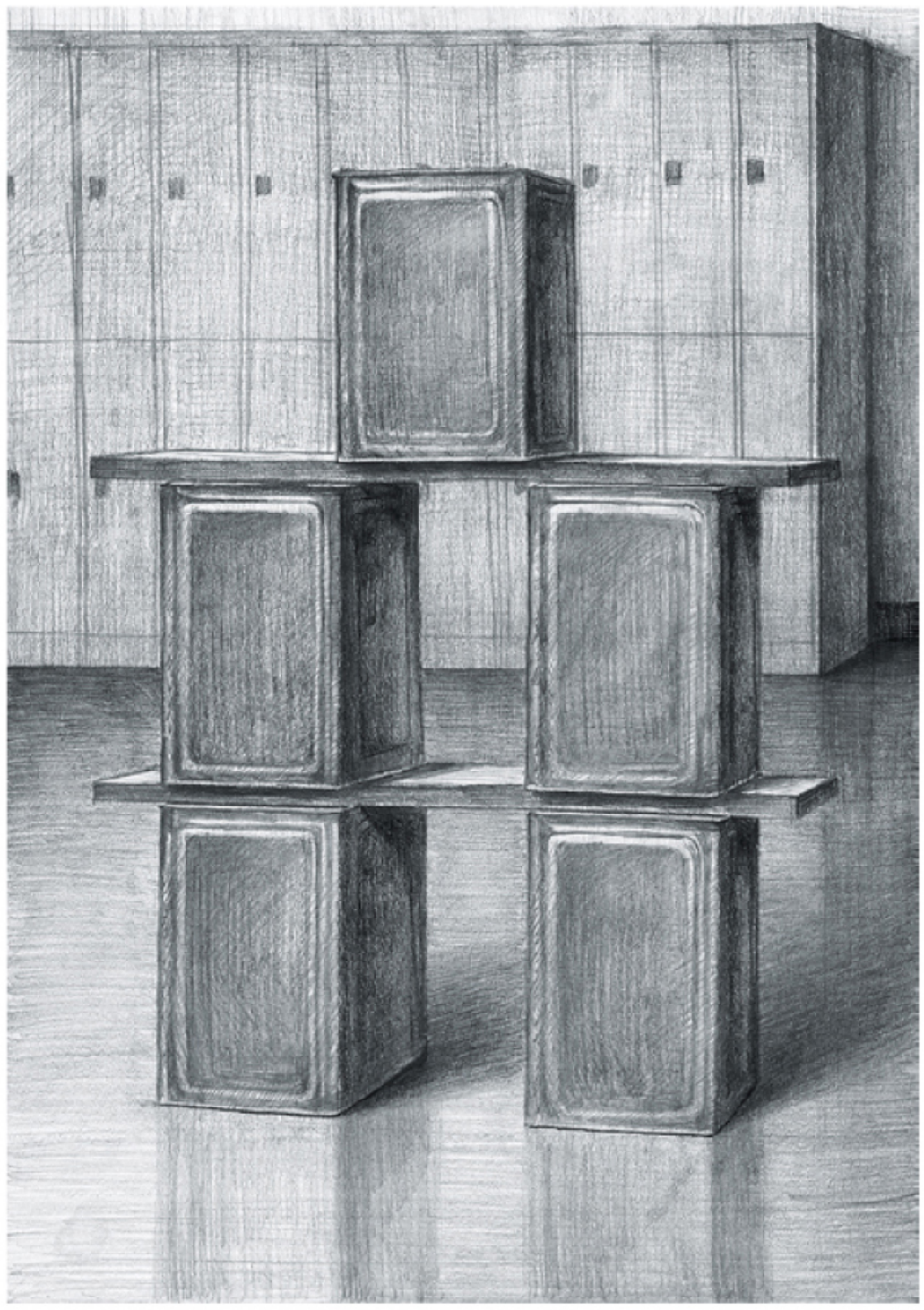
鉛筆デッサン

床に置かれているのは18リットル缶、通称一斗缶　と杉の板です。例年通りモチーフの大きさは問題文に示されています。寸法がわかるということは、自分の身長に対してどのような高さなのか、どのように見えるか、また複数個置く設定になっているので、縦にしたときと横にしたときの高さの関係など、空間を構成するための物差しになるはずです。缶そのものはデッサンのモチーフとして見たことがあるかもしれません。缶も板も単純なかたちで難しい曲面などはありませんが、見たものをそのまま描くだけでなく、どのような向きになっても形が正確に描かれているかどうか、そして画面上の効果を考え、意図を持った配置、構成になっているかが重要です。
背景は例年の出題と同様、教室内を描くように指定していますが、構成した立体が教室の空間の中でどのような存在として見えるか、その大きさ、形、光と影が正確に描かれているかも重要なポイントです。



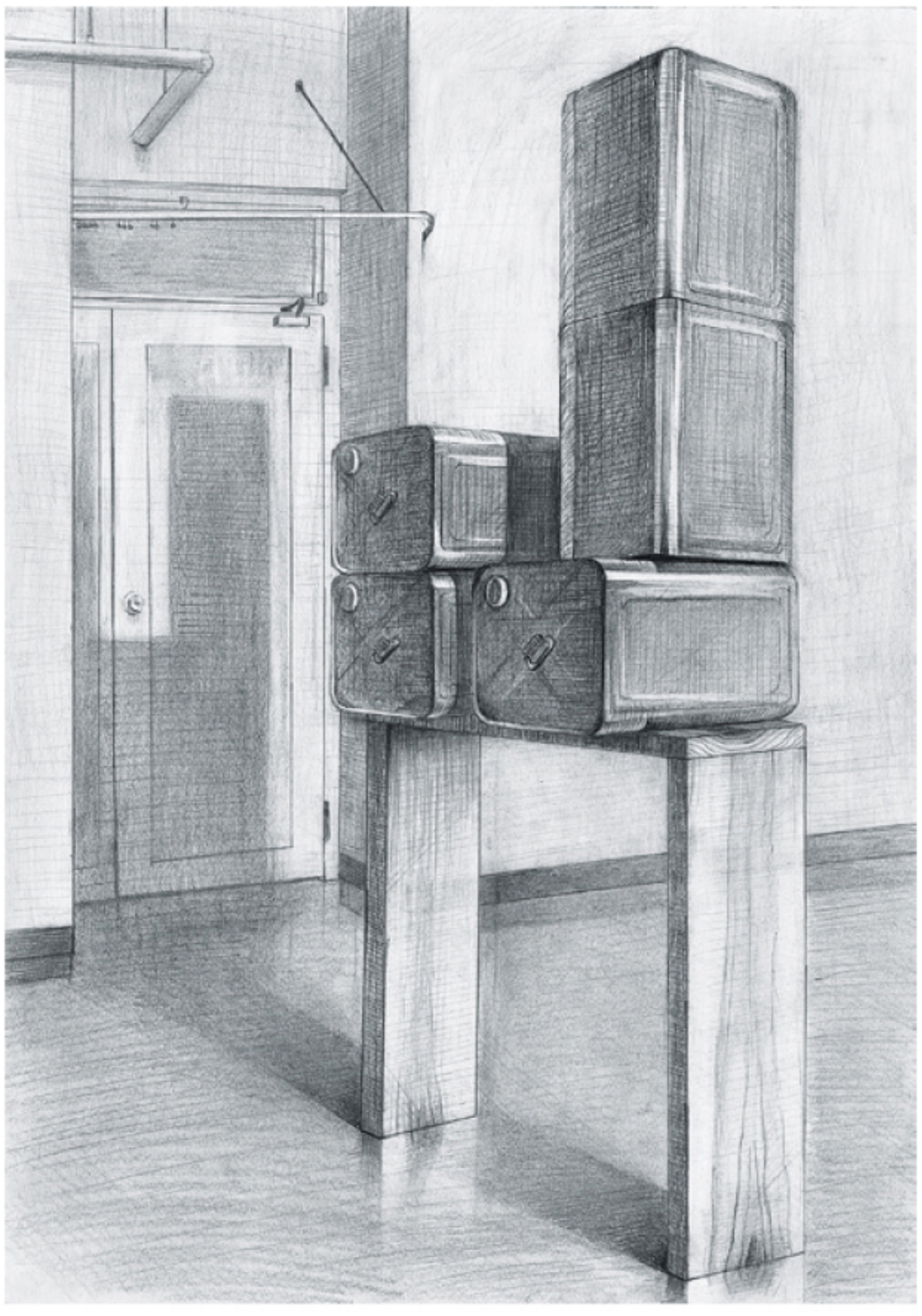


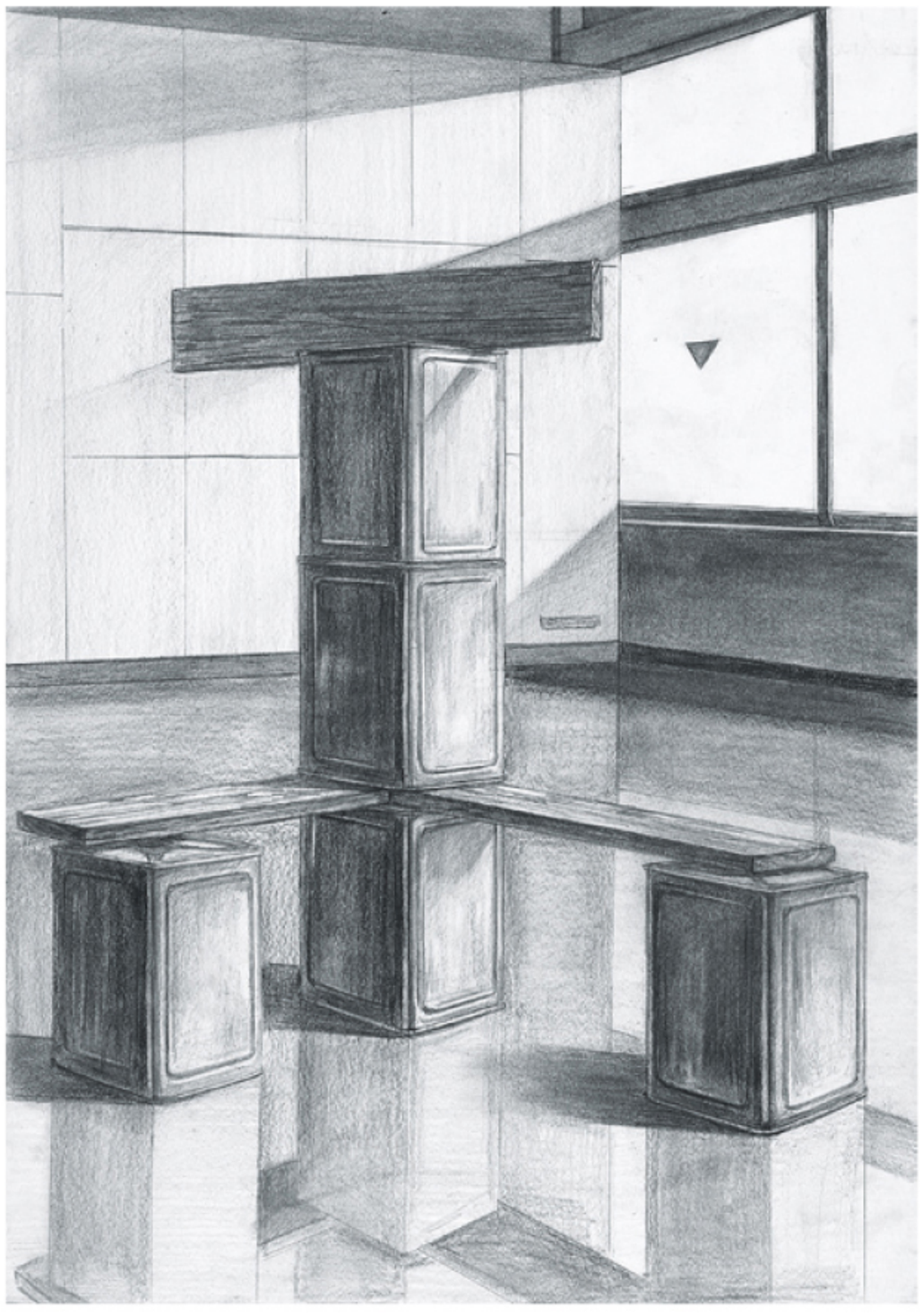


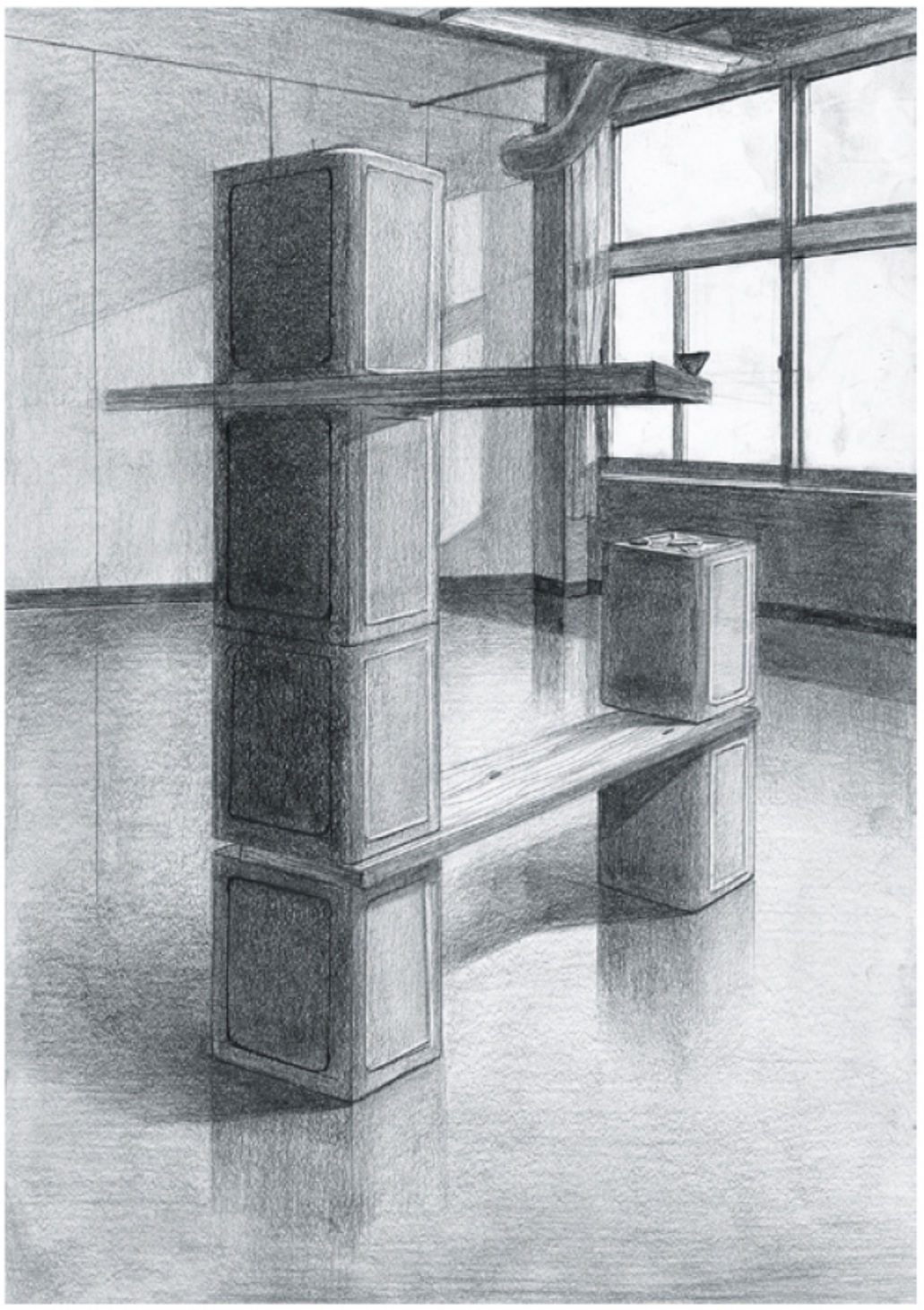


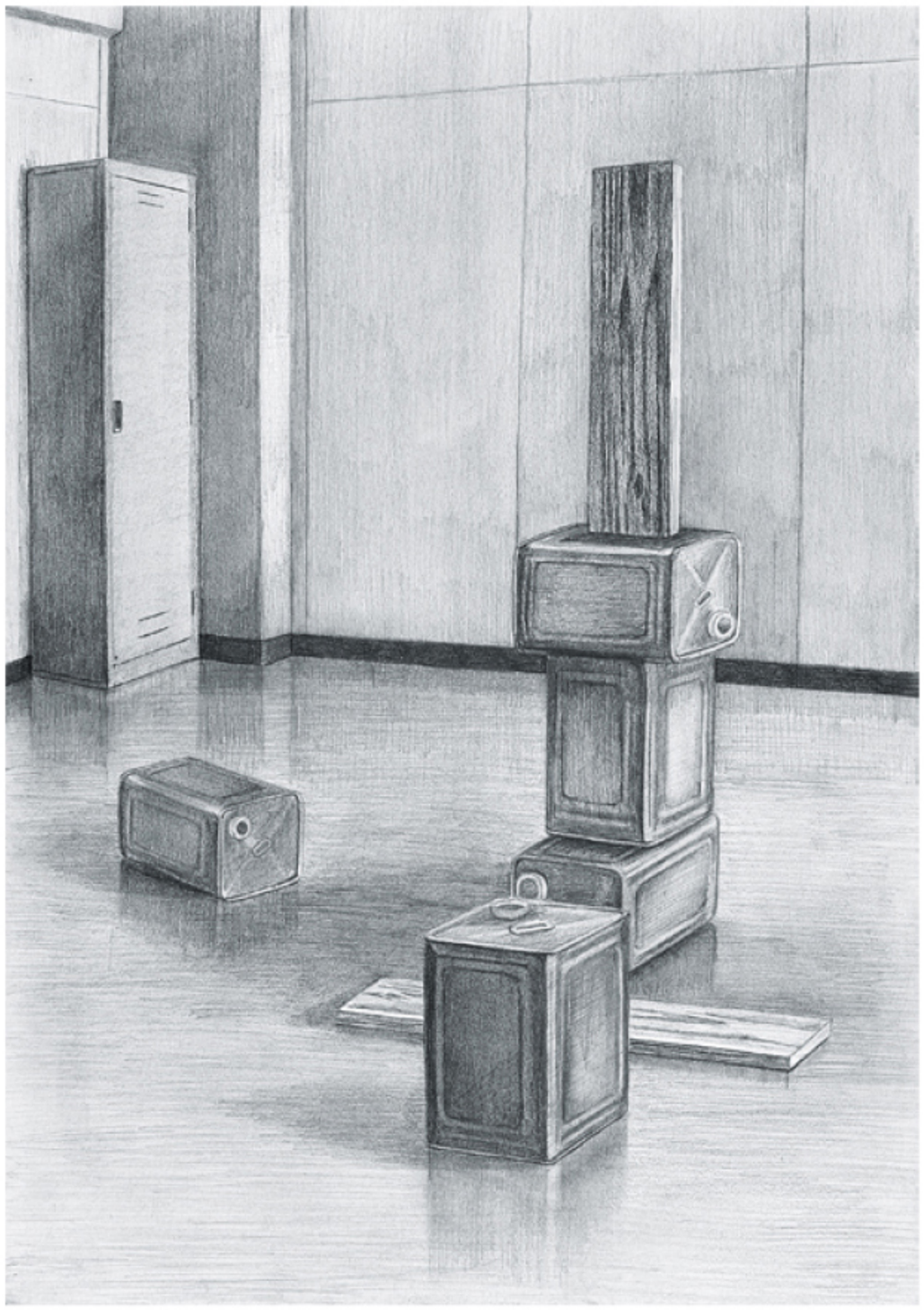
美術学部　環境デザイン学科

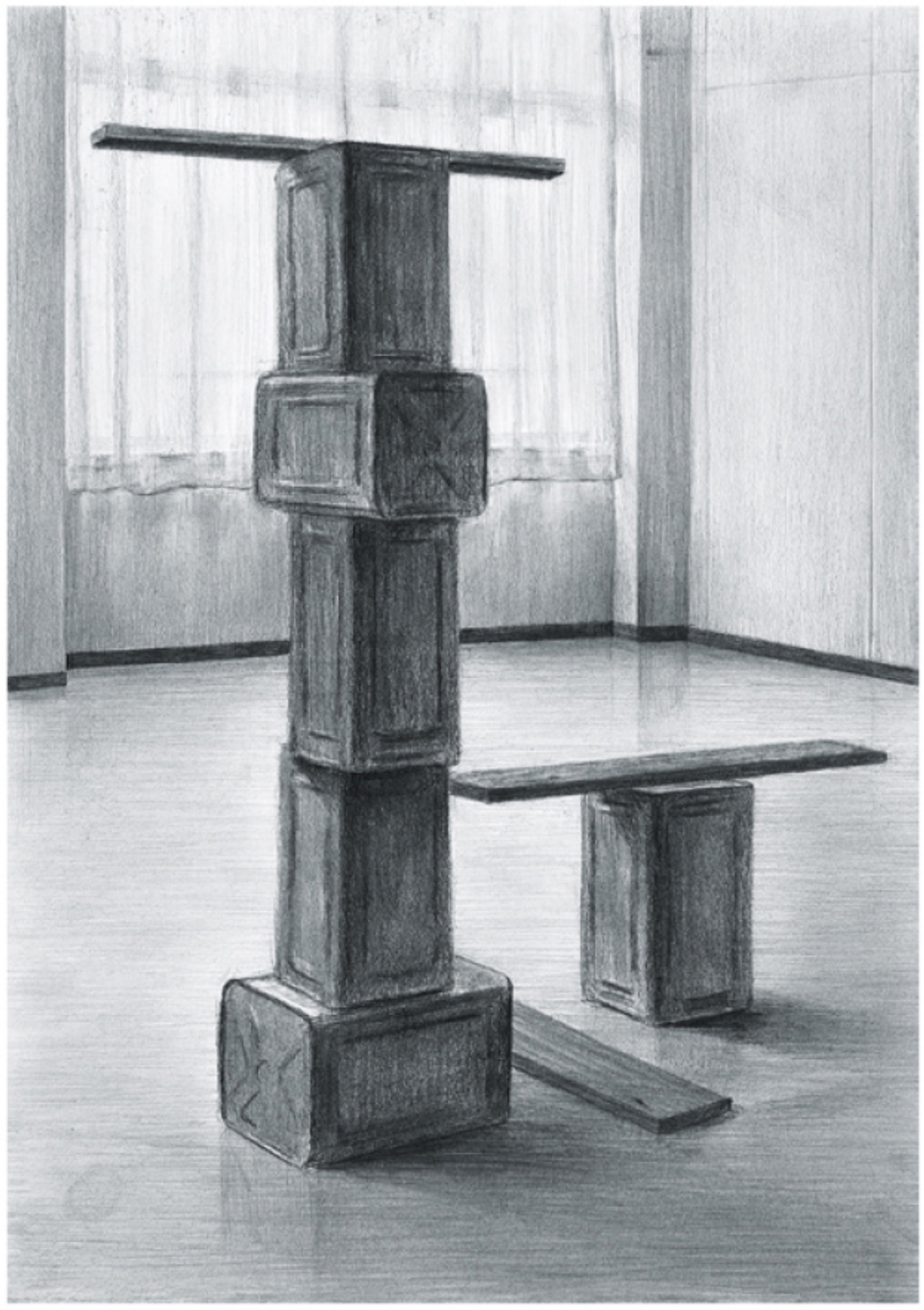
鉛筆デッサン

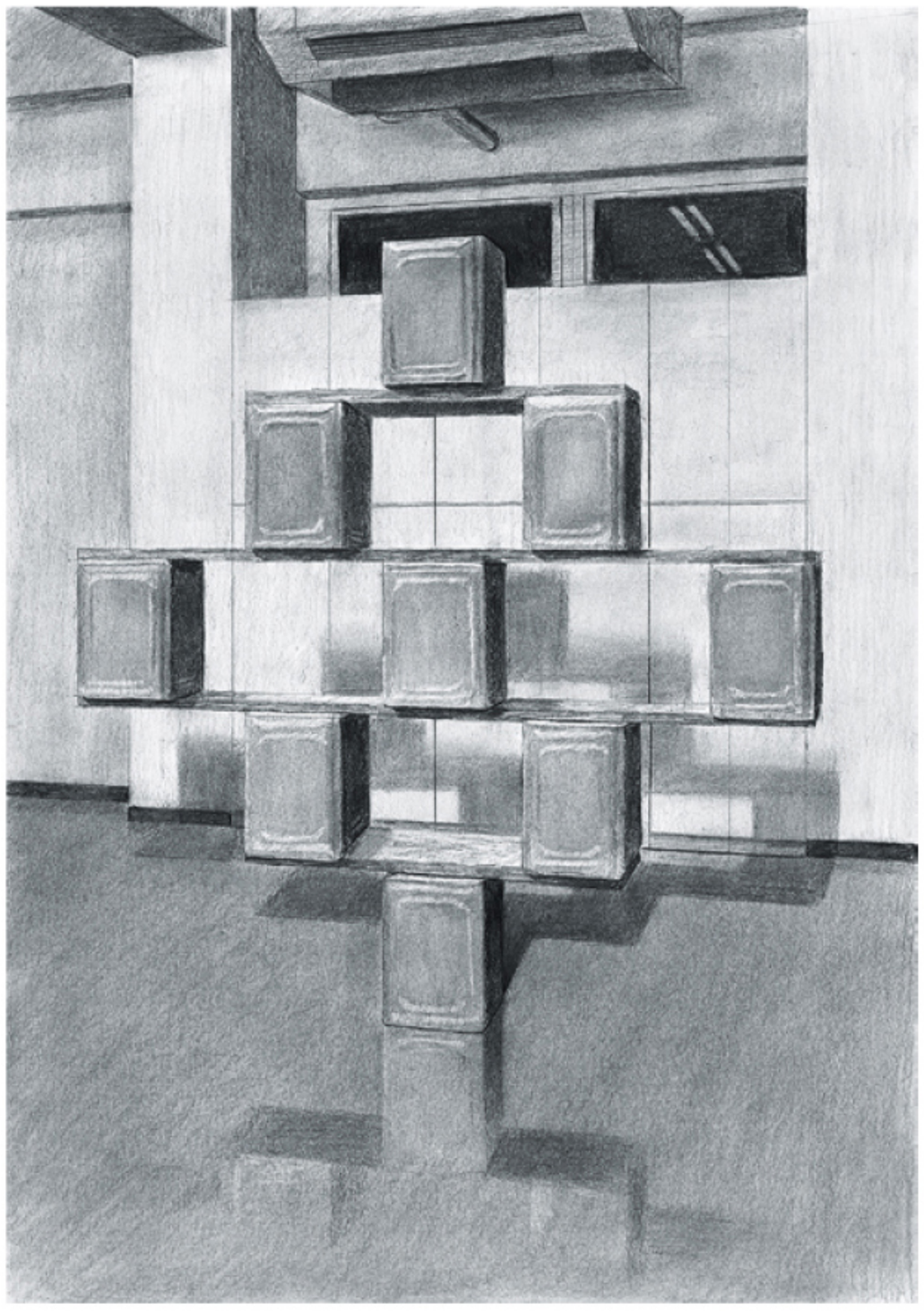












美術学部
情報デザイン学科
メディア芸術コース

2016年度入学試験　掲載作品は入学者より選定

募集人員

61名（一般方式36名／センターⅠ方式25名）

入学試験科目・配点・日程

●専門試験

視覚表現

・配点=一般方式200点／センターⅠ方式100点

・日程=2月11日(木)

鉛筆デッサン

・配点=一般方式100点／センターⅠ方式100点

・日程=2月12日(金)

●学科試験

一般方式

・配点=国語100点／英語100点

センターⅠ方式

6教科28科目から2教科2科目を選択 各100点

※学科試験の詳細はp118を参照。

●実技問題

視覚表現（5時間）

「決定的瞬間」と聞いて思い浮かぶものをイメージして与えられた用紙に視覚的に表現しなさい。

【条件】・文字や文章で説明してはならない。
・記名票は右上になるように使用すること。

【注意】1. A3の紙2枚は下書き用紙です。
2. イラストボードの切れ端は試し塗り用紙となります。
3. 出題の内容に関する質問にはお答えできません。

※使用紙：TMKケントポスターボード（両面張り540mm×540mm）

鉛筆デッサン（3時間）

指で数字を数える様子を想定して、鉛筆デッサンしなさい。

【条件】・手以外のものは描いてはならない。
・文字や文章で説明してはならない。
・用紙は縦位置とし、記名票が右上になるように使用すること。

【注意】1. A4の紙2枚は下書き用紙です。
2. 出題の内容に関する質問にはお答えできません。

※使用紙：BBケントボード（荒目／B3）

●実技問題出題のねらい・意図

視覚表現

今年度の視覚表現のテーマは「決定的瞬間」です。決定的瞬間とは一種のドラマであると考えます。それがどのような場所で、どのような状況において、一瞬の時間が切り取られているのか、できるだけ自由な発想で、意外性のある光景が効果的に表現されていることを望んでいます。今でも一般的な写真用語として定着している「決定的瞬間」とは、もともと写真家アンリ・カルティエ＝ブレッソンの写真集のタイトルに由来しているそうです。写真は自分の身の回りにある日常の時間のなかから、撮影者がこれだ！と思った瞬間にシャッターを切り、一瞬の時間を切り取る作業です。写真家は瞬時に構図や主題を構築して、決定的な「1枚」を獲得するわけです。視覚表現の試験では、写真の技法にとらわれる必要はありませんが、決定的な1枚を視覚的に表現するために、画面にそなわっている緊張度が評価の重要な尺度になります。この課題に取り組むとき、最初に物語の設定が必要になるでしょう。場所や時代設定、画面のなかの世界観を安定した描画技法を用いて、的確に表現されているかどうかを確認します。舞台は現実に存在する風景でも、想像上のものでも構いません。またどこであるかを特定できない抽象的な空間での出来事であっても構いません。そこで繰り広げられている「決定的瞬間」とは？見るものに驚きを与えるだけのインパクトを備えているかどうかが問われます。そのインパクトを伝達するために、構図の工夫や色彩効果、描画のテクニックなどが効果的に動員されて、表現意図を明確に伝えるための結果を生んでいるのかどうかが評価のポイントとなります。

今回の実技作品には宇宙探査に関するものが複数あったのが目立ちました。アポロ計画の月面着陸の瞬間などは、歴史的な決定的瞬間であることは間違いありませんが、あまりにも典型的なものは、見るものにとって画面の緊張度をともなってきません。むしろ、意外性のある状況設定に驚かされた作品は異才を放っていました。

鉛筆デッサン

鉛筆デッサンでは、数字を数えるしぐさを想定して、描写してもらいました。指を折って数える様子をしていれば片手でも、両手を使っていてもかまいません。指で数字を数えるのは日常でよく見かけるしぐさですので、設定にとまどうことはないでしょう。

人間が手を使って数字をカウントすることは、文明の進化の発端になった出来事であったはずです。いずれは膨大な情報データをあつかう現代文明にいたる、まことに原初的な行為であるといえます。考えてみれば例年のように手のモチーフが出題されますが、われわれの創造の原点でもある手を見つめるということは、創造的価値を生み出す担い手となる学生にとって、重要な意味を持つものです。今年の課題を通じて人間の創造力の原点を改めて認識してもらえたらと思います。

鉛筆デッサン課題としての評価ポイントは、きわめて基本に忠実なものを求めています。与えられた画面上での空間配置を意識した構図の取り方や、手肌の質感描写、画面全体のトーンの整え方など通常のデッサン課題で要求される基本的な項目について、安定的な描写力が問われることになります。主題を解釈しすぎて、あまりにも複雑なポーズで仕上げようとした受験生は、かえってまとまりがなくなって失敗していたようにも見受けられました。

折り曲げた指の骨格のバランスなどは、目の前にある自分の手をじっくりと観察すればうまく描けるところを、なかなか苦戦のあとがあって、描写に関する実力の出るところであったのだと感じました。

●実技問題採点のポイント

視覚表現

1. 出題の意図を正しく理解し、着眼点がストレートに表現できているか。
2. オリジナリティのある世界観、着眼点があるか。
3. 思い切ったイメージの飛躍があるか。

鉛筆デッサン

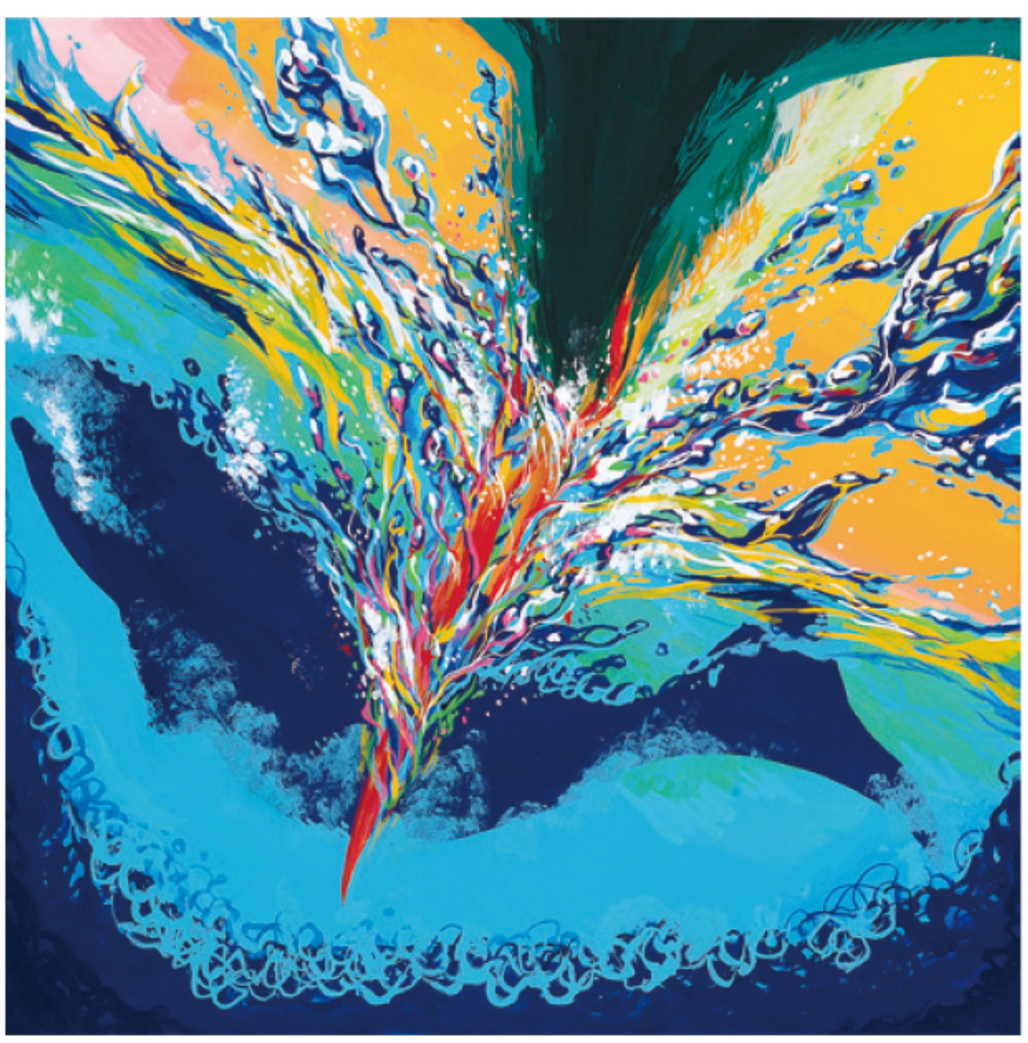
1. 出題の意図を正しく理解しているか。
2. 手のポーズに工夫をしているあとが伝わってくるか。
3. 画面上での的確な空間構成力。
4. 鉛筆による適切なテクスチャーや色調表現ができているか。



《評価コメント》
シュールリアリスティックなタッチによる描画であるが、真の決定的瞬間は、予測や想像、現実を超えているに違いない。限られた色彩、集中しつつ泳ぐ視線、平面感と奥行きの両立。画面の隅々まで緻密に構築されていて力を感じさせる。この質感のデジタルメディアへの展開を期待する。



《評価コメント》
人類にとって、地球外の知的生命体との遭遇ほど、決定的瞬間はないだろう。それはドラマのように力強く起こるのではなく、ある日突然、静かに優しくやってくるのかもしれない。フラットデザインを思わせる絶妙の色彩。非日常を感じさせない不思議な光景が、なつかしさと共に立ち現れている。



《評価コメント》
水の中に落下していくのか、あるいは混ざっていくのか、いずれにしろ極小世界で起きた一瞬の出来事がカラフルな色彩でダイナミックに描かれている。流動的な線と色彩の響き合いが印象的だ。勢いのいい筆運びで描かれた線の軽やかさも魅力的である。



《評価コメント》
何か柔らかいモノの表面を指先でぐっと押したときの感触がうまく表現されている。大胆な画面の構成、色数を抑えながら補色を使うことで、線を際立たせ、全体の印象を強くすることに成功している。まるで果物の鮮度を確かめる時のような触覚までが呼び覚まされるかのようである。



《評価コメント》
ゴールテープを切る”決定的瞬間”でしょうか？課題に対して素直に答えを出した作品。一見大胆な構図に目が行きがちであるが、丁寧に描かれた背景のパターンに好感が持てる。



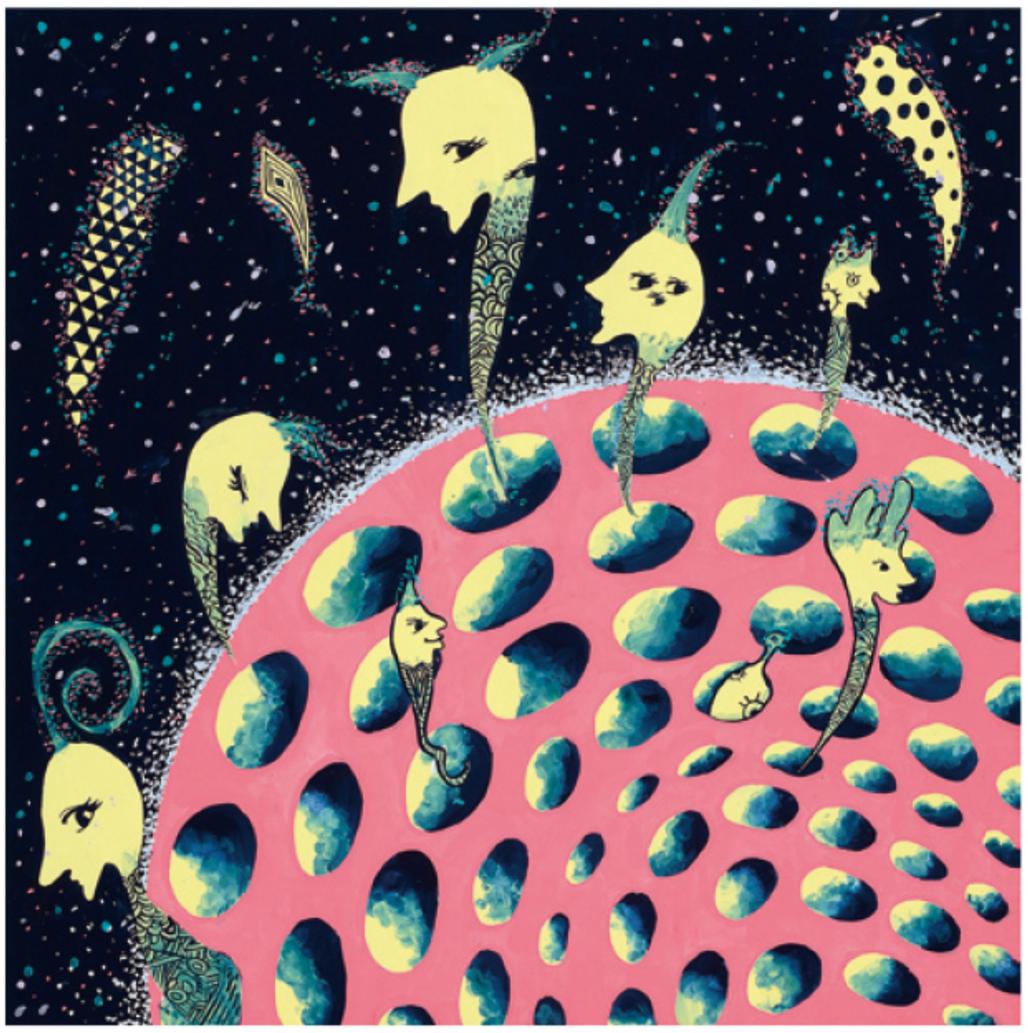
《評価コメント》
正方形の画角に動きを出すのは難しいが、本作はあえて画面に斜めの方向を生むことで、ダイナミックな構図を作って成功している。焼きたてのモチを箸でつまんで伸ばしたような「粘り」と「弾け」がともに表現されている。整えられた色彩や仕上げの美しさも高評価につながった。



《評価コメント》
画面を占める大きな顔が地球になっているのにまず圧倒される。また、活火山の爆発が口の中を突き抜けて噴火するシーンが決定的瞬間であるというアイディアが、とてもユニークである。顔の表情も印象が強く思わず笑ってしまう。噴火口から噴出する煙や繊細な炎など、よく描けている。スケールの大きいユニークな作品に仕上がっている。



《評価コメント》
ゼンマイ仕掛けの人形がいよいよ立ち上がる？昔話の絵本の一コマで登場しそうな１シーンである。飾り気のない色使いと、素朴な木版画風の描写によって、ファンタジーの世界がシンプルにまとめられていて、印象に残る作品だった。



《評価コメント》

抑えたピンク色の惑星に無数の穴が空いている。その穴から奇妙な生物が飛び出してくる。生物それぞれの表情や目線が気になる。目をつぶっていたり、こちらを見ていたり、穴に隠れていたり、浮遊する生物など鑑賞者の視点を誘惑するようだ。海中でサンゴの卵が一斉に誕生するような決定的瞬間のようにも見える。という鑑賞者の想像をかきたてる魅力的で謎を秘めた作品に仕上がっている。



《評価コメント》

考えてみれば確かに（およそ 3 年半前に）この瞬間はあったのだろう。ほとんどの人が見過ごしてしまった気づきであるが、それがどうした？という、たわいもないことでもある。それを課題である「決定的瞬間」と呼んでしまうことに、作者の大らかなユーモアセンスを感じる。シンプルな瞬間芸がストレートに伝わってくる。



《評価コメント》

これはある心象風景として描かれたものなのか？それとも現実の風景として描かれたものなのか？作者に聞いてみたい。今の日本 or 日本人はこのような風景を思い描きやすいのだろうか？水面の波紋に映る電柱の表現など、好感が持てる。



《評価コメント》

落ちたら負けの紙相撲。指先が起こす繊細な振動が紙の力士に伝わり、一瞬で勝敗が決まる。ささいな遊びの勝敗が、スローモーションで表現される映画の劇的なシーンのように表されている。指の振動が起こすエネルギーが力士の指へと伝わり、紙どうしがぶつかり合う小さな世界で莫大な力となり相手を倒す、劇的な瞬間が描かれている。

美術学部　情報デザイン学科　メディア芸術コース

鉛筆デッサン

















美術学部
情報デザイン学科
情報デザインコース

2016年度入学試験　掲載作品は入学者より選定

募集人員

61名（一般方式36名／センターⅠ方式25名）

入学試験科目・配点・日程

●専門試験

視覚表現

・配点=一般方式200点／センターⅠ方式100点

・日程=2月11日(木)

鉛筆デッサン

・配点=一般方式100点／センターⅠ方式100点

・日程=2月12日(金)

●学科試験

一般方式

・配点=国語100点／英語100点

センターⅠ方式

6教科28科目から2教科2科目を選択 各100点

※学科試験の詳細はp118を参照。

●実技問題

視覚表現（5時間）

雨の日の情景を思い巡らせてみてください。

「雨の日の情景」をあらわすもののシルエットと幾何形態を用いて、あなたの「雨の日の情景」を視覚表現しなさい。

【条件】

・用紙は縦位置とし、記名票は右上とすること。

・シルエット、任意の幾何形態のいずれか、または両方を使用すること。

・塗り方は自由。白く見せたい部分や余白をあらわす場合は白を塗ること。

【注意】

1. A3の紙1枚は下書き用紙です。

2. 出題の内容に関する質問にはお答えできません。

※使用紙：特注イラストボード（B3）

鉛筆デッサン（3時間）

クリップと自分の手を観察して描きなさい。



【条件】

・用紙は縦位置とし、記名票は右上とすること。

・配布したクリップをモチーフとして使用すること。

・クリップは、折り曲げる、伸ばすなど、自由にしてよい。

【注意】

出題の内容に関する質問にはお答えできません。

※使用紙：サンフラワーペーパー（M画）MMボード（B3）

●実技問題出題のねらい・意図・採点のポイント

視覚表現

今年度の視覚表現は、「雨の日の情景」から思い浮かぶモノやコトをモチーフとして、視覚表現するという設問です。モチーフを「発見」する力、思いを「表現」する力、そしてそれらを「構成」する力、この三つが、採点のポイントです

雨の日は、誰でも経験があり、雨の日が好きな人も嫌いな人も、各自の思いがあるはずです。出題のポイントは、その雨の日の中にいる自分の「思い」を描いてもらう ことにありました。 描く側は、まず「雨の風景の中」からモチーフとなる「雨への思いをあらわすもの」を見つけ出さなければなりません。作品の中でモチーフとして多かったのは傘、長靴や自然の風景、次にカエルや猫、犬等の小動物などです。雨の情景を直接イメージできるものの方がわかりやすいことは 確かですが、雨の情景の表現をそのまま描かないようにすることが肝心です。雨の日と自分の気持ちをどう結びつけるのかが、今回のモチー フ選びのポイントだったように思います。 毎年のことですが、テクスチャーをうまく使うこと、「塗る」だけでは なく「描く」こと、シルエットとテクスチャーの組み合わせがうまくいっているものは、高評価を得ていたように思います。「気持ち」や「思い」といった身近な感情は、抽象的でありながら具体性を持って描けるものであり、私たちが共感できる作品もたくさん ありました。反面、モチーフの表現が凡庸になりがちで、はっと目を引く作品が 少なかったのも事実です。モチーフを「発見」し、思いを「表現」することでやめずに、それらを客観的に「構成」するところまで力を注ぐことが大切です。

鉛筆デッサン

本コースの鉛筆デッサンは観察して描くデッサンです。例年と同じように「描画力」と「観察力」がポイントです。

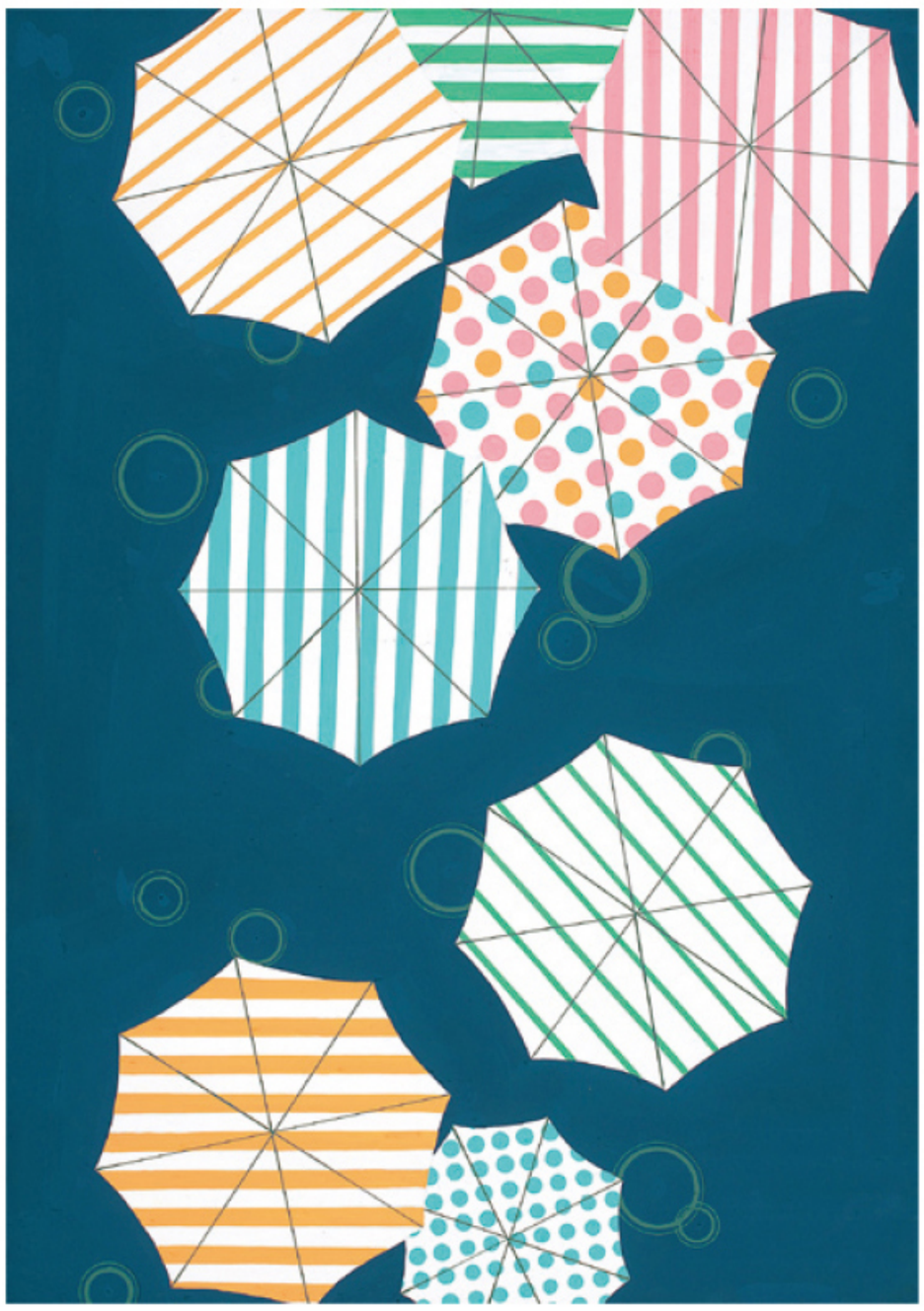
今年度のモチーフは、ダブルクリップと手です。ダブルクリップは、握る、挟む、つかむなどいろいろと構図が考えられます。自分が一番表現しやすい方法を見つけ、ダブルクリップを握る手を観察する構図を考えることが大切です。硬質なダブルクリップを握る手をよく観察して表現することがポイントになると考えて出題しました。全体としてダブルクリップ自体、手自体はよく描けているデッサンが多かったです。しかし、ダブルクリップとそれを握る手のバランスを上手に描けている人は少なかったように思います。 観察しやすい素直な構図が描写を助けることはどんなモチーフにも言えることですが、今回のような硬質な素材でも構図を決めてしっかり観察して描画することが大切です。



《評価コメント》
色彩が華やかで明るく表現されており、雨と植物の関係性が、よく描けています。雨の雫を大きく表現することによって、雨の軌跡が、はっきりと強調され、動きがあるようにも見えます。作品の絶妙な構成を評価しました。



《評価コメント》
夜の雨を表現するのに、手のひらを用いた作品で、白と黒のコントラストが大変良く表現されています。また雨の中に混じっている赤の線が光っているようにも見え、全体をより鮮明にしています。雨の中に佇む気持ち良さが感じられる作品です。



《評価コメント》
窓から下をみている視点で、雨の情景がよく表現されています。一見普通の風景ですが、傘がまるで花のように見えます。傘の大きさや地面におちている雨とのバランスの良さが感じらる作品です。



《評価コメント》
ガラス面の向こうは小学生でしょうか、降りしきる雨のガラスを手で触れています。曇ったガラス越しのシルエットとの構成が、降りしきる雨の風景を想像させます。色を抑えたこの作品は、観察力と構成力の高さを示しています。



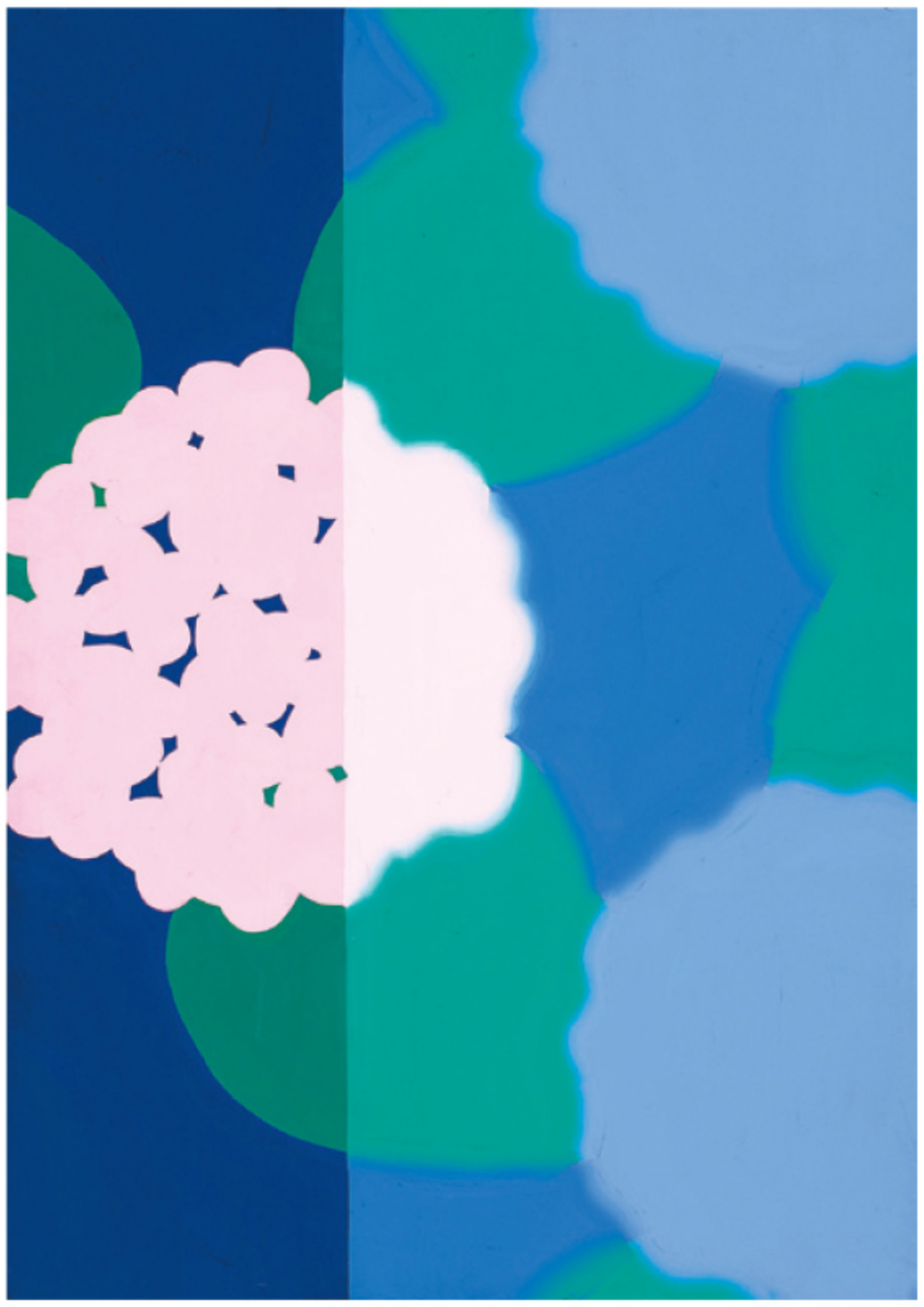
《評価コメント》
降りしきる雨は、植物にとって恵の雨であるという構想が伝わってきます。植物の高さに目線があり、花の力強さを感じさせる作品です。また大地は明るく、雨の色との対比が印象的です。



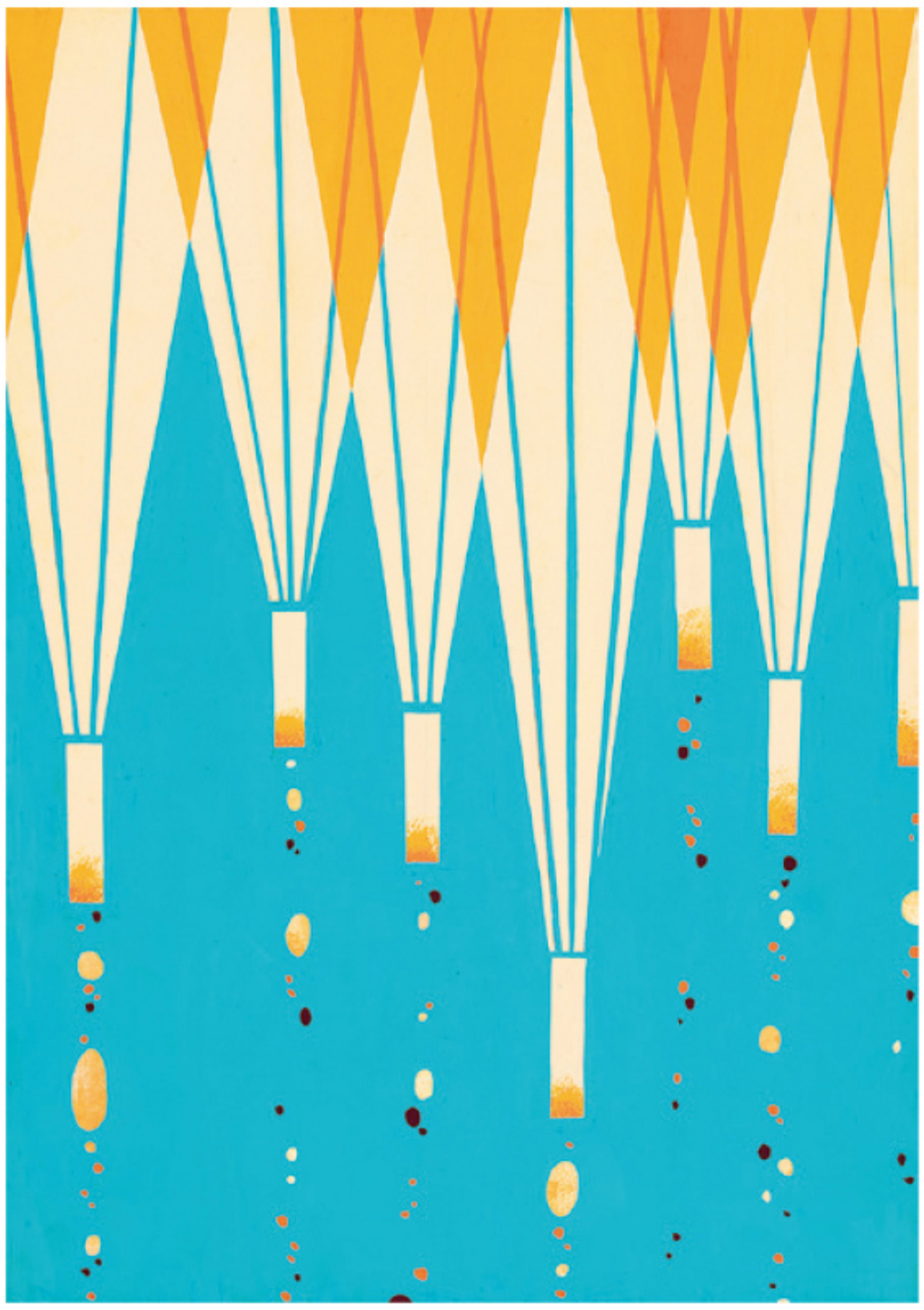
《評価コメント》
大変シンプルな構成の作品ですが、画面の半分を占める傘の雫からできている水たまりが、雨の日を表しているというユニークな作品です。２本の明るい色の傘が水たまりとの対比となっており、よく観察できています。



《評価コメント》
雨の自転車通学は大変だということを表すかのように、自転車は大胆に描かれています。その地面は、水たまりなのですが、そこには、よく見ると桜の花びらでしょうか、細かくたくさん散っています。跳ねをあげる自転車と水たまりに散っている花びらの構成が、動きを感じさせる作品です。



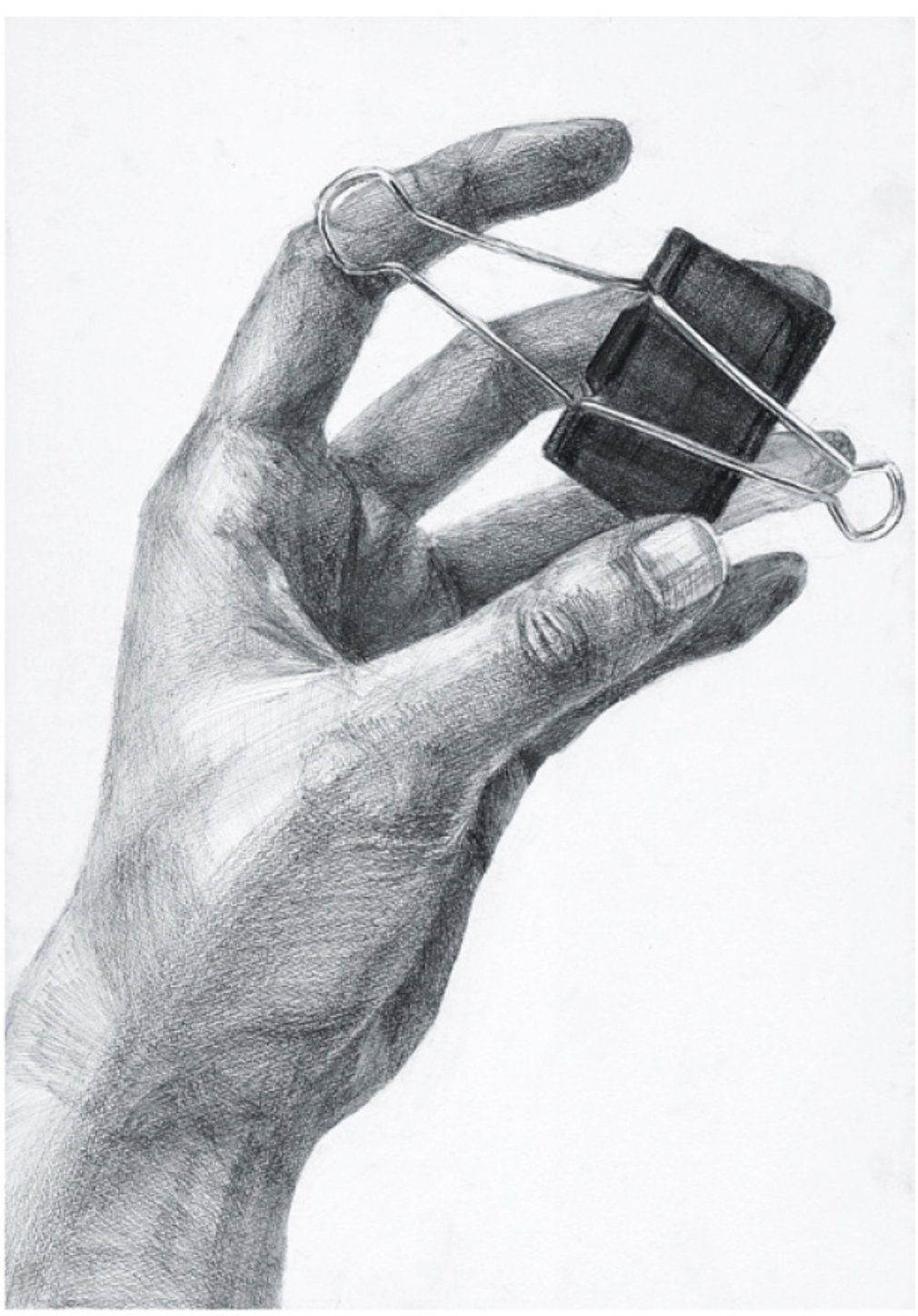
《評価コメント》
窓をあけてみると雨に濡れた紫陽花がくっきりと咲いています。窓のガラスに映っている紫陽花は雨に濡れているようです。窓ガラスによるややアンシメトリーな紫陽花の表現によって、雨の日の情景を表現しているシンプルで秀逸な作品となっています。



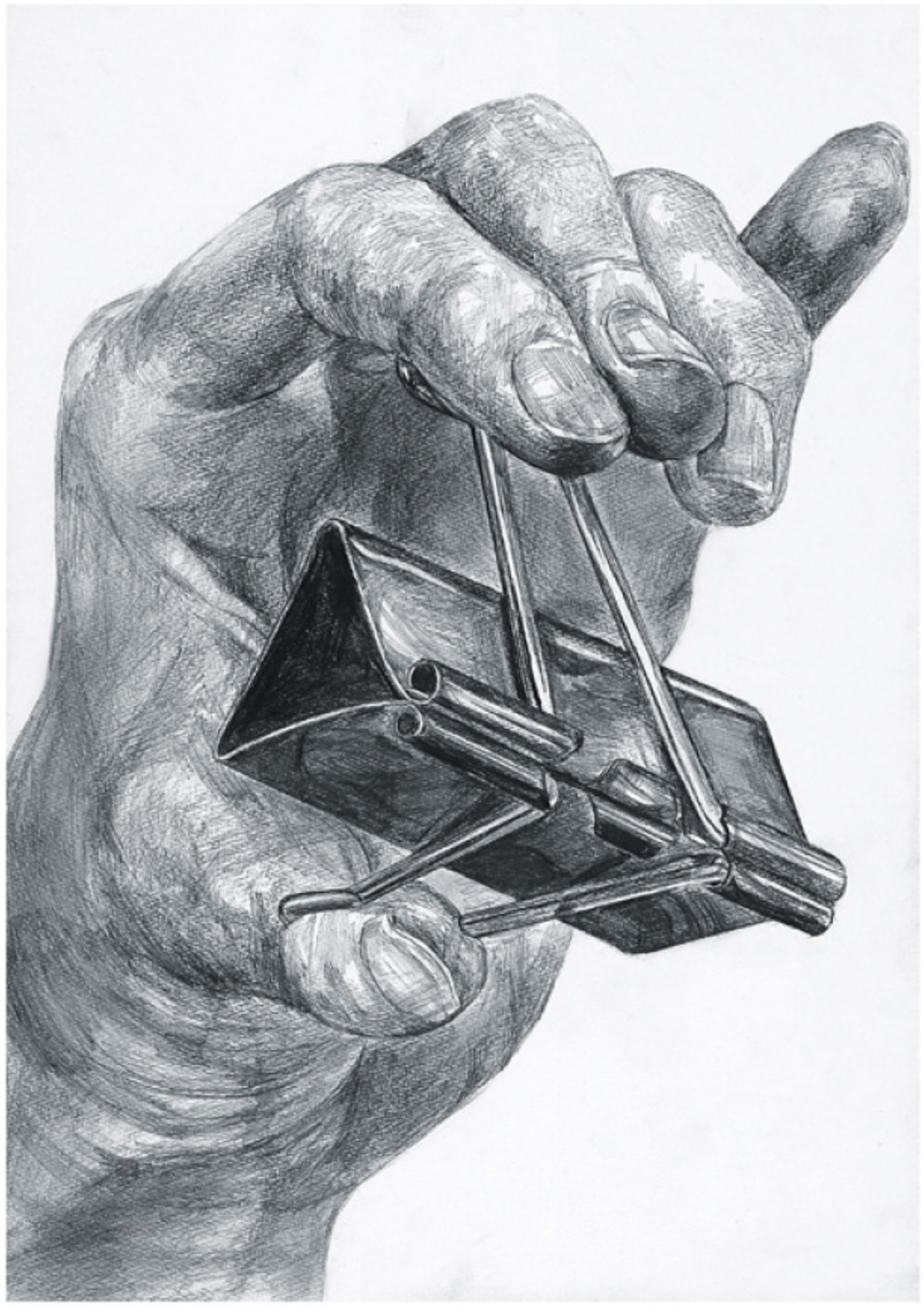
《評価コメント》
傘の先と傘の雫という現象が、ジオメトリックに表現されています。傘にあえて色をつけなかったことも効果を生んでいます。リズミカルな構成で楽しい気持ちになる作品です。

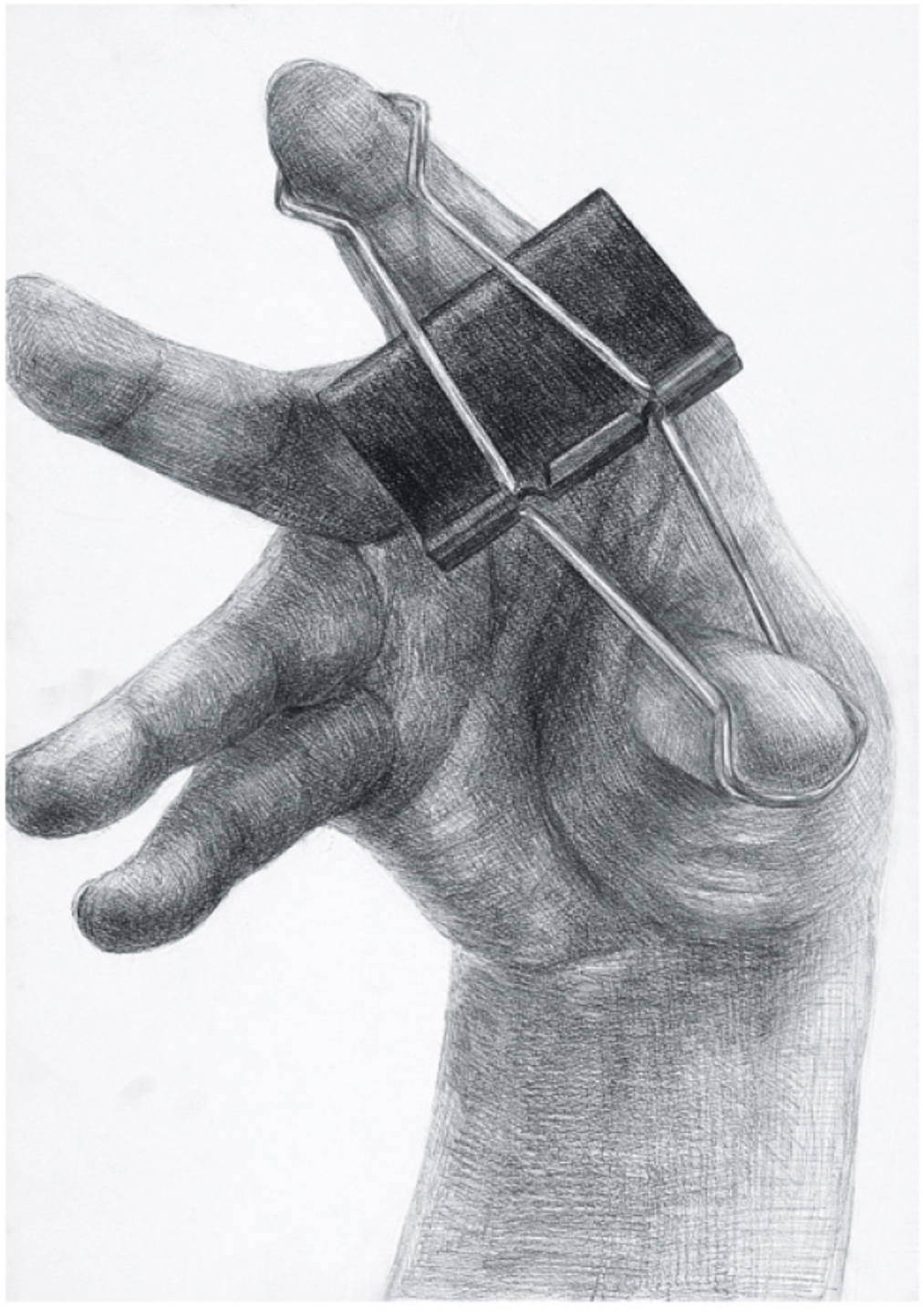


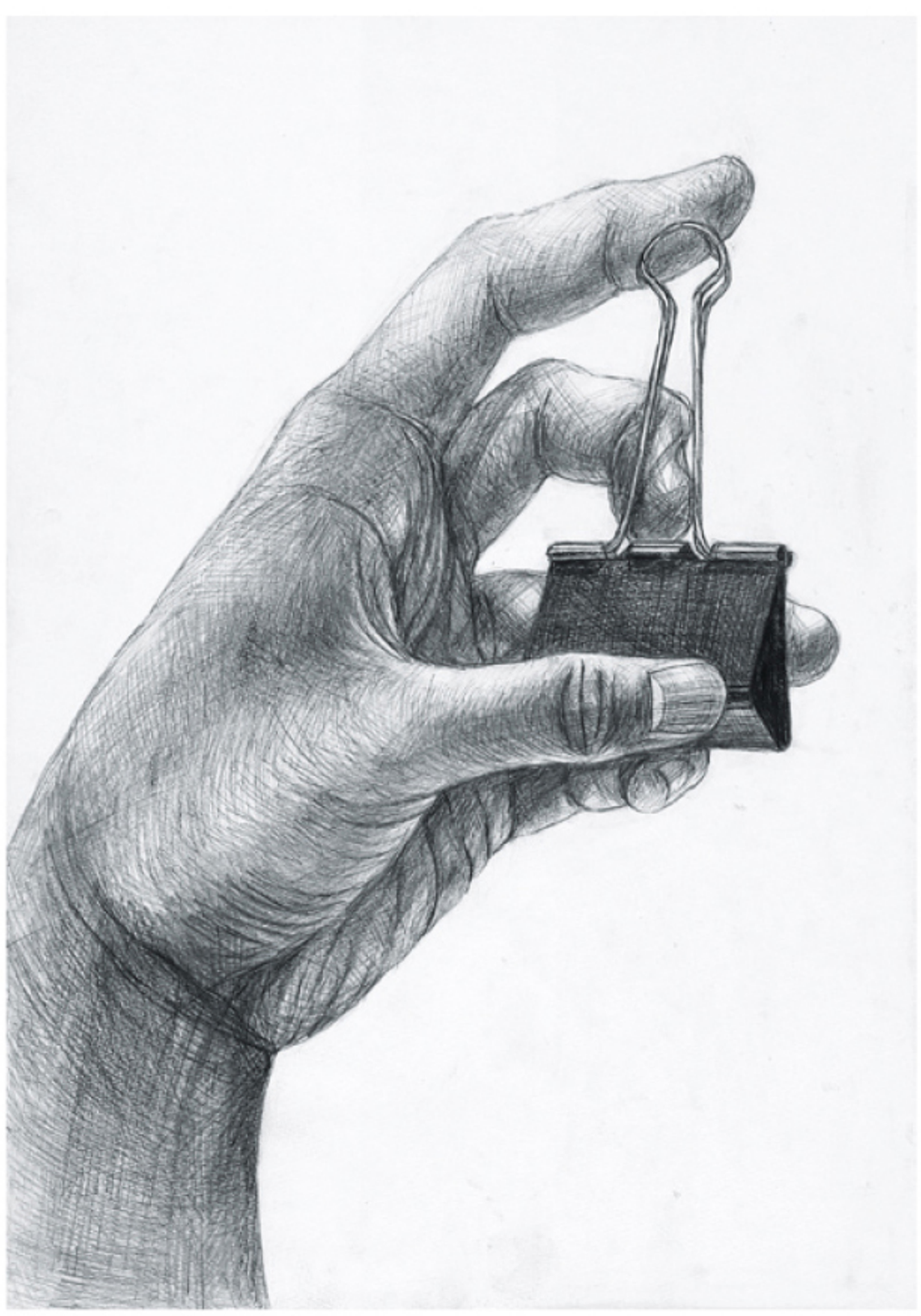














美術学部
芸術学科

2016年度入学試験　掲載作品は合格者より選定

募集人員

35名（一般方式15名／センターⅠ方式10名／センターⅡ方式10名）

入学試験科目・配点・日程

●専門試験

小論文または鉛筆デッサン［言葉によるデッサンを含む］

・配点=一般方式300点／センターⅠ方式300点
　　センターⅡ方式　本学での専門試験は課しません

・日程=2月5日（金）

※出願時に小論文または鉛筆デッサンのいずれかを選択

●学科試験

一般方式

・配点=英語200点

センターⅠ方式

6教科28科目から2教科2科目を選択 各100点

センターⅡ方式

・配点=国語200点／英語200点／
4教科22科目から1教科1科目を選択 100点

※学科試験の詳細はp118を参照。

※センターⅡ方式は大学入試センター試験のみで合否判定をします。

●専門試験

小論文（90分）

[問題 1]「記憶のなかの人」について、350 字程度で自由に論じなさい。

[問題 2]「音」について、800 字程度で自由に述べなさい。

鉛筆デッサン［言葉によるデッサンを含む］（3時間）

与えられたモチーフを自由に変形し組み合わせて、ある立体物を形成し、それを鉛筆でデッサンしなさい。
また、イラストボード裏面の記述答案用紙には、形成した立体物の状態を、600 字以内のなるべく客観的な文章で記述しなさい。



【条件】

・形成のしかたは自由。
・モチーフのほか、なにも付加してはいけない。
・イラストボードは縦位置でも横位置でも使用可とする。
・イラストボードは用紙全体を画面とする。
・指示があってから、記名票上のどちらかの矢印を○で囲み、上の方向を示すこと。
・記述答案用紙は、縦書きでも横書きでもよい。

【注意】

1. 描き終えたイラストボードと記述用紙は切り離さないでください。
2. モチーフの持ち帰りはできません。
3. 出題の内容に関する質問にはお答えできません。

※使用紙：サンフラワーペーパー（M 画）MM ボード（A3）

●出題のねらい・意図・採点のポイント

実技試験は、小論文と鉛筆デッサンの選択制（出願時に選択）です。

小論文

「問題 1」では、設問について、自分の考えを簡潔に記述できるかという、基本的な要約力と文章力が、採点の重要なポイントとなります。
「問題 2」では、知識よりも思考力や観察力、想像力や発想力、そして論旨の明確さが採点の重要なポイントとなります。いずれについても、うわべだけの知識や無関係な感想、まちがった漢字や言葉遣いは評価されません。 自分の眼で見、自分の心で感じ、自分の頭で考え、自分なりの文章を書く。それが肝心です。

鉛筆デッサン［言葉によるデッサンを含む］

芸術学科では「理論と実践」を骨格とするカリキュラムを編成してきましたが、理論の実践者や美術の教育者を育成するには実技を学ぶことも必要と考え、各種の実技科目を設けています。このカリキュラムに対応して、入試にも選択制で「鉛筆デッサン」を設けています。また芸術学科では、デッサンの技術を求めるだけでなく、眼で観察したものを言葉で「記述」することも求めます。こうした記述は、美術等の作品を研究したり批判するさいの基本的な作業にもなります。そこで、芸術学科の鉛筆デッサンの入試では「デッサン＋文章」を総合的に評価します。 鉛筆デッサンでは基本的なデッサン力、自らつくるモチーフの構成力、観察力があるかどうか、またそれを客観的な文章で表現する力があるかどうかが採点の重要なポイントとなります。出題意図からはずれた恣意的エッセイや「記述」をしていない文章は評価されません。

●センターⅠ方式のねらい・意図・採点ポイント

芸術学科は、大学入試センター試験利用入試において、センター試験 2 科目（6 教科 28 科目のうち、2 教科 2 科目）に加え、一般入試と同じ実技（小論文または鉛筆デッサン［言葉によるデッサンを含む］のいずれかを選択）を課す試験を行いました。これから芸術の研究を志す人たちの総合力を図りながら、芸術に対する考え方や実技と理論を包括的に捉える力を評価するためです。センター試験を 200 点、実技を 300 点としています。

●センターⅡ方式のねらい・意図・採点ポイント

芸術学科は、大学入試センター試験利用入試において 3 科目（国語・英語とそれ以外の 1 科目）を課してきました。これからの芸術の研究を志す人たちには、各科目のバランスのとれた総合的な学力か必要だと考えてきたからです。
芸術学科独自のカリキュラムをふまえながら、「国語」と「英語」をそれぞれ 200 点としています。

小論文「問題1」

記憶のなかの人というのは、おぼろげで美化されている。
記憶は時とともに風化し、だんだんと希薄になる。しかし、私達の脳の中には色濃く残っているものがある。これは当時の記憶がそのままの状態であるのではなく、欠けた所にその人の思いや願いが入り込んでいるからだ。脳内は誰にも縛られない場所であるから、自分の幻想を記憶の中に混ぜこんでしまうのだ。
だから、記憶のなかはおぼろげだ。完全に事実のままのものはないからだ。そして自分の思いが詰めこめるので、人は当然それを良い気分になるものにしようとして美化する。ゆえに記憶のなかの人は思い出すたび、私達を傷付けない。夢で一杯の優しい世界へ連れて行ってくれる、とびきりやわらかな空想の人である。

記憶のなかの人とは、今の自分をつくりあげてきたものの一部である。これは大きな影響をうけ記憶に残っているものなので、実在するかしないかは関係ないと私は考える。
私は、幼い頃よく遊ぶ女の子の友達がいた。その女の子とはいろいろな話をして、時には説教をされたこともあった。年を重ね成長していくうちに、女の子の存在は忘れた。しかし、ある日ふと思い出し、女の子の行方を親に尋ねると、その女の子は私が想像でつくりあげた友達だった。私の記憶の、幼い頃遊んだ女の子の思い出は、自分のつくりあげたものだったのだ。
記憶のなかの人とは実在する人のみならず、自分に大きな影響を与え、自分をつくりあげてきたものの一部であると考える。

私は何か悩み事があるとき、いつも母方の祖父に相談している。そうすると、祖父はいつも私に「なるようになる」と笑いかけてくれるのだ。
そんな優しい祖父は十年前に亡くなった。私はまだ小学生だったため、顔や声をはっきりとは覚えていない。けれども、あの暖かさは覚えている。
最近、やけに祖父のあの暖かさが恋しくなる。そして私は、私の中にいる祖父に向かって自分自身の心の内を話すのだ。友達でもなく、兄弟でもなく、両親でもない祖父に。そうすると祖父は私に笑いかけ、こう言うのだ。「なるようになる」。

私は頻繁に、物語のない、ただ普通に街の風景を自分自身が見ているという夢をみる。その街は現実では見たこともない、何も知らない街であって、またそこを行き交う人々も見覚えのない人々だ。
そんな夢の中で何度も私の前を通り過ぎる男性と女性が三人いる。いつもと変わらず真顔でまっすぐ前を見ながら、見覚えのない駅の方へ向かってゆく。いつもその瞬間に私は目を覚まし、夢の中での記憶をたどりながら懸命にその三人の顔の細部を思い出そうとするが、ぼんやりとしたままだ。不思議なことに、現実で道行く人を誰かに似ていると思う瞬間、大概その夢の中の人達の誰かに似ていることに気付き、実際に存在するのかもしれない不思議な三人についてあれこれ考える。そしてまた私は夢の記憶の中で人々に再会する。

小論文「問題2」

私にとっての音は様々な場面場面を思い出すための入口のような存在であり、またこれから蓄積されてゆく記録の装飾でもある。

日々の生活の中でふと聞こえてくる、何気ない子どもたちの叫び声や、はたまた家の中で皿や鍋を洗っている時に皿の上を水が走る何とも表現のしにくい音。意識のある時に聞こえてくる全ての音は私の頭の中に記憶され、その瞬間を思い出そうとするその日まで静かに待機している。

ついこの間、家で本を読んでいた時、台所で片付けものをしていた母の明るい鼻歌が耳に入ってきた。初めて聴いたメロディーにも思えたが、どこかで聴いたことのある様な感じもしていた。しばらく呆然と本を読むのをやめて聴いていると、いつもの定位置に入れづらそうに、引き出しと鍋があたる金属音が聞こえてきた。その時、一瞬にして私は、十何年か前の音楽発表会のスピーチ練習をしているときに引き戻された。

その当時、神経が細かく心配性な私は気が狂ったかのように、スピーチ内容を呪文の様に繰り返し練習していた。心配で泣きたいくらいの心情で、横では母の存在を認識できる雑音や鼻歌を耳に入れながら、どこかで安心も得つつ呪文のように練習をしているのだった。

そんな事を思い出しながら、今もなお無意識のうちに時には雑音としか思えない音が聞こえてくる、けれども安心を得られる場所を好んで選んでいる自分に気付いた。

このように、過去の何気ない場面を思い出すと同時に、小さい時から変わっていない自分の部分に気付かされた瞬間が、過去の思い出の上に乗り合わさって、今も変わりなく聞こえてくる雑音や鼻歌、全ての音が記憶を装飾し、頭の中で静かにまた待機する。

私は街の音が好きである。人を待ったり通学している間はイヤホンをせずに町の音に耳をすましている。カラスの鳴き声や車の音を聞きながら、あのカラスは「最近寒いね」なんて世間話をしているのだろうか、最近の車は本当に静かに走るなあ、なんて思ったりする。

数年前、祖母がまだ独身だった頃に暮らしていた柴又を訪れた。そこでは何やらずっとトントンと何かを切る音がしていて、私はなんなのかわからなかったのだが、祖母が「アメ屋の音だわ」と言って足早に歩きだした。後をついて行くと、店先で金太郎アメを切っている所に辿り着いた。祖母はそれを見て懐かしんで、お店の人と会話を楽しんでいたが、私は驚いた。六十年近く前のことを、たった一つの音で思い出せるのかと感激した。

今、私が聞いている町の音も、もしかしたら半世紀以上後に思い出を引っ張り出してくれるのかもしれない。日常生活の中では気にしない音も、自分の知らない間に頭が勝手に覚えてしまっているのではないかと思わせられる。私がこれから長い長い人生を過ごして、新しい家族と今住んでいる町を訪れた時に、昔と変わらない音を聞いて少女時代を思い出す時が来るんだとしたら、それはとても面白いことだ。音が時空を超えて人と場所を再び結ぶのだ。

そう考え出すと、学校の帰り道に聞こえる子どもたちの声も、誰かが自転車をとめる音も愛おしくなってくる。全てのなんでもない音が、どんな音楽よりも私を楽しい気持ちにさせる。プロのオーケストラの音楽や、ストラディヴァリウスの紡ぎだす音ではなく、日常の町の音にも人の心を明るくする効果があると私は考えている。特に、なんでもない日常で聞こえてくる町の音というのは、どこかあたたかく、幸せで、懐かしい。

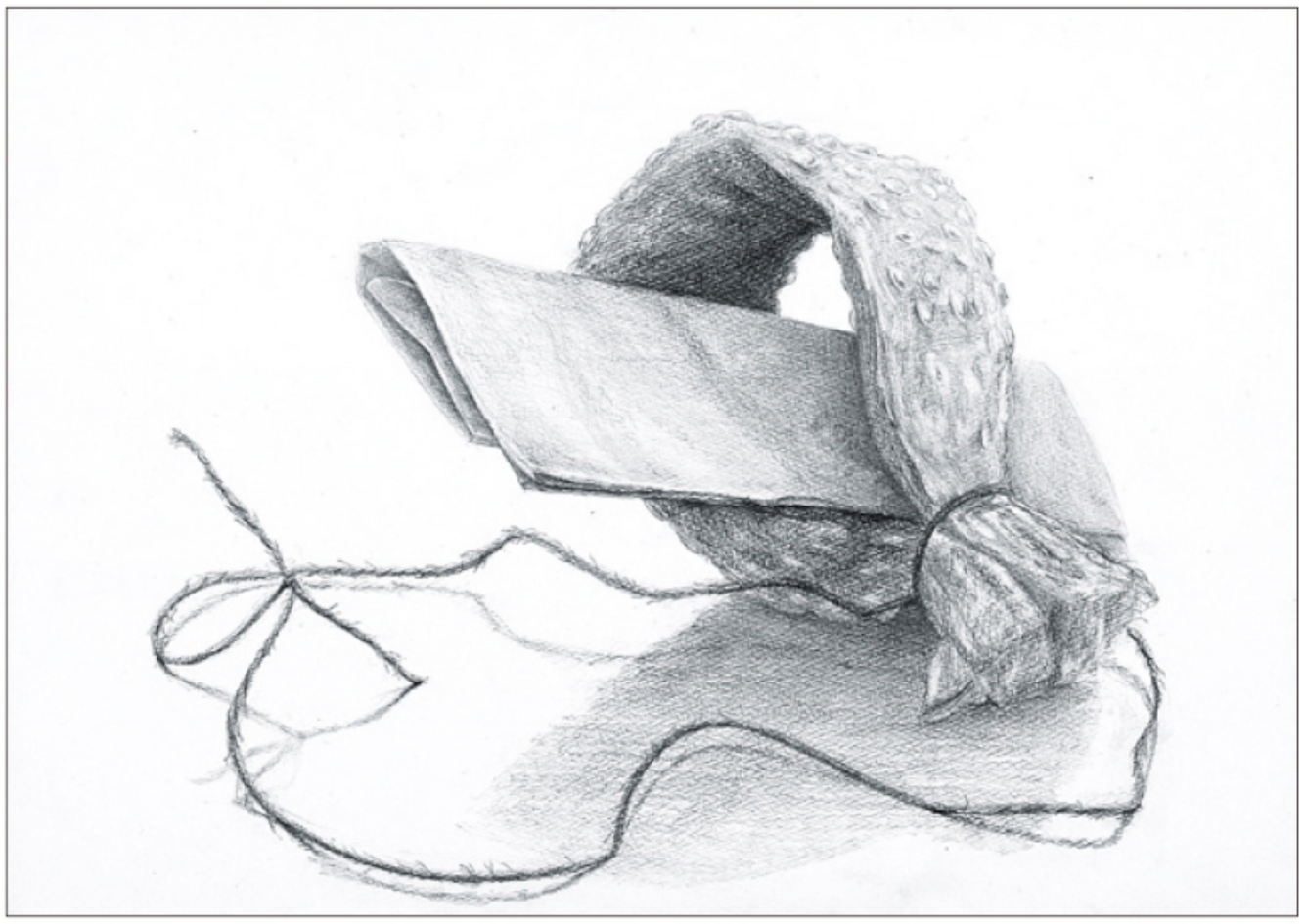
声とは、音の一つに分類され、また「音」という存在は力を持ち合わせ、微かな差異によってその意味と表現の強さを変化させるのではないだろうか。

人類が進化の過程で獲得した最大の武器は、言語能力である。詳しく言えば、他の動物の鳴き声が「動詞」と「主語」のみの単調な意思交換であるのに対し、文法を有するのが特徴であるという。言語が多様に存在する現代においても、文法を理解する器官は全人類が同様に有している。

これ程までに高度な生命体が出来上がったのは、人類の祖が、音に長けた種族であったのではないだろうか。オーケストラの演奏を聞くと私は武者震いを起こすことがある。私は音楽の知識がないが、楽曲の盛り上がりには気分が高まり、おどろおどろしい曲調に恐怖するのは、オーケストラという「音」が言語同様の力を持ち、それに私の文法を理解する器官が高揚感へと変換しているのだ。

また、暴言を与え続けたリンゴと、優しげな言葉を受けたリンゴがその成長に差をつけたり、狼の遠吠えに羊が逃げおおせる等、他の動植物も少なからず「音」の持つ力に影響されている。にも関わらず、人間だけが「音」の力に対して強く反応するのは、やはり人間の有する構造が、音の力を最も効率良く変換していることの表れなのだ。

大気がある中の全てには「音」が存在する。音が有する力を声に変換して、他人に影響を及ぼすのは明らかだ。高度な知能によって多様化した音を、世界の為、他人の為、自分の為に使うか、音の力を再確認しなければならない。



プチプチを小さく円を作るようにしており、その空いた空間には、長方形に折りたたまれた薄い紙が入っている。その空間と紙の間にはわずかに光が差し込んでおり、印象的である。プチプチの上面は光が当たりキラキラと輝いている。折りたたまれている紙は重なりの厚いところから薄いところまでの色の違いがあり、元が薄い紙なのだとわかる。モチーフの中で一番表情が豊かなのが麻ひもである。前と奥にうねりながら結びついている。結んだ後も一つは上へ、もう一つは下へと互いに同じ向きではない。光は上から来ており、モチーフの下に影は落ちている。一番暗いところは麻ひもと机の設置面である。また、プチプチの影は麻ひもの設置の影と比べ、やや明るい影であるので、プチプチの設置面はより奥にあるというのがわかる。



麻糸によって包装材と茶色の薄紙が強くしばられ、横たわっている。向かって右側は、包装材と薄紙が複雑に丸められ、軽い素材でありながら重量感を感じられる。また、糸でしばり上げられていることで、紙と包装材の複雑な関係がまとめられている。糸が交差して飛び出た正面の紙は、単調になっているモチーフと床との接点のアクセントとなっている。しばり上げられた糸の端を奥に設置し、画面の中で奥行きをプラスした。その糸の端から生まれた影が手前に伸び、丸められた包装材と紙の影に合流しようとしている。糸でしばられていない向かって左側は、加わる力も無く、大きく広がっている。右側の糸でしばられている方は、紙と包装材が複雑に重ねられているのに対し、左側は紙が包装材に幾重にも包まれ、また単調なリズムで置かれている。しかし、包装材が繰り返し折り重ねられている事で透明ではっきりとした形が少なくなり、面と面の関係性がより強調された。そんな包装材の中に真っ直ぐ薄い紙が伸び、メリハリがついている。全体を一つの塊で見ると、魚のような形にも、花束のような形にも見える。紙と包装材のぼんやりとした色合いを、糸でしばることによって、一つにまとめられている。

美術学部
芸術学科（公募制推薦入学試験）

2016年度入学試験　掲載作品は入学者より選定

募集人員

5名

入学試験科目・配点・日程

●専門試験

課題

・配点=100点

小論文

・配点=100点

・日程=12月18日(金)

面接

・配点=100点

・日程=12月19日(土)

●専門試験

課題（出願時に提出）

「空想の○○○」のプロデューサーとして自由にプランを企画してください。

【条件】

・表紙（A4 縦 1 枚に横書き）に、「企画タイトル」、「氏名」を記入してください。

・①「企画タイトル」、②「意図（500 字程度)」、③「内容（1500 字程度)」を A4 縦数枚に横書きでまとめてください。

・課題の用紙下部にはページ番号をつけてください。

小論文（90分）

「かたちと影」について、1,200 字以内で自由に論じなさい。

●出題のねらい・意図・採点のポイント

課題

独自の企画を構想し、プロデュースする力、そして企画内容を文章として人に伝える表現力が判断基準となります。各自の関心に基づいた、自由で柔軟な発想を期待しています。

小論文

出題内容を正確に理解し、論述の着眼点が的確であるか、論旨は明確で説得力があるか、文章を構成し、まとめる力があるか、といった点が判断基準となります。常識的にまとめあげた文章より、テーマに踏み込んだ独自の発想を期待しています。

面接

芸術学科で何を学びたいか、受験生の知的好奇心や学業および芸術への熱意、将来の展望、等を質問し判定します。また事前課題についての質疑応答も評価の対象となります。

提出課題タイトル

・Connect the space- 扉展

・デザインの記憶展

以上２点（順不同）

提出された課題を芸術学科ホームページで公開しています。

［芸術学科ホームページ］ http://www2.tamabi.ac.jp/geigaku/admission/koubo/

影ほどにかたちを美しく捉えることの出来る存在はあるだろうか。影はそのもののかたちを純粋に私達に示す。光のようにすべてをあらわにし、さらけ出すのではなく、とろけるような〝輪郭〟だけを映し出し、その他の不要な部分はその深い黒の中へ隠してしまうのだ。

私達は普段、もののかたちが影として出る、つまりかたちありきで影が出来るという考え方をしていると思う。実際デッサンなどをしていても、まずは物体のかたちを描き、それに合った影を描く。しかし、古代の人々、特にエジプトの人々は違った考え方をしていたようである。

彼らが作ったピラミッドは、その圧倒的な存在と美しさで全世界に知られているが、あのピラミッドは美しい影になるようにかたちが作られている。つまりデッサンで言うと、影を美しく描いたあとで、その影になるように物体を描いた、といった具合なのだ。彼らは特定の日にそのピラミッドの影が意味を持つように考えてピラミッドを作った。私達はその大きさや高さにばかり気をとられているが、本来もっと注目して見るべきは、かたちではなく、そのかたちが作る影なのではないだろうか。

また、イギリスにあるストーンヘンジも同様に影を重要にしているものだという説がある。ストーンヘンジもまた、外見のかたちではなくそこに映し出される影こそが占いに使われ、大きな意味を持っていたのだ。

古代人は影こそがかたちを支配していることに気付き、その美しさに気付いたようだが、現代人ももちろんそれに気付いている。その根拠は影絵だ。

影絵はまさにかたちと影の関係を明確にし、私達にかたちが影に支配された時の美しさを示すものだろう。影になる前のかたちは言ってしまえばどうでも良いのだ。たとえダンボールでつぎはぎされたかたちでも、それを影が深い闇の中へと隠してしまうから問題ない。逆に言えば、その美しい影をつくる為なら、はじめのかたちはいくら醜くかろうと良いのである。それが影ありきのかたちなのだ。

そしてこのことに気付いた画家がいる。それはピアズリーだ。彼はサロメの挿し絵がとても評価されているが、彼の絵はまるで影のようである。黒々と塗りつぶされたことで、よりそのかたちを美しく絵の中におさめている。不要な線は何もなく、純粋なかたちの美しさがその影のような塗りつぶしによって掘り起こされているのだ。かたちをそのまま捉えるのではなく、影を通して捉えていることで彼のかたちはより美しく昇華している。

このように影はかたちの美しさをより純粋にする。影によってかたちは洗練されたシンプルな輝きを持つ。かたちを影によって捉えることで、私達はよりかたちの美しさと向き合い、出会うことが出来るのだ。

私にとって「かたちと影」というものは、光がないと確立することができない、ひどく曖昧なものだ。

私は夜、電気を完全に消して眠る。その時視界に入るものは全てが暗闇の中にあり、かたちも影も何も認識することができない。のどが渇いて水を飲みに行くという簡単な動作でさえままならない。今、自分が部屋のどこを歩いているのか、水は、コップはどこにあるのか、全てがこの暗闇の中で何も分からない。なので、私はそのために、照明の電気をつける。そうすると、光ができる。光ができると、かたちも影も見えるようになり、認識ができるようになる。こうして、私は水を飲みに行くために部屋を歩くことができ、水もコップもどこにあるのかが分かるようになる。そして、水を飲みに行くことができるようになるのだ。とても当たり前のことだが、このように光は私に正しい認識を教えてくれる。だから、私には「光」が必要不可欠だ。それと同様に、「かたちと影」にも「光」というものは、絶対になくてはならない重要なものだ。

なぜ、「光」が「かたちと影」になくてはならないものなのか。それは「かたちと影」を認識する時に、「かたちと影」が「光」に依存しているからだ。かたちを認識する時、触覚でもできるが大多数は視覚で認識をしている。影は完全に視覚でしか認識ができないものだ。だが、視覚というものは光がないと機能しなくなってしまう。したがって、かたちも影も認識できなくなってしまうのだ。このように、「かたち」は光がなければ濃いほど、「光」に対する認識も濃く、強くなる。「光」にとっても「かたちと影」はなくてはならないものだ。それはつまり、「光」と「かたちと影」は互いに依存しあっている、共依存の関係があるのだ。

私には正しい認識をするために「光」は必要なものであり、それと同様に「かたちと影」も必要だ。これらの片方でも欠けてしまうと正しい認識ができなくなってしまう。このひどく曖昧なもの達は、互いがいないと成立しなくなってしまう。「かたちと影」と「光」が両方あって、はじめて私の認識も成立するようになる。私は正しく認識をするために、これからもこの「かたちと影」と「光」を追っていくのだろう。そしてこの先も私は、この曖昧な二つの物事の関係性を、自分の認識で正しく捉えてみたいと思う。

美術学部
統合デザイン学科

2016年度入学試験　掲載作品は合格者より選定

募集人員

120名（一般方式 70名／センターⅠ方式 50名）

入学試験科目・配点・日程

●専門試験

鉛筆デッサン

・配点=一般方式150点／センターⅠ方式100点

・日程=2月9日（火）

構成表現

・配点=一般方式150点／センターⅠ方式100点

・日程=2月10日（水）

●学科試験

一般方式

・配点=国語100点／英語100点

センターⅠ方式

6教科28科目から2教科2科目を選択 各100点

※学科試験の詳細はp118を参照

●実技問題

鉛筆デッサン（5時間）

「重さ」をテーマに手をデッサンしなさい。

描かれた手から浮かび上がる言葉を10字以内で別紙にあらわしなさい。

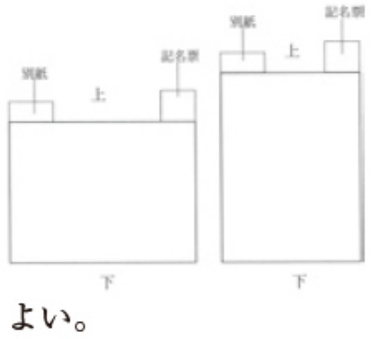
【条件】

・手以外のものが必要な場合はそれを描いてもよい。

・B3ボード全面を画面とし、ボードの向きは縦横自由とする。

・手の大きさや描かれる位置はどこであってもよい。

・右図のように、記名票は自身で設定した向きの右上になるように貼り、言葉を書いた別紙は左上になるように貼ること。



【注意】

1. 支給した鏡は補助用具です。
2. B4の紙は下書き用紙です。
3. 出題の内容に関する質問にはお答えできません。

※補助用具として鏡を支給

※使用紙：クレセントボード310（B3）

構成表現（5時間）

立方体および面状の物体を組み合わせて構成表現をしなさい。

【条件】

・面状の物体とは、例えば、板、紙、布などの平面的な物体をさす。

・立方体および面状の物体には、素材の特性に応じた変化を加えてもよい。

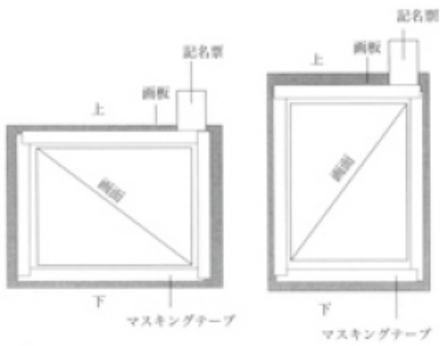
・立方体および面状の物体の個数は自由。

・立方体および面状の物体以外のものは加えてはならない。

・白く見せたい部分も白で塗り、未完成でないことを示すこと。

・用紙の中央、450mm×350mmを画面とし、用紙の方向は自由とする。

・記名票は右図のように自身で設定した用紙の向きの右上になるよう



に貼ること。

【注意】

1. 作品が波打たないように、右の図のとおりマスキングテープで用紙の4辺を画板に貼って制作してください（テープは試験場内にも用意してあります）。また、制作終了後はテープをはがしてください。
2. B4の紙は下書き用紙です。
3. 出題の内容に関する質問にはお答えできません。

※使用紙：BBケント（荒目／B3）

●実技問題出題のねらい・意図

鉛筆デッサン

デザイナーの基礎能力である「観察力」や「描写力」を見るため、その場で観察できる手をモチーフにしたデッサンを行っています。更に作品として表現するに至った考え、ひらめきといった「視点」や「発想力」を見るため、手のかたちや表情に関係する言葉を10文字に表しています。言葉は奇をてらう必要はなく、自分が思い描くイメージを短い言葉に整理することが必要です。この出題は単に見えたものを描くだけではなく、どういった世界を画面に表現しようとするのか、そしてそれがきちんと見る側に伝わってくるかを評価しています。言葉によって手は思わぬ表情に見えたり、余白が状況を見せたりするようになります。しかし、それ以上に画面をどのように構成し、形、光、量感などをどのように描写するといった力が最も重要となります。単なる手のデッサンが、言葉によって意味を持ってくる、その見えない繋がりの発想と具体化する力を評価するのです。

構成表現

今年度の課題は、昨年度から続くモチーフである「立方体」に対して、「面状の物体」を組み合わせる所がポイントになります。したがって、各物体の素材設定も重要ですが、それ以上に、形態や特性の異なる物体を互いに組み合わせることによって初めて生み出される現象に着目した、「物体の相互作用に対する発想力」を高く評価しました。

一方で、単なる現象の描写で終わるのではなく、アイデアがもっとも効果的に伝わるようにするために、必要な要素を取捨選択し、整理した上で画面を組み立てる「構成力」や、美しく魅力的な作品を仕上げる「表現力」、最終的にそれらをまとめ上げる「統合力」が重要であることは変わりません。今回、過去の参考作品に類似した作品が多かったのですが、今後は、前例にとらわれず、出された課題でしか生み出せないようなアイデアに基づいた、新鮮なイメージを生み出す積極性を受験生には強く求めます。

●実技問題採点のポイント

鉛筆デッサン

理解力 ＝ 問題の把握・理解が正しいか。

観察力 ＝ 日常の気付きからアイデアを導き出しているか。

発想力 ＝ イメージを具体化するアイデアが優れているか。

描写力 ＝ 構図、形、光、量感などを描写することに必要な技術が優れているか。

視　点 ＝ 事象を捉える感覚とその表現が適正で感性に優れているか。

構成表現

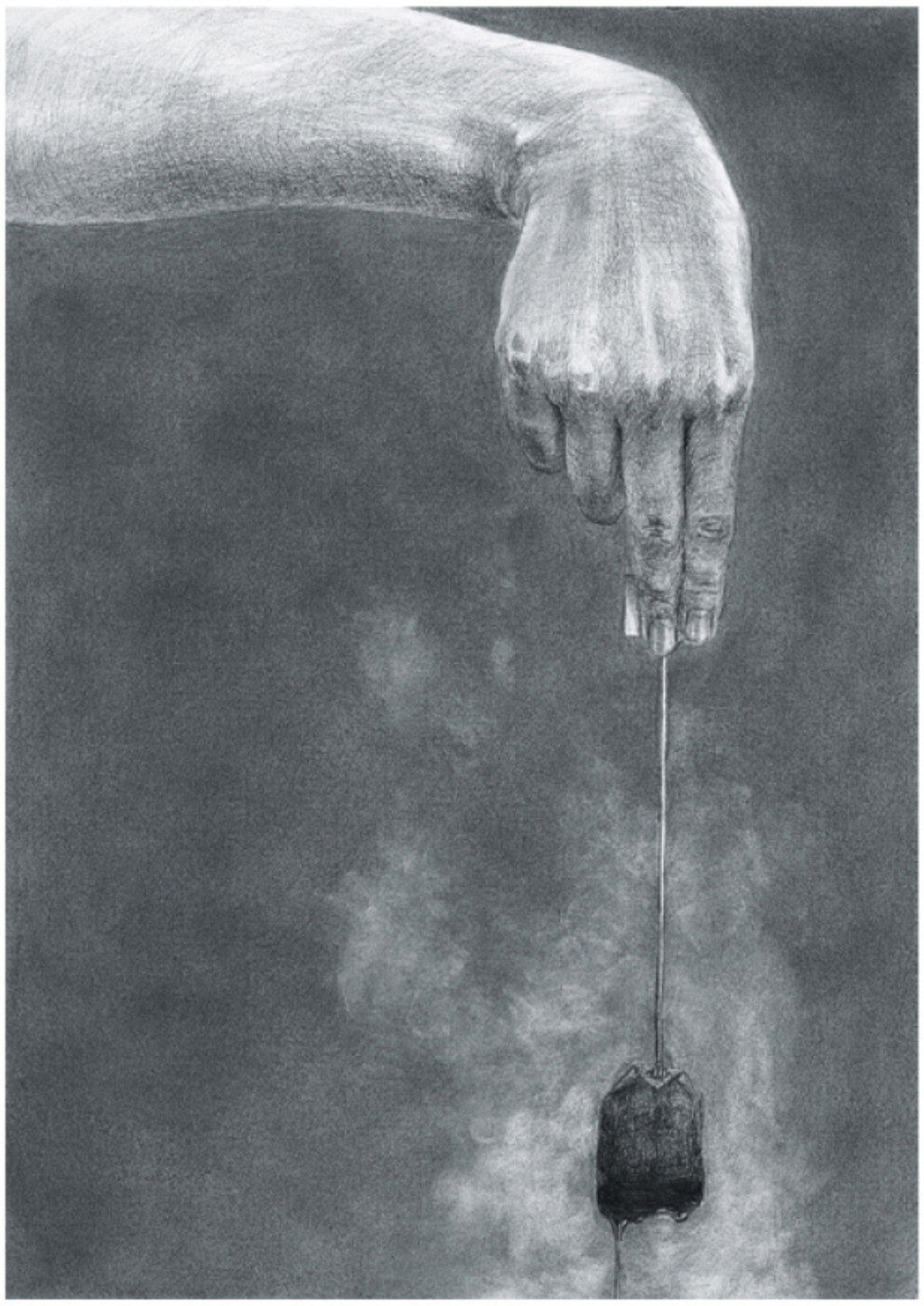
理解力 ＝ 問題の把握・理解が正しいか。

発想力 ＝ 課題を具体化するアイデアが優れているか。

表現力 ＝ アイデアを明確で適正な構成により美しく、かつ破綻なく整理しているか。

分析力 ＝ 出題内容についての自分なりに捉え、思考する力があるか。

統合力 ＝ 与えられた課題に対し、発想、分析、表現が効果的に絡み合って作品の質をたかめているか。



水を含み重みが増す。



一人にかかる重み



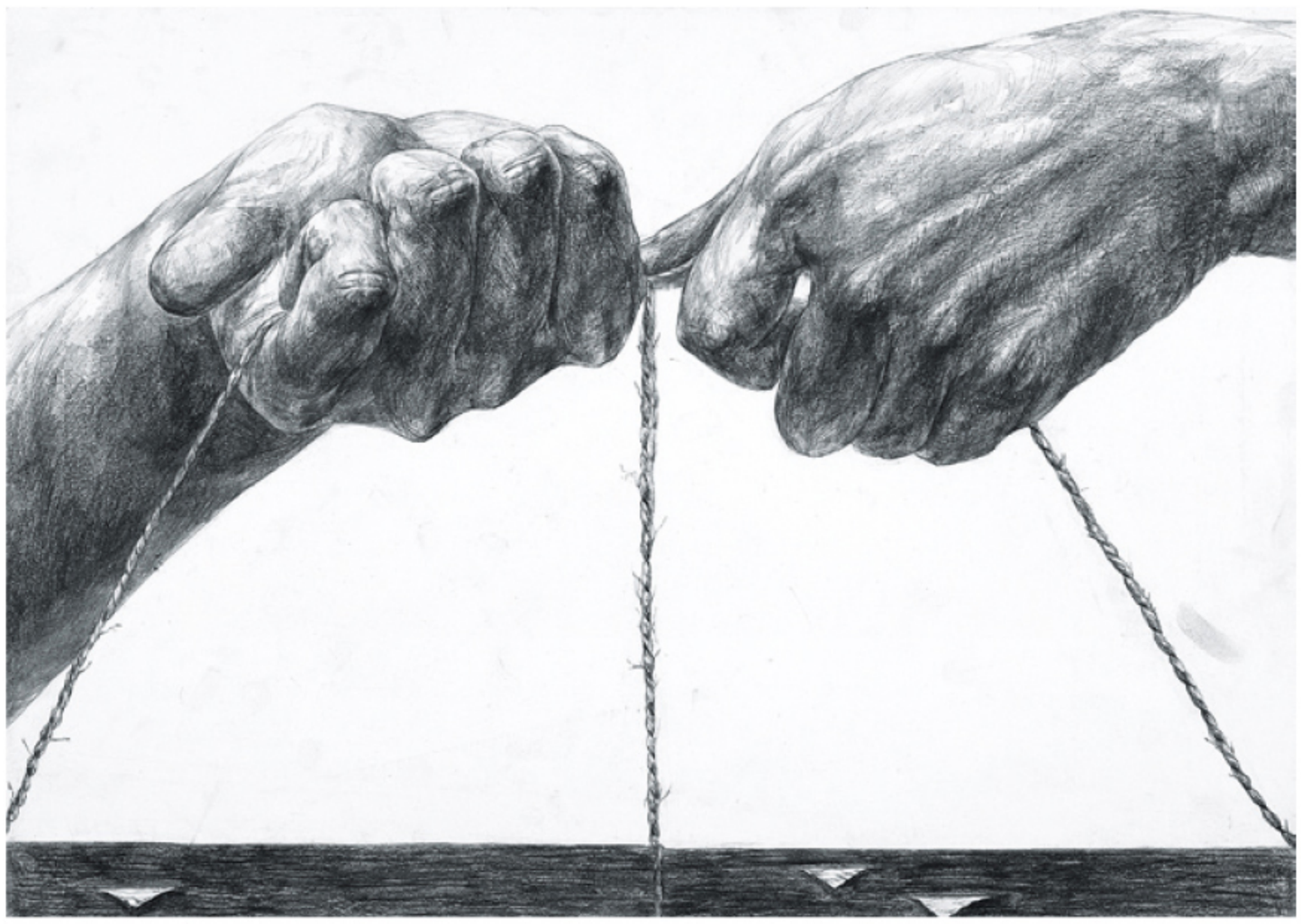
指いっぽんでは…



彼女と買い物



そうじ時間の机運び



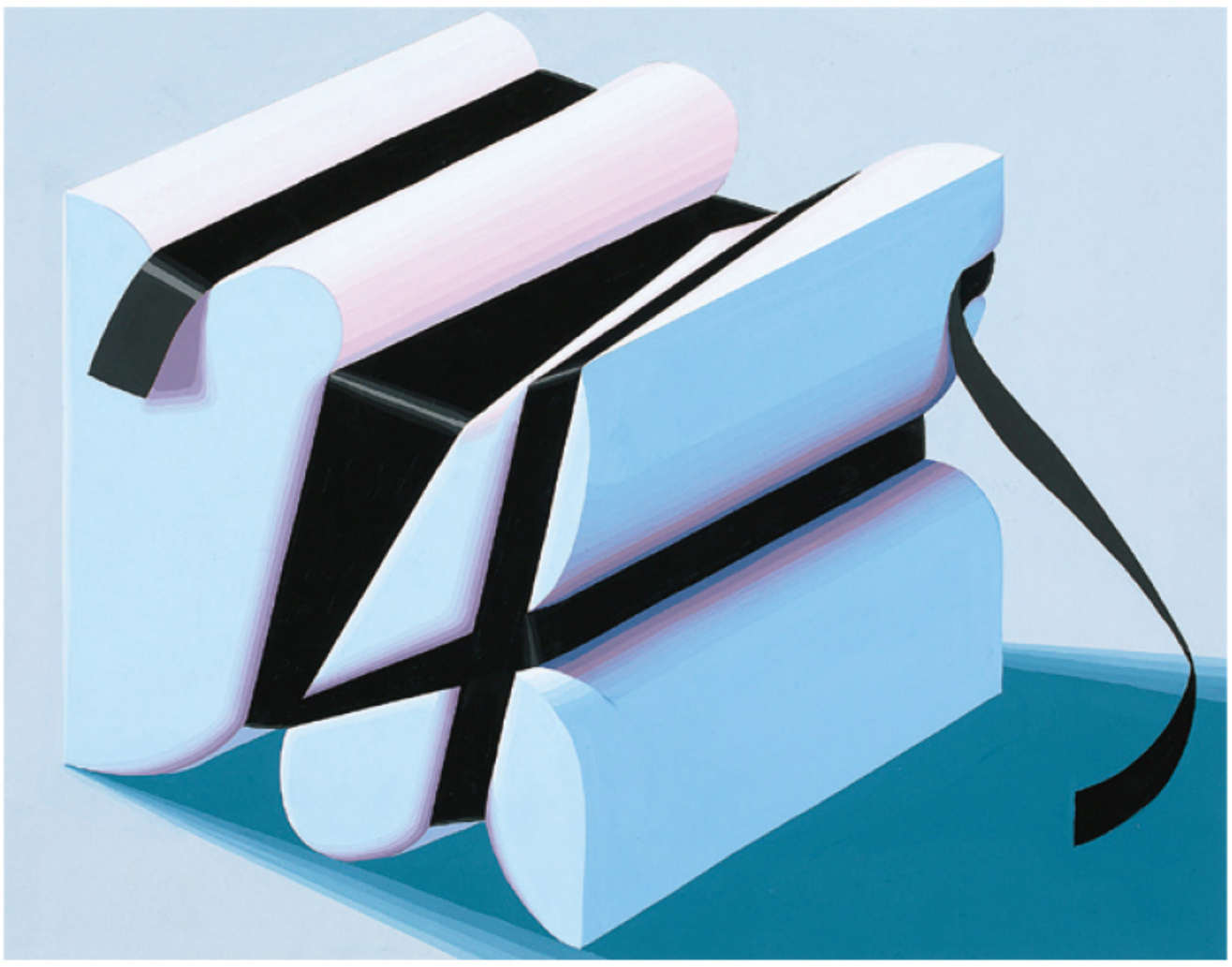
重みに悲鳴あげる



重い荷物を軽々と持つ

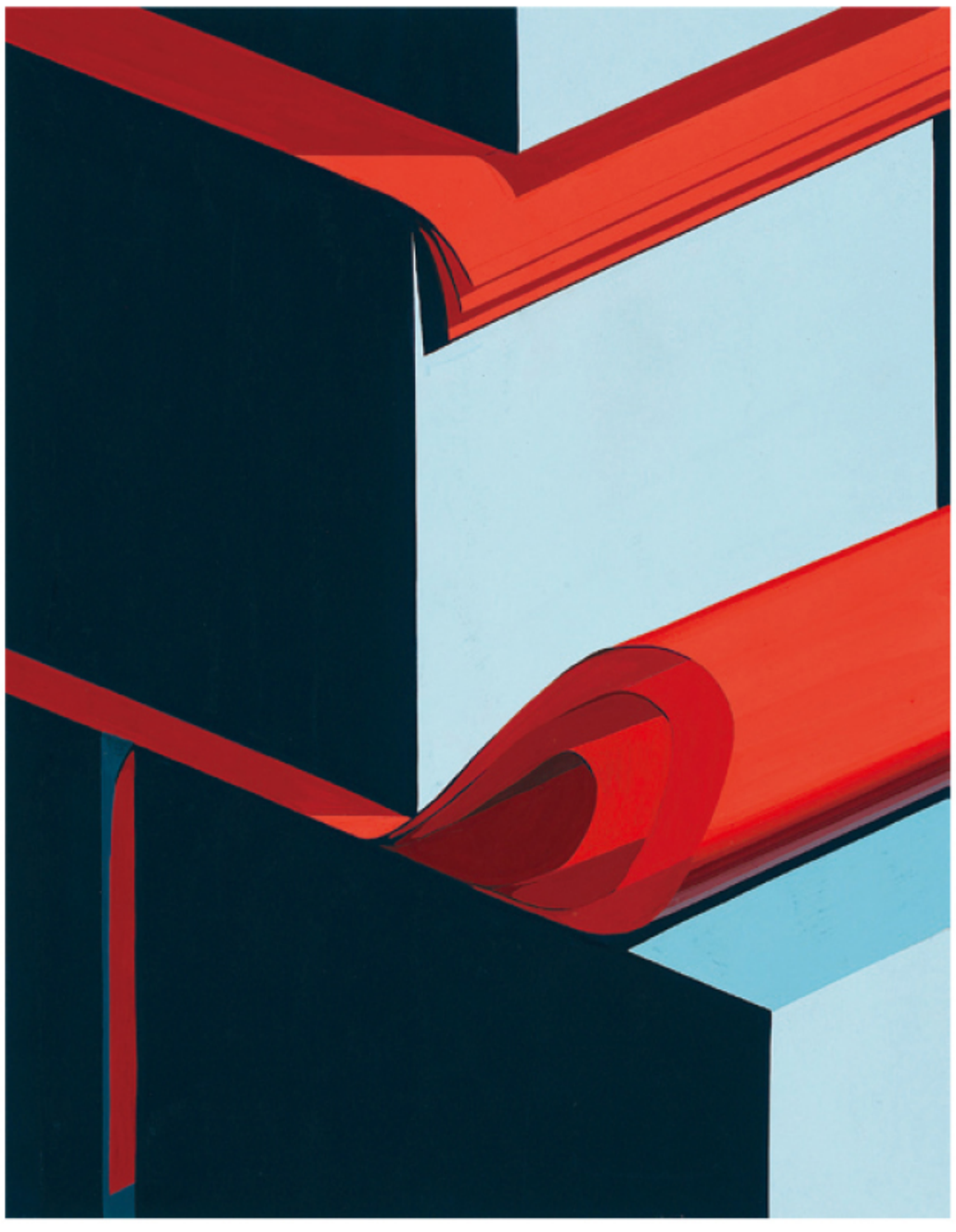




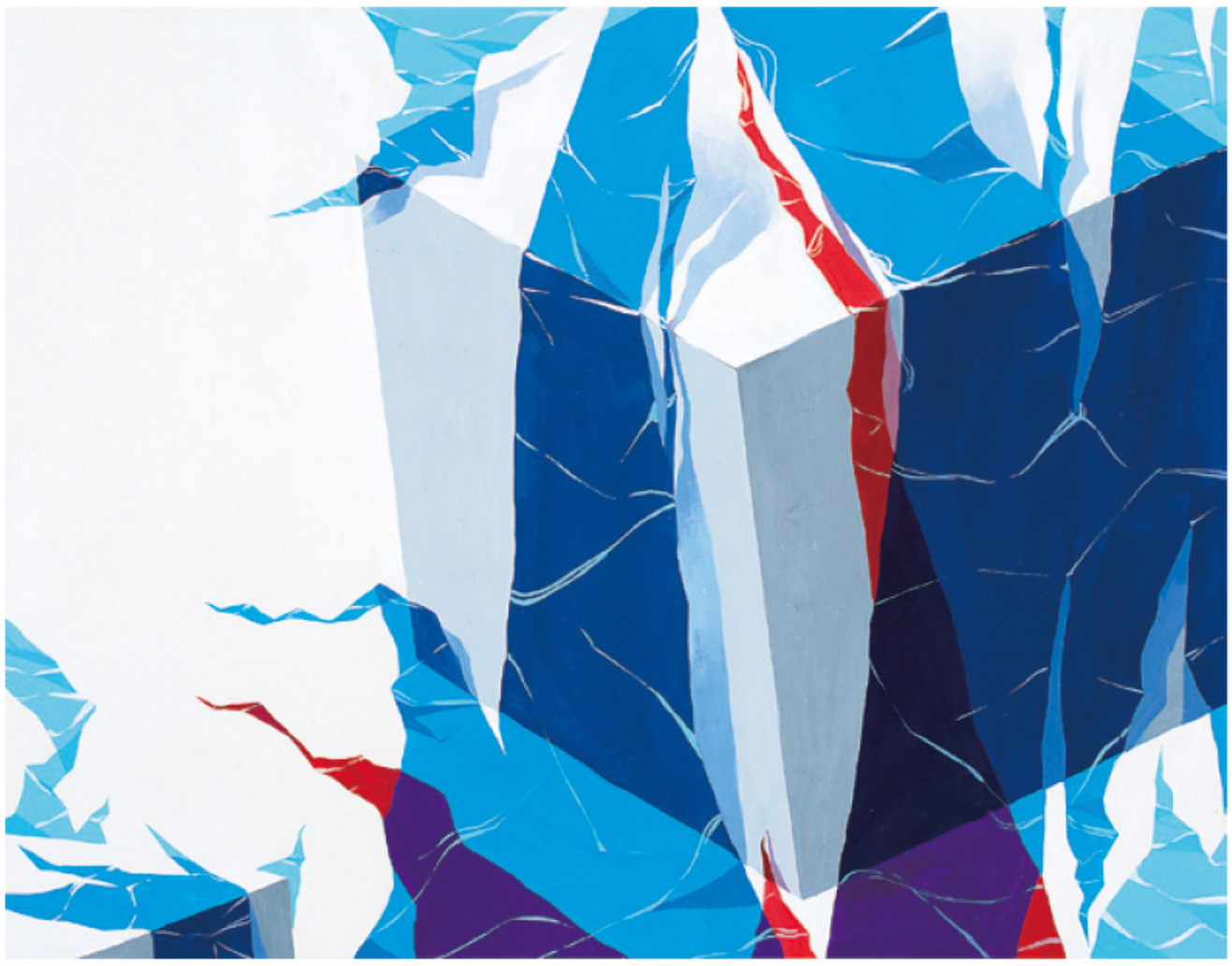


美術学部　統合デザイン学科

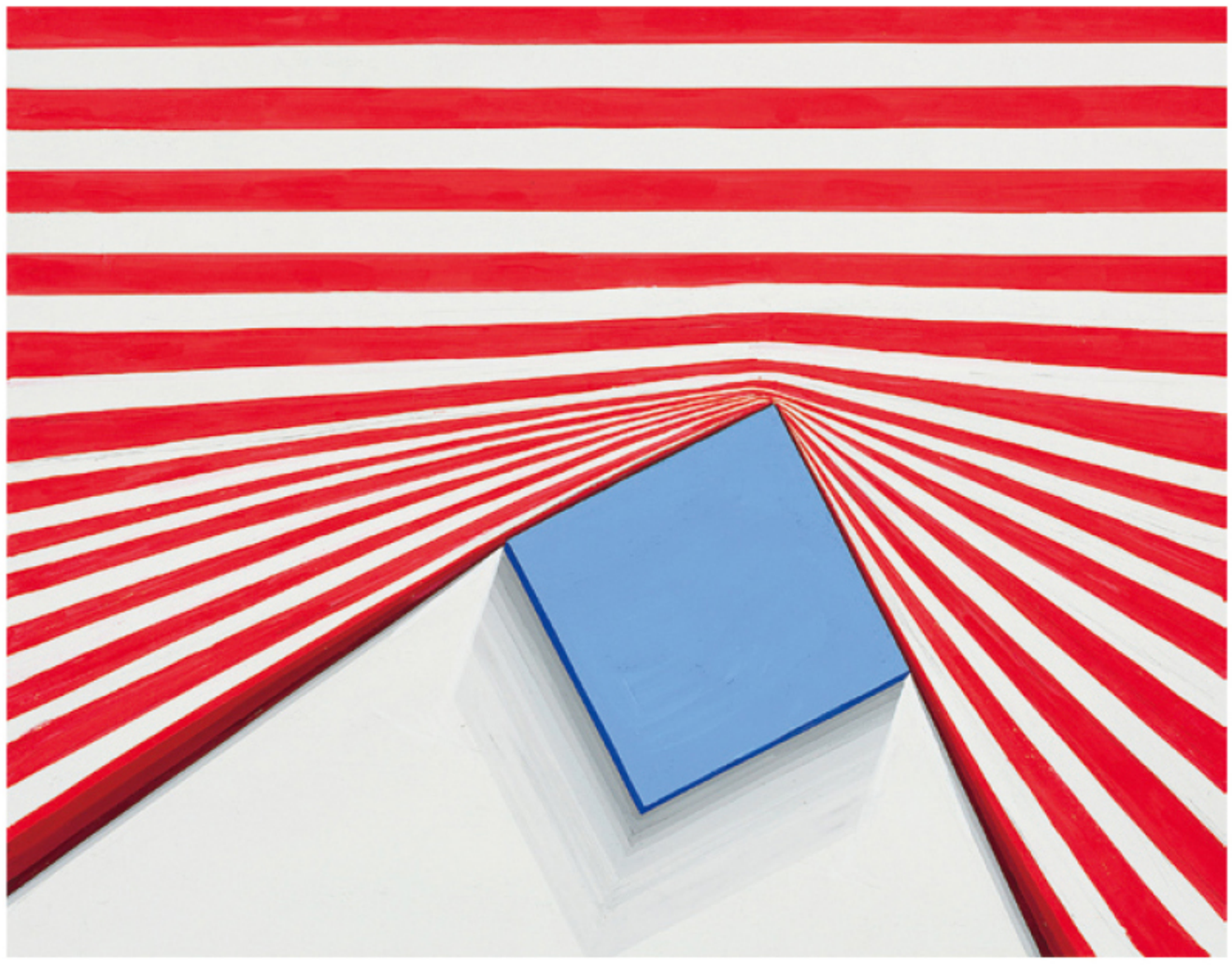
構成表現

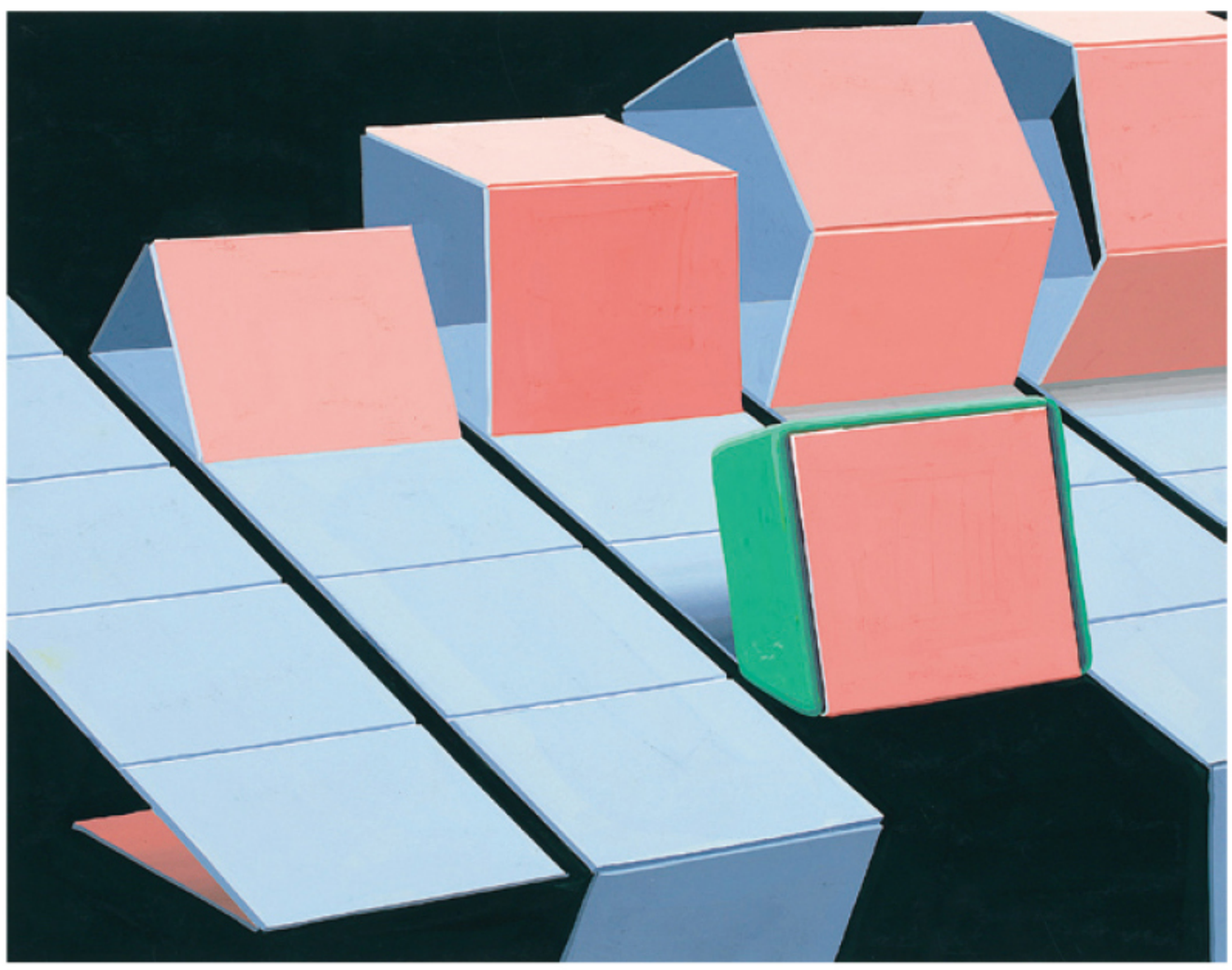












美術学部

演劇舞踊デザイン学科
演劇舞踊コース

2016年度入学試験

募集人員

30名（一般方式 18名／センターⅠ方式 12名）

入学試験科目・配点・日程

身体表現

・配点=一般方式300点／センターⅠ方式200点

・日程=2月6日（土）

●学科試験

一般方式

・配点=国語100点／英語100点

センターⅠ方式

6教科28科目から2教科2科目を選択 各100点

※学科試験の詳細はp118を参照

●実技問題

身体表現（2時間30分）

与えられた課題について、身体で表現しなさい。

【条件】

課題は試験場において、試験官が口頭で指示するものとする。

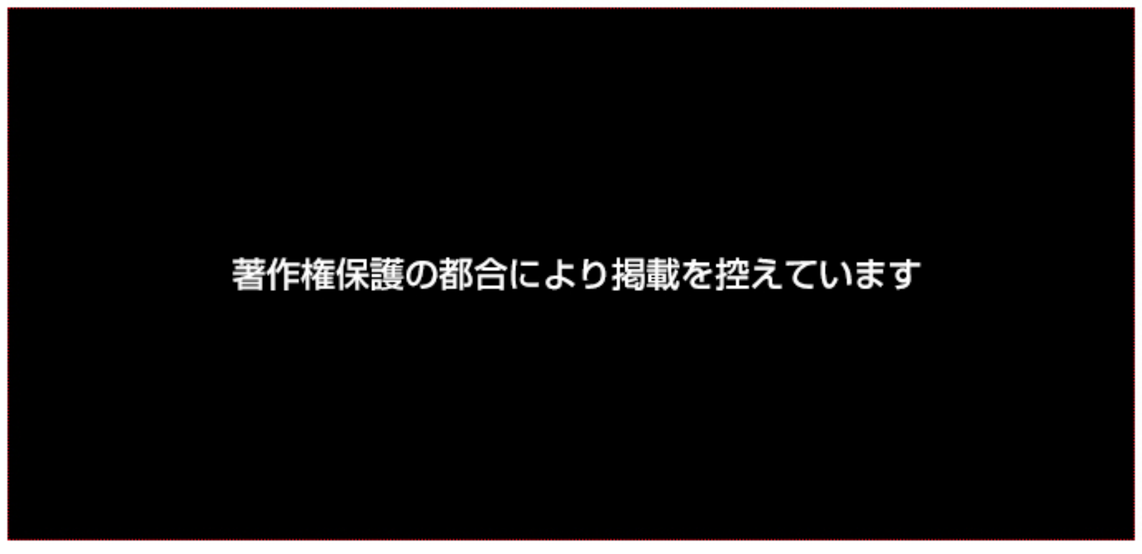
【注意】

1. 試験中に記録映像（写真など）を撮影する場合があります。
2. 課題についての事前質問にはお答えできません。

【課題】

『半神』原作・脚本 萩尾望都　作 野田秀樹より出題





●実技問題出題のねらい・意図

身体表現

演劇舞踊コースは、将来的に俳優やダンサー等、身体表現によるアーティストの輩出を目的としています。従って「身体表現」においては、個々の身体的なセンスやコントロール能力を問い、演劇とダンスの双方の観点から、志望者の身体的な想像力を量ります。

●実技問題採点のポイント

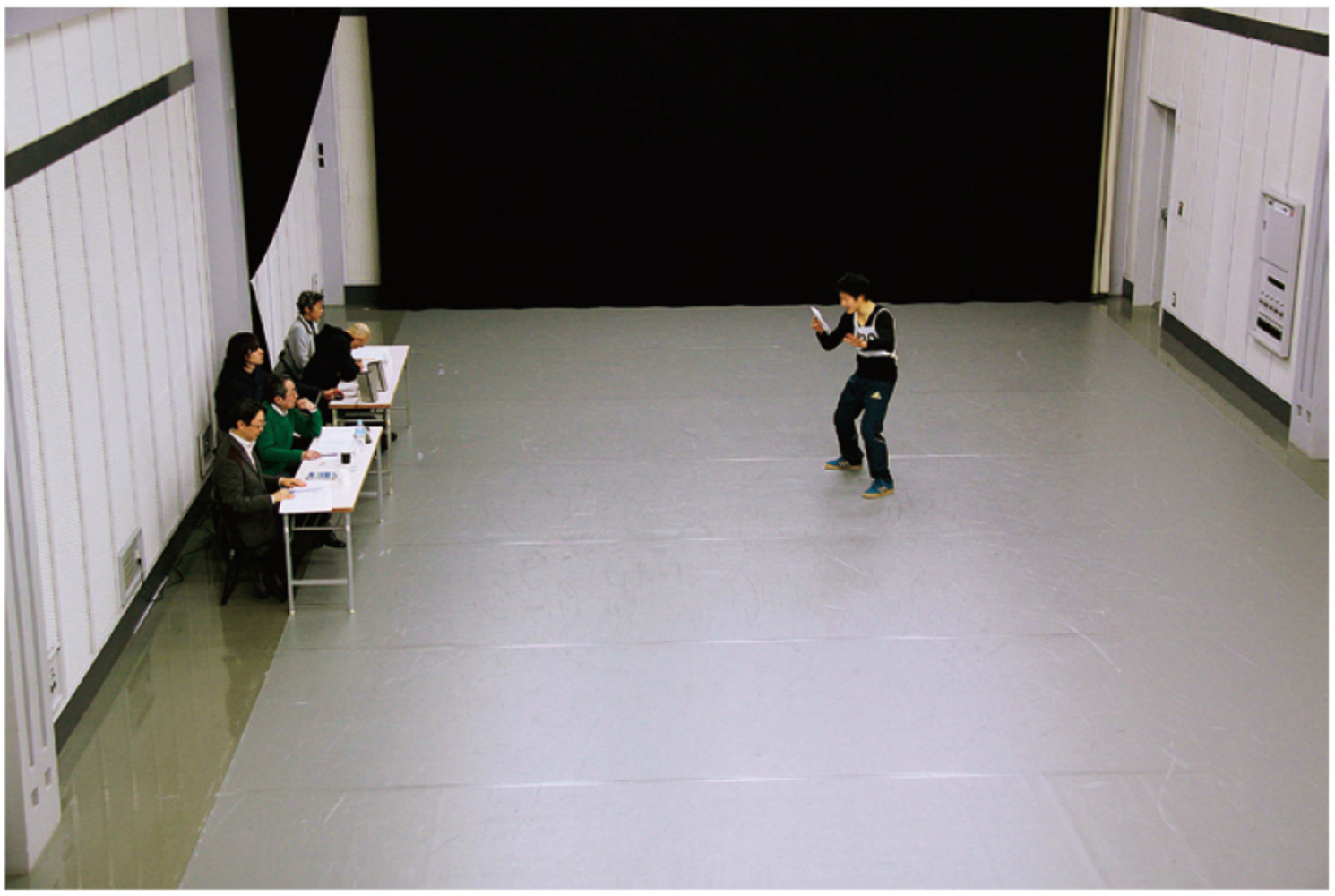
身体表現

理解力 ＝ 身体に対する要求に対して実感をともなって理解できるか。

意欲性 ＝ 身体に対する要求に積極的に取り組んでいけるか。

独創性 ＝ 身体を使っていかに意識的かつ独自的な表現ができるか。

身体表現
















043
042
044
045
047
046


056
052
050

美術学部

演劇舞踊デザイン学科
演劇舞踊コース
（公募制推薦入学試験）

2016年度入学試験

募集人員

20名

入学試験科目・配点・日程

●専門試験

小論文

・配点=100点

・日程=12月18日（金）

身体表現

・配点=100点

・日程=12月18日（金）

面接

・配点=100点

・日程=12月19日（土）

●出題のねらい・意図・採点のポイント

小論文

1）題：「化ける」という題で、あなたの専攻領域をふまえて800字程度の文章を書きなさい。

2）そのつど変身することによって様々な役を演じることの素晴らしさや魅力、その可能性の広がりについて述べてほしい。

3）文章が論理的であるか否か。表現者としての身体観、あるいは演劇観が自己体験をふまえつつ具体的に述べられているか否か。

身体表現

基礎的な運動能力／身体表現についての理解力、発想力、即興力／台詞への即応力／音楽（リズム）への即応力。

上記の項目を、総合的に採点し、当学科当専攻の基準に達しているかを判断する。

面接

面接においては、志望動機／実技試験の感想／演劇・ダンスの経験の有無／自分の将来像／最も面白いと感じた芝居・映画・小説など／特技（楽器演奏／スポーツなど）を題材に会話を交わしながら、表現者となるに必要な思考回路、感受性、表現衝動を持っているかを判断する。

●専門試験

小論文（90分）

「化ける」という題で、あなたの専攻領域をふまえて800字程度の文章を書きなさい。

身体表現（4時間）

与えられた課題について、身体で表現しなさい。

【条件】

課題は試験場において、試験官が口頭で指示するものとする。

【注意】

1. 試験中に記録映像（写真）を撮影します。

2. 課題についての、事前の質問には一切お答えできません。

【課題】

「農業少女」作 野田秀樹より出題

「オイル」作 野田秀樹より出題

美術学部
演劇舞踊デザイン学科
劇場美術デザインコース

2016年度入学試験　掲載作品は合格者より選定

募集人員

30名（一般方式 18名／センターⅠ方式 12名）

入学試験科目・配点・日程

●専門試験

鉛筆デッサン

・配点=一般方式150点／センターⅠ方式100点

・日程=2月6日（土）

デザイン

・配点=一般方式150点／センターⅠ方式100点

・日程=2月6日（土）

●学科試験

一般方式

・配点=国語100点／英語100点

センターⅠ方式

6教科28科目から2教科2科目を選択 各100点

※学科試験の詳細はp118を参照

●実技問題

鉛筆デッサン（3時間）

与えられたモチーフが、空間構成された情景を想定して、鉛筆デッサンしなさい。



【条件】

・B3ボード全面を画面とし、横位置で使用する。

・モチーフは、光と空間を意識した構成とする。

・モチーフの数を増やすことができる。

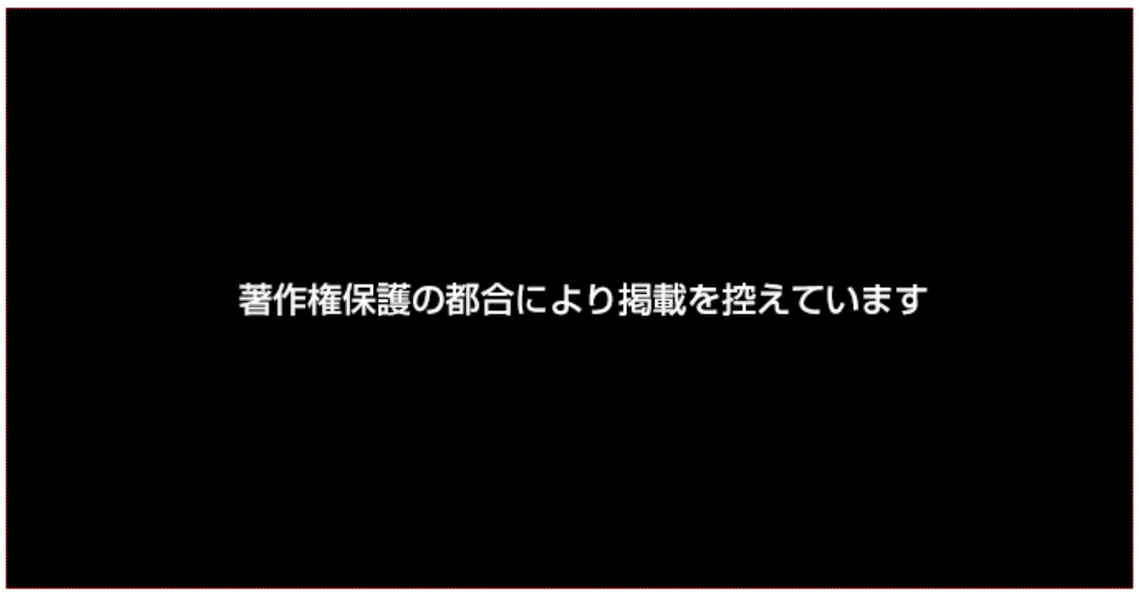
・背景は描かなくてもよい。

【注意】

1. B4の紙は下書き用紙です。
2. 出題の内容に関する質問にはお答えできません。

※使用紙：クレセントボード310（B3）

デザイン（3時間）



この文章からイメージした情景を、美しい色彩構成で表現しなさい。

【条件】

・B3ボードは横位置で使用すること。

・ボードの中央に、縦300mm×横400mmの長方形を描き、その中に色彩構成しなさい。

・光を感じる色彩構成とする。

【注意】

1. B4の紙は下書き用紙です。
2. 出題の内容に関する質問にはお答えできません。

※使用紙：KMケント（両面）ミューズイラストレーションボードSS（B3）

●実技問題出題のねらい・意図

鉛筆デッサン

４つの質感の異なるモチーフを、空間構成を行い、情景を想定してデッサンする。この問題は、単に置かれたモチーフを観察し、正確にデッサンするのではありません。自由な構成や構図で独創性と構成力を見ることがねらいです。情景を想定するということは、実空間の形を捉えるだけでなく、ドラマチックな設定を思い浮かべ、心の中の情景を描くことも可能です。金属・紙・木・懐中電灯をモチーフとして出題しました。その素材が、描き分けられるか、正確に形がとれているか、魅力ある個性的な創造力と正確な描写力のバランスが重要です。
当学科の出題傾向を参考作品から研究し、大胆な構成を描く創造的なデッサンが増えてきました。また、今年度は心象風景のような素晴らしい表現力の解答も存在しました。しかし、残念なことに構成力の優秀な解答は、デッサンとしての正確な描写力に乏しいものが多く見受けられました。参考作品として、大胆な構成･構図のものも選択していますが、描写力と表現力が伴えば高い評価を与えられるデッサンとなります。

デザイン

野田秀樹の戯曲『回転人魚』からの出題です。この戯曲の一節を読んで、情景を創造し美しく光を感じる色彩構成をデザインする問題です。劇場美術デザインは、「文字」や「ことば」から情景を紡ぎ出していくことです。今年度は、かなり高度な感性を持っていないと解答できない難しい出題でした。出題者もこの文章からどのような解答が出てくるか楽しみにしていました。しかし、大胆な発想で唸らせるような感動できる解答は少なかったです。我々のデザインは、人を感動させることを目標としたデザインです。個性的な表現の豊かさ、光と影が美しく調和している作品であるか､そして人を感動させられるかがポイントです｡「発想力」も重要ですが、仕上げの丁寧さ色彩のバランスも重要な採点ポイントです。今年は条件違反の解答はありませんでした。昨年度の参考作品と似たデザイン、そして明らかに出題内容からの解答ではない事前に準備してきたような解答もありました、オリジナリティを求めます。

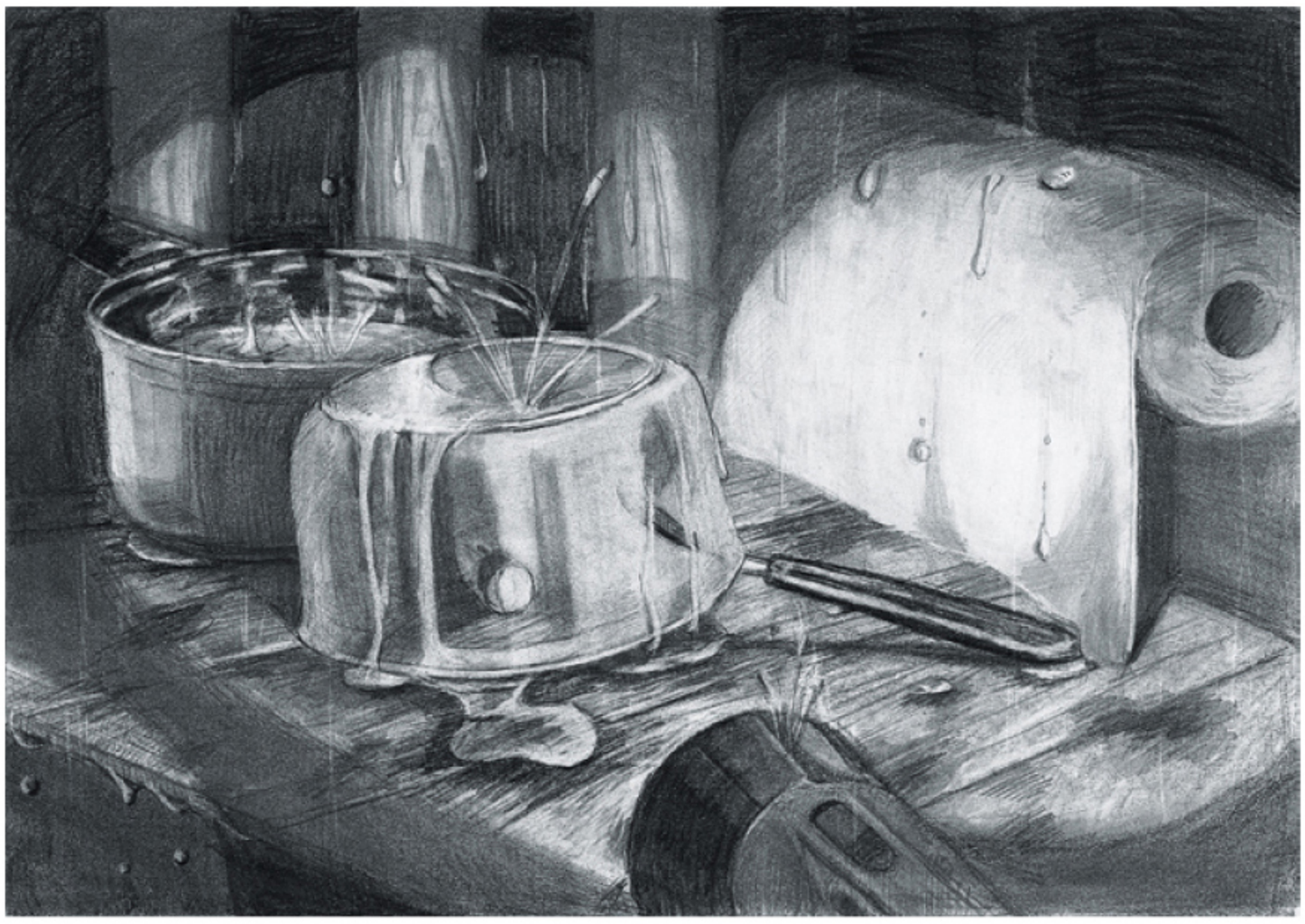
●実技問題採点のポイント

鉛筆デッサン

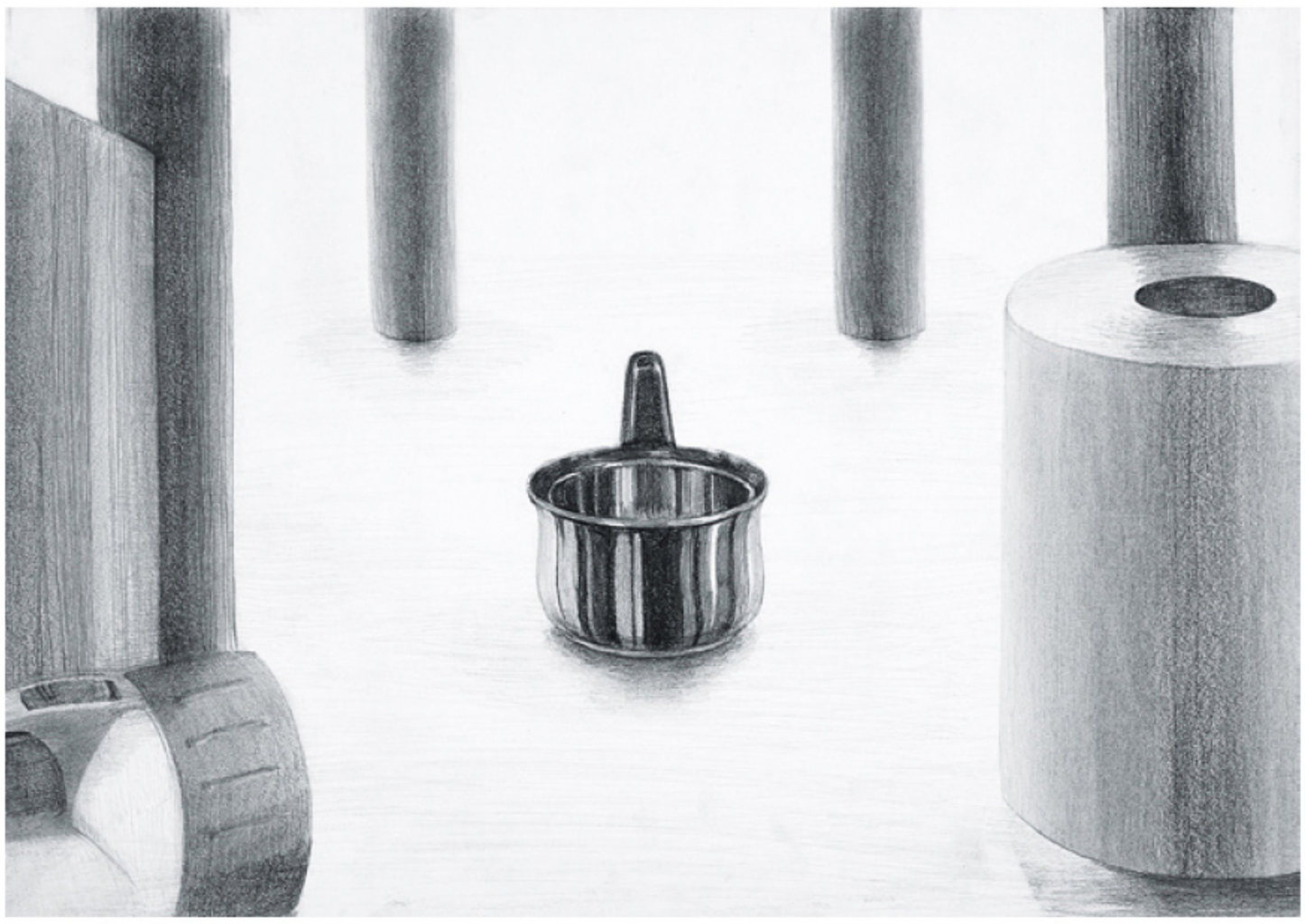
理解力 ＝ 問題の把握・理解が適切か
表現力 ＝ 光の意識、素材の表現、空間把握が出来ているか
描写力 ＝ 基本的な表現技術と丁寧な描写力があるか
独創性 ＝ 独自の創造性が感じられるか
感　性 ＝ 魅力ある表現が出来ているか
以上の要件を総合的に見て、複数の評価で採点した。

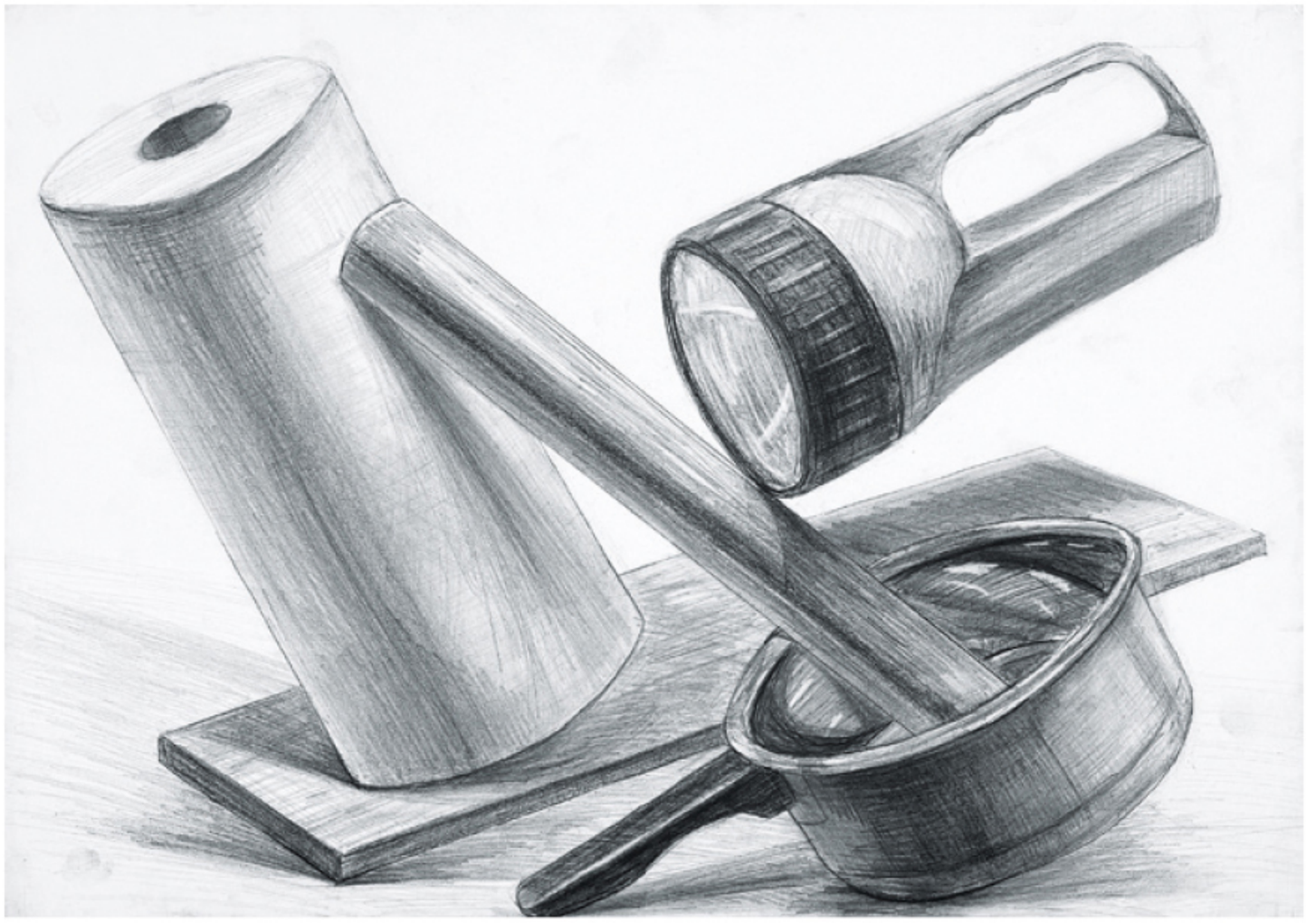
デザイン

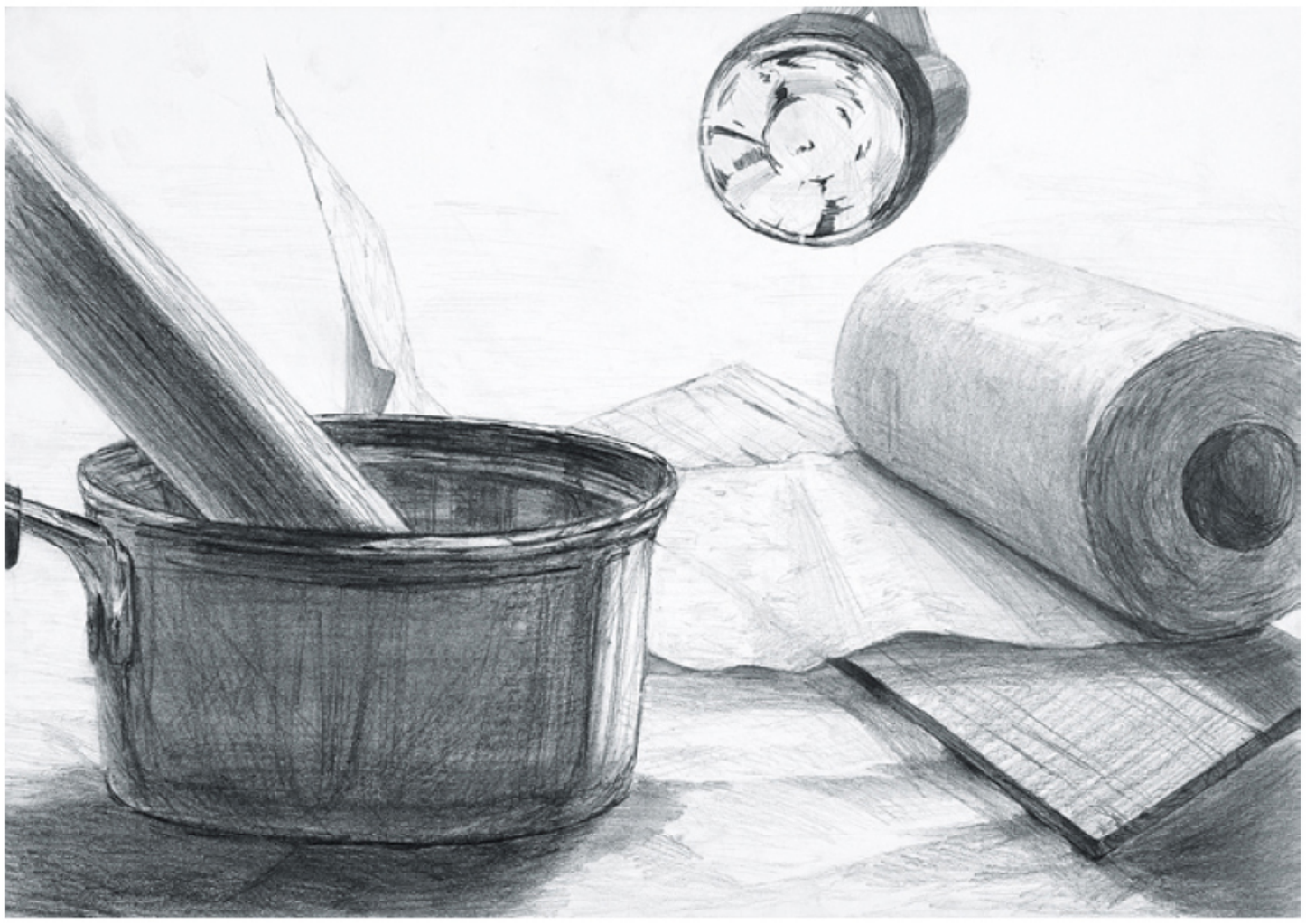
理解力 ＝ 問題の把握・理解が適切か
構成力 ＝ 色・かたち・光の表現が調和しているか
伝達力 ＝ 自分のテーマが伝えられているか
感　性 ＝ 言葉をイメージに展開する力があるか
個　性 ＝ 柔軟な発想や個性が感じられるか
以上の要件を総合的に見て、複数の評価で採点した。

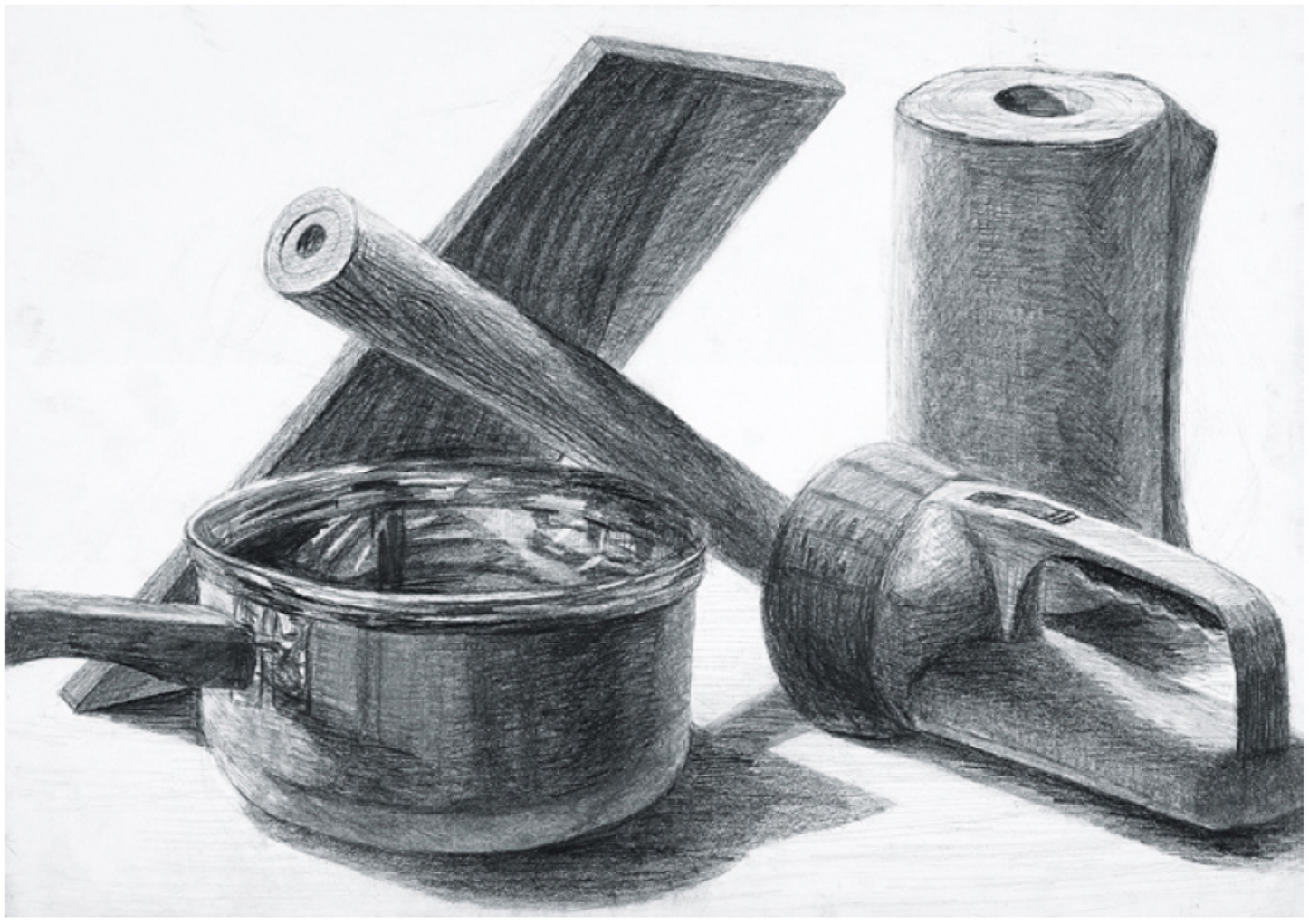


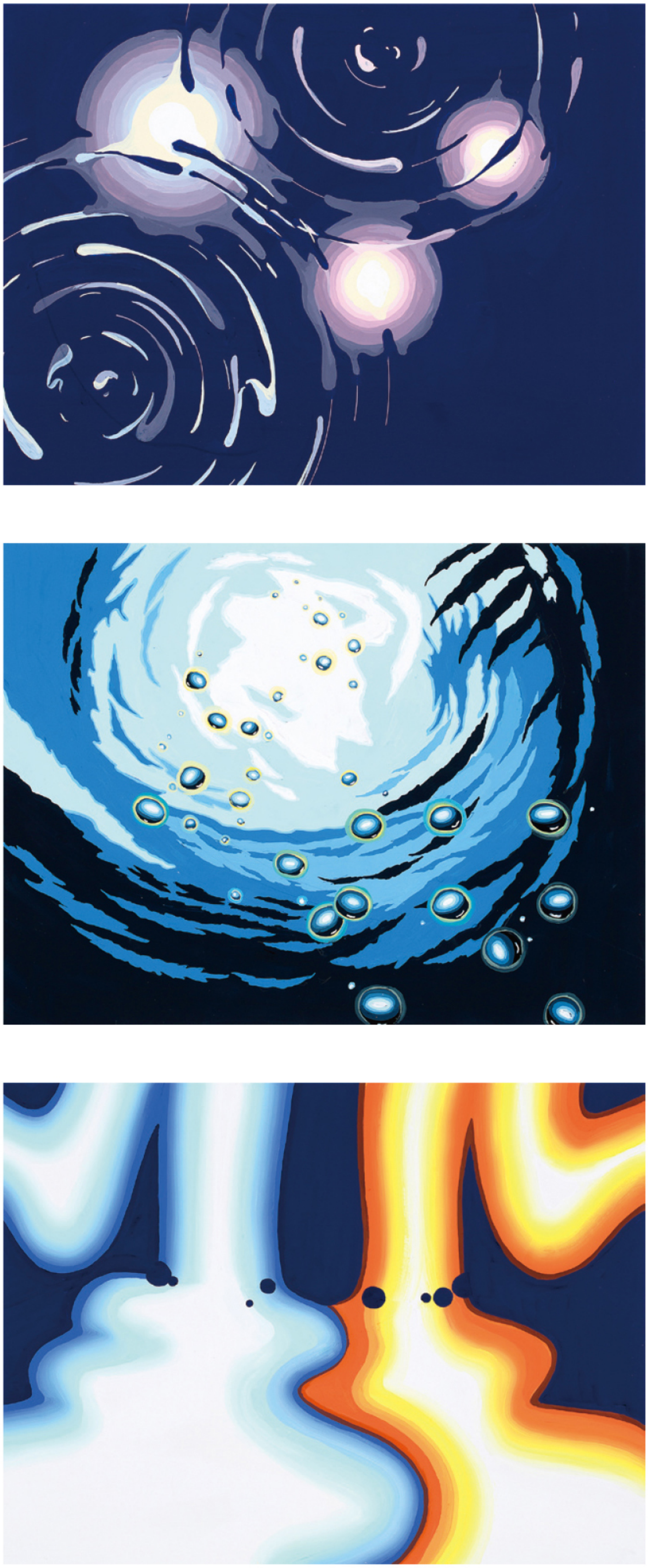




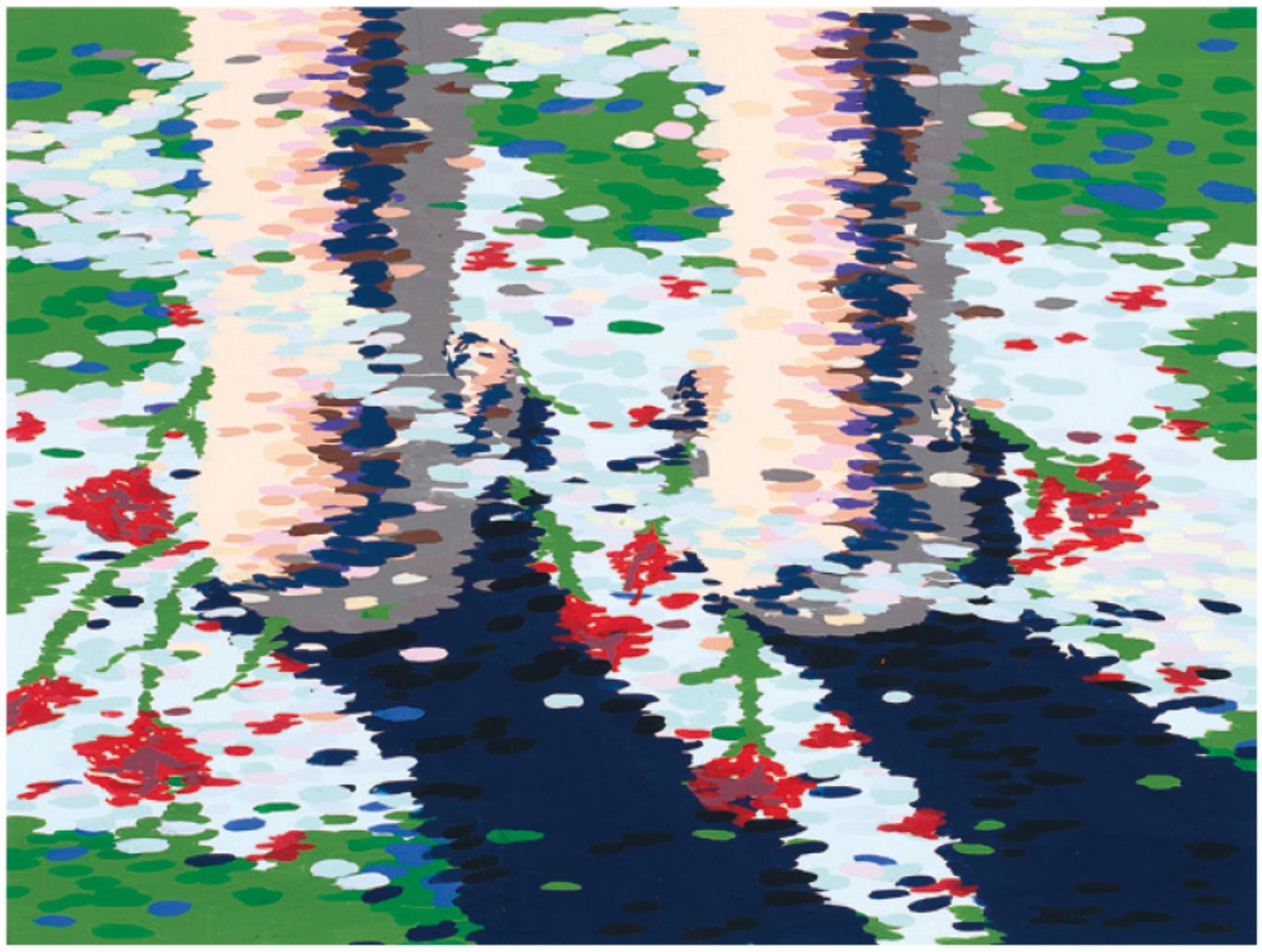


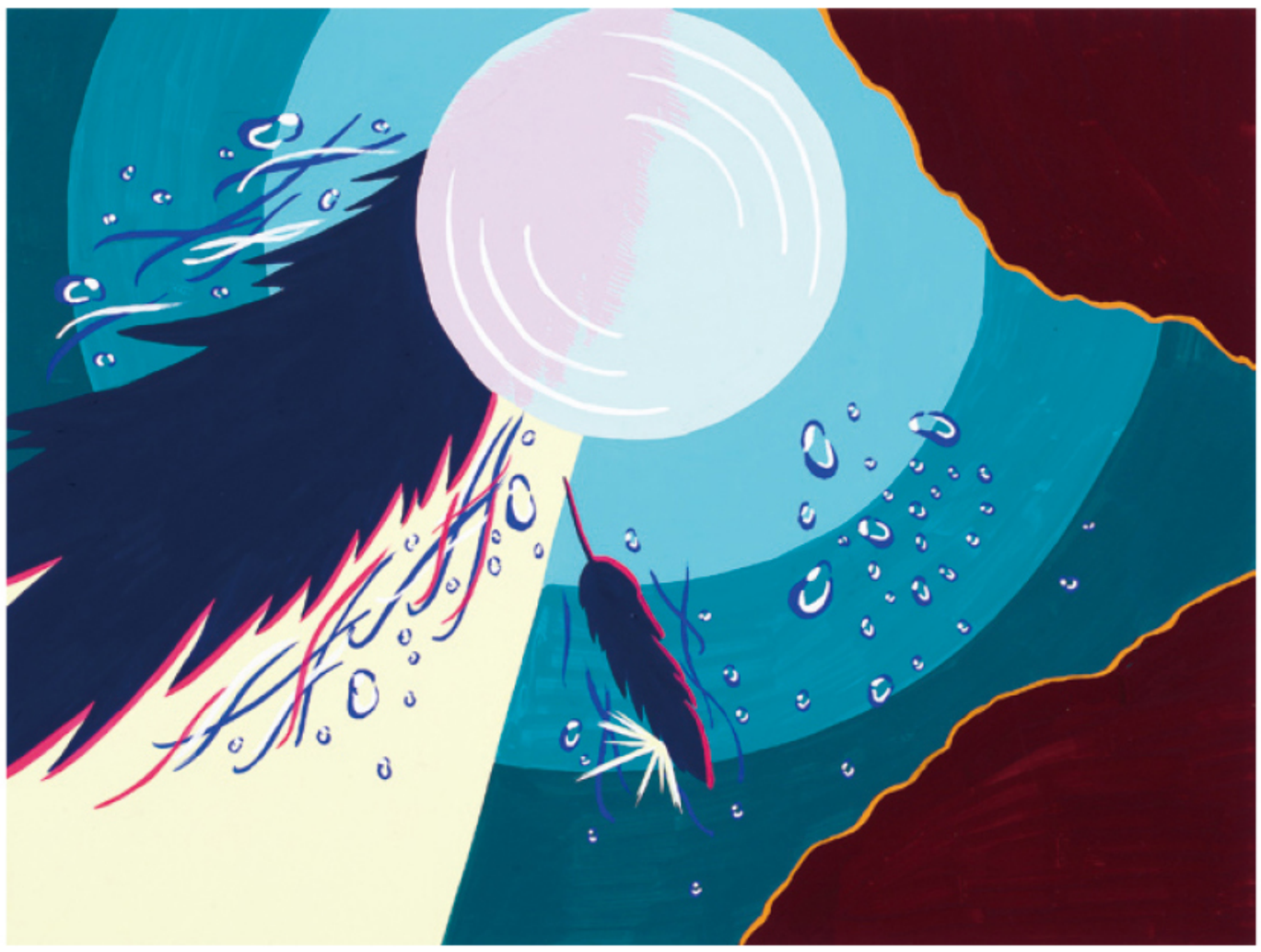


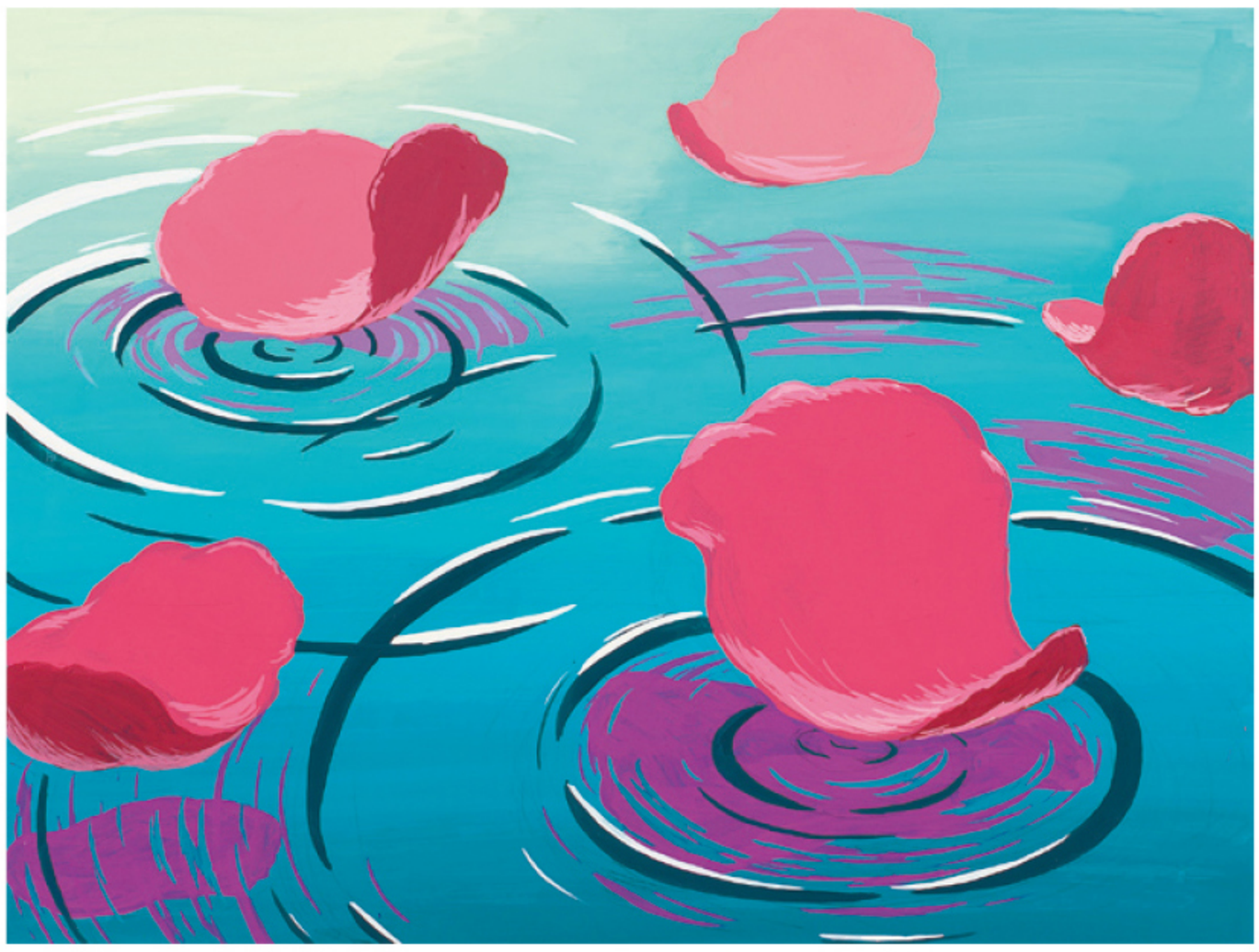












2016年度
入学試験問題

〈美術学部〉

外国人留学生入学試験

帰国生入学試験

3年次編入学試験

〈大学院美術研究科〉

博士後期課程入学試験

博士前期課程（修士課程）入学試験

美術学部
外国人留学生入学試験

2016年度入学試験

入学試験科目・配点・日程

●小論文（90分）　※全学科共通
●専門試験（下記参照）
●面接
●提出作品等

●小論文（90分）

全学科共通

「日本美術の魅力」という題で、800 字程度の文章を書きなさい。

●専門試験

絵画学科 日本画専攻

水彩（5時間）

与えられたモデルを描きなさい。
※モチーフ：人物（ボーダーの長袖 T シャツ、黒いズボン）
※使用紙：水彩ボード（ワーグマン中目　木炭紙大）

絵画学科 油画専攻

油彩（5時間）

モデルを描きなさい。
※モチーフ：人物（プリーツスカートをはいた女性モデル）
※使用キャンバス：F15 号

絵画学科 版画専攻

鉛筆デッサン（3時間）

与えられたモチーフを机に置いた状態で自由に描きなさい。
※モチーフ：銀色の紙（正方形）一枚
※使用紙：いずみ（B3）

彫刻学科

デッサン（4時間30分）

自分の「記憶」をテーマに自由に構成し自画像を描きなさい。
※鉛筆デッサンか木炭デッサンのどちらかを選択
※用紙の縦、横位置は自由とする
※使用紙：画用紙（M 画）木炭紙大
　木炭紙 MBM 木炭紙大

工芸学科

鉛筆デッサン「静物」（4時間）

モチーフすべてが台の上に置かれた状態を想定して、鉛筆で描写しなさい。
【条件】
用紙の縦、横は自由とします。
※モチーフ:ステンレス排気筒 (直径 11.5cm 高さ 45.5cm)、レンガ 4 個、白菜
※使用紙：BB ケント荒目（B3）

グラフィックデザイン学科

鉛筆デッサン（3時間）

「花を持つ右手」を想定してデッサンをしなさい。
【条件】
・設定は自由とする。
・B3 ボード全面を画面とし、縦位置で使用する。
※補助用具として鏡を支給
※使用紙：クレセントボード 310（B3）

生産デザイン学科 プロダクトデザイン専攻

デザイン（3時間）

与えられたモチーフの取っ手を自由にデザインし、鉛筆デッサンしなさい。
※モチーフ：取っ手付きカップ
※使用紙：MM ボード（A3）

生産デザイン学科 テキスタイルデザイン専攻

鉛筆デッサン・色彩構成（5 時間）

解答用紙の左半分に与えられたモチーフをよく観察し鉛筆デッサンしなさい。右半分には鉛筆デッサンで描いたモチーフのかたちを用いて色彩構成しなさい。
【条件】
用紙は横位置とし、左右を垂直に二等分すること。
色彩構成の色数は 4 色以上とする。
※モチーフ：チンゲン菜、ポリプロピレン製メジャーカップ（250cc）
※使用紙：ホワイトワトソン紙中目イラストレーションボード（A3）

環境デザイン学科

鉛筆デッサン（3時間）

与えられたハガキ大のケント紙 3 枚のうちの 2 枚と、紙コップ 2 個のうちの 1 個を用いて立体を構成し、A4 の台紙（グレーのボール紙）の上に置いてください。ケント紙と紙コップの加工は、折る、曲げる、まるめるだけで、切ったり、ちぎったり、貼り付けたりすることはできません。台紙を加工することはできません。構成した立体を、台紙も含めて、デッサン用ボード(記名票が貼ってあるボード)に鉛筆でデッサンしてください。縦位置の場合は記名票が右上、横位置の場合は記名票が右下になるように置いて書いてください。机や背景は描かないでください。残りケント紙 1 枚と紙コップ 1 個は試作などに使ってください。作品に使わなかった材料は回収します。立体はデッサンした状態のままで机の上に残してください。
※配布物：ハガキ大ケント紙 3 枚、紙コップ 2 個、台紙（グレーのボール紙）1 枚
※使用紙：BB ケント荒目ナチュラルイラストレーションボード（B3）

情報デザイン学科 メディア芸術コース

鉛筆デッサン（3時間）

A4 の紙に鉛筆で一辺 10 センチの正方形をフリーハンドで描いている手を想定してデッサンしなさい。
【条件】
・鉛筆、手、紙と紙面に描かれているもの以外は描いてはならない。
・両手を描いても構わない。
・描いている正方形は完成していなくても構わない。
・描いている正方形の個数、配置位置や描き方に規定はない。
・用紙は縦位置とし、記名票が右上になるように使用すること。
・配布した A4 サイズ（210 × 297 ミリ）の紙をモチーフとして使用しても構わない。
※使用紙：BB ケントボード（B3）

情報デザイン学科 情報デザインコース

鉛筆デッサン（3時間）

配布された紙を加工し、その紙と自分の手を観察して描きなさい。

【条件】

・加工：紙を折る、破る、丸めるなどの、試験会場において着席でできる行為に限る。

・用紙は縦位置で使用して、記名票は右上とする。

・配布した紙をモチーフとして使用すること。

・紙は二枚配布されるので、一枚を試し用とし、もう一枚をモチーフとすること。

※ A5 コピー用紙 2 枚

※使用紙：サンフラワーペーパー（M 画）MM ボード（B3）

芸術学科

小論文（90分）

「かたちと影」について、1,200 字以内で自由に論じなさい。

統合デザイン学科

鉛筆デッサン（3時間）

手をデッサンしなさい。描かれた手から浮かび上がる言葉を 10 字以内で別紙にあらわしなさい。あるいは、手から浮かび上がる言葉に導かれた手をデッサンしてもよい。

【条件】

・手以外のものが必要な場合はそれを描いても良い。

・B3 ボード全面を画面とし、ボードの向きは縦横自由とする。

・手の大きさや描かれる位置はどこであっても良い。

※補助用具として鏡を支給

※使用紙：クレセントボード 310（B3）

演劇舞踊デザイン学科 劇場美術デザインコース

鉛筆デッサン（3時間）

デッサン台に置かれたモチーフが、空間構成された情景を想定して、鉛筆デッサンしなさい。

【条件】

・B3 ボード全面を画面とし、横位置で使用する。

・モチーフは、光と空間を意識した構成とする。

・モチーフの数を増やすことは可能。

・背景は描かなくても良い。

※使用紙：クレセントボード 310（B3）

●面接

全学科

各学科・専攻・コースごとに実施。

※演劇舞踊デザイン学科演劇舞踊コースは志願者がいなかったため専門試験は公表しません。

美術学部
帰国生入学試験

2016年度入学試験

入学試験科目・配点・日程

●小論文（90分）　※全学科共通

●専門試験（下記参照）

●面接

●提出作品等

●小論文（90分）

全学科共通

「橋」という題で、あなたの体験をふまえて 800 字程度の文章を書きなさい。

●専門試験

絵画学科 油画専攻

油彩（5時間）

モデルを描きなさい。

※使用キャンバス：F15 号

グラフィックデザイン学科

鉛筆デッサン（3時間）

「花を持つ右手」を想定してデッサンをしなさい。

【条件】

・設定は自由とする。

・B3 ボード全面を画面とし、縦位置で使用する。

※補助用具として鏡を支給

※使用紙：クレセントボード 310（B3）

環境デザイン学科

鉛筆デッサン（3時間）

与えられたハガキ大のケント紙 3 枚のうちの 2 枚と、紙コップ 2 個のうちの 1 個を用いて立体を構成し、A4 の台紙（グレーのボール紙）の上に置いてください。ケント紙と紙コップの加工は、折る、曲げる、まるめるだけで、切ったり、ちぎったり、貼り付けたりすることはできません。台紙を加工することはできません。構成した立体を、台紙も含めて、デッサン用ボード (記名票が貼ってあるボード) に鉛筆でデッサンしてください。縦位置の場合は記名票が右上、横位置の場合は記名票が右下になるように置いて書いてください。机や背景は描かないでください。残りのケント紙 1 枚と紙コップ 1 個は試作などに使ってください。作品に使わなかった材料は回収します。立体はデッサンした状態のままで机の上に残してください。

※配布物:ハガキ大ケント紙 3 枚、紙コップ 2 個、台紙（グレーのボール紙）1 枚

※使用紙：BB ケント荒目ナチュラルイラストレーションボード（B3）

芸術学科

小論文（90 分）

「かたちと影」について、1,200 字以内で自由に論じなさい。

●面接

全学科

各学科・専攻・コースごとに実施。

※絵画学科日本画専攻、絵画学科版画専攻、彫刻学科、工芸学科、生産デザイン学科プロダクトデザイン専攻、生産デザイン学科テキスタイルデザイン専攻、情報デザイン学科メディア芸術コース、情報デザイン学科情報デザインコース、統合デザイン学科、演劇舞踊デザイン学科演劇舞踊コース、劇場美術デザインコースは志願者がいなかったため専門試験は公表しません。

美術学部
3年次編入学試験

2016年度入学試験

入学試験科目・配点・日程

●小論文(90分)　※全学科共通
●専門試験(下記参照)
●面接
●提出作品等

●小論文（90分）

全学科共通

「ネット社会と美術」という題で、あなたの専攻領域をふまえて800字程度の文章を書きなさい。

●専門試験

※絵画学科（日本画専攻・油画専攻・版画専攻)、彫刻学科、工芸学科、情報デザイン学科は専門試験を課しません。

グラフィックデザイン学科
鉛筆デッサン（3時間）

「花を持つ右手」を想定してデッサンをしなさい。
【条件】
・設定は自由とする。
・B3ボード全面を画面とし、縦位置で使用する。
※補助用具として鏡を支給
※使用紙：クレセントボード310（B3）

生産デザイン学科 プロダクトデザイン専攻
デザイン（3時間）

与えられた材料を応用して、新しい道具を4種類創造し、スケッチで表現しなさい。
スケッチ用紙を四分割し、それぞれに1種類ずつ描く事。
※支給材料：シリコンチューブ
※使用紙：MMボード（A3）

生産デザイン学科 テキスタイルデザイン専攻
デザイン（3時間）

植物をテーマとしたパターンデザインを描きなさい。
【条件】
・用紙は縦位置とする。
・色数は4色以上とする。
※使用紙：イラストレーションボード（B4）KMKケント（両面）

環境デザイン学科
鉛筆デッサン（3時間）

与えられたハガキ大のケント紙3枚のうちの2枚と、紙コップ2個のうちの1個を用いて立体を構成し、A4の台紙（グレーのボール紙）の上に置いてください。ケント紙と紙コップの加工は、折る、曲げる、まるめるだけで、切ったり、ちぎったり、貼り付けたりすることはできません。台紙を加工することはできません。構成した立体を、台紙も含

めて、デッサン用ボード(記名票が貼ってあるボード)に鉛筆でデッサンしてください。
縦位置の場合は記名票が右上、横位置の場合は記名票が右下になるように置いて書いてください。机や背景は描かないでください。残りのケント紙１枚と紙コップ1個は試作などに使ってください。作品に使わなかった材料は回収します。立体はデッサンした状態のままで机の上に残してください。
※配布物：ハガキ大ケント紙3枚、紙コップ2個、台紙（グレーのボール紙）1枚
※使用紙：BBケント荒目ナチュラルイラストレーションボード（B3）

芸術学科
小論文（90分）
「かたちと影」について、1,200字以内で自由に論じなさい。

統合デザイン学科
鉛筆デッサン（3時間）
手をデッサンしなさい。描かれた手から浮かび上がる言葉を10字以内で別紙にあらわしなさい。あるいは、手から浮かび上がる言葉に導かれた手をデッサンしてもよい。
【条件】
・手以外のものが必要な場合はそれを描いても良い。
・B3ボード全面を画面とし、ボードの向きは縦横自由とする。
・手の大きさや描かれる位置はどこであっても良い。
※補助用具として鏡を支給
※使用紙：クレセントボード310（B3）

演劇舞踊デザイン学科 演劇舞踊コース
身体表現（4時間）
与えられた課題について、身体で表現しなさい。
【条件】
課題は、入試会場に於いて、試験官が、口頭で指示するものとする。
【課題】
「農業少女」作　野田秀樹より出題
「オイル」作　野田秀樹より出題

演劇舞踊デザイン学科　劇場美術デザインコース
鉛筆デッサン（3時間）
デッサン台に置かれたモチーフが、空間構成された情景を想定して、
鉛筆デッサンしなさい。
【条件】
・B3ボード全面を画面とし、横位置で使用する。
・モチーフは、光と空間を意識した構成とする。
・モチーフの数を増やすことは可能。
・背景は描かなくても良い。
※使用紙：クレセントボード310（B3）

● 面接
全学科
各学科・専攻ごとに実施。
※絵画学科版画専攻は志願者がいなかったため専門試験を公表しません。

大学院美術研究科
博士後期課程入学試験

2016年度入学試験

入学試験科目・配点・日程
●語学（90分）　※日本人は英語、外国人留学生は日本語･英語より選択
●小論文（120分）　※日本語･英語より選択　下記参照
●口頭試問
●提出作品･論文

●語学
公表しません。

●小論文
日本語
芸術における模倣について、自分の考えを述べなさい。（縦書き、1600字以上 2000 字以内）

英語
Describe your thonght about copy inart. (Please use two to four answer sheets)

大学院美術研究科
博士前期課程（修士課程）入学試験

2016年度入学試験

入学試験科目・時間（絵画・彫刻・工芸・デザイン専攻）

●小論文（120分）　※下記参照
●面接
●提出作品

入学試験科目・時間（芸術学専攻）

●提出論文（芸術学研究領域）
●英語（90分）
●小論文（90分）　※下記参照
●面接

●小論文

※彫刻、工芸、デザイン専攻の志願者については、日本語・英語より選択可能。

A日程

デザイン専攻

日本語

よりよい社会を形成し維持するために、デザイナーに求められる役割について、1600字以上、2000字以内で記しなさい。（縦書きとする）

英語

To make and maintain the better society, discuss the roles that the designers are expected. (Three to four pages on the answer sheets provided)

芸術学専攻（芸術学研究領域）

「日本の文化」について思うことを、1200字以内で自由に述べなさい。

●英語

次の英文は、Kakuzo Okakura, The Book of Tea, 1906（岡倉天心［覚三］『茶の本』）の一節である。これを読んで、設問に日本語で答えなさい。
出典：The Book of Tea, Duffield & Company, N. Y., 1919, pp.25-26 より

(1) 下線部［1］を和訳しなさい。
(2) 下線部［2］で、宋（正しくは明朝）の詩人李竹嬾が嘆いた三つのこととは何か、日本語で述べなさい。
(3) 下線部［3］を和訳しなさい。
(4) 上記の英文は全体としてどんなことを述べようとしているのか、簡単に日本語でまとめなさい（150～200字程度）。

B日程

絵画・彫刻・工芸専攻

日本語

あなたが現在、制作を行う際にもっとも重視しているテーマをひとつ挙げ、それに対して取り組んでいる試みについて、できるだけ具体的に記してください。

デザイン専攻（グラフィックデザイン研究領域・テキスタイルデザイン研究領域）

日本語

あなたの研究は、社会に対してどのような影響を及ぼすのか、研究の最終目的を踏まえて論述してください。
（縦書きで1600字以上、2000字以内とする。）

英語

How will your study give influence on the society? Discuss it with the final purpose of your study.
(Three to four pages on the answer sheets provided)

芸術学専攻（芸術学研究領域）

「美術とことば」について思うことを、1200字以内で自由に述べなさい。

●英語

次の英文の下線部［1］～〔5〕を和訳しなさい。
出典：A Coat of Many Colours by Herbert Read, Routledge, 2015. pp.99-100 より

2016年度
入学試験結果

〈美術学部〉

〈大学院美術研究科〉

■合格者出身学校

一般入学試験・推薦入学試験 合格者　出身学校

平成27年度
大学入試センター
「高等学校等コード表」
順

●北海道
札幌啓成
札幌手稲
札幌大谷
岩見沢東
滝川
旭川東
大麻
札幌国際情報
遺愛女子
クラーク記念国際
星槎国際

●東北
青森
青森山田
黒沢尻北
不来方
宮城第一
宮城野
東北学院
秋田
大館鳳鳴
寒河江
米沢興譲館
鶴岡東
福島（県立）
福島西
安積
郡山東
会津
磐城
磐城桜が丘
郡山
日本大学東北
いわき秀英

●関東
（東京・神奈川以外）
水戸第二
土浦第一
土浦第二
竜ケ崎第一
水海道第一
取手松陽
水戸啓明
水戸桜ノ牧
水城
土浦日本大学
東洋大学附属牛久
茗渓学園
常総学院
聖徳大学附属
取手聖徳女子
鹿島学園
つくば秀英
第一学院（高萩校）
土浦日本大学
宇都宮
宇都宮東
宇都宮女子
宇都宮中央女子
鹿沼
作新学院
今市
栃木女子
真岡女子
矢板東
宇都宮北
さくら清修
栃木翔南
作新学院
佐野日本大学
前橋南
前橋女子
高崎女子
桐生女子
太田女子
渋川女子
西邑楽
太田東
高崎経済大学附属
中央
伊勢崎
共愛学園
新島学園
明和県央
熊谷女子
川越女子
春日部女子
松山女子
浦和西
大宮光陵
星野
本庄
越ケ谷
所沢西
自由の森学園
芸術総合
草加
朝霞
越谷北
与野
所沢
川口北
所沢北
熊谷西
杉戸
川口（市立）
大宮北
南稜
新座総合技術
伊奈学園総合
大宮光陵
芸術総合
淑徳与野
大宮開成
武南
浦和ルーテル学院
埼玉栄
浦和学院
栄東
秀明
城北埼玉
西武学園文理
開智
東京農業大学第三
千葉（県立）
千葉女子
千葉東
八千代
船橋啓明
鎌ケ谷
国府台
国分
松戸（県立）
小金
松戸国際
東葛飾
柏（県立）
我孫子
成田国際
佐原
匝瑳
東金
長生
茂原
安房
君津
千葉（市立）
市川東
津田沼
柏陵
船橋芝山
松戸六実
八千代東
稲毛
船橋古和釜
土気
柏の葉
幕張総合
成田
昭和学院
千葉敬愛
和洋国府台女子
麗澤
千葉英和
日出学園
国府台女子学院高等部
敬愛学園
専修大学松戸
日本大学習志野
千葉日本大学第一
東海大学付属浦安
八千代松陰
東京学館
芝浦工業大学柏
東京学館浦安
渋谷教育学園幕張
昭和学院秀英
市原中央
東京学館船橋
わせがく

●東京
筑波大学附属
東京学芸大学附属
青山
井草
板橋
上野
片倉
北園
清瀬
国立
小山台
工芸
狛江
白梅学園
国立音楽大学附属
八王子桑志
工芸
明星
東洋女子
総合芸術
明星学園
京華商業
つばさ総合
日本橋女学館
大泉桜
杉並総合
工芸
八王子桑志
小松川
駒場
桜町
石神井
昭和
新宿
神代
杉並
竹早
調布北
田園調布
戸山
豊多摩
日本橋
白鴎
八王子東
日野
広尾
深川
富士
府中西
本所
町田
三田
武蔵丘
武蔵村山
八潮
雪谷
小平西
調布南
成瀬
武蔵野北
小平南
東大和南
晴海総合
飛鳥
科学技術
芦花
杉並総合
上水
千早
美原
大泉桜
日野台
小金井北
国際
新宿山吹
小石川
桜修館
稔ヶ丘
八王子桑志
東久留米総合
九段
世田谷総合
総合芸術
多摩科学技術
南多摩
共立女子
暁星
女子学院
白百合学園
三輪田学園
明治大学付属明治
和洋九段女子
広尾学園
頌栄女子学院
聖心女子学院高等科
東洋英和女学院高等部
普連土学園
明治学院
山脇学園
海城
目白研心
早稲田
関東国際
國學院
実践女子学園
渋谷教育学園渋谷
帝京八王子
東京女学館
富士見丘
晃華学園
桐朋女子
跡見学園
桜蔭
東洋大学京北
駒込
昭和第一
東京電機大学
獨協
日本大学豊山
文京学院大学女子
桜丘
順天
女子聖学院
星美学園
東京成徳大学
日本大学第一
江戸川女子
香蘭女学校高等科
品川女子学院高等部
青稜
朋優学院
立正大学付属立正
トキワ松学園
八雲学園
大森学園
蒲田女子
東京
恵泉女学園
佼成学園女子
駒場学園
昭和女子大学附属昭和
成城学園
聖ドミニコ学園
大東学園
東京農業大学第一
東京都市大学等々力
日本大学櫻丘
目黒星美学園
和光
玉川学園高等部
日本大学第三
実践学園
東亜学園
大妻中野
宝仙学園
杉並学院
佼成学園
國學院大學久我山
文化学園大学杉並
女子美術大学付属
東京立正
日本大学鶴ケ丘
立教女学院
芝浦工業大学
城西大学附属城西
豊島岡女子学園
本郷
淑徳
東京家政大学附属女子
日本大学豊山女子
富士見
工学院大学附属
帝京大学
八王子学園八王子
昭和第一学園
明星
桜美林
白梅学園
創価
日体桜華
明治学院東村山
明法
桐朋
日本放送協会学園
吉祥女子
成蹊
大成
明星学園
中央大学附属
（小金井市）
武蔵野女子学院
東海大学菅生
明治大学付属
中野八王子
大妻多摩
立教池袋

●神奈川
鶴見
神奈川工業
横浜平沼
横浜緑ケ丘
光陵
希望ケ丘
港北
川和
市ケ尾
霧が丘
白山
柏陽
松陽
舞岡
新城
川崎北
多摩
生田
横須賀（県立）
横須賀大津
追浜
鎌倉
七里ガ浜
湘南
藤沢西
小田原
西湘
茅ケ崎
茅ケ崎北陵
鶴嶺
逗子
上溝
麻溝台
秦野
厚木
大和
座間
大磯
城山
新羽
足柄
南
桜丘
金沢
戸塚
東
橘
横浜商業
川崎総合科学
二宮
荏田
海老名
住吉
岸根
大船
元石川
麻生
城郷
神奈川総合
みなと総合
横浜桜陽
横須賀総合
金沢総合
神奈川総合産業
弥栄
平塚
藤沢清流
フェリス女学院
横浜共立学園
横浜女学院
関東学院
横浜英和女学院
横浜清風
浅野
神奈川学園
横浜創英
捜真女学校高等学部
橘学苑
鶴見大学附属
聖ヨゼフ学園
高木学園女子
桐蔭学園
日本大学
横浜学園
関東学院六浦
山手学院
横須賀学院
カリタス女子
サレジオ学院
洗足学園
平塚学園
栄光学園
鎌倉女学院
清泉女学院
鵠沼
湘南白百合学園
日本大学藤沢
藤嶺学園藤沢
相洋
聖和学院
相模女子大学高等部
東海大学付属相模
聖セシリア女子
神奈川大学附属
横浜隼人
桐光学園
森村学園高等部
横浜翠陵
公文国際学園高等部
横浜富士見丘学園
シュタイナー学園
高等部

●中部
新潟
新潟中央
新潟南
新潟江南
巻
長岡向陵
新潟産業大学附属
富山南
高岡
南砺福野
大聖寺
金沢泉丘
金沢辰巳丘

星稜
高志
武生
武生東
甲府第一
市川
吉田
甲府西
甲陵
山梨学院大学附属
須坂
長野吉田
長野（県立）
上田
上田染谷丘
小海
諏訪清陵
伊那北
伊那弥生ケ丘
飯田
佐久長聖
加納
関
多治見北
恵那
中津
斐太
羽島北
各務原西
鷲谷
岐阜東
韮山
不二聖心女子学院
三島北
浜松湖南
御殿場南
沼津西
沼津商業
吉原
清水南
静岡東
藤枝東
袋井
浜松北
浜松西
浜松工業
浜名
三島長陵
不二聖心女子学院
日本大学三島
静岡県富士見
静岡雙葉
静岡学園
常葉学園菊川
浜松学芸
静岡県西遠女子学園
浜松海の星
旭丘
松蔭
中村
春日井
刈谷北
刈谷東
安城
岡崎
成章
小坂井
桜台
工芸
高蔵寺
豊田南
日進西
名東
知立東

愛知淑徳
東海
東邦
名古屋女子大学
愛知工業大学名電
南山
星城
聖霊
南山国際

●近畿
桑名
四日市
いなべ総合学園
飯野
高田
堅田
東大津
石山
彦根東
守山
虎姫
鴨沂
銅駝美術工芸
南陽
東山
ノートルダム女学院
箕面
高津
工芸
港南造形
大阪商業大学
桃山学院
大谷
四天王寺
大阪学院大学
初芝富田林
大阪女学院
東住吉
八洲学園
長尾谷
御影
明石
姫路東
龍野
豊岡
相生
北摂三田
兵庫県立大学附属
啓明学院
宝塚北
須磨学園
神戸女学院高等学部
生野学園
飛鳥未来
高円
帝塚山
聖心学園

●中国・四国
三刀屋
松江東
岡山朝日
笠岡
総社
就実
総社南
岡山城東
明誠学院
岡山学芸館
金光学園
広島国泰寺
広島皆実
油木

基町
広島女学院
ノートルダム清心
広島城北
広島なぎさ
徳山
豊浦
城北
富岡東
高松工芸
坂出
高松第一
松山南
済美
土佐
土佐女子

●九州・沖縄
八幡中央
宗像
八幡
九州産業大学付属九州
福岡
福岡中央
城南
修猷館
明善
久留米
八女
西南女学院
西南学院
中村学園女子
九州産業大学付属九州
産業
九州産業大学付属九州
佐賀北
武雄
東明館
長崎東
鎮西学院
長崎日本大学
宇土
第二
八代
必由館
ルーテル学院
熊本学園大学付属
日田
都城泉ケ丘
日向学院
松陽
ラ・サール
屋久島おおぞら
興南

●その他
高校卒業程度認定試験・大学入学資格検定認定
専修学校の高等課程

3年次編入学試験 合格者　出身学校

●大学
共立女子大学
国際基督教大学
女子美術大学
東京工芸大学
東京造形大学
獨協大学
フェリス女学院大学
横浜国立大学
多摩美術大学

Kwangwoon University ［韓国］
Seoul Women's University ［韓国］
East China University Of Science and Technology ［中国］
Zhejiang University ［中国］
Raffles College of Design and Commerce ［オーストラリア］

●短期大学
女子美術大学 短期大学部

●高等専門学校
群馬工業高等専門学校
サレジオ工業高等専門学校

●専修学校
専門学校桑沢デザイン研究所
早稲田大学芸術学校

大学院博士前期課程（修士課程）入学試験 合格者　出身大学
愛知県立芸術大学
大阪芸術大学
学習院女子大学
京都嵯峨芸術大学
京都精華大学
倉敷芸術科学大学
女子美術大学
成安造形大学
玉川大学
東海大学
東京工芸大学
東京造形大学
文化学園大学
放送大学
早稲田大学
川口芸術学校
多摩美術大学
Konkuk University ［中国］
Beijing Film Academy ［中国］
Beijing Institute of Technology ［中国］
Beijing Jiaotong University ［中国］
Beijing University of Posts and Telecommunications ［中国］
Beijing University of Technology ［中国］
China Women's University ［中国］
Chung Yuan Christian University ［中国］
College of Science & Technology Ningbo Univerisity ［中国］
College of Science &Technology Ningbo University ［中国］
College of Science And Technology Ningbo University ［中国］
College of Science&Technology Ningbo University ［中国］
Dalian Polytechnic University College of Arts and Informatio ［中国］
Dalian University of Foreign Languages ［中国］
Donghua University ［中国］
East China Normal University ［中国］
East China University of Science and Technology ［中国］
Guangdong Ocean University ［中国］
Guangzhou University Sontan College ［中国］
Huali College of Guangdong University of Technology ［中国］
Jiangnan University ［中国］
Kede College of Capital Normal University ［中国］
Liaoning Normal University ［中国］
Liaoning Shihua University ［中国］
Nanchang Hangkong University ［中国］
Nanjing Forestry University ［中国］
Nanjing Normal University ［中国］
Nanjing University of Aeronautics And Astronautics College ［中国］
Nanjing University of the Arts ［中国］
National Pingtung University of Science and Technology ［中国］
Northwest University ［中国］
Sanda University ［中国］
School of the Art Institute of Chicago ［中国］
Shandong Normal University ［中国］
Shandong University of Art and Design ［中国］
Shandong University of Science and Technology ［中国］
Shanghai Institute of Visual Art ［中国］
Shanghai Theatre Academy ［中国］
Shanghai University ［中国］
Shanxi Agricultural University ［中国］
Shih Chien University ［中国］
Sichuan Conservatory of Music ［中国］
Sichuan Fine Arts Institute ［中国］
Sichuan Normal University ［中国］
Soochow University ［中国］
South China University Of Technology ［中国］
Southwest University ［中国］
Suzhou College ［中国］
Tainan University of Technology ［中国］
Tianjin Academy of Fine Arts ［中国］
Tianjin University of Technology ［中国］
Tunghai University ［中国］
University of Shanghai for Science and Technology ［中国］
Wuchang Shouyi University ［中国］
Xiamen University of Technology ［中国］
Xiamen University Tan Kah Kee College ［中国］
Xiamen University Tankahkee College ［中国］
Xi'an University of Arts and Sciences ［中国］
Jimei University ［台湾］
Wuhan Textile University ［台湾］
Yunnan University ［台湾］
Zhejiang A&F University ［台湾］
Zhejiang University of Media and Communications ［台湾］
Zhejiang University of Science & Technology ［台湾］
Zhengzhou University of Light Industry ［中国］
Zhongyuan University of Technology ［中国］
King Mongkut's Institute of Technology Ladkrabang ［タイ］
Silpakorn University ［タイ］
EVTEK University of Applied Sciences ［フィンランド］
Bard College ［アメリカ合衆国］
Massachusetts College of Art and Design ［アメリカ合衆国］
Universidad Nacional Autonoma De Mexico ［メキシコ］
Polish-Japanese Institute of Information Technology ［ポーランド］
Veritas University ［コスタリカ］
University of Bogota Jorge Tadeo Lozano ［コロンビア］

大学院博士後期課程入学試験 合格者　出身大学
沖縄県立芸術大学
東京工芸大学
多摩美術大学

入試ガイド2017

発行：
多摩美術大学

発行日：
平成28年6月30日

編集：
多摩美術大学入学センター

AD：
古結信良

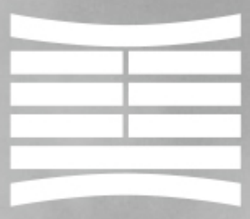
デザイン：
黒子英明

写真：
長谷川弘二

印刷：
光村印刷株式会社

お問い合わせ・資料請求先：
多摩美術大学入学センター
TEL：042-679-5601
http://www.tamabi.ac.jp

本書の図版および文章の無断転載、コピーを禁じます。
© Tama Art University. 2016



多摩美術大学

八王子キャンパス
〒192-0394
東京都八王子市鑓水2-1723
TEL 042-676-8611

上野毛キャンパス
〒158-8558
東京都世田谷区上野毛3-15-34
TEL 03-3702-1141

www.tamabi.ac.jp